

科目名	インターンシップ短期		
担当教員名			
ナンバリング	NEj2063		
学 科	共通科目 (N/E/S) - キャリア教育		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

インターンシップ受け入れ先の担当者は、それぞれの実務経験を踏まえて、就労体験のプログラム編成と活動の指導支援にあたる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「キャリア教育」領域に配置された選択科目である。「キャリア教育」領域のなかでは、実社会をフィールドとして、就業体験を通して学修する実践的な科目である。社会で活躍していくための資質や能力について、学習者自身が認識を深め、開発への意欲を高めることを目指す。なお、多様なフィールドでの体験を可能とするために、繰り返し受講可能とする。

科目の概要

本科目では、受け入れ先の企業や自治体において、計5日(35時間)以上の就業体験等の活動に従事する。受け入れ先が設定するプログラムに従って、主体的かつ意欲的に活動に従事することで、社会の動きや組織的な活動に対する認識と理解を深める。また、就業体験のなかでの成果や報告、および活動後の報告や振り返りを通して、自らに備わった資質や能力を活かす方略、および今後育成すべき資質や能力について、認識を深め、取り組もうとする態度を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目の学修活動は、受け入れ先での就業体験が主である。従って、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、PBL型活動を中心とした学修が展開される。

到達目標

1. これまでの学修で得た知識や技術を、社会における諸活動のなかで実践できる
2. 学習者自身の資質や能力を、社会における諸活動において、効果的に発揮する方略を工夫できる
3. 本科目での学修成果をもとに、進路選択や人生設計をより具体的に検討する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 : 就業観を養う力、
- 3 : 実践する力

内容

本科目におけるインターンシップへの参加には次の3タイプが想定される。

1. 特定の企業における勤務体験に主眼をおいた「企業体験型」
2. 特定職種での勤務体験に主眼をおいた「職業体験型」
3. 企業(業界)や職種を限定することなく、就業体験を重視する「労働体験型」

学習者は、自らの職業観の成熟状態や体験目的に基づいて、より適切なタイプを選択すること。

受け入れ先での活動は、設定されたプログラムに従って行う。プログラム全体の趣旨、および個々の活動目的を的確に理解した上で、自らの資質能力を認識し、さらに高めることを目指して、意欲的に取り組むことが求められる。異なる人々との連携や協働を体験し実践する貴重な機会としてとらえること。

本科目の履修においては、受け入れ先での体験だけではなく、インターンシップに関して就職支援課が主催する事前説明会および事後報告会なども学修活動の一環である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

開始前：受け入れ先（企業、自治体）に対する基本的理解を深める。理解が困難な点も明らかにして言語化する[90分]
。さらに、自分自身の能力・資質・特性について、これまでの様々な経験を振り返り、できる限り客観的に言語による説明ができるようにすること[90分]。

インターンシップ中：翌日の活動に必要な準備をすること[30分]。

【事後学修】

インターンシップ中：当日の活動をもとに、1)その日活動したことを時系列的に整理する、2)その日の活動のなかで気づいたことや感じたこと、新たに理解したことを文章としてまとめる、3)自らの成長したと感じたことを言語によって表現する、などの振り返りを行う [30分]。

インターンシップ終了後：到達目標の3項目に即して、自らの到達程度を具体的根拠とともにまとめる[60分]。

評価方法および評価の基準

受け入れ先から提出された評価(40%)、インターンシップレポート(40%)、事後報告会(20%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．評価(20%/40%)、レポート(5%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標2．評価(15%/40%)、レポート(25%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標3．評価(5%/40%)、レポート(10%/40%)、報告会(4%/20%)

【フィードバック】レポートについてはコメントを返却する。報告会については、その会場において、高騰によるコメントを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

興味をもった業界・企業・職種でのインターンシップが基本となることが想定される。その一方で、未知の業界・企業・職種でのインターンシップを体験することは、資質や能力を大きく伸ばし、職業観や進路選択に関する視野を広げる機会となることが考えられる。

科目名	インターンシップ短期		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	NEj2063		
学 科	共通科目 (N/E/S) - キャリア教育		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

インターンシップ受け入れ先の担当者は、それぞれの実務経験を踏まえて、就労体験のプログラム編成と活動の指導支援にあたる。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

本科目は、共通科目「キャリア教育」領域に配置された選択科目である。「キャリア教育」領域のなかでは、実社会をフィールドとして、就業体験を通して学修する実践的な科目である。社会で活躍していくための資質や能力について、学習者自身が認識を深め、開発への意欲を高めることを目指す。なお、多様なフィールドでの体験を可能とするために、繰り返し受講可能とする。

科目の概要

本科目では、受け入れ先の企業や自治体において、計5日(35時間)以上の就業体験等の活動に従事する。受け入れ先が設定するプログラムに従って、主体的かつ意欲的に活動に従事することで、社会の動きや組織的な活動に対する認識と理解を深める。また、就業体験のなかでの成果や報告、および活動後の報告や振り返りを通して、自らに備わった資質や能力を活かす方略、および今後育成すべき資質や能力について、認識を深め、取り組もうとする態度を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目の学修活動は、受け入れ先での就業体験が主である。従って、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、PBL型活動を中心とした学修が展開される。

到達目標

- 1.これまでの学修で得た知識や技術を、社会における諸活動のなかで実践できる
- 2.学習者自身の資質や能力を、社会における諸活動において、効果的に発揮する方略を工夫できる
- 3.本科目での学修成果をもとに、進路選択や人生設計をより具体的に検討する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 : 就業観を養う力、
- 3 : 実践する力

内容

本科目におけるインターンシップへの参加には次の3タイプが想定される。

1. 特定の企業における勤務体験に主眼をおいた「企業体験型」
2. 特定職種での勤務体験に主眼をおいた「職業体験型」
3. 企業(業界)や職種を限定することなく、就業体験を重視する「労働体験型」

学習者は、自らの職業観の成熟状態や体験目的に基づいて、より適切なタイプを選択すること。

受け入れ先での活動は、設定されたプログラムに従って行う。プログラム全体の趣旨、および個々の活動目的を的確に理解した上で、自らの資質能力を認識し、さらに高めることを目指して、意欲的に取り組むことが求められる。異なる人々との連携や協働を体験し実践する貴重な機会としてとらえること。

本科目の履修においては、受け入れ先での体験だけではなく、インターンシップに関して就職支援課が主催する事前説明会および事後報告会なども学修活動の一環である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

開始前：受け入れ先（企業、自治体）に対する基本的理解を深める。理解が困難な点も明らかにして言語化する[90分]
。さらに、自分自身の能力・資質・特性について、これまでの様々な経験を振り返り、できる限り客観的に言語による説明ができるようにすること[90分]。

インターンシップ中：翌日の活動に必要な準備をすること[30分]。

【事後学修】

インターンシップ中：当日の活動をもとに、1)その日活動したことを時系列的に整理する、2)その日の活動のなかで気づいたことや感じたこと、新たに理解したことを文章としてまとめる、3)自らの成長したと感じたことを言語によって表現する、などの振り返りを行う [30分]。

インターンシップ終了後：到達目標の3項目に即して、自らの到達程度を具体的根拠とともにまとめる[60分]。

評価方法および評価の基準

受け入れ先から提出された評価(40%)、インターンシップレポート(40%)、事後報告会(20%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．評価(20%/40%)、レポート(5%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標2．評価(15%/40%)、レポート(25%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標3．評価(5%/40%)、レポート(10%/40%)、報告会(4%/20%)

【フィードバック】レポートについてはコメントを返却する。報告会については、その会場において、高騰によるコメントを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

興味をもった業界・企業・職種でのインターンシップが基本となることが想定される。その一方で、未知の業界・企業・職種でのインターンシップを体験することは、資質や能力を大きく伸ばし、職業観や進路選択に関する視野を広げる機会となることが考えられる。

科目名	インターンシップ長期		
担当教員名			
ナンバリング	NEj2064		
学 科	共通科目 (N/E/S) - キャリア教育		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

インターンシップ受け入れ先の担当者は、それぞれの実務経験を踏まえて、就労体験のプログラム編成と活動の指導支援にあたる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「キャリア教育」領域に配置された選択科目である。「キャリア教育」領域のなかでは、実社会をフィールドとして、就業体験を通して学修する実践的な科目である。社会で活躍していくための資質や能力について、学習者自身が認識を深め、開発への意欲を高めることを目指す。なお、多様なフィールドでの体験を可能とするために、繰り返し受講可能とする。

科目の概要

本科目では、受け入れ先の企業や自治体において、計10日(65時間)以上の就業体験等の活動に従事する。受け入れ先が設定するプログラムに従って、主体的かつ意欲的に活動に従事することで、社会の動きや組織的な活動に対する認識と理解を深める。また、就業体験のなかでの成果や報告、および活動後の報告や振り返りを通して、自らに備わった資質や能力を活かす方略、および今後育成すべき資質や能力について、認識を深め、取り組もうとする態度を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目の学修活動は、受け入れ先での就業体験が主である。従って、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、PBL型活動を中心とした学修が展開される。

到達目標

- 1.これまでの学修で得た知識や技術を、社会における諸活動のなかで実践できる
- 2.学習者自身の資質や能力を、社会における諸活動において、効果的に発揮する方略を工夫できる
- 3.本科目での学修成果をもとに、進路選択や人生設計をより具体的に検討する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 : 就業観を養う力、
- 3 : 実践する力

内容

本科目におけるインターンシップへの参加には次の3タイプが想定される。

1. 特定の企業における勤務体験に主眼をおいた「企業体験型」
2. 特定職種での勤務体験に主眼をおいた「職業体験型」
3. 企業(業界)や職種を限定することなく、就業体験を重視する「労働体験型」

学習者は、自らの職業観の成熟状態や体験目的に基づいて、より適切なタイプを選択すること。

受け入れ先での活動は、設定されたプログラムに従って行う。プログラム全体の趣旨、および個々の活動目的を的確に理解した上で、自らの資質能力を認識し、さらに高めることを目指して、意欲的に取り組むことが求められる。異なる人々との連携や協働を体験し実践する貴重な機会としてとらえること。

本科目の履修においては、受け入れ先での体験だけではなく、インターンシップに関して就職支援課が主催する事前説明会および事後報告会なども学修活動の一環である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

開始前：受け入れ先（企業、自治体）に対する基本的理解を深める。理解が困難な点も明らかにして言語化する[90分]。さらに、自分自身の能力・資質・特性について、これまでの様々な経験を振り返り、できる限り客観的に言語による説明ができるようにすること[90分]。

インターンシップ中：翌日の活動に必要な準備をすること[30分]。

【事後学修】

インターンシップ中：当日の活動をもとに、1)その日活動したことを時系列的に整理する、2)その日の活動のなかで気づいたことや感じたこと、新たに理解したことを文章としてまとめる、3)自らの成長したと感じたことを言語によって表現する、などの振り返りを行う [30分]。

インターンシップ終了後：到達目標の3項目に即して、自らの到達程度を具体的根拠とともにまとめる[60分]。

評価方法および評価の基準

受け入れ先から提出された評価(40%)、インターンシップレポート(40%)、事後報告会(20%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．評価(20%/40%)、レポート(5%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標2．評価(15%/40%)、レポート(25%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標3．評価(5%/40%)、レポート(10%/40%)、報告会(4%/20%)

【フィードバック】レポートについてはコメントを返却する。報告会については、その会場において、高騰によるコメントを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

興味をもった業界・企業・職種でのインターンシップが基本となることが想定される。その一方で、未知の業界・企業・職種でのインターンシップを体験することは、資質や能力を大きく伸ばし、職業観や進路選択に関する視野を広げる機会となることが考えられる。

科目名	インターンシップ長期		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	NEj2064		
学 科	共通科目 (N/E/S) - キャリア教育		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

インターンシップ受け入れ先の担当者は、それぞれの実務経験を踏まえて、就労体験のプログラム編成と活動の指導支援にあたる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「キャリア教育」領域に配置された選択科目である。「キャリア教育」領域のなかでは、実社会をフィールドとして、就業体験を通して学修する実践的な科目である。社会で活躍していくための資質や能力について、学習者自身が認識を深め、開発への意欲を高めることを目指す。なお、多様なフィールドでの体験を可能とするために、繰り返し受講可能とする。

科目の概要

本科目では、受け入れ先の企業や自治体において、計10日(65時間)以上の就業体験等の活動に従事する。受け入れ先が設定するプログラムに従って、主体的かつ意欲的に活動に従事することで、社会の動きや組織的な活動に対する認識と理解を深める。また、就業体験のなかでの成果や報告、および活動後の報告や振り返りを通して、自らに備わった資質や能力を活かす方略、および今後育成すべき資質や能力について、認識を深め、取り組もうとする態度を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目の学修活動は、受け入れ先での就業体験が主である。従って、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、PBL型活動を中心とした学修が展開される。

到達目標

- 1.これまでの学修で得た知識や技術を、社会における諸活動のなかで実践できる
- 2.学習者自身の資質や能力を、社会における諸活動において、効果的に発揮する方略を工夫できる
- 3.本科目での学修成果をもとに、進路選択や人生設計をより具体的に検討する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 : 就業観を養う力、
- 3 : 実践する力

内容

本科目におけるインターンシップへの参加には次の3タイプが想定される。

1. 特定の企業における勤務体験に主眼をおいた「企業体験型」
2. 特定職種での勤務体験に主眼をおいた「職業体験型」
3. 企業(業界)や職種を限定することなく、就業体験を重視する「労働体験型」

学習者は、自らの職業観の成熟状態や体験目的に基づいて、より適切なタイプを選択すること。

受け入れ先での活動は、設定されたプログラムに従って行う。プログラム全体の趣旨、および個々の活動目的を的確に理解した上で、自らの資質能力を認識し、さらに高めることを目指して、意欲的に取り組むことが求められる。異なる人々との連携や協働を体験し実践する貴重な機会としてとらえること。

本科目の履修においては、受け入れ先での体験だけではなく、インターンシップに関して就職支援課が主催する事前説明会および事後報告会なども学修活動の一環である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

開始前：受け入れ先（企業、自治体）に対する基本的理解を深める。理解が困難な点も明らかにして言語化する[90分]
。さらに、自分自身の能力・資質・特性について、これまでの様々な経験を振り返り、できる限り客観的に言語による説明ができるようにすること[90分]。

インターンシップ中：翌日の活動に必要な準備をすること[30分]。

【事後学修】

インターンシップ中：当日の活動をもとに、1)その日活動したことを時系列的に整理する、2)その日の活動のなかで気づいたことや感じたこと、新たに理解したことを文章としてまとめる、3)自らの成長したと感じたことを言語によって表現する、などの振り返りを行う [30分]。

インターンシップ終了後：到達目標の3項目に即して、自らの到達程度を具体的根拠とともにまとめる[60分]。

評価方法および評価の基準

受け入れ先から提出された評価(40%)、インターンシップレポート(40%)、事後報告会(20%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．評価(20%/40%)、レポート(5%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標2．評価(15%/40%)、レポート(25%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標3．評価(5%/40%)、レポート(10%/40%)、報告会(4%/20%)

【フィードバック】レポートについてはコメントを返却する。報告会については、その会場において、高騰によるコメントを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

興味をもった業界・企業・職種でのインターンシップが基本となることが想定される。その一方で、未知の業界・企業・職種でのインターンシップを体験することは、資質や能力を大きく伸ばし、職業観や進路選択に関する視野を広げる機会となることが考えられる。

科目名	コミュニケーション演習		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1002		
学 科	共通科目 (N/E/S) - コミュニケーション演習		
学 年		ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「ゼミナール」領域の必修科目である。

科目の概要

英語に対する苦手意識を克服し、社会で存分に能力や意欲を発揮するために必要なコミュニケーション技術向上のための基礎的能力の構築を目標とする。同時に、言語による交渉能力や協調性を養い、大学4年間の学習全般に対する意欲・自己有感を向上させることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、日本語は使用せず、4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、英語のみでコミュニケーションに学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

本科目で扱うトピックは、日々の活動、食べ物、住んでいる町や身近な人物の描写、過去の出来事や未来の予定などで、主に以下を到達目標とする。

- ・英語に対する苦手意識を克服する (楽しみながら英語を使うことに慣れる)
- ・身の回りの事象をセンテンスレベルで表現できる
- ・個々の発音・アクセント・イントネーションを聞き分け、単語・句レベルで英語らしい発音ができる
- ・基礎的なプレゼンテーション技術を学び、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 課題発見・分析能力
- 2 問題解決能力
- 4 コミュニケーション能力

内容

4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、高校までに習得した「知識」としての英語を実際のコミュニケーションにおいて「道具」として使えるようになるための訓練を行う。

1	初対面での挨拶、クラス内で使用する英語 【実技】【グループワーク】
---	-----------------------------------

2	指示に従う、指示を与える 【実技】【グループワーク】
3	所有物について話す、部屋について話す、発音強化練習1 【実技】【グループワーク】
4	日々の活動について話す、発音強化練習2 【実技】【グループワーク】
5	人物を描写する、性格や性質を描写する 【実技】【グループワーク】
6	余暇活動を描写する、頻度と習慣について話す、週末の活動について話す、発音強化練習3 【実技】【グループワーク】
7	食品を描写する、数や量についてたずねる、食習慣について話す 【実技】【グループワーク】
8	日本のものを描写する、発音強化練習4 【実技】【グループワーク】
9	屋内のものを描写する、位置についてたずねる、家を描写する 【実技】【グループワーク】
10	過去形の復習、過去の出来事について話す、週末の活動を描写する、発音強化練習5 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	スポーツやエクササイズに関する語彙、アクティビティを描写する、好きな活動について話す 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	未来を表す表現、将来の夢について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

【フィードバック】会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand
Access 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130203)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	コミュニケーション演習		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1002		
学 科	共通科目（N/E/S） - コミュニケーション演習		
学 年		ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「ゼミナール」領域の必修科目である。

科目の概要

英語に対する苦手意識を克服し、社会で存分に能力や意欲を発揮するために必要なコミュニケーション技術向上のための基礎的能力の構築を目標とする。同時に、言語による交渉能力や協調性を養い、大学4年間の学習全般に対する意欲・自己有感感を向上させることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、日本語は使用せず、4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、英語のみでコミュニケーションに学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

本科目で扱うトピックは、日々の活動、食べ物、住んでいる町や身近な人物の描写、過去の出来事や未来の予定などで、主に以下を到達目標とする。

- ・英語に対する苦手意識を克服する（楽しみながら英語を使うことに慣れる）
- ・身の回りの事象をセンテンスレベルで表現できる
- ・個々の発音・アクセント・イントネーションを聞き分け、単語・句レベルで英語らしい発音ができる
- ・基礎的なプレゼンテーション技術を学び、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 課題発見・分析能力 -2 問題解決能力 -4 コミュニケーション能力

内容

4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、高校までに習得した「知識」としての英語を実際のコミュニケーションにおいて「道具」として使えるようになるための訓練を行う。

1	初対面での挨拶、クラス内で使用する英語 【実技】【グループワーク】
---	--------------------------------------

2	指示に従う、指示を与える 【実技】【グループワーク】
3	所有物について話す、部屋について話す、発音強化練習1 【実技】【グループワーク】
4	日々の活動について話す、発音強化練習2 【実技】【グループワーク】
5	人物を描写する、性格や性質を描写する 【実技】【グループワーク】
6	余暇活動を描写する、頻度と習慣について話す、週末の活動について話す、発音強化練習3 【実技】【グループワーク】
7	食品を描写する、数や量についてたずねる、食習慣について話す 【実技】【グループワーク】
8	日本のものを描写する、発音強化練習4 【実技】【グループワーク】
9	屋内のものを描写する、位置についてたずねる、家を描写する 【実技】【グループワーク】
10	過去形の復習、過去の出来事について話す、週末の活動を描写する、発音強化練習5 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	スポーツやエクササイズに関する語彙、アクティビティを描写する、好きな活動について話す 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	未来を表す表現、将来の夢について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

【フィードバック】会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand
Access 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130203)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	コミュニケーション演習		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1002		
学 科	共通科目 (N/E/S) - コミュニケーション演習		
学 年		ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「ゼミナール」領域の必修科目である。

科目の概要

英語に対する苦手意識を克服し、社会で存分に能力や意欲を発揮するために必要なコミュニケーション技術向上のための基礎的能力の構築を目標とする。同時に、言語による交渉能力や協調性を養い、大学4年間の学習全般に対する意欲・自己有感を向上させることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、日本語は使用せず、4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、英語のみでコミュニケーションに学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

本科目で扱うトピックは、日々の活動、食べ物、住んでいる町や身近な人物の描写、過去の出来事や未来の予定などで、主に以下を到達目標とする。

- ・英語に対する苦手意識を克服する (楽しみながら英語を使うことに慣れる)
- ・身の回りの事象をセンテンスレベルで表現できる
- ・個々の発音・アクセント・イントネーションを聞き分け、単語・句レベルで英語らしい発音ができる
- ・基礎的なプレゼンテーション技術を学び、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 課題発見・分析能力
- 2 問題解決能力
- 4 コミュニケーション能力

内容

4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、高校までに習得した「知識」としての英語を実際のコミュニケーションにおいて「道具」として使えるようになるための訓練を行う。

1	初対面での挨拶、クラス内で使用する英語 【実技】【グループワーク】
---	-----------------------------------

2	指示に従う、指示を与える 【実技】【グループワーク】
3	所有物について話す、部屋について話す、発音強化練習1 【実技】【グループワーク】
4	日々の活動について話す、発音強化練習2 【実技】【グループワーク】
5	人物を描写する、性格や性質を描写する 【実技】【グループワーク】
6	余暇活動を描写する、頻度と習慣について話す、週末の活動について話す、発音強化練習3 【実技】【グループワーク】
7	食品を描写する、数や量についてたずねる、食習慣について話す 【実技】【グループワーク】
8	日本のものを描写する、発音強化練習4 【実技】【グループワーク】
9	屋内のものを描写する、位置についてたずねる、家を描写する 【実技】【グループワーク】
10	過去形の復習、過去の出来事について話す、週末の活動を描写する、発音強化練習5 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	スポーツやエクササイズに関する語彙、アクティビティを描写する、好きな活動について話す 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	未来を表す表現、将来の夢について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

【フィードバック】会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand
Access 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130203)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	コミュニケーション演習		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1002		
学 科	共通科目 (N/E/S) - コミュニケーション演習		
学 年		ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「ゼミナール」領域の必修科目である。

科目の概要

英語に対する苦手意識を克服し、社会で存分に能力や意欲を発揮するために必要なコミュニケーション技術向上のための基礎的能力の構築を目標とする。同時に、言語による交渉能力や協調性を養い、大学4年間の学習全般に対する意欲・自己有能感を向上させることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、日本語は使用せず、4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、英語のみでコミュニケーションに学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

本科目で扱うトピックは、日々の活動、食べ物、住んでいる町や身近な人物の描写、過去の出来事や未来の予定などで、主に以下を到達目標とする。

- ・英語に対する苦手意識を克服する (楽しみながら英語を使うことに慣れる)
- ・身の回りの事象をセンテンスレベルで表現できる
- ・個々の発音・アクセント・イントネーションを聞き分け、単語・句レベルで英語らしい発音ができる
- ・基礎的なプレゼンテーション技術を学び、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 課題発見・分析能力 -2 問題解決能力 -4 コミュニケーション能力

内容

4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、高校までに習得した「知識」としての英語を実際のコミュニケーションにおいて「道具」として使えるようになるための訓練を行う。

1	初対面での挨拶、クラス内で使用する英語 【実技】【グループワーク】
---	--------------------------------------

2	指示に従う、指示を与える 【実技】【グループワーク】
3	所有物について話す、部屋について話す、発音強化練習1 【実技】【グループワーク】
4	日々の活動について話す、発音強化練習2 【実技】【グループワーク】
5	人物を描写する、性格や性質を描写する 【実技】【グループワーク】
6	余暇活動を描写する、頻度と習慣について話す、週末の活動について話す、発音強化練習3 【実技】【グループワーク】
7	食品を描写する、数や量についてたずねる、食習慣について話す 【実技】【グループワーク】
8	日本のものを描写する、発音強化練習4 【実技】【グループワーク】
9	屋内のものを描写する、位置についてたずねる、家を描写する 【実技】【グループワーク】
10	過去形の復習、過去の出来事について話す、週末の活動を描写する、発音強化練習5 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	スポーツやエクササイズに関する語彙、アクティビティを描写する、好きな活動について話す 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	未来を表す表現、将来の夢について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

【フィードバック】会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand
Access 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130203)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	コミュニケーション演習		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1002		
学 科	共通科目 (N/E/S) - コミュニケーション演習		
学 年		ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「ゼミナール」領域の必修科目である。

科目の概要

英語に対する苦手意識を克服し、社会で存分に能力や意欲を発揮するために必要なコミュニケーション技術向上のための基礎的能力の構築を目標とする。同時に、言語による交渉能力や協調性を養い、大学4年間の学習全般に対する意欲・自己有感を向上させることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、日本語は使用せず、4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、英語のみでコミュニケーションに学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

本科目で扱うトピックは、日々の活動、食べ物、住んでいる町や身近な人物の描写、過去の出来事や未来の予定などで、主に以下を到達目標とする。

- ・英語に対する苦手意識を克服する (楽しみながら英語を使うことに慣れる)
- ・身の回りの事象をセンテンスレベルで表現できる
- ・個々の発音・アクセント・イントネーションを聞き分け、単語・句レベルで英語らしい発音ができる
- ・基礎的なプレゼンテーション技術を学び、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 課題発見・分析能力
- 2 問題解決能力
- 4 コミュニケーション能力

内容

4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、高校までに習得した「知識」としての英語を実際のコミュニケーションにおいて「道具」として使えるようになるための訓練を行う。

1	初対面での挨拶、クラス内で使用する英語 【実技】【グループワーク】
---	-----------------------------------

2	指示に従う、指示を与える 【実技】【グループワーク】
3	所有物について話す、部屋について話す、発音強化練習1 【実技】【グループワーク】
4	日々の活動について話す、発音強化練習2 【実技】【グループワーク】
5	人物を描写する、性格や性質を描写する 【実技】【グループワーク】
6	余暇活動を描写する、頻度と習慣について話す、週末の活動について話す、発音強化練習3 【実技】【グループワーク】
7	食品を描写する、数や量についてたずねる、食習慣について話す 【実技】【グループワーク】
8	日本のものを描写する、発音強化練習4 【実技】【グループワーク】
9	屋内のものを描写する、位置についてたずねる、家を描写する 【実技】【グループワーク】
10	過去形の復習、過去の出来事について話す、週末の活動を描写する、発音強化練習5 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	スポーツやエクササイズに関する語彙、アクティビティを描写する、好きな活動について話す 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	未来を表す表現、将来の夢について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

【フィードバック】会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand
Access 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130203)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	コミュニケーション演習		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1002		
学 科	共通科目 (N/E/S) - コミュニケーション演習		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「ゼミナール」領域の必修科目である。

科目の概要

英語に対する苦手意識を克服し、社会で存分に能力や意欲を発揮するために必要なコミュニケーション技術向上のための基礎的能力の構築を目標とする。同時に、言語による交渉能力や協調性を養い、大学4年間の学習全般に対する意欲・自己有感を向上させることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、日本語は使用せず、4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、英語のみでコミュニケーションに学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

本科目で扱うトピックは、日々の活動、食べ物、住んでいる町や身近な人物の描写、過去の出来事や未来の予定などで、主に以下を到達目標とする。

- ・英語に対する苦手意識を克服する (楽しみながら英語を使うことに慣れる)
- ・身の回りの事象をセンテンスレベルで表現できる
- ・個々の発音・アクセント・イントネーションを聞き分け、単語・句レベルで英語らしい発音ができる
- ・基礎的なプレゼンテーション技術を学び、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 課題発見・分析能力
- 2 問題解決能力
- 4 コミュニケーション能力

内容

4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、高校までに習得した「知識」としての英語を実際のコミュニケーションにおいて「道具」として使えるようになるための訓練を行う。

1	初対面での挨拶、クラス内で使用する英語 【実技】【グループワーク】
---	-----------------------------------

2	指示に従う、指示を与える 【実技】【グループワーク】
3	所有物について話す、部屋について話す、発音強化練習1 【実技】【グループワーク】
4	日々の活動について話す、発音強化練習2 【実技】【グループワーク】
5	人物を描写する、性格や性質を描写する 【実技】【グループワーク】
6	余暇活動を描写する、頻度と習慣について話す、週末の活動について話す、発音強化練習3 【実技】【グループワーク】
7	食品を描写する、数や量についてたずねる、食習慣について話す 【実技】【グループワーク】
8	日本のものを描写する、発音強化練習4 【実技】【グループワーク】
9	屋内のものを描写する、位置についてたずねる、家を描写する 【実技】【グループワーク】
10	過去形の復習、過去の出来事について話す、週末の活動を描写する、発音強化練習5 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	スポーツやエクササイズに関する語彙、アクティビティを描写する、好きな活動について話す 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	未来を表す表現、将来の夢について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

【フィードバック】会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand
Access 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130203)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	コミュニケーション演習		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1002		
学 科	共通科目 (N/E/S) - コミュニケーション演習		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「ゼミナール」領域の必修科目である。

科目の概要

英語に対する苦手意識を克服し、社会で存分に能力や意欲を発揮するために必要なコミュニケーション技術向上のための基礎的能力の構築を目標とする。同時に、言語による交渉能力や協調性を養い、大学4年間の学習全般に対する意欲・自己有感を向上させることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、日本語は使用せず、4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、英語のみでコミュニケーションに学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

本科目で扱うトピックは、日々の活動、食べ物、住んでいる町や身近な人物の描写、過去の出来事や未来の予定などで、主に以下を到達目標とする。

- ・英語に対する苦手意識を克服する (楽しみながら英語を使うことに慣れる)
- ・身の回りの事象をセンテンスレベルで表現できる
- ・個々の発音・アクセント・イントネーションを聞き分け、単語・句レベルで英語らしい発音ができる
- ・基礎的なプレゼンテーション技術を学び、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 課題発見・分析能力
- 2 問題解決能力
- 4 コミュニケーション能力

内容

4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、高校までに習得した「知識」としての英語を実際のコミュニケーションにおいて「道具」として使えるようになるための訓練を行う。

1	初対面での挨拶、クラス内で使用する英語 【実技】【グループワーク】
---	-----------------------------------

2	指示に従う、指示を与える 【実技】【グループワーク】
3	所有物について話す、部屋について話す、発音強化練習1 【実技】【グループワーク】
4	日々の活動について話す、発音強化練習2 【実技】【グループワーク】
5	人物を描写する、性格や性質を描写する 【実技】【グループワーク】
6	余暇活動を描写する、頻度と習慣について話す、週末の活動について話す、発音強化練習3 【実技】【グループワーク】
7	食品を描写する、数や量についてたずねる、食習慣について話す 【実技】【グループワーク】
8	日本のものを描写する、発音強化練習4 【実技】【グループワーク】
9	屋内のものを描写する、位置についてたずねる、家を描写する 【実技】【グループワーク】
10	過去形の復習、過去の出来事について話す、週末の活動を描写する、発音強化練習5 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	スポーツやエクササイズに関する語彙、アクティビティを描写する、好きな活動について話す 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	未来を表す表現、将来の夢について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

【フィードバック】会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand
Access 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130203)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	コミュニケーション演習		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1002		
学 科	共通科目（N/E/S） - コミュニケーション演習		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「ゼミナール」領域の必修科目である。

科目の概要

英語に対する苦手意識を克服し、社会で存分に能力や意欲を発揮するために必要なコミュニケーション技術向上のための基礎的能力の構築を目標とする。同時に、言語による交渉能力や協調性を養い、大学4年間の学習全般に対する意欲・自己有感を向上させることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、日本語は使用せず、4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、英語のみでコミュニケーションに学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

本科目で扱うトピックは、日々の活動、食べ物、住んでいる町や身近な人物の描写、過去の出来事や未来の予定などで、主に以下を到達目標とする。

- ・英語に対する苦手意識を克服する（楽しみながら英語を使うことに慣れる）
- ・身の回りの事象をセンテンスレベルで表現できる
- ・個々の発音・アクセント・イントネーションを聞き分け、単語・句レベルで英語らしい発音ができる
- ・基礎的なプレゼンテーション技術を学び、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 課題発見・分析能力 -2 問題解決能力 -4 コミュニケーション能力

内容

4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、高校までに習得した「知識」としての英語を実際のコミュニケーションにおいて「道具」として使えるようになるための訓練を行う。

1	初対面での挨拶、クラス内で使用する英語 【実技】【グループワーク】
---	--------------------------------------

2	指示に従う、指示を与える 【実技】【グループワーク】
3	所有物について話す、部屋について話す、発音強化練習1 【実技】【グループワーク】
4	日々の活動について話す、発音強化練習2 【実技】【グループワーク】
5	人物を描写する、性格や性質を描写する 【実技】【グループワーク】
6	余暇活動を描写する、頻度と習慣について話す、週末の活動について話す、発音強化練習3 【実技】【グループワーク】
7	食品を描写する、数や量についてたずねる、食習慣について話す 【実技】【グループワーク】
8	日本のものを描写する、発音強化練習4 【実技】【グループワーク】
9	屋内のものを描写する、位置についてたずねる、家を描写する 【実技】【グループワーク】
10	過去形の復習、過去の出来事について話す、週末の活動を描写する、発音強化練習5 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	スポーツやエクササイズに関する語彙、アクティビティを描写する、好きな活動について話す 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	未来を表す表現、将来の夢について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

【フィードバック】会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand
Access 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130203)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	コミュニケーション演習		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1002		
学 科	共通科目 (N/E/S) - コミュニケーション演習		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「ゼミナール」領域の必修科目である。

科目の概要

英語に対する苦手意識を克服し、社会で存分に能力や意欲を発揮するために必要なコミュニケーション技術向上のための基礎的能力の構築を目標とする。同時に、言語による交渉能力や協調性を養い、大学4年間の学習全般に対する意欲・自己有感を向上させることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、日本語は使用せず、4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、英語のみでコミュニケーションに学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

本科目で扱うトピックは、日々の活動、食べ物、住んでいる町や身近な人物の描写、過去の出来事や未来の予定などで、主に以下を到達目標とする。

- ・英語に対する苦手意識を克服する (楽しみながら英語を使うことに慣れる)
- ・身の回りの事象をセンテンスレベルで表現できる
- ・個々の発音・アクセント・イントネーションを聞き分け、単語・句レベルで英語らしい発音ができる
- ・基礎的なプレゼンテーション技術を学び、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 課題発見・分析能力
- 2 問題解決能力
- 4 コミュニケーション能力

内容

4技能の中でも特にリスニングとスピーキングに主体を置き、高校までに習得した「知識」としての英語を実際のコミュニケーションにおいて「道具」として使えるようになるための訓練を行う。

1	初対面での挨拶、クラス内で使用する英語 【実技】【グループワーク】
---	-----------------------------------

2	指示に従う、指示を与える 【実技】【グループワーク】
3	所有物について話す、部屋について話す、発音強化練習1 【実技】【グループワーク】
4	日々の活動について話す、発音強化練習2 【実技】【グループワーク】
5	人物を描写する、性格や性質を描写する 【実技】【グループワーク】
6	余暇活動を描写する、頻度と習慣について話す、週末の活動について話す、発音強化練習3 【実技】【グループワーク】
7	食品を描写する、数や量についてたずねる、食習慣について話す 【実技】【グループワーク】
8	日本のものを描写する、発音強化練習4 【実技】【グループワーク】
9	屋内のものを描写する、位置についてたずねる、家を描写する 【実技】【グループワーク】
10	過去形の復習、過去の出来事について話す、週末の活動を描写する、発音強化練習5 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	スポーツやエクササイズに関する語彙、アクティビティを描写する、好きな活動について話す 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	未来を表す表現、将来の夢について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

【フィードバック】会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand
Access 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130203)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	フランス語 a		
担当教員名	増茂 和男		
ナンバリング	NEg1035		
学 科	共通科目 (N/E/S) -フランス語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の外国語科目のうちの選択必修科目。さらにフランス語を学びたい場合、後期のフランス語 bを選択してください。

科目の概要

フランス語の基礎力を身につけ、フランス語 bにステップ・アップできるようにします。

授業の方法 (ALを含む)

(1)フランス語は音声から学ぶのが効果的なので、音読や聞き取りを重視して進めます。(2)具体的な授業の進め方や学び方は授業で説明しますが、語学の初級段階では継続が大切です。欠席をしないように心がけましょう。基本構文は英語とほぼ同じですから、英語の知識も活用して進めます。(3)アクティブ・ラーニングとして、音読、ペアの対話練習、小テストほかをおこないます。

到達目標

基本的な発音、文法の基本事項を身につけ、またフランス語圏の文化に触れて知識を得ます。

具体的な目標は以下のとおりです。

- (1)発音：単語や初歩的な単文を正しく発音できる。
- (2)理解：初歩的な単文や対話を理解できる。
- (3)文法：教材の重要な単語や表現を身につける。重要な動詞の現在形を身につける。
- (4)文化：フランス語圏の文化や風習の基礎知識を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-3 言語運用能力

内容

1	オリエンテーションと発音練習
2	発音練習
3	基本的な文の作り方、動詞 être
4	名詞の性と数、不定冠詞、動詞 avoir
5	形容詞の性と数、定冠詞
6	基本動詞の -er 動詞の活用、否定文
7	疑問文、所有形容詞

8	部分冠詞、-ir動詞、近接未来
9	第3回以降のまとめの練習
10	命令形、指示形容詞、動詞 savoir, prendre
11	直接目的格の人称代名詞、「ある、いる」の表現、動詞 rendre, devoir
12	疑問形容詞、動詞 pouvoir, faire
13	第10回以降のまとめの練習
14	まとめ
15	振り返りとステップアップのための情報提供

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教材のCDの音声をよく聞くこと。スペルを英語読みするとかえって害になります。予習はやや軽めにして、欠席しないで授業に集中し、復習に時間をかけましょう。[1時間程度]

【事後学修】授業で学んだことが身につくように、配付されたプリントを利用するなどして練習をしましょう。新しい項目を確実に身につけないと次のステップに進めません。すこし前の回の内容でも不確かな項目はしっかり補強しましょう。[2時間以上]

評価方法および評価の基準

【評価方法】上の「ねらい」 到達目標の具体的目標について、それぞれ、おおよそ(1)20% (2)30% (3)40% (4)10%の内容の期末考査をおこないます。この期末考査を6割、平常点(出席状況、提出物、小テスト、授業への参加態度など)を4割とし、全体を100点満点に換算して60点以上が合格。

【フィードバック】小テストや課題プリントは原則、実施の次の回に解説・講評をしながら返却します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『ニューエクスプレスプラス フランス語(CD付)』(白水社,2018)。教科書はフジショップで購入し、最初の授業に持参してください。この本はむしろ参考書ですので、練習用のプリントを別途用意します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

100点換算の総合評価が60点未満の場合は再試験をおこなう場合があります。その場合、日時・場所・内容はLive Campusの授業連絡で周知します。

欠席をしないよう努めましょう。

科目名	フランス語 a		
担当教員名	増茂 和男		
ナンバリング	NEg1035		
学 科	共通科目 (N/E/S) -フランス語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の外国語科目のうちの選択必修科目。さらにフランス語を学びたい場合、後期のフランス語 bを選択してください。

科目の概要

フランス語の基礎力を身につけ、フランス語 bにステップ・アップできるようにします。

授業の方法 (ALを含む)

(1)フランス語は音声から学ぶのが効果的なので、音読や聞き取りを重視して進めます。(2)具体的な授業の進め方や学び方は授業で説明しますが、語学の初級段階では継続が大切です。欠席をしないように心がけましょう。基本構文は英語とほぼ同じですから、英語の知識も活用して進めます。(3)アクティブ・ラーニングとして、音読、ペアの対話練習、小テストほかをおこないます。

到達目標

基本的な発音、文法の基本事項を身につけ、またフランス語圏の文化に触れて知識を得ます。

具体的な目標は以下のとおりです。

- (1)発音：単語や初歩的な単文を正しく発音できる。
- (2)理解：初歩的な単文や対話を理解できる。
- (3)文法：教材の重要な単語や表現を身につける。重要な動詞の現在形を身につける。
- (4)文化：フランス語圏の文化や風習の基礎知識を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-3 言語運用能力

内容

1	オリエンテーションと発音練習
2	発音練習
3	基本的な文の作り方、動詞 ?tre
4	名詞の性と数、不定冠詞、動詞 avoir
5	形容詞の性と数、定冠詞
6	基本動詞の -er動詞の活用、否定文
7	疑問文、所有形容詞

8	部分冠詞、-ir動詞、近接未来
9	第3回以降のまとめの練習
10	命令形、指示形容詞、動詞 savoir, prendre
11	直接目的格の人称代名詞、「ある、いる」の表現、動詞 rendre, devoir
12	疑問形容詞、動詞 pouvoir, faire
13	第10回以降のまとめの練習
14	まとめ
15	振り返りとステップアップのための情報提供

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教材のCDの音声をよく聞くこと。スペルを英語読みするとかえって害になります。予習はやや軽めにして、欠席しないで授業に集中し、復習に時間をかけましょう。[1時間程度]

【事後学修】授業で学んだことが身につくように、配付されたプリントを利用するなどして練習をしましょう。新しい項目を確実に身につけないと次のステップに進めません。すこし前の回の内容でも不確かな項目はしっかり補強しましょう。[2時間以上]

評価方法および評価の基準

【評価方法】上の「ねらい」 到達目標の具体的目標について、それぞれ、おおよそ(1)20% (2)30% (3)40% (4)10%の内容の期末考査をおこないます。この期末考査を6割、平常点(出席状況、提出物、小テスト、授業への参加態度など)を4割とし、全体を100点満点に換算して60点以上が合格。

【フィードバック】小テストや課題プリントは原則、実施の次の回に解説・講評をしながら返却します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『ニューエクスプレスプラス フランス語(CD付)』(白水社,2018)。教科書はフジショップで購入し、最初の授業に持参してください。この本はむしろ参考書ですので、練習用のプリントを別途用意します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

100点換算の総合評価が60点未満の場合は再試験をおこなう場合があります。その場合、日時・場所・内容はLive Campusの授業連絡で周知します。

欠席をしないよう努めましょう。

科目名	フランス語 b		
担当教員名	増茂 和男		
ナンバリング	NEg1035		
学 科	共通科目 (N/E/S) -フランス語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の外国語科目のうちの選択科目。原則として、前期のフランス語 aを履修した学生対象です。

科目の概要

フランス語の基礎力を充実させ、フランス語検定の5級レベルを目指します。

授業の方法 (ALを含む)

1)前期のフランス語 aの進め方を継続し、音読や聞き取りを重視して進めます。(2)英語の知識も活用して、フランス語の仕組みや文の作り方の理解を確実にしましょう。(3)フランス aと同様に、適宜、小テストを実施します。(4)アクティブ・ラーニングとして、音読、ペアの対話練習、小テストほかをおこないます。

到達目標

フランス語 aに引き続き、音声と文法の基本事項を身につけ、比較的簡単な内容のフランス語を話せて書けることを目標にします。またフランス語圏の文化や風習の知識を深めます。

具体的な到達目標は以下のとおりです。

- (1)発音：正しい発音で初歩的な単文や初歩的会話が読めて聞き取れる。
- (2)理解：あいさつなどの日常的な会話や表現を理解し、フランス語で発話できる
- (3)文法：教科書の初歩的な文法知識を身につける。動詞の過去・未来ほかの基本事項を身につける。
- (4)文化：フランス語圏の文化や風習の知識をふやす。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-3 言語運用能力

内容

1	前期のまとめと復習
2	複合過去-1、近接過去
3	複合過去-2、人称代名詞の強勢形
4	第2, 3回のまとめ、数字や時刻、形容詞・副詞の比較級・最上級
5	代名動詞、動詞 dire
6	第4, 5回のまとめ、月・曜日の言い方など
7	直接法半過去
8	関係代名詞 qui, que

9	所有代名詞、疑問代名詞 qui
10	第7?9回のまとめ、料理に関する単語など
11	未来形、感嘆文
12	仮定の表現（条件法）
13	「?しながら」などの表現、受動文、第11, 12回のまとめ
14	まとめ
15	振り返り、接続法の説明、ステップアップのための情報提供など

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教材のCDを利用して音声をよく聞き、発音をまねましょう。予習はやや軽めにして、欠席しないで授業に集中し、復習に時間をかけましょう。[1時間程度]

【事後学修】配付されたプリントを仕上げ、知識を確実にしましょう。理解や知識が不確かな項目は前に戻ってしっかり補強しましょう。[2時間以上]

評価方法および評価の基準

【評価方法】上の「ねらい」 到達目標の具体的目標について、それぞれ、おおよそ(1)20% (2)30% (3)40% (4)10%の内容の期末考査をおこないます。この期末考査を6割、平常点（出席状況、提出物、小テスト、授業への参加態度など）を4割とし、全体を100点満点に換算して60点以上が合格。

【フィードバック】小テストや課題プリントは原則、実施の次の回に解説・講評をしながら返却します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】前期使用の『ニューエクスプレスプラス フランス語（CD付）』（白水社）を継続して使用します。前期と同様に練習用のプリントを別途用意します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

100点換算の総合評価が60点未満の場合は再試験をおこなう場合があります。その場合、日時・場所・内容はLive Campusの授業連絡で周知します。

基礎レベルを上げるために、欠席をしないよう努めましょう。

科目名	フランス語 b		
担当教員名	増茂 和男		
ナンバリング	NEg1035		
学 科	共通科目 (N/E/S) -フランス語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の外国語科目のうちの選択科目。原則として、前期のフランス語 aを履修した学生対象です。

科目の概要

フランス語の基礎力を充実させ、フランス語検定の5級レベルを目指します。

授業の方法 (ALを含む)

1)前期のフランス語 aの進め方を継続し、音読や聞き取りを重視して進めます。(2)英語の知識も活用して、フランス語の仕組みや文の作り方の理解を確実にしましょう。(3)フランス aと同様に、適宜、小テストを実施します。(4)アクティブ・ラーニングとして、音読、ペアの対話練習、小テストほかをおこないます。

到達目標

フランス語 aに引き続き、音声と文法の基本事項を身につけ、比較的簡単な内容のフランス語を話せて書けることを目標にします。またフランス語圏の文化や風習の知識を深めます。

具体的な到達目標は以下のとおりです。

- (1)発音：正しい発音で初歩的な単文や初歩的会話が読めて聞き取れる。
- (2)理解：あいさつなどの日常的な会話や表現を理解し、フランス語で発話できる
- (3)文法：教科書の初歩的な文法知識を身につける。動詞の過去・未来ほかの基本事項を身につける。
- (4)文化：フランス語圏の文化や風習の知識をふやす。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-3 言語運用能力

内容

1	前期のまとめと復習
2	複合過去-1、近接過去
3	複合過去-2、人称代名詞の強勢形
4	第2, 3回のまとめ、数字や時刻、形容詞・副詞の比較級・最上級
5	代名動詞、動詞 dire
6	第4, 5回のまとめ、月・曜日の言い方など
7	直接法半過去
8	関係代名詞 qui, que

9	所有代名詞、疑問代名詞 qui
10	第7?9回のまとめ、料理に関する単語など
11	未来形、感嘆文
12	仮定の表現（条件法）
13	「?しながら」などの表現、受動文、第11, 12回のまとめ
14	まとめ
15	振り返り、接続法の説明、ステップアップのための情報提供など

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教材のCDを利用して音声をよく聞き、発音をまねましょう。予習はやや軽めにして、欠席しないで授業に集中し、復習に時間をかけましょう。[1時間程度]

【事後学修】配付されたプリントを仕上げ、知識を確実にしましょう。理解や知識が不確かな項目は前に戻ってしっかり補強しましょう。[2時間以上]

評価方法および評価の基準

【評価方法】上の「ねらい」 到達目標の具体的目標について、それぞれ、おおよそ(1)20% (2)30% (3)40% (4)10%の内容の期末考査を行ないます。この期末考査を6割、平常点（出席状況、提出物、小テスト、授業への参加態度など）を4割とし、全体を100点満点に換算して60点以上が合格。

【フィードバック】小テストや課題プリントは原則、実施の次の回に解説・講評をしながら返却します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】前期使用の『ニューエクスプレスプラス フランス語（CD付）』（白水社）を継続して使用します。前期と同様に練習用のプリントを別途用意します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

100点換算の総合評価が60点未満の場合は再試験をおこなう場合があります。その場合、日時・場所・内容はLive Campusの授業連絡で周知します。

基礎レベルを上げるために、欠席をしないよう努めましょう。

科目名	中国語 a		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 b、 a、 bを履修してください。

科目の概要

中国語の初級を学びます。まず、テキスト・プリントによって発音・声調を学びます。そして、正しく発音できる、聞き取ることができる、書き取ることができる、のように段階を追って初級の中国語能力を身に付けていきます。この科目では簡単な自己紹介や日常的に使うフレーズを学びます。

授業の方法 (ALを含む)

前回内容の復習を行ない、新しい課の語彙・発音を学びます。小グループでのロールプレーや確認プリントにより、学習内容を定着させます。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読める
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できる
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できる
4. 自分の主張を中国語で表現できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 1 読み解く力

内容

第1回 中国語とは・発音指導

第2回 発音復習、自己紹介

- 第3回 第1課導入、簡体字練習
- 第4回 第1課、確認プリント作成
- 第5回 第2課導入、中国の歴史
- 第6回 第2課、確認プリント作成
- 第7回 第3課導入、確認プリント作成
- 第8回 第3課、確認プリント作成
- 第9回 第4課導入、中国の食文化
- 第10回 第4課、確認プリント作成
- 第11回 第5課、確認プリント作成
- 第12回 第6課、確認プリント作成
- 第13回 第7課、確認プリント作成
- 第14回 授業内試験
- 第15回 試験解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分程度行ってください。

評価方法および評価の基準

期末試験50%、平常点50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの内容・授業参加度やその他によります。確認プリントはなるべく授業内で個別に採点し、気を付けるべき点を指摘します。

- 1. 発音 期末試験(10%/50%) 平常点(10%/50%)
- 2. 文法 期末試験(10%/50%) 平常点(15%/50%)
- 3. 聴解 期末試験(15%/50%) 平常点(10%/50%)
- 4. 表現 期末試験(15%/50%) 平常点(15%/50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめば、文法が「孤立語(語形変化をしない)」なので比較的学びやすい外国語です。

科目名	中国語 a		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 b、 a、 bを履修してください。

科目の概要

中国語の初級を学びます。まず、テキスト・プリントによって発音・声調を学びます。そして、正しく発音できる、聞き取ることができる、書き取ることができる、のように段階を追って初級の中国語能力を身に付けていきます。この科目では簡単な自己紹介や日常的に使うフレーズを学びます。

授業の方法 (ALを含む)

前回内容の復習を行ない、新しい課の語彙・発音を学びます。小グループでのロールプレーや確認プリントにより、学習内容を定着させます。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読める
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できる
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できる
4. 自分の主張を中国語で表現できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 1 読み解く力

内容

第1回 中国語とは・発音指導

第2回 発音復習、自己紹介

- 第3回 第1課導入、簡体字練習
- 第4回 第1課、確認プリント作成
- 第5回 第2課導入、中国の歴史
- 第6回 第2課、確認プリント作成
- 第7回 第3課導入、確認プリント作成
- 第8回 第3課、確認プリント作成
- 第9回 第4課導入、中国の食文化
- 第10回 第4課、確認プリント作成
- 第11回 第5課、確認プリント作成
- 第12回 第6課、確認プリント作成
- 第13回 第7課、確認プリント作成
- 第14回 授業内試験
- 第15回 試験解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分程度行ってください。

評価方法および評価の基準

期末試験50%、平常点50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの内容・授業参加度やその他によります。確認プリントはなるべく授業内で個別に採点し、気を付けるべき点を指摘します。

- 1. 発音 期末試験(10%/50%) 平常点(10%/50%)
- 2. 文法 期末試験(10%/50%) 平常点(15%/50%)
- 3. 聴解 期末試験(15%/50%) 平常点(10%/50%)
- 4. 表現 期末試験(15%/50%) 平常点(15%/50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめば、文法が「孤立語(語形変化をしない)」なので比較的学びやすい外国語です。

科目名	中国語 a		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 b、 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の発音と声調を正しく発音することを第一歩とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。さらに、自己紹介や「～したい」などの初級文法も身に着けます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 中国語とは / 発音概説

第2回 第1課導入・自己紹介

第3回 第1課・確認プリント・第2課導入

第4回 第2課・確認プリント・第3課導入

第5回 第3課・確認プリント・中国の地理歴史・第4課導入

第6回 第4課・確認プリント・第5課導入

- 第7回 第5課・確認プリント・中国の食文化・第6課導入
- 第8回 第6課・確認プリント・第7課導入
- 第9回 第7課・確認プリント・中国人の一生・第8課導入
- 第10回 第8課・確認プリント
- 第11回 第1課～第8課復習
- 第12回 HSK試験概説
- 第13回 授業内期末試験実施
- 第14回 授業内期末試験解説
- 第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

- 1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
- 3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 a		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 b、 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の発音と声調を正しく発音することを第一歩とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。さらに、自己紹介や「～したい」などの初級文法も身に着けます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 中国語とは / 発音概説

第2回 第1課導入・自己紹介

第3回 第1課・確認プリント・第2課導入

第4回 第2課・確認プリント・第3課導入

第5回 第3課・確認プリント・中国の地理歴史・第4課導入

第6回 第4課・確認プリント・第5課導入

- 第7回 第5課・確認プリント・中国の食文化・第6課導入
- 第8回 第6課・確認プリント・第7課導入
- 第9回 第7課・確認プリント・中国人の一生・第8課導入
- 第10回 第8課・確認プリント
- 第11回 第1課～第8課復習
- 第12回 HSK試験概説
- 第13回 授業内期末試験実施
- 第14回 授業内期末試験解説
- 第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

- 1．発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 2．文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
- 3．聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 4．表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 a		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 b、 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の発音と声調を正しく発音することを第一歩とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。さらに、自己紹介や「～したい」などの初級文法も身に着けます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 中国語とは / 発音概説

第2回 第1課導入・自己紹介

第3回 第1課・確認プリント・第2課導入

第4回 第2課・確認プリント・第3課導入

第5回 第3課・確認プリント・中国の地理歴史・第4課導入

第6回 第4課・確認プリント・第5課導入

- 第7回 第5課・確認プリント・中国の食文化・第6課導入
- 第8回 第6課・確認プリント・第7課導入
- 第9回 第7課・確認プリント・中国人の一生・第8課導入
- 第10回 第8課・確認プリント
- 第11回 第1課～第8課復習
- 第12回 HSK試験概説
- 第13回 授業内期末試験実施
- 第14回 授業内期末試験解説
- 第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

- 1．発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 2．文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
- 3．聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 4．表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 a		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 b、 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の発音と声調を正しく発音することを第一歩とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。さらに、自己紹介や「～したい」などの初級文法も身に着けます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 中国語とは / 発音概説

第2回 第1課導入・自己紹介

第3回 第1課・確認プリント・第2課導入

第4回 第2課・確認プリント・第3課導入

第5回 第3課・確認プリント・中国の地理歴史・第4課導入

第6回 第4課・確認プリント・第5課導入

- 第7回 第5課・確認プリント・中国の食文化・第6課導入
- 第8回 第6課・確認プリント・第7課導入
- 第9回 第7課・確認プリント・中国人の一生・第8課導入
- 第10回 第8課・確認プリント
- 第11回 第1課～第8課復習
- 第12回 HSK試験概説
- 第13回 授業内期末試験実施
- 第14回 授業内期末試験解説
- 第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

- 1．発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 2．文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
- 3．聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 4．表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 a		
担当教員名	時松 史子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 b、 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の発音と声調を正しく発音することを第一歩とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。さらに、自己紹介や「～したい」などの初級文法も身に着けます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 中国語とは / 発音概説

第2回 第1課導入・自己紹介

第3回 第1課・確認プリント・第2課導入

第4回 第2課・確認プリント・第3課導入

第5回 第3課・確認プリント・中国の地理歴史・第4課導入

第6回 第4課・確認プリント・第5課導入

- 第7回 第5課・確認プリント・中国の食文化・第6課導入
- 第8回 第6課・確認プリント・第7課導入
- 第9回 第7課・確認プリント・中国人の一生・第8課導入
- 第10回 第8課・確認プリント
- 第11回 第1課～第8課復習
- 第12回 HSK試験概説
- 第13回 授業内期末試験実施
- 第14回 授業内期末試験解説
- 第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

- 1．発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 2．文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
- 3．聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 4．表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 a		
担当教員名	時松 史子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語（基礎科目）」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 b、 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の発音と声調を正しく発音することを第一歩とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。さらに、自己紹介や「～したい」などの初級文法も身に着けます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 中国語とは / 発音概説

第2回 第1課導入・自己紹介

第3回 第1課・確認プリント・第2課導入

第4回 第2課・確認プリント・第3課導入

第5回 第3課・確認プリント・中国の地理歴史・第4課導入

第6回 第4課・確認プリント・第5課導入

- 第7回 第5課・確認プリント・中国の食文化・第6課導入
- 第8回 第6課・確認プリント・第7課導入
- 第9回 第7課・確認プリント・中国人の一生・第8課導入
- 第10回 第8課・確認プリント
- 第11回 第1課～第8課復習
- 第12回 HSK試験概説
- 第13回 授業内期末試験実施
- 第14回 授業内期末試験解説
- 第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

- 1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
- 3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
- 4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 b		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の正しい発音を基礎とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 発音・文法復習

第2回 第1課～第8課ダイジェスト

第3回 第9課導入・自己紹介

第4回 第9課・確認プリント・第10課導入

第5回 第10課・確認プリント・第11課導入

第6回 第11課・確認プリント・中国の現代社会・第12課導入

第7回 第12課・確認プリント・第13課導入

第8回 第13課・確認プリント・中国の交通・第14課導入

第9回 第14課・確認プリント・第15課導入

第10回 第15課・確認プリント・中国の旅と知識

第11回 第9課～第15課復習

第12回 HSK試験 / 中国語検定試験概説

第13回 授業内期末試験実施

第14回 授業内期末試験解説

第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 b		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の正しい発音を基礎とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 発音・文法復習

第2回 第1課～第8課ダイジェスト

第3回 第9課導入・自己紹介

第4回 第9課・確認プリント・第10課導入

第5回 第10課・確認プリント・第11課導入

第6回 第11課・確認プリント・中国の現代社会・第12課導入

第7回 第12課・確認プリント・第13課導入

第8回 第13課・確認プリント・中国の交通・第14課導入

第9回 第14課・確認プリント・第15課導入

第10回 第15課・確認プリント・中国の旅と知識

第11回 第9課～第15課復習

第12回 HSK試験 / 中国語検定試験概説

第13回 授業内期末試験実施

第14回 授業内期末試験解説

第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 b		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の正しい発音を基礎とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 発音・文法復習

第2回 第1課～第8課ダイジェスト

第3回 第9課導入・自己紹介

第4回 第9課・確認プリント・第10課導入

第5回 第10課・確認プリント・第11課導入

第6回 第11課・確認プリント・中国の現代社会・第12課導入

第7回 第12課・確認プリント・第13課導入

第8回 第13課・確認プリント・中国の交通・第14課導入

第9回 第14課・確認プリント・第15課導入

第10回 第15課・確認プリント・中国の旅と知識

第11回 第9課～第15課復習

第12回 HSK試験 / 中国語検定試験概説

第13回 授業内期末試験実施

第14回 授業内期末試験解説

第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 b		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の正しい発音を基礎とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 発音・文法復習

第2回 第1課～第8課ダイジェスト

第3回 第9課導入・自己紹介

第4回 第9課・確認プリント・第10課導入

第5回 第10課・確認プリント・第11課導入

第6回 第11課・確認プリント・中国の現代社会・第12課導入

第7回 第12課・確認プリント・第13課導入

第8回 第13課・確認プリント・中国の交通・第14課導入

第9回 第14課・確認プリント・第15課導入

第10回 第15課・確認プリント・中国の旅と知識

第11回 第9課～第15課復習

第12回 HSK試験 / 中国語検定試験概説

第13回 授業内期末試験実施

第14回 授業内期末試験解説

第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 b		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の正しい発音を基礎とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 発音・文法復習

第2回 第1課～第8課ダイジェスト

第3回 第9課導入・自己紹介

第4回 第9課・確認プリント・第10課導入

第5回 第10課・確認プリント・第11課導入

第6回 第11課・確認プリント・中国の現代社会・第12課導入

第7回 第12課・確認プリント・第13課導入

第8回 第13課・確認プリント・中国の交通・第14課導入

第9回 第14課・確認プリント・第15課導入

第10回 第15課・確認プリント・中国の旅と知識

第11回 第9課～第15課復習

第12回 HSK試験 / 中国語検定試験概説

第13回 授業内期末試験実施

第14回 授業内期末試験解説

第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 b		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の正しい発音を基礎とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 発音・文法復習

第2回 第1課～第8課ダイジェスト

第3回 第9課導入・自己紹介

第4回 第9課・確認プリント・第10課導入

第5回 第10課・確認プリント・第11課導入

第6回 第11課・確認プリント・中国の現代社会・第12課導入

第7回 第12課・確認プリント・第13課導入

第8回 第13課・確認プリント・中国の交通・第14課導入

第9回 第14課・確認プリント・第15課導入

第10回 第15課・確認プリント・中国の旅と知識

第11回 第9課～第15課復習

第12回 HSK試験 / 中国語検定試験概説

第13回 授業内期末試験実施

第14回 授業内期末試験解説

第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 b		
担当教員名	時松 史子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の正しい発音を基礎とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 発音・文法復習

第2回 第1課～第8課ダイジェスト

第3回 第9課導入・自己紹介

第4回 第9課・確認プリント・第10課導入

第5回 第10課・確認プリント・第11課導入

第6回 第11課・確認プリント・中国の現代社会・第12課導入

第7回 第12課・確認プリント・第13課導入

第8回 第13課・確認プリント・中国の交通・第14課導入

第9回 第14課・確認プリント・第15課導入

第10回 第15課・確認プリント・中国の旅と知識

第11回 第9課～第15課復習

第12回 HSK試験 / 中国語検定試験概説

第13回 授業内期末試験実施

第14回 授業内期末試験解説

第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	中国語 b		
担当教員名	時松 史子		
ナンバリング	NEg1033		
学 科	共通科目 (N/E/S) -中国語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択必修科目で、中国語によるコミュニケーションのための基礎的中国語能力の育成を目指します。さらに中国語を学びたい場合は、中国語 a、 bを履修してください。

科目の概要

本科目では中国語の正しい発音を基礎とし、日常的に用いる簡単な挨拶や会話文を中心に学びます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では初めに前回内容の確認から始めます。次に、新出語句の練習・文型を学び、小グループでの会話練習を行います。最後に発音・語彙・文法などの既習事項を「確認プリント」で復習します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 言語運用能力、 - 1 読み解く力

内容

第1回 発音・文法復習

第2回 第1課～第8課ダイジェスト

第3回 第9課導入・自己紹介

第4回 第9課・確認プリント・第10課導入

第5回 第10課・確認プリント・第11課導入

第6回 第11課・確認プリント・中国の現代社会・第12課導入

第7回 第12課・確認プリント・第13課導入

第8回 第13課・確認プリント・中国の交通・第14課導入

第9回 第14課・確認プリント・第15課導入

第10回 第15課・確認プリント・中国の旅と知識

第11回 第9課～第15課復習

第12回 HSK試験 / 中国語検定試験概説

第13回 授業内期末試験実施

第14回 授業内期末試験解説

第15回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分ほど行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席状況及び授業内で行った確認プリントの提出・内容を基準とします。確認プリントはなるべく授業内でフィードバックし、気を付けるべき点を指摘します。

1. 発音：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
2. 文法：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）
3. 聴解：期末試験（10% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（15% / 50%）
4. 表現：期末試験（15% / 50%） 確認プリント・授業参加度・その他（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 1』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

中国語は発音のコツさえつかめれば、文法的には孤立語（活用がない）なので比較的身に付きやすい外国語です。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	川口 英俊、安達 一寿		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	JAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、大学で必要な学びの方法を修得するための科目である。また、新入生の皆さんが、これからどのように大学生生活を送ればよいのかということについての理解を深めていく。

科目の概要

大学では、開講される講義や演習、実習などの科目を履修し、単位を修得することにより、必要となる知識や技能を身につける。そのためには、大学での学修の仕方を身につけることが必要である。講義の中で自ら疑問を持ち追究する態度を身につける、演習でのレジュメ作成や発表する技術を修得する、文献を読み課題をつくり 自ら追究する方法を修得する、レポートや論文を書き上げること、など大学で必要となる勉強の方法についてともに学ぶ。

授業の方法

- ・話し合う力や協同する力、他者を思う力を身につけるために、グループワークやディスカッションをおこなう。
- ・読み解く力や書き表す力、資料を活用する力などを身につけるために、レポートをおこなう。

到達目標

- (1)学修のための基礎力(リーディング、ライティング他)を身につけ、レポートを作成する。
- (2)学生生活に慣れ、自らの目標や将来設計に基づき、学修計画を立て、eポートフォリオに記述する。
- (3)仲間と協力して課題を創造するとともに追究しあう態度を身につけ、積極的に授業に参加する。

ディプロマ・ポリシーとの関連

読み解く力

書き表す力

他者を思う力

内容

1	オリエンテーション【全員】
2	自分自身を知る(1)(診断テスト)【全員】

3	自らの健康について知る【全員・健康管理センター】
4	ライティング(1)【全員】
5	ノートテイキング(1)【全員】
6	リーディング(1)【全員】
7	自分自身を知る(2)(結果の検討)【全員】
8	能動的に学ぶ - eポートフォリオ【全員】
9	情報収集の方法(1)【全員・図書館】
10	情報収集の方法(2)【各クラス】
11	ライティング(2)【各クラス】
12	ノートテイキング(2)【各クラス】
13	リーディング(2)【各クラス】
14	ライティング(3)【各クラス】
15	まとめ【全員】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各テーマの該当箇所を教科書で予習のこと。(60分)

【事後学修】テーマ毎に課題・レポートを課すので、それを実施すること。(90分)

評価方法および評価の基準

課題・レポート(全部で100点満点)を課し、60点以上を合格とする。

課題・レポートは、授業時に提出を求める。

到達目標(1) 課題・レポート(50%)

到達目標(2) eポートフォリオの記入(30%)

到達目標(3) 授業への参加態度(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】中澤務・森貴史・本村康哲編、『知のナビゲーター』, くるしお出版, 1800円

【推薦書】松本茂・河野哲也, 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』, 玉川大学出版部, 1470円

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

新入生のホームルーム的な授業になります。きちんと授業に出席し、大学での学びの充実を図りましょう。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	鳥越 信吾、安達 一寿		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	JBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、大学で必要な学びの方法を修得するための科目である。また、新入生の皆さんが、これからどのように大学生生活を送ればよいのかということについての理解を深めていく。

科目の概要

大学では、開講される講義や演習、実習などの科目を履修し、単位を修得することにより、必要となる知識や技能を身につける。そのためには、大学での学修の仕方を身につけることが必要である。講義の中で自ら疑問を持ち追究する態度を身につける、演習でのレジュメ作成や発表する技術を修得する、文献を読み課題をつくり 自ら追究する方法を修得する、レポートや論文を書き上げること、など大学で必要となる勉強の方法についてともに学ぶ。

授業の方法

- ・話し合う力や協同する力、他者を思う力を身につけるために、グループワークやディスカッションをおこなう。
- ・読み解く力や書き表す力、資料を活用する力などを身につけるために、レポートをおこなう。

到達目標

- (1)学修のための基礎力(リーディング、ライティング他)を身につけ、レポートを作成する。
- (2)学生生活に慣れ、自らの目標や将来設計に基づき、学修計画を立て、eポートフォリオに記述する。
- (3)仲間と協力して課題を創造するとともに追究しあう態度を身につけ、積極的に授業に参加する。

ディプロマ・ポリシーとの関連

読み解く力

書き表す力

他者を思う力

内容

1	オリエンテーション【全員】
---	---------------

2	自分自身を知る(1)(診断テスト)【全員】
3	自らの健康について知る【全員・健康管理センター】
4	ライティング(1)【全員】
5	ノートテイキング(1)【全員】
6	リーディング(1)【全員】
7	自分自身を知る(2)(結果の検討)【全員】
8	能動的に学ぶ - eポートフォリオ【全員】
9	情報収集の方法(1)【全員・図書館】
10	情報収集の方法(2)【各クラス】
11	ライティング(2)【各クラス】
12	ノートテイキング(2)【各クラス】
13	リーディング(2)【各クラス】
14	ライティング(3)【各クラス】
15	まとめ【全員】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各テーマの該当箇所を教科書で予習のこと。(60分)

【事後学修】テーマ毎に課題・レポートを課すので、それを実施すること。(90分)

評価方法および評価の基準

課題・レポート(全部で100点満点)を課し、60点以上を合格とする。

課題・レポートは、授業時に提出を求める。

到達目標(1) 課題・レポート(50%)

到達目標(2) eポートフォリオの記入(30%)

到達目標(3) 授業への参加態度(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】中澤務・森貴史・本村康哲編、『知のナビゲーター』, くらしお出版, 1800円

【推薦書】松本茂・河野哲也, 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』, 玉川大学出版部, 1470円

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

新入生のホームルーム的な授業になります。きちんと授業に出席し、大学での学びの充実を図りましょう。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名			
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年		ク ラ ス	JCクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、大学で必要な学びの方法を修得するための科目である。また、新入生の皆さんが、これからどのように大学生生活を送ればよいのかということについての理解を深めていく。

科目の概要

大学では、開講される講義や演習、実習などの科目を履修し、単位を修得することにより、必要となる知識や技能を身につける。そのためには、大学での学修の仕方を身につけることが必要である。講義の中で自ら疑問を持ち追究する態度を身につける、演習でのレジュメ作成や発表する技術を修得する、文献を読み課題をつくり 自ら追究する方法を修得する、レポートや論文を書き上げること、など大学で必要となる勉強の方法についてともに学ぶ。

授業の方法

- ・話し合う力や協同する力、他者を思う力を身につけるために、グループワークやディスカッションをおこなう。
- ・読み解く力や書き表す力、資料を活用する力などを身につけるために、レポートをおこなう。

到達目標

- (1)学修のための基礎力（リーディング、ライティング他）を身につけ、レポートを作成する。
- (2)学生生活に慣れ、自らの目標や将来設計に基づき、学修計画を立て、eポートフォリオに記述する。
- (3)仲間と協力して課題を創造するとともに追究しあう態度を身につけ、積極的に授業に参加する。

ディプロマ・ポリシーとの関連

読み解く力

書き表す力

他者を思う力

内容

1	オリエンテーション【全員】
2	自分自身を知る（1）（診断テスト）【全員】

3	自らの健康について知る【全員・健康管理センター】
4	ライティング(1)【全員】
5	ノートテイキング(1)【全員】
6	リーディング(1)【全員】
7	自分自身を知る(2)(結果の検討)【全員】
8	能動的に学ぶ - eポートフォリオ【全員】
9	情報収集の方法(1)【全員・図書館】
10	情報収集の方法(2)【各クラス】
11	ライティング(2)【各クラス】
12	ノートテイキング(2)【各クラス】
13	リーディング(2)【各クラス】
14	ライティング(3)【各クラス】
15	まとめ【全員】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各テーマの該当箇所を教科書で予習のこと。(60分)

【事後学修】テーマ毎に課題・レポートを課すので、それを実施すること。(90分)

評価方法および評価の基準

課題・レポート(全部で100点満点)を課し、60点以上を合格とする。

課題・レポートは、授業時に提出を求める。

到達目標(1) 課題・レポート(50%)

到達目標(2) eポートフォリオの記入(30%)

到達目標(3) 授業への参加態度(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】中澤務・森貴史・本村康哲編、『知のナビゲーター』, くるしお出版, 1800円

【推薦書】松本茂・河野哲也, 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』, 玉川大学出版部, 1470円

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

新入生のホームルーム的な授業になります。きちんと授業に出席し、大学での学びの充実を図りましょう。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	赤間 恵都子、シーラ クリフ		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	HAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「学びの基盤をつくる」科目群に位置する1年生前期の必修科目である。ガイダンス教育の一環として専任教員が担当する。

科目の概要

大学生活4年間で修得すべきアカデミックスキルと地域社会の中で豊かな人間関係を築き上げ、自己実現するのに必要なソーシャルスキルの基礎を身につける。また、課題解決ワークショップや特別講師による体験授業など、様々な内容の授業を通して本学科における学びの視野を広げていく。

授業の方法 (ALを含む)

ペアワークやグループワークなどの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果を発表して互いに学び合う授業方法を中心に実施する。【グループワーク】【PBL】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】

到達目標

到達目標(1)大学生活に必要な基本的スキルを修得し実行することができる。

到達目標(2)グループ活動において、協働作業をスムーズに行うことができる。

到達目標(3)自らの将来設計に向けて学修計画をたてることができる。

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

1	オリエンテーション
2	健康について考える：健康管理センター講師【リアクションペーパー】
3	大学での学びについて【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	課題解決ワークショップ 課題設定【PBL】
5	情報収集・メディアリテラシー インターネット活用法【リアクションペーパー】
6	情報収集・メディアリテラシー 図書館の活用法【リアクションペーパー】
7	課題解決ワークショップ 資料収集【PBL】
8	課題解決ワークショップ 中間発表【PBL】
9	アカデミックスキル?レポートの書き方【グループワーク】【リアクションペーパー】

10	アカデミックスキル プレゼンテーション技法【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	課題解決ワークショップ プレゼン準備【PBL】
12	多文化理解・共生について考える：講師による体験講座【リアクションペーパー】
13	課題解説ワークショップ 発表第1部【PBL】【プレゼンテーション】
14	課題解決ワークショップ 発表第2部【PBL】【プレゼンテーション】
15	学修の振り返り・夏休みの計画【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業内容に応じて、興味関心のある事柄を調べておく。また、課題解決ワークの中間発表や、プレゼンテーションに向けた準備を行う。〔各授業につき60分～120分程度〕

【事後学習】各回の学習内容を振り返り、ノートに整理したり、疑問点について調べる。また、課題解決ワークの調査や資料整理等を行う。〔各授業につき60分～120分程度〕

評価方法および評価の基準

リアクションペーパーの内容60%、グループワークを含む授業への取り組み状況40%とし、評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)リアクションペーパー(30/60)、授業への取り組み状況(10/40)

到達目標(2)リアクションペーパー(10/60)、授業への取り組み状況(20/40)

到達目標(3)リアクションペーパー(20/60)、授業への取り組み状況(10/40)

【フィードバック】

各クラスの学習活動において教員がコメントし、課題解決ワークショップのプレゼンテーション後に講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定の教科書は使用せず、適宜資料を配布する。

【推薦書】【参考図書】必要に応じて適宜授業で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

大学生活をスムーズに始めるために必要なことをクラスメイトと一緒に学ぶ授業です。分からないことは何でも教員に聞いて楽しく進めましょう。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	落合 真裕、樋口 一貴		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	HBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「学びの基盤をつくる」科目群に位置する1年生前期の必修科目である。ガイダンス教育の一環として専任教員が担当する。

科目の概要

大学生活4年間で修得すべきアカデミックスキルと地域社会の中で豊かな人間関係を築き上げ、自己実現するのに必要なソーシャルスキルの基礎を身につける。また、課題解決ワークショップや特別講師による体験授業など、様々な内容の授業を通して本学科における学びの視野を広げていく。

授業の方法 (ALを含む)

ペアワークやグループワークなどの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果を発表して互いに学び合う授業方法を中心に実施する。【グループワーク】【PBL】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】

到達目標

到達目標(1)大学生活に必要な基本的スキルを修得し実行することができる。

到達目標(2)グループ活動において、協働作業をスムーズに行うことができる。

到達目標(3)自らの将来設計に向けて学修計画をたてることができる。

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

1	オリエンテーション
2	健康について考える：健康管理センター講師【リアクションペーパー】
3	大学での学びについて【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	課題解決ワークショップ 課題設定【PBL】
5	情報収集・メディアリテラシー インターネット活用法【リアクションペーパー】
6	情報収集・メディアリテラシー 図書館の活用法【リアクションペーパー】
7	課題解決ワークショップ 資料収集【PBL】
8	課題解決ワークショップ 中間発表【PBL】
9	アカデミックスキル レポートの書き方【グループワーク】【リアクションペーパー】

10	アカデミックスキル プレゼンテーション技法【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	課題解決ワークショップ プレゼン準備【PBL】
12	多文化理解・共生について考える：講師による体験講座【リアクションペーパー】
13	課題解説ワークショップ 発表第1部【PBL】【プレゼンテーション】
14	課題解決ワークショップ 発表第2部【PBL】【プレゼンテーション】
15	学修の振り返り・夏休みの計画【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業内容に応じて、興味関心のある事柄を調べておく。また、課題解決ワークの中間発表や、プレゼンテーションに向けた準備を行う。〔各授業につき60分～120分程度〕

【事後学習】各回の学習内容を振り返り、ノートに整理したり、疑問点について調べる。また、課題解決ワークの調査や資料整理等を行う。〔各授業につき60分～120分程度〕

評価方法および評価の基準

リアクションペーパーの内容60%、グループワークを含む授業への取り組み状況40%とし、評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)リアクションペーパー(30/60)、授業への取り組み状況(10/40)

到達目標(2)リアクションペーパー(10/60)、授業への取り組み状況(20/40)

到達目標(3)リアクションペーパー(20/60)、授業への取り組み状況(10/40)

【フィードバック】

各クラスの学習活動において教員がコメントし、課題解決ワークショップのプレゼンテーション後に講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定の教科書は使用せず、適宜資料を配布する。

【推薦書】【参考図書】必要に応じて適宜授業で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

大学生活をスムーズに始めるために必要なことをクラスメイトと一緒に学ぶ授業です。分からないことは何でも教員に聞いて楽しく進めましょう。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	石川 敬史、新嶋 良恵		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	HCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「学びの基盤をつくる」科目群に位置する1年生前期の必修科目である。ガイダンス教育の一環として専任教員が担当する。

科目の概要

大学生活4年間で修得すべきアカデミックスキルと地域社会の中で豊かな人間関係を築き上げ、自己実現するのに必要なソーシャルスキルの基礎を身につける。また、課題解決ワークショップや特別講師による体験授業など、様々な内容の授業を通して本学科における学びの視野を広げていく。

授業の方法（ALを含む）

ペアワークやグループワークなどの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果を発表して互いに学び合う授業方法を中心に実施する。【グループワーク】【PBL】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】

到達目標

到達目標(1)大学生活に必要な基本的スキルを修得し実行することができる。

到達目標(2)グループ活動において、協働作業をスムーズに行うことができる。

到達目標(3)自らの将来設計に向けて学修計画をたてることができる。

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

1	オリエンテーション
2	健康について考える：健康管理センター講師【リアクションペーパー】
3	大学での学びについて【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	課題解決ワークショップ 課題設定【PBL】
5	情報収集・メディアリテラシー インターネット活用法【リアクションペーパー】
6	情報収集・メディアリテラシー 図書館の活用法【リアクションペーパー】
7	課題解決ワークショップ 資料収集【PBL】
8	課題解決ワークショップ 中間発表【PBL】
9	アカデミックスキル?レポートの書き方【グループワーク】【リアクションペーパー】

10	アカデミックスキル プレゼンテーション技法【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	課題解決ワークショップ プレゼン準備【PBL】
12	多文化理解・共生について考える：講師による体験講座【リアクションペーパー】
13	課題解説ワークショップ 発表第1部【PBL】【プレゼンテーション】
14	課題解決ワークショップ 発表第2部【PBL】【プレゼンテーション】
15	学修の振り返り・夏休みの計画【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業内容に応じて、興味関心のある事柄を調べておく。また、課題解決ワークの中間発表や、プレゼンテーションに向けた準備を行う。〔各授業につき60分～120分程度〕

【事後学習】各回の学習内容を振り返り、ノートに整理したり、疑問点について調べる。また、課題解決ワークの調査や資料整理等を行う。〔各授業につき60分～120分程度〕

評価方法および評価の基準

リアクションペーパーの内容60%、グループワークを含む授業への取り組み状況40%とし、評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)リアクションペーパー(30/60)、授業への取り組み状況(10/40)

到達目標(2)リアクションペーパー(10/60)、授業への取り組み状況(20/40)

到達目標(3)リアクションペーパー(20/60)、授業への取り組み状況(10/40)

【フィードバック】

各クラスの学習活動において教員がコメントし、課題解決ワークショップのプレゼンテーション後に講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定の教科書は使用せず、適宜資料を配布する。

【推薦書】【参考図書】必要に応じて適宜授業で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

大学生活をスムーズに始めるために必要なことをクラスメイトと一緒に学ぶ授業です。分からないことは何でも教員に聞いて楽しく進めましょう。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	木村 靖子、池川 繁樹、長尾 昭彦、徳野 裕子 他		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	AAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、大学生として必要な学びの方法を修得する科目である。高等学校の生徒から大学の学生へと円滑に移行するために必要な学修について、新入生全員と学科教員がコミュニケーションを図りながら授業を進める。

科目の概要

大学の学びは、開講される講義や演習、実習などの科目を履修し、単位を修得することにより、社会人として必要となる知識や技能を身につけ、さらには資格取得にもつながる。本科目において、大学生活で修得すべき基本的な学習技法・技能を学修し、地域社会とつながりをもつことで、将来の自己実現に向けて必要な社会人基礎力を身につける。また、大学では、学生が主体的に学ぶ態度・姿勢が求められるが、グループワークなど様々な授業方法をとおして学修する。

授業の方法 (ALを含む)

講義形式だけでなく、グループワークの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果をレポートにまとめる、発表して学びあう授業方法なども展開する。

【講義】【グループワーク】【レポート】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1.大学の学修のために必要な基礎力を身につけ、実行することができる。
- 2.自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、記述することができる。
- 3.自ら設定した課題の解決に向けて、他者とコミュニケーションをとり、協働作業を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

1	大学の学びを考える・仲間とのコミュニケーションを図る (自己紹介、大学生活に関する相談) 【グループワーク】【ディスカッション】【リアクションペーパー】
---	---

2	4年間のカリキュラムと履修について【講義】
3	資格取得の考え方【講義】【ディスカッション】【リアクションペーパー】
4	大学生活における心構えとマナー【講義】【ディスカッション】【リアクションペーパー】
5	大学授業への受講技能（テキストの読み方 説明的文章の読み方、要約のまとめ方）【講義】【レポート】
6	大学授業への受講技能（ノートのとり方、レポートの書き方・まとめ方）【講義】【レポート】
7	大学施設の活用法（図書館・情報センター・リメディアル教育センターの紹介と活用法）【講義】【グループワーク】【ディスカッション】【リアクションペーパー】
8	社会人基礎力（PROG）テストの実施
9	女子学生への健康アドバイス（健康管理センター）【講義】【リアクションペーパー】
10	SPI試験の実施
11	地域とのかかわり【グループワーク】【ディスカッション】【リアクションペーパー】
12	自身を知る（eポートフォリオの活用）【グループワーク】
13	社会人基礎力（PROG）テストの評価と解説
14	将来を考える キャリアガイダンス【グループワーク】【ディスカッション】【リアクションペーパー】
15	まとめ【グループワーク】【ディスカッション】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】各回の授業内容において、配布資料などを読み、興味・関心のあることを調べておく。（事前学習60分）
- 【事後学修】学修した内容をノートやレポートに整理する。疑問点などを調べる。（事後学習90分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み50%、課題に対するレポート50%で評価し、総合評価60%以上を合格とする。

到達目標（1）授業への取り組み 10%/50% レポート 20%/50%

到達目標（2）授業への取り組み 20%/50% レポート 20%/50%

到達目標（3）授業への取り組み 20%/50% レポート 10%/50%

【フィードバック】課題に対するレポートは学科専任教員がコメントし次回以降に返却する。リアクションペーパーの内容は次回の授業で解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の中で指示する。

【推薦書】【参考図書】必要に応じて授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

大学生活を送るうえで最も基本となることを学ぶ授業です。分からないことは積極的に質問し、解決するように心がけ、大学での学びを充実させましょう。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能（Study Skill）の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法（ALを含む）

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

- 1．大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
- 2．大学の資源を有効に活用する術を得る。
- 3．基本的な＜Study Skill＞を理解する。
- 4．自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

A．アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B．Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)
- 【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能 (Study Skill) の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法 (ALを含む)

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

1. 大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
2. 大学の資源を有効に活用する術を得る。
3. 基本的な <Study Skill> を理解する。
4. 自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力
- 2書き表す力
- 1他者を思う力

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B. Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)
- 【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能 (Study Skill) の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法 (ALを含む)

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

1. 大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
2. 大学の資源を有効に活用する術を得る。
3. 基本的な <Study Skill> を理解する。
4. 自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B. Study Skillトレーニング【討議・討論】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)

【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能 (Study Skill) の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法 (ALを含む)

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

1. 大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
2. 大学の資源を有効に活用する術を得る。
3. 基本的な <Study Skill> を理解する。
4. 自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力
- 2書き表す力
- 1他者を思う力

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B. Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)
- 【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GEクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能 (Study Skill) の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法 (ALを含む)

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

1. 大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
2. 大学の資源を有効に活用する術を得る。
3. 基本的な <Study Skill> を理解する。
4. 自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B. Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)

【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GFクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能 (Study Skill) の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法 (ALを含む)

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

1. 大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
2. 大学の資源を有効に活用する術を得る。
3. 基本的な <Study Skill> を理解する。
4. 自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B. Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)
- 【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GGクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能 (Study Skill) の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法 (ALを含む)

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

1. 大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
2. 大学の資源を有効に活用する術を得る。
3. 基本的な <Study Skill> を理解する。
4. 自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B. Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)
- 【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GHクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能 (Study Skill) の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法 (ALを含む)

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

1. 大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
2. 大学の資源を有効に活用する術を得る。
3. 基本的な <Study Skill> を理解する。
4. 自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B. Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)
- 【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GJクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能 (Study Skill) の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法 (ALを含む)

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

1. 大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
2. 大学の資源を有効に活用する術を得る。
3. 基本的な <Study Skill> を理解する。
4. 自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B. Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)
- 【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GKクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能（Study Skill）の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法（ALを含む）

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

- 1．大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
- 2．大学の資源を有効に活用する術を得る。
- 3．基本的な＜Study Skill＞を理解する。
- 4．自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

A．アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B．Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)
- 【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	GLクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年生前期の必修科目であり、大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。

科目の概要：

大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能（Study Skill）の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

授業の方法（ALを含む）

講義は外部講師やキャリアガイダンスなどを通して【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】などALの手法を取り入れながら展開する。

到達目標：

- 1．大学で学ぶこと、主体的に学ぶことの意味を理解する。
- 2．大学の資源を有効に活用する術を得る。
- 3．基本的な＜Study Skill＞を理解する。
- 4．自己の大学生活における目標を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目はディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力 -2書き表す力 -1他者を思う力

内容

A．アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など【グループワーク】

B．Study Skillトレーニング【討論・討議】【プレゼンテーション】

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス【グループワーク】

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

D. 地域を学ぶ・地域に学ぶ【討論・討議】

~心理学科生がボランティア活動を通じて地域との交流をはかる際の心構えや態度を養うため、以下の内容から1~2のトピックについて話を伺う(計画中)

- (1) 地域子育て支援:新座子育てネットワーク(予定)の方に、現状の課題などを伺う
- (2) 教育支援:市内中学校の現役スタッフの方に、中学生が抱える心の問題などを伺う
- (3) 障がい者支援:地域の障がい者支援施設の方に、支援の実際を伺い理解を深める

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】課された課題についての準備を整える(各講義1時間程度)
- 【事後学修】ゼミの内容を復習し、要点を復習しておく(各講義1時間程度)

評価方法および評価の基準

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

1. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
2. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)
3. 発表とレポート提出(30/60) 平常点(10/40)
4. 発表とレポート提出(10/60) 平常点(10/40)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

意欲的に取り組むこと。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	梶野 涼子、小林 三智子、中村 禎子、高谷 和成 他		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	CAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は生徒から、大学の学生へと円滑に移行するために必要な勉強を各学科の先生方とともに学ぶために設定されました。特に本学が立地する埼玉県新座市について (入門編) を学ぶ一つの機会となります。入学したばかりの皆さんが仲間とともに、これからどのように大学生活を送ればよいのかということについて、少人数クラスで学びあうこととなります。

科目の概要

大学生活では、大学で開講される講義や演習、実習などの科目を履修し、単位を修得することにより、社会人として必要となる知識や技能を身につけます。特に本学では、「社会に貢献する」学生を育てることをねらいの一つとしています。そのためには、大学での勉強の仕方を身につけることが必要です。講義を聴きながら自ら疑問を持ち追及する態度、基本的な学習技法・技能 (テキストの読み方、ノートの取り方・まとめ方、レポート作成、文献調査等)、本学が立地する地域について学修することなど、大学で必要となる勉強の方法について、学生の主体的な活動を通して学びます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は講義を主体としますが、学びを深めるために、課題を提示し、グループワークやレポート作成も行います【グループワーク】【レポート】。

到達目標

仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を身につけること、大学生活に慣れ、自らの将来設計に基づき、学修計画が立てられること、仲間と協力して課題を創造し、ともに追及しあう態度を身につけること、などがねらいです。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

1	自己紹介、仲間とのコミュニケーションを図る
---	-----------------------

2	大学・学部・学科の特徴、食品開発学科で取得できる資格
3	4年間のカリキュラムの組み立て
4	大学授業への受講技能（ノートの取り方、まとめ方、勉強方法、レポート作成に関する技法）
5	倫理・情報リテラシー教育
6	社会人基礎力（PROG）テストの実施
7	図書・情報センター 図書館の紹介と活用法
8	SPI性格検査の実施
9	社会人基礎力（PROG）テストの説明
10	地域活動
11	食品企業・食品開発を学ぶ
12	食品企業・食品開発を学ぶ
13	食品企業・食品開発を学ぶ
14	食品企業・食品開発を学ぶ
15	SPI性格検査についての説明、まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】配布される資料やシラバス等を読んでおく [60分]

【事後学修】内容についてまとめる [60分]

評価方法および評価の基準

平常点50点、課題に対するレポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて授業で連絡する。また、「地域を学ぶ」テキストは、教室で配布予定。

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	松岡 敬明、星野 敦子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	FAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、教職に就くための心構えや学修方法などについて指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目における「学びの基盤をつくる」科目群に位置し、必修科目です。

科目の概要

この科目は高等学校の生徒から大学の学生へと円滑に移行するための必要な勉強を学科の先生方とともに学ぶために設定されました。特に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ一つの機会となります。これからどのように大学生活を送ればよいのかということについて、少人数クラスで学びあうこととなります。大学生活では、大学で開講される講義や演習、実習等の科目を履修し、単位を修得することにより、社会人として必要となる知識や技能を身につけます。特に、本学では、「地域に貢献する」学生を育てることをねらいの一つとしています。そのためには、大学での勉強の仕方を身につけることが必要です。講義を聴きながら自ら疑問を持ち追究する態度、演習に参加し、レジュメをつくり発表する技能、文献を読み、課題をつくり、自ら追究すること、本学が立地する地域について学修すること等、大学で必要となる勉強の方法について各先生とともに学びます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによる企画立案及びプレゼンテーションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。 - 1 読み解く力
- 2 書き表す力 - 1 他者を思う力

内容

各教室に分かれて、担任の先生方と相談しながら勉強を進めます。グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていきます。

週により、学科全員が集まって勉強したり、個別で勉強したりします。

1	オリエンテーション
---	-----------

2	学びのナビゲーター
3	新座を学ぶ
4	PCによる自己確立シートやメールの書き方など・教職課程履修カルテ記入
5	自分の力を知る - 測定（就職支援課による授業）
6	桐華祭の企画
7	アカデミック・ライティング
8	アカデミック・ライティング 【レポート（表現）】
9	情報収集（図書館ガイダンス）
10	自分の力を知る - 測定結果の解説（就職支援課による授業）
11	ボランティア・インターンシップ活動について【グループワーク】
12	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
13	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
14	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備えます。（各授業に対して45分）

【事後学修】ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組みます。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。 評価方法：口頭発表20%、平常点（授業参加度を含む）20%
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。 評価方法：ミニレポート30%
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。 評価方法：口頭発表10%、平常点（授業参加度を含む）20%

講義の内外で作成するミニレポート30%、口頭発表30%、平常点（授業参加度を含む）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】ミニレポートの内容について、次回以降の授業でシェアリングします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	久保田 葉子、岡本 明博、富山 哲也		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	FBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、教職に就くための心構えや学修方法などについて指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目における「学びの基盤をつくる」科目群に位置し、必修科目です。

科目の概要

この科目は高等学校の生徒から大学の学生へと円滑に移行するための必要な勉強を学科の先生方とともに学ぶために設定されました。特に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ一つの機会となります。これからどのように大学生活を送ればよいのかということについて、少人数クラスで学びあうこととなります。大学生活では、大学で開講される講義や演習、実習等の科目を履修し、単位を修得することにより、社会人として必要となる知識や技能を身につけます。特に、本学では、「地域に貢献する」学生を育てることをねらいの一つとしています。そのためには、大学での勉強の仕方を身につけることが必要です。講義を聴きながら自ら疑問を持ち追究する態度、演習に参加し、レジュメをつくり発表する技能、文献を読み、課題をつくり、自ら追究すること、本学が立地する地域について学修すること等、大学で必要となる勉強の方法について各先生とともに学びます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによる企画立案及びプレゼンテーションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。 - 1 読み解く力
- 2 書き表す力 - 1 他者を思う力

内容

各教室に分かれて、担任の先生方と相談しながら勉強を進めます。グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていきます。

週により、学科全員が集まって勉強したり、個別で勉強したりします。

1	オリエンテーション
---	-----------

2	学びのナビゲーター
3	新座を学ぶ
4	PCによる自己確立シートやメールの書き方など・教職課程履修カルテ記入
5	自分の力を知る - 測定（就職支援課による授業）
6	桐華祭の企画
7	アカデミック・ライティング
8	アカデミック・ライティング 【レポート（表現）】
9	情報収集（図書館ガイダンス）
10	自分の力を知る - 測定結果の解説（就職支援課による授業）
11	ボランティア・インターンシップ活動について【グループワーク】
12	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
13	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
14	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備えます。（各授業に対して45分）

【事後学修】ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組みます。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。 評価方法：口頭発表20%、平常点（授業参加度を含む）20%
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。 評価方法：ミニレポート30%
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。 評価方法：口頭発表10%、平常点（授業参加度を含む）20%

講義の内外で作成するミニレポート30%、口頭発表30%、平常点（授業参加度を含む）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】ミニレポートの内容について、次回以降の授業でシェアリングします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	塚田 昭一、細谷 忠司、設楽 優子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	FCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、教職に就くための心構えや学修方法などについて指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目における「学びの基盤をつくる」科目群に位置し、必修科目です。

科目の概要

この科目は高等学校の生徒から大学の学生へと円滑に移行するための必要な勉強を学科の先生方とともに学ぶために設定されました。特に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ一つの機会となります。これからどのように大学生生活を送ればよいのかということについて、少人数クラスで学びあうこととなります。大学生活では、大学で開講される講義や演習、実習等の科目を履修し、単位を修得することにより、社会人として必要となる知識や技能を身につけます。特に、本学では、「地域に貢献する」学生を育てることをねらいの一つとしています。そのためには、大学での勉強の仕方を身につけることが必要です。講義を聴きながら自ら疑問を持ち追究する態度、演習に参加し、レジュメをつくり発表する技能、文献を読み、課題をつくり、自ら追究すること、本学が立地する地域について学修すること等、大学で必要となる勉強の方法について各先生とともに学びます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによる企画立案及びプレゼンテーションを取り入れた授業を行います。**【グループワーク】【プレゼンテーション】**

到達目標

- 1・仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。
- 2・自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。
- 3・仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。 - 1 読み解く力
- 2 書き表す力 - 1 他者を思う力

内容

各教室に分かれて、担任の先生方と相談しながら勉強を進めます。グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていきます。

週により、学科全員が集まって勉強したり、個別で勉強したりします。

1	オリエンテーション
---	-----------

2	学びのナビゲーター
3	新座を学ぶ
4	PCによる自己確立シートやメールの書き方など・教職課程履修カルテ記入
5	自分の力を知る - 測定（就職支援課による授業）
6	桐華祭の企画
7	アカデミック・ライティング
8	アカデミック・ライティング 【レポート（表現）】
9	情報収集（図書館ガイダンス）
10	自分の力を知る - 測定結果の解説（就職支援課による授業）
11	ボランティア・インターンシップ活動について【グループワーク】
12	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
13	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
14	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備えます。（各授業に対して45分）

【事後学修】ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組みます。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。 評価方法：口頭発表20%、平常点（授業参加度を含む）20%
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。 評価方法：ミニレポート30%
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。 評価方法：口頭発表10%、平常点（授業参加度を含む）20%

講義の内外で作成するミニレポート30%、口頭発表30%、平常点（授業参加度を含む）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】ミニレポートの内容について、次回以降の授業でシェアリングします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	綾井 桜子、日出間 均		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	FDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、教職に就くための心構えや学修方法などについて指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目における「学びの基盤をつくる」科目群に位置し、必修科目です。

科目の概要

この科目は高等学校の生徒から大学の学生へと円滑に移行するための必要な勉強を学科の先生方とともに学ぶために設定されました。特に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ一つの機会となります。これからどのように大学生活を送ればよいのかということについて、少人数クラスで学びあうこととなります。大学生活では、大学で開講される講義や演習、実習等の科目を履修し、単位を修得することにより、社会人として必要となる知識や技能を身につけます。特に、本学では、「地域に貢献する」学生を育てることをねらいの一つとしています。そのためには、大学での勉強の仕方を身につけることが必要です。講義を聴きながら自ら疑問を持ち追究する態度、演習に参加し、レジュメをつくり発表する技能、文献を読み、課題をつくり、自ら追究すること、本学が立地する地域について学修すること等、大学で必要となる勉強の方法について各先生とともに学びます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによる企画立案及びプレゼンテーションを取り入れた授業を行います。**【グループワーク】【プレゼンテーション】**

到達目標

- 1・仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。
- 2・自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。
- 3・仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。 - 1 読み解く力
- 2 書き表す力 - 1 他者を思う力

内容

各教室に分かれて、担任の先生方と相談しながら勉強を進めます。グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていきます。

週により、学科全員が集まって勉強したり、個別で勉強したりします。

1	オリエンテーション
---	-----------

2	学びのナビゲーター
3	新座を学ぶ
4	PCによる自己確立シートやメールの書き方など・教職課程履修カルテ記入
5	自分の力を知る - 測定（就職支援課による授業）
6	桐華祭の企画
7	アカデミック・ライティング
8	アカデミック・ライティング 【レポート（表現）】
9	情報収集（図書館ガイダンス）
10	自分の力を知る - 測定結果の解説（就職支援課による授業）
11	ボランティア・インターンシップ活動について【グループワーク】
12	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
13	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
14	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備えます。（各授業に対して45分）

【事後学修】ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組みます。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。 評価方法：口頭発表20%、平常点（授業参加度を含む）20%
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。 評価方法：ミニレポート30%
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。 評価方法：口頭発表10%、平常点（授業参加度を含む）20%

講義の内外で作成するミニレポート30%、口頭発表30%、平常点（授業参加度を含む）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】ミニレポートの内容について、次回以降の授業でシェアリングします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	山本 悟、三藤 あさみ		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	FEクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、教職に就くための心構えや学修方法などについて指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目における「学びの基盤をつくる」科目群に位置し、必修科目です。

科目の概要

この科目は高等学校の生徒から大学の学生へと円滑に移行するための必要な勉強を学科の先生方とともに学ぶために設定されました。特に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ一つの機会となります。これからどのように大学生活を送ればよいのかということについて、少人数クラスで学びあうこととなります。大学生活では、大学で開講される講義や演習、実習等の科目を履修し、単位を修得することにより、社会人として必要となる知識や技能を身につけます。特に、本学では、「地域に貢献する」学生を育てることをねらいの一つとしています。そのためには、大学での勉強の仕方を身につけることが必要です。講義を聴きながら自ら疑問を持ち追究する態度、演習に参加し、レジュメをつくり発表する技能、文献を読み、課題をつくり、自ら追究すること、本学が立地する地域について学修すること等、大学で必要となる勉強の方法について各先生とともに学びます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによる企画立案及びプレゼンテーションを取り入れた授業を行います。**【グループワーク】【プレゼンテーション】**

到達目標

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。 - 1 読み解く力
- 2 書き表す力 - 1 他者を思う力

内容

各教室に分かれて、担任の先生方と相談しながら勉強を進めます。グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていきます。

週により、学科全員が集まって勉強したり、個別で勉強したりします。

1	オリエンテーション
---	-----------

2	学びのナビゲーター
3	新座を学ぶ
4	PCによる自己確立シートやメールの書き方など・教職課程履修カルテ記入
5	自分の力を知る - 測定（就職支援課による授業）
6	桐華祭の企画
7	アカデミック・ライティング
8	アカデミック・ライティング 【レポート（表現）】
9	情報収集（図書館ガイダンス）
10	自分の力を知る - 測定結果の解説（就職支援課による授業）
11	ボランティア・インターンシップ活動について【グループワーク】
12	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
13	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
14	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備えます。（各授業に対して45分）

【事後学修】ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組みます。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。 評価方法：口頭発表20%、平常点（授業参加度を含む）20%
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。 評価方法：ミニレポート30%
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。 評価方法：口頭発表10%、平常点（授業参加度を含む）20%

講義の内外で作成するミニレポート30%、口頭発表30%、平常点（授業参加度を含む）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】ミニレポートの内容について、次回以降の授業でシェアリングします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	狩野 浩二、羽田 邦弘、向後 朋美		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	FFクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、教職に就くための心構えや学修方法などについて指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目における「学びの基盤をつくる」科目群に位置し、必修科目です。

科目の概要

この科目は高等学校の生徒から大学の学生へと円滑に移行するための必要な勉強を学科の先生方とともに学ぶために設定されました。特に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ一つの機会となります。これからどのように大学生活を送ればよいのかということについて、少人数クラスで学びあうこととなります。大学生活では、大学で開講される講義や演習、実習等の科目を履修し、単位を修得することにより、社会人として必要となる知識や技能を身につけます。特に、本学では、「地域に貢献する」学生を育てることをねらいの一つとしています。そのためには、大学での勉強の仕方を身につけることが必要です。講義を聴きながら自ら疑問を持ち追究する態度、演習に参加し、レジュメをつくり発表する技能、文献を読み、課題をつくり、自ら追究すること、本学が立地する地域について学修すること等、大学で必要となる勉強の方法について各先生とともに学びます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによる企画立案及びプレゼンテーションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。 - 1 読み解く力
- 2 書き表す力 - 1 他者を思う力

内容

各教室に分かれて、担任の先生方と相談しながら勉強を進めます。グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていきます。

週により、学科全員が集まって勉強したり、個別で勉強したりします。

1	オリエンテーション
---	-----------

2	学びのナビゲーター
3	新座を学ぶ
4	PCによる自己確立シートやメールの書き方など・教職課程履修カルテ記入
5	自分の力を知る - 測定（就職支援課による授業）
6	桐華祭の企画
7	アカデミック・ライティング
8	アカデミック・ライティング 【レポート（表現）】
9	情報収集（図書館ガイダンス）
10	自分の力を知る - 測定結果の解説（就職支援課による授業）
11	ボランティア・インターンシップ活動について【グループワーク】
12	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
13	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
14	ワークショップ グループディスカッション【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備えます。（各授業に対して45分）

【事後学修】ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組みます。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

1. 仲間とともに大学生活や地域社会について主体的に学び、その基礎的な知識や技能を基に、グループで意見交換を重ねながら企画立案ができる。 評価方法：口頭発表20%、平常点（授業参加度を含む）20%
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画を立て、具体的な活動内容や学修方法を記述できる。 評価方法：ミニレポート30%
3. 仲間と協力して課題を創造し、ともに追究し、自分の考えを表現できる。 評価方法：口頭発表10%、平常点（授業参加度を含む）20%

講義の内外で作成するミニレポート30%、口頭発表30%、平常点（授業参加度を含む）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】ミニレポートの内容について、次回以降の授業でシェアリングします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	DAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「学びの基盤をつくる」科目群に位置する1年生前期の必修科目である。ガイダンス教育の一環として位置づけられている。

科目の概要

大学では学業生活がより豊かなものになることを目指して、大学4年間で習得するアカデミックスキル、他者との関係の構築、自己実現するために必要なソーシャルスキルの基礎を身につける。学生は、様々な内容の授業を通して主体的な演習活動を行い、学びの視野を広げる。

授業の方法

ペアワークやグループワークなどの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果を発表して互いに学びあう授業方法を中心に実施する。【グループワーク】【レポート】【PBL】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 大学で主体的に学ぶことを理解する。
2. 大学生活に必要な基本的スキルを習得し、実行することができる
3. 自らの将来設計に向けて学習計画を立てることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う

内容

- 1 学生としてのライフスタイルの確立及び学習目標を獲得

大学、学部、学科、コースを理解する

大学組織の活用法を理解する

自分の個性・特徴を理解する

学習・生活の計画を立てる

- 2 情報の収集・整理・理解

ノートテキング、文書読解練習、大学図書館の利用方法、インターネットの活用などについて 学ぶ

3 情報の検討・分析・発信

意見（主張）の出し合いと繰り上げ、討論・議論の練習、レポート作成その発表等を行う。

4 グループワーク

協働で問題解決と体験学習を踏まえ、福祉を学ぶものとしての自覚と他者理解を深めるとともに、各自の目的意識を明確化する

5 地域貢献の方法

居住地の福祉の現状について学び、ボランティア等地域への活動に取り組めるようにする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 事前に示された課題について準備する(各授業につき60分)

【事後学修】 課題の自己学習と提出により学習内容を振り返り、身につける。(各授業につき60分)

評価方法および評価の基準

課題提出(60%) 授業への取り組み(40%)で評価し、

60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 2 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 3 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(10%/40%)

【フィードバック】 授業時やレポート発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 世界思想社編集部編集「大学生 学びのハンドブック【4訂版】世界思想社 2018年

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	DBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「学びの基盤をつくる」科目群に位置する1年生前期の必修科目である。ガイダンス教育の一環として位置づけられている。

科目の概要

大学では学業生活がより豊かなものになることを目指して、大学4年間で習得するアカデミックスキル、他者との関係の構築、自己実現するために必要なソーシャルスキルの基礎を身につける。学生は、様々な内容の授業を通して主体的な演習活動を行い、学びの視野を広げる。

授業の方法

ペアワークやグループワークなどの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果を発表して互いに学びあう授業方法を中心に実施する。【グループワーク】【レポート】【PBL】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 大学で主体的に学ぶことを理解する。
2. 大学生活に必要な基本的スキルを習得し、実行することができる
3. 自らの将来設計に向けて学習計画を立てることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う

内容

1 学生としてのライフスタイルの確立及び学習目標を獲得

大学、学部、学科、コースを理解する

大学組織の活用法を理解する

自分の個性・特徴を理解する

学習・生活の計画を立てる

2 情報の収集・整理・理解

ノートテキング、文書読解練習、大学図書館の利用方法、インターネットの活用などについて 学ぶ

3 情報の検討・分析・発信

意見（主張）の出し合いと繰り上げ、討論・議論の練習、レポート作成その発表等を行う。

4 グループワーク

協働で問題解決と体験学習を踏まえ、福祉を学ぶものとしての自覚と他者理解を深めるとともに、各自の目的意識を明確化する

5 地域貢献の方法

居住地の福祉の現状について学び、ボランティア等地域への活動に取り組めるようにする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 事前に示された課題について準備する(各授業につき60分)

【事後学修】 課題の自己学習と提出により学習内容を振り返り、身につける。(各授業につき60分)

評価方法および評価の基準

課題提出(60%) 授業への取り組み(40%)で評価し、

60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 2 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 3 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(10%/40%)

【フィードバック】 授業時やレポート発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 世界思想社編集部編集「大学生 学びのハンドブック【4訂版】世界思想社 2018年

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	DCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「学びの基盤をつくる」科目群に位置する1年生前期の必修科目である。ガイダンス教育の一環として位置づけられている。

科目の概要

大学では学業生活がより豊かなものになることを目指して、大学4年間で習得するアカデミックスキル、他者との関係の構築、自己実現するために必要なソーシャルスキルの基礎を身につける。学生は、様々な内容の授業を通して主体的な演習活動を行い、学びの視野を広げる。

授業の方法

ペアワークやグループワークなどの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果を発表して互いに学びあう授業方法を中心に実施する。【グループワーク】【レポート】【PBL】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 大学で主体的に学ぶことを理解する。
2. 大学生活に必要な基本的スキルを習得し、実行することができる
3. 自らの将来設計に向けて学習計画を立てることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う

内容

1 学生としてのライフスタイルの確立及び学習目標を獲得

大学、学部、学科、コースを理解する

大学組織の活用法を理解する

自分の個性・特徴を理解する

学習・生活の計画を立てる

2 情報の収集・整理・理解

ノートテキング、文書読解練習、大学図書館の利用方法、インターネットの活用などについて 学ぶ

3 情報の検討・分析・発信

意見（主張）の出し合いと繰り上げ、討論・議論の練習、レポート作成その発表等を行う。

4 グループワーク

協働で問題解決と体験学習を踏まえ、福祉を学ぶものとしての自覚と他者理解を深めるとともに、各自の目的意識を明確化する

5 地域貢献の方法

居住地の福祉の現状について学び、ボランティア等地域への活動に取り組めるようにする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 事前に示された課題について準備する(各授業につき60分)

【事後学修】 課題の自己学習と提出により学習内容を振り返り、身につける。(各授業につき60分)

評価方法および評価の基準

課題提出(60%) 授業への取り組み(40%)で評価し、

60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 2 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 3 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(10%/40%)

【フィードバック】 授業時やレポート発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 世界思想社編集部編集「大学生 学びのハンドブック【4訂版】世界思想社 2018年

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	DDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「学びの基盤をつくる」科目群に位置する1年生前期の必修科目である。ガイダンス教育の一環として位置づけられている。

科目の概要

大学では学業生活がより豊かなものになることを目指して、大学4年間で習得するアカデミックスキル、他者との関係の構築、自己実現するために必要なソーシャルスキルの基礎を身につける。学生は、様々な内容の授業を通して主体的な演習活動を行い、学びの視野を広げる。

授業の方法

ペアワークやグループワークなどの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果を発表して互いに学びあう授業方法を中心に実施する。【グループワーク】【レポート】【PBL】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 大学で主体的に学ぶことを理解する。
2. 大学生活に必要な基本的スキルを習得し、実行することができる
3. 自らの将来設計に向けて学習計画を立てることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う

内容

1 学生としてのライフスタイルの確立及び学習目標を獲得

大学、学部、学科、コースを理解する

大学組織の活用法を理解する

自分の個性・特徴を理解する

学習・生活の計画を立てる

2 情報の収集・整理・理解

ノートテキング、文書読解練習、大学図書館の利用方法、インターネットの活用などについて 学ぶ

3 情報の検討・分析・発信

意見（主張）の出し合いと繰り上げ、討論・議論の練習、レポート作成その発表等を行う。

4 グループワーク

協働で問題解決と体験学習を踏まえ、福祉を学ぶものとしての自覚と他者理解を深めるとともに、各自の目的意識を明確化する

5 地域貢献の方法

居住地の福祉の現状について学び、ボランティア等地域への活動に取り組めるようにする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 事前に示された課題について準備する(各授業につき60分)

【事後学修】 課題の自己学習と提出により学習内容を振り返り、身につける。(各授業につき60分)

評価方法および評価の基準

課題提出(60%) 授業への取り組み(40%)で評価し、

60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 2 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 3 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(10%/40%)

【フィードバック】 授業時やレポート発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 世界思想社編集部編集「大学生 学びのハンドブック【4訂版】世界思想社 2018年

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	DEクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「学びの基盤をつくる」科目群に位置する1年生前期の必修科目である。ガイダンス教育の一環として位置づけられている。

科目の概要

大学では学業生活がより豊かなものになることを目指して、大学4年間で習得するアカデミックスキル、他者との関係の構築、自己実現するために必要なソーシャルスキルの基礎を身につける。学生は、様々な内容の授業を通して主体的な演習活動を行い、学びの視野を広げる。

授業の方法

ペアワークやグループワークなどの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果を発表して互いに学びあう授業方法を中心に実施する。【グループワーク】【レポート】【PBL】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 大学で主体的に学ぶことを理解する。
2. 大学生活に必要な基本的スキルを習得し、実行することができる
3. 自らの将来設計に向けて学習計画を立てることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う

内容

1 学生としてのライフスタイルの確立及び学習目標を獲得

大学、学部、学科、コースを理解する

大学組織の活用法を理解する

自分の個性・特徴を理解する

学習・生活の計画を立てる

2 情報の収集・整理・理解

ノートテキング、文書読解練習、大学図書館の利用方法、インターネットの活用などについて 学ぶ

3 情報の検討・分析・発信

意見（主張）の出し合いと繰り上げ、討論・議論の練習、レポート作成その発表等を行う。

4 グループワーク

協働で問題解決と体験学習を踏まえ、福祉を学ぶものとしての自覚と他者理解を深めるとともに、各自の目的意識を明確化する

5 地域貢献の方法

居住地の福祉の現状について学び、ボランティア等地域への活動に取り組めるようにする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 事前に示された課題について準備する(各授業につき60分)

【事後学修】 課題の自己学習と提出により学習内容を振り返り、身につける。(各授業につき60分)

評価方法および評価の基準

課題提出(60%) 授業への取り組み(40%)で評価し、

60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 2 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 3 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(10%/40%)

【フィードバック】 授業時やレポート発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 世界思想社編集部編集「大学生 学びのハンドブック【4訂版】世界思想社 2018年

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	ECクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・学生生活や授業のオリエンテーション
- ・免許資格取得のガイダンス
- ・e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・図書館ガイダンス
- ・健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EEクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・学生生活や授業のオリエンテーション
- ・免許資格取得のガイダンス
- ・e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・図書館ガイダンス
- ・健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EFクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） -入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EHクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なもの見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EJクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EKクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	ELクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	金 允貞		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EMクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） -入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	ENクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EPクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	桶田 ゆかり		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EQクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	ERクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	渡邊 孝枝		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） -入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	ESクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	曾野 麻紀		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	ETクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EUクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」(communicable intelligence)の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義(履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等)、上級学年との交流会、グループワーク(課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成)など、多様な形態の学習(アクティブラーニング)をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	近藤 有紀子		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EZクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法(ALを含む)

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・学生生活や授業のオリエンテーション
- ・免許資格取得のガイダンス
- ・e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・図書館ガイダンス
- ・健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目（N/E/S） - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EGクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

幼児教育学科には、多様な実務経験をもつ教員も多数いるが、初年次教育に位置づけられるこの授業との関連性は薄い。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「ゼミナール」に位置づけられている卒業必修科目である。

この科目では、大学における学びの土台となる力を培うこと、学びの基本的姿勢を確立することを、全体講義および仲間とのグループ活動を通して追求していく。幼児教育学科が、保育者を志向する学生の皆さんに求める「学びの基本的姿勢」とは、「感じて考えて行動する」ことであり、共感性、自律性および実践力の涵養を図る。更に、保育者の知のあり方とされる「仲間とのコミュニケーションの中で発揮される知性」（communicable intelligence）の獲得を目指す。

科目の概要

全体講義では、1年生が大学生活を送る上でおさえておかなければならない必要な事柄について、全体講義による指導や連絡を行う。

グループ活動では、初めて出会う仲間という「異」なるものとの交流と相互理解を図りながら、グループごとに「異との出会い」に関するテーマを設定し、具体的な交流活動の計画を作成し、実践する。グループ活動を通して、差異性とともに関通性も認識できるような、多面的なものを見方ができるようにする。

学科専任教員全員が担当し、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマに沿って活動する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、全体講義（履修、教職カルテ、図書館ガイダンス、礼法講座等）、上級学年との交流会、グループワーク（課題設定、ディスカッション、調査、プレゼンテーションやレポートの作成）など、多様な形態の学習（アクティブラーニング）をすすめる。1年生の皆さんの主体的で能動的な参加を望む。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 保育者養成を主たる目的とする幼児教育学科の教育理念、教育方法、教育課程を理解して、自分自身が目指す保育者像と4年間の学習プランを設定し、それを説明することができる。
2. 「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとしてグループでの取り組み課題を決め、具体的な活動計画を作成して、仲間と協力して実行することができる。
3. 学生として社会や他者と交流する上で必要な知識、技能、態度を習得し、それを活用して行動することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う力

内容

第1～3回 全体授業：1年担任が中心となり学科教員全員で担当する

- ・ 学生生活や授業のオリエンテーション
- ・ 免許資格取得のガイダンス
- ・ e-ポートフォリオ&教職カルテの説明
- ・ グループ活動のためのグループ決め、教員との顔合わせ など

第4回 幼児教育学科新入生歓迎会（2年、4年、学科全教員）【実技】【グループワーク】

第5～7回 全体授業：各部署の担当職員と1年担任が担当する 【レポート（知識）】

- ・ 図書館ガイダンス
- ・ 健康管理センターによる講義とガイダンス
- ・ prog など

第8回 グループ担当の教員との教職カルテの面談（学科教員全員）

第9・10回 全体授業：外部講師と学科担当教員が担当する 【実技】

- ・ 礼法儀礼講座

第11～15回 グループ別活動：学科教員全員がグループを担当して活動する

- ・ グループ活動の計画、実践、発表、まとめなど

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。前回の学習内容を想起し、ゼミナールに備える。指定された内容について、文献を読んだり、インターネットなどを活用して調べたりする。必要事項を入力/記入したものを授業に持参する。

【事後学修】1時間程度。ゼミナールで学習した内容を整理し、ノートにまとめる。ゼミナールで指示された課外学修課題に取り組む。

評価方法および評価の基準

演習形式のグループ活動への参加状況(60%)や、グループでの調査研究活動についてのレポート内容や発表(40%)を総合して評価する。

到達目標1 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(20%/40%)

到達目標2,3 活動参加状況(20%/60%) レポート内容・発表(10%/40%)

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。授業資料は、事前にライブキャンパスにあげるのので、各自が印刷して持参する。加えて、授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教職カルテの面談は必須事項なので、欠席した場合には、別日を設けて実施する。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	岩本 珠美、大倉 哲也、中岡 加奈絵、山崎 優子 他		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	BAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有/無

実務経験および科目との関連性

本学科には、医師や管理栄養士の実務経験を持つ教員がいる。初年次教育に位置づけられるこの授業で、医療従事者や管理栄養士の役割にふれる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は共通科目の必修科目である。生徒から大学の学生へと円滑に移行するために、学生自らが主体的かつ自律的に生活のための基本姿勢や、大学生活をより豊かにするための学業について学修する。新入生と学科教員がコミュニケーションを図りながら、主体的な活動を通して、基本的な学習技法・技能および社会における管理栄養士の役割に触れ、自らの目標設定をより具体化させることに結びつける。

科目の概要

大学生活では、大学で開講される講義や演習、実習などの科目を履修し、単位を修得することにより、社会人として必要となる知識や技能を身につけることが必要である。講義を聴きながら自ら疑問を持ち追及する態度、基本的な学習技法・技能(テキストの読み方・ノートの取り方、まとめ方、レポート作成、文献調査等)大学で必要となる勉強の方法について、主体的な活動を通して学ぶ。

授業の方法

本科目では、全体講義のほか、グループワークでの学びあい、教員との交流会、などを展開する。

【講義】、【グループワーク】、【ディスカッション】、【レポート】、【リアクションペーパー】

到達目標

1. 大学の学びの基本姿勢である主体的かつ自律的な態度を身につけ、実行することができる。
2. 自らの将来設計に基づき、学修計画をたてることができる。
3. 仲間と協力して、課題を創造し、ともに学び合い追及し合う態度を身につけることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関連

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力 - 2 書き表す力 - 1 他者を思う力

内容

1	自己紹介、仲間とのコミュニケーションを図る【グループワーク、ディスカッション】
2	大学・学部・学科の特徴 食物栄養学科で取得できる資格【講義】
3	大学組織の活用法【講義】
4	4年間のカリキュラムの組み立て【講義】
5	学び合い（化学）【グループワーク・ディスカッション】
6	管理栄養士養成課程に必要な化学の基本【講義】
7	大学授業への受講技能（ノートの取り方、まとめ方、試験勉強、レポート作成など）【講義】
8	女子学生への健康アドバイス【講義・リアクションペーパー】
9	図書・情報センター 図書館（図書館本館・図書館分室）の紹介と活用法【講義・レポート】
10	社会人基礎力（PROG）テストの実施
11	社会人基礎力（PROG）テストの評価と解説
12	社会における管理栄養士の役割を学ぶ【講義、リアクションペーパー】
13	食・栄養・健康の地域活動【講義、リアクションペーパー】
14	自己確立へ向けて目標設定：eポートフォリオ【グループワーク、リアクションペーパー】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】配布される資料やシラバスを読んでおく（各授業に対して60分）

【事後学修】内容についてまとめる（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

到達目標1～3について、

授業への取り組み（50点）と課題に対するレポート（50点）とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】課題には、教員がコメントし、次週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて授業内で連絡する。

【推薦書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

大学生活でわからないことを解決し、情報を共有してコミュニケーションを図り、大学生活を充実させましょう。

科目名	入門ゼミナール		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	NEa0001		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	DFクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の「学びの基盤をつくる」科目群に位置する1年生前期の必修科目である。ガイダンス教育の一環として位置づけられている。

科目の概要

大学では学業生活がより豊かなものになることを目指して、大学4年間で習得するアカデミックスキル、他者との関係の構築、自己実現するために必要なソーシャルスキルの基礎を身につける。学生は、様々な内容の授業を通して主体的な演習活動を行い、学びの視野を広げる。

授業の方法

ペアワークやグループワークなどの形式で学生同士が協力して課題に取り組み、学習成果を発表して互いに学びあう授業方法を中心に実施する。【グループワーク】【レポート】【PBL】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 大学で主体的に学ぶことを理解する。
2. 大学生活に必要な基本的スキルを習得し、実行することができる
3. 自らの将来設計に向けて学習計画を立てることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 1 他者を思う

内容

- 1 学生としてのライフスタイルの確立及び学習目標を獲得

大学、学部、学科、コースを理解する

大学組織の活用法を理解する

自分の個性・特徴を理解する

学習・生活の計画を立てる

- 2 情報の収集・整理・理解

ノートテキング、文書読解練習、大学図書館の利用方法、インターネットの活用などについて 学ぶ

3 情報の検討・分析・発信

意見（主張）の出し合いと繰り上げ、討論・議論の練習、レポート作成その発表等を行う。

4 グループワーク

協働で問題解決と体験学習を踏まえ、福祉を学ぶものとしての自覚と他者理解を深めるとともに、各自の目的意識を明確化する

5 地域貢献の方法

居住地の福祉の現状について学び、ボランティア等地域への活動に取り組めるようにする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 事前に示された課題について準備する(各授業につき60分)

【事後学修】 課題の自己学習と提出により学習内容を振り返り、身につける。(各授業につき60分)

評価方法および評価の基準

課題提出(60%) 授業への取り組み(40%)で評価し、

60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 2 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(15%/40%)

到達目標 3 課題提出(20%/60%)授業への取り組み(10%/40%)

【フィードバック】 授業時やレポート発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 世界思想社編集部編集「大学生 学びのハンドブック【4訂版】世界思想社 2018年

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語コミュニケーション応用		
担当教員名	向後 朋美、竹之内 修		
ナンバリング	NEh3037		
学 科	共通科目 (N/E/S) -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

全学共通科目「外国語目的別科目」領域の科目で、社会情報デザイン学部の必修、その他の学部の選択科目である。

科目の概要

本科目では、「コミュニケーション演習」で身につけた英語運用能力を用いて会話を継続し、発展させる練習を行う。特にリスニングとスピーキングに主体を置き、コミュニケーション能力を磨く。学期末には、プレゼンテーションを通して、聞き手が理解しやすい言葉で自分の意見を発表する機会も設ける。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、日本語は使用せず、英語のみでコミュニケーション型に学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

このコースで扱うトピックはアドバイス、道案内、過去・将来の出来事、規則などで、主に以下の内容を到達目標とする。

- (1)日常生活で必要となる会話をセンテンスレベルで続けられる
- (2)英語らしい発音・アクセント・イントネーションをセンテンスレベルで音声化することができる
- (3)基礎的なプレゼンテーション技術を復習し、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 言語運用能力 -4 コミュニケーション能力

内容

英語によるコミュニケーション能力の向上に主眼を置き、高校までに習得した英語力を実際のコミュニケーションに生かす訓練を行う。ビジネスの場で役立つ英語を念頭におきつつ、ペアワークやグループワークによるコミュニケーション活動を行う。この活動を通して、学んだ言語を繰り返し使うことによりその定着を図る。

1	久しぶりに人と会う際の挨拶、相手の話に反応する、意見を述べる/交換する 【実技】【グループワーク】
---	--

2	ファッションについて話す 【実技】【グループワーク】
3	健康に関する語彙、生活習慣についてアドバイスを与える 【実技】【グループワーク】
4	建物に関する語彙、建物の場所を描写する、道順を教える 【実技】【グループワーク】
5	未来を表す表現 【実技】【グループワーク】
6	過去の休暇について話す/尋ねる 【実技】【グループワーク】
7	自然や動物について話す 【実技】【グループワーク】
8	能力や技術に関する語彙、自分の得意・不得意を描写する、能力について話す 【実技】【グループワーク】
9	趣味や希望に関する語彙、好みの程度によって異なる表現を学ぶ、好き嫌いについて話す 【実技】【グループワーク】
10	禁止や許可に関する語彙、規則について話す、自分の家の決まりごとを描写する 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	短いストーリーを聞いて理解する、順を追ってストーリーを語る 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	冬期休暇について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】 授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

(1)英語運用能力(15%/30%) プレゼンテーション((1)と(2)合わせて5%/10%) 参加態度(25%/60%)

(2)英語運用能力(10%/30%) プレゼンテーション((1)と(2)合わせて5%/10%) 参加態度(25%/60%)

(3)英語運用能力(5%/30%) プレゼンテーション(5%/10%) 参加態度(10%/60%)

【フィードバック】 会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand

Success 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130210)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	英語コミュニケーション応用		
担当教員名			
ナンバリング	NEh3037		
学 科	共通科目（N/E/S） -外国語目的別科目		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「外国語目的別科目」領域の科目で、社会情報デザイン学部の必修、その他の学部の選択科目である。

科目の概要

本科目では、「コミュニケーション演習」で身につけた英語運用能力を用いて会話を継続し、発展させる練習を行う。特にリスニングとスピーキングに主体を置き、コミュニケーション能力を磨く。学期末には、プレゼンテーションを通して、聞き手が理解しやすい言葉で自分の意見を発表する機会も設ける。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、日本語は使用せず、英語のみでコミュニケーション型に学生参加型の授業を行う。

【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【PBL】

到達目標

このコースで扱うトピックはアドバイス、道案内、過去・将来の出来事、規則などで、主に以下の内容を到達目標とする。

- (1)日常生活で必要となる会話をセンテンスレベルで続けられる
- (2)英語らしい発音・アクセント・イントネーションをセンテンスレベルで音声化することができる
- (3)基礎的なプレゼンテーション技術を復習し、人前で自信をもって話すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 言語運用能力 -4 コミュニケーション能力

内容

英語によるコミュニケーション能力の向上に主眼を置き、高校までに習得した英語力を実際のコミュニケーションに生かす訓練を行う。ビジネスの場で役立つ英語を念頭におきつつ、ペアワークやグループワークによるコミュニケーション活動を行う。この活動を通して、学んだ言語を繰り返し使うことによりその定着を図る。

1	久しぶりに人と会う際の挨拶、相手の話に反応する、意見を述べる/交換する 【実技】【グループワーク】
---	--

2	ファッションについて話す 【実技】【グループワーク】
3	健康に関する語彙、生活習慣についてアドバイスを与える 【実技】【グループワーク】
4	建物に関する語彙、建物の場所を描写する、道順を教える 【実技】【グループワーク】
5	未来を表す表現 【実技】【グループワーク】
6	過去の休暇について話す/尋ねる 【実技】【グループワーク】
7	自然や動物について話す 【実技】【グループワーク】
8	能力や技術に関する語彙、自分の得意・不得意を描写する、能力について話す 【実技】【グループワーク】
9	趣味や希望に関する語彙、好みの程度によって異なる表現を学ぶ、好き嫌いについて話す 【実技】【グループワーク】
10	禁止や許可に関する語彙、規則について話す、自分の家の決まりごとを描写する 【実技】【グループワーク】
11	プレゼンテーション準備 【PBL】
12	短いストーリーを聞いて理解する、順を追ってストーリーを語る 【実技】【グループワーク】
13	プレゼンテーション練習、本番 【実技】【PBL】【プレゼンテーション】
14	冬期休暇について話す 【実技】【グループワーク】
15	復習 【実技】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 授業内で課された宿題を実施して授業に臨むこと（30分～1時間程度）

【事後学修】 授業内で学んだ英語表現を毎回ノートに記録して繰り返し復習すること（30分～1時間程度）

評価方法および評価の基準

英語運用能力（30%）、プレゼンテーション（10%）、授業への参加態度（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各項目は以下の評価基準に基づいて評価される。

- ・英語運用能力...理解力・発音・文法の正確さ・流暢さなどの総合的オーラルコミュニケーション能力
- ・プレゼンテーション...文章の構成力や内容・発表態度等
- ・授業への参加態度...クラス内活動への自主的参加度・日本語に頼らず英語を積極的に使う態度・与えられたタスクや宿題への積極的取り組み等

(1)英語運用能力(15%/30%) プレゼンテーション((1)と(2)合わせて5%/10%) 参加態度(25%/60%)

(2)英語運用能力(10%/30%) プレゼンテーション((1)と(2)合わせて5%/10%) 参加態度(25%/60%)

(3)英語運用能力(5%/30%) プレゼンテーション(5%/10%) 参加態度(10%/60%)

【フィードバック】 会話演習、質問を書かせる、ミニレポートなどのクラスルームアクティビティにおいて、講師が授業内で適宜コメントを与える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Helgesen, Brown, and Wiltshier, English Firsthand

Success 5th Edition, Pearson, 2017. (ISBN: 9789813130210)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業の前後とEnglish Challengeの時間帯に質問を受け付ける。授業についていけないと感じる場合や、宿題・課題の実施に困難を感じる場合は遠慮なく申し出ること。以下のような簡単な英文で話しかけて欲しい。

"I don't understand this question / word. Can you help

me?" "Can you help me with this homework / exercise / presentation draft?"

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	NEh3038		
学 科	共通科目（N/E/S） -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語目的別科目枠の選択科目である。

科目の概要

英語の自然な発話にみられる音変化を習得したのち、文化的背景・社会常識・英語で行う英語の授業に関連する素材を使って英語のリスニングの力を高める。

前半では、英語の自然な発話にみられる音変化について説明をしたのち、予習で課した音声のリスニング・ディクテーションの確認を行う。後半では、映像付きの英語を聞き、重要なポイントを逃さず聴きとれる練習をグループワークにて行う。部分的なディクテーションも行う。毎回の授業の初めには前回の単語や音声の復習テストを行う。音声は授業用フォルダ上に保存するので、予習・復習時に使用すること。【ミニテスト】【グループワーク】

到達目標

- (1)音変化を含んだリスニング素材を聞き取り、ディクテーションができる。
- (2)映像付きの英語の自然な発話を聞き取りを行い、目的に応じて情報や考えなどを理解し、重要な点をメモやノートにとることができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 言語運用能力

内容

- (1) 毎週かなりの課題が出るので、事前事後学修が重要である。
- (2) 毎週の課題の中にわからない単語がある場合は、必ず辞書を引いて予習しておくこと。
- (3) 最終回には指定箇所の音声吹込みを行う。

第1回：導入：英語のリスニングに必要な力とは

第2回：機能語と内容語

第3回：短縮形

第4回：変化する音

第5回：聞こえなくなる音

第6回：つながって聞こえる音・やわらかくなる音

第7回：注意すべきイントネーション

第8回：音変化のまとめ

第9回：映像付き英語のリスニング 場面1

第10回：映像付き英語のリスニング 場面2

第11回：映像付き英語のリスニング 場面3

第12回：映像付き英語のリスニング 場面4

第13回：映像付き英語のリスニング 場面5

第14回：映像付き英語のリスニング 場面6

第15回：まとめ（指定箇所の吹込み）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎週、指定された箇所のリスニングに取り組み、分からない単語は調べておくこと。最低30分。

【事後学修】授業で取り組んだポイントの箇所をディクテーションできるようにすること。最低30分。

評価方法および評価の基準

期末テスト(筆記・音読)(70%)、授業への取り組み(小テスト・予習・課題・参加態度)の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

(1)期末テスト(筆記・音読)(30%/70%)、授業への取り組み(10%/30%)

(2)期末テスト(筆記・音読)(40%/70%)、授業への取り組み(20%/30%)

【フィードバック】復習の小テストは翌週に返却します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】なし

授業内でハンドアウトを配布する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEh3038		
学 科	共通科目（N/E/S） -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

科目の概要

自然な英語音声には、音変化が起こる以前の発音はほぼ存在しない。これをききとるには、自分でもそのように発音していることが一番の近道であり、英語で教えたり仕事をしたりするときにも便利である。

毎回の授業では、音変化の説明と例示にひきつづいて、その現象がみられる語句のディクテーションを行い、すぐに一般的なリスニング形式の問題演習を行う。また、情景描写に使われる、空間位置関係を表す英語の例に多数触れ、発話につながるリスニング力を養う。

授業の方法（ALを含む）

音変化現象・情景描写表現の両方について、授業の中でミニテストを行い、

直ちに答え合わせとペア・グループワークをして疑問点の解決を図る。

その記録をリアクションペーパーにとり、次回の授業でコメントを返し、

音声学に関しても描写表現に関しても、次のレッスンへのフィードバックとする。

複数回、自分で用意した写真を英語で描写してマイクを回してプレゼンテーションを行う。

【ミニテスト】【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】

到達目標

(1)英語リスニング教材に近い発音ができる

(2)情景を描写している英語の、ききとり・発話の両方ができる

(1)の近さの程度は各自の判断でよいが、ペア・グループの批評に耐えるようにする

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの次の能力の育成を目的とする。

-1 読み解く力 -3 言語運用能力 -4 コミュニケーション能力

内容

初回を含めて毎回、2つの教科書の両方を使う。

1. ガイダンス (英語の子音連続、情景描写の基礎)
2. 短縮 (be動詞, would, hadの弱形)
3. 短縮 (will, have, hasの弱形)
4. 短縮 (...+not)
5. 同化 (-t/d + you(r))
6. 同化 (-他の子音 + you(r))
7. wanna, gonna
8. gotta, gimme, lemme
9. 機能語の弱形(人称代名詞等・hの脱落)
10. 機能語の弱形(接続詞, 関係詞等)
11. 弱母音・子音の脱落
12. 子音の省略的発音 (子音の前・語末)
13. つながる音 (語境界をはさんだ子音+母音)
14. 音声的熟語
15. まとめ・有声のt・半母音の脱落

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

- 1の教科書の各回に指定されたunitを全問解き、例文をスラスラ読めるまで発音する。(60分程度)
- 2の教科書に関連する課題が事前に出されているときは、写真を調達・撮影し、英作文を行う。(平均20分)

【事後学修】

- 情景描写の原稿が返却されているときは、その原稿の発音等を辞書や教科書で確認し、暗唱する。(平均15分)

評価方法および評価の基準

教科書1の事前解答の記録を30%、写真情景描写英文の原稿を20%(原稿提出各回を同等に評価)、口頭発表を20%(録音・発表の各回を同等に評価)、まとめの成果を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーには、2つの教科書の問題の一部も含め、グループの講評も簡単に記録できるようにし、写真情景描写作文の1文も書いてもらう。講義・グループワークから気づかされた点は改善し、次回以降に活かすこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

1. 『音のルールから学ぶ大学生のリスニングドリル 資格試験対応』(Essential Listening Skills for College Students_)、船田秀佳 編著、朝日出版社、本体1,200円。ISBN: 978-4-255-15652-1

2. 『リスニングと語彙のミニテスト [10分間×24回]』(What 's the Picture Saying? -Mini Tests for Listening and Vocabulary-), 李春喜 著, 朝日出版社, 本体1,000円. ISBN: 978-4-255-15430-5

【参考図書】本学「英語音声学」の近年の教科書・推薦書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

リスニングの授業なのに録音？！

そうです。それが近道なのです。

音声学も思い出してください。将来湧き上がるであろう疑問に答えてくれることでしょう。

科目名	アドバンスト・リーディング		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEh3039		
学 科	共通科目（N/E/S） -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語目的別科目枠の選択科目である。

科目の概要

文を理解するとは、その中のほとんどの単語が既習で、文中の単語間のまとまりと文法的関係が分かり、複数の語義を持つ語があれば、どれがその文脈に当てはまるかが分かることである。そして、文章を理解するとは、文と文、段落と段落の関係が分かり、話全体の筋道や全体的な意図が分かることである。

教科書の英文を予習の上、クラス全体で一文ずつ音読しながら、「主語はどこ」などの一問一答をしながら読み進めたあと、文章の一部や全体について、ペアや少人数のグループワークで同じ部分の対話的意味確認を再現し合えれば、1人でも初見の文章を読む力がつくことを期待できる。

教員は教科書の各ユニットの文章のキーワードから、これらの単語を含む別の文章を探しておき、クローズテストのような簡単な問題を作って、補充ミニテストとして授業中に複数回実施する。

【グループワーク】【ミニテスト】

到達目標

- (1)教科書の文章の語彙に習熟する。
- (2)語彙レベルの似た初見の文章を対話的に各自読めるようにする。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力 -3 言語運用能力 -4 コミュニケーション能力

内容

教科書のユニット番号と文章のタイトルと文法ポイントは以下のとおりである。

1	1 Mall of America (MOA) 過去分詞の副詞用法
2	2 Denali 不定詞の名詞&形容詞用法
3	3 Get Your Kicks on Route 66 現在分詞形容詞用法と分詞構文
4	4 Stop Bugging Me! 現在分詞形容詞用法と動名詞の違い

5	5 A Story Book Area 関係代名詞が普通の文を説明文に変える
6	6 OMG What Is THAT? 関係代名詞は形容詞の働きをする
7	7 Scrabble 関係代名詞と関係副詞の違い
8	8 Starbucks 原形不定詞を取る動詞
9	9 A Famous Bear このUnit までの復習
10	10 King of the Blues 副詞節の働き
11	11 Empire State Building There+is (are) + S の構文
12	12 Dr. Jonas E. Salk 名詞節と強調構文
13	13 Trick or Treat!! 准動詞と従属節の復習(1)
14	14 Do You Know These Idioms? 准動詞と従属節の復習(2)
15	15 Windsor Castle 准動詞と従属節の復習(3)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

教科書の1ユニット分の全問題に解答し、文章の単語の意味と使い方を辞書で調べる。(約60分)

【事後学修】

補充ミニテストが返却されたら、意味を確認する(約20分)

英語音声のあるテレビニュース・自然ドキュメンタリー・ドラマ・ネット動画(英語字幕があれば利用)して、ナチュラルスピードに近い英語に親しむ(約90分)

評価方法および評価の基準

全部のミニテストの合計点を60%、平常点(授業への参加)を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。
、【フィードバック】ミニテストの問題を返却するとき、正解率が低かった部分は授業中に解説を加える。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】_Enjoying American & British Culture Using Grammar

Tips_(文法ヒントで楽しむ英米文化リーディング), Richard Carpenter著/森永弘司 著
(2019), 松柏社. ISBN: 978-4-88198-760-5.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・リーディング		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	NEh3039		
学 科	共通科目 (N/E/S) -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目の外国語 (目的別科目) の選択科目です。

科目の概要

アメリカ、イギリス、日本、その他世界の国々の近年の事象を扱った英語の文章を題材に学習します。文章中に登場する構文を学んだ後に文章を読むことで、より早く正確に読むことを目指します。リーディング・スキルとして、スキミング、スキミング、スキミング、スキミング、スキミング、スキミングの方法も学びます。ペア、グループ・ワークを通して、理解を確認しながら進めません。

授業の方法 (ALを含む)

1. 重要語彙の確認 (小テスト)
2. リーディング - 学生間での内容確認 (ペアまたはグループ・ワーク)
3. 質疑応答
4. 文章構成の整理

到達目標

1. 構文、慣用表現を知り、文章を8割以上正確に理解することができる。
2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。
3. スキミング、スキミングなどのリーディングスキルを駆使して、文章の概要や、質問への解答を短時間 (文章の長さや、設問の内容にもよるが、目安として1文章7 - 8分程度、1設問1分程度) で把握することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 言語運用能力

内容

基本的に、1ユニットを1回の授業で完結させる。履修者は、予習として構文の学習を行い、授業の初めに質問の受付と、小テストを行う。その後、本文の読解を行う。ペア、またはグループワークで理解を確認し、疑問が残った場合はクラス全体で確認する。

1	オリエンテーション, U1. Everything's Ducky 構文
---	--------------------------------------

2	U1. Everything's Ducky! 読解
3	U2. A Dearth of Cherry Tree
4	U3. One Hundred Billion Servings
5	U4. A Stellar Superstar
6	U5. Finnish Fathers Finish First
7	U6. Switch Off, Look Up, Watch Out!
8	U7. Disappearing Beaches
9	U8. An Alarming Allergy
10	U10. A British Motto Up for Grabs?
11	U12. Cats or Kiwis?
12	U13. A New Way to "Shoot Big Game"
13	U14. The Candy Crush Saga
14	U15. Hardy Humans and Huskies
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 1. 構文の問題（各ユニットの後半）は、授業前に自宅で読み、問題を解いておく。解けない問題、意味の解らない文には印をつけておく。（1～2時間）

2. 本文の未知語を調べておくこと。（45分以上）

【事後学修】 1. 本文を読み直し、確認する。授業で新たに学んだことをノートにまとめる。（45分以上）

評価方法および評価の基準

1. 構文、慣用表現を知り、文章を8割以上正確に理解することができる。（小テスト40%）

2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。（期末テスト25%、平常点5%）

3. スキミング、スキヤニングなどのリーディングスキルを駆使して、文章の概要や、質問への解答を短時間（設問の内容によるが、1文章7 - 8分程度、1設問1分程度）で把握することができる。（期末テスト25%、平常点5%）

（上記合計：期末テスト50%、小テスト40%・平常点10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】木村正俊 他, Firsit Step to Global Communication, 南雲堂

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習をしっかりとっておくことが、授業の理解を助けます。授業の初めに小テストを行い、予習の成果を確認しますので、準備をしておきましょう。

2	U1. Everything's Ducky! 読解
3	U2. A Dearth of Cherry Tree
4	U3. One Hundred Billion Servings
5	U4. A Stellar Superstar
6	U5. Finnish Fathers Finish First
7	U6. Switch Off, Look Up, Watch Out!
8	U7. Disappearing Beaches
9	U8. An Alarming Allergy
10	U10. A British Motto Up for Grabs?
11	U12. Cats or Kiwis?
12	U13. A New Way to "Shoot Big Game"
13	U14. The Candy Crush Saga
14	U15. Hardy Humans and Huskies
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 1. 構文の問題（各ユニットの後半）は、授業前に自宅で読み、問題を解いておく。解けない問題、意味の解らない文には印をつけておく。（1～2時間）

2. 本文の未知語を調べておくこと。（45分以上）

【事後学修】 1. 本文を読み直し、確認する。授業で新たに学んだことをノートにまとめる。（45分以上）

評価方法および評価の基準

1. 構文、慣用表現を知り、文章を8割以上正確に理解することができる。（小テスト40%）

2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。（期末テスト25%、平常点5%）

3. スキミング、スキヤニングなどのリーディングスキルを駆使して、文章の概要や、質問への解答を短時間（設問の内容によるが、1文章7-8分程度、1設問1分程度）で把握することができる。（期末テスト25%、平常点5%）

（上記合計：期末テスト50%、小テスト40%・平常点10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】木村正俊 他, Firsit Step to Global Communication, 南雲堂

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習をしっかりとしておくことが、授業の理解を助けます。授業の初めに小テストを行い、予習の成果を確認しますので、準備をしておきましょう。

科目名	アドバンスト・ライティング		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング	NEh3040		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目 - 外国語 - 目的別科目である。選択科目であるが、英語教職課程の履修者は必修となる。

科目の概要および

英語でひとつのまとまった内容のエッセイを書く訓練をする。

授業の方法 (ALを含む)

短い英文のモデルエッセイを読み、その論理展開のパターンを学ぶ。そののち、そのパターンに従ってオリジナルエッセイを作成する。

到達目標

- (a) 英文エッセイにおけるパラグラフの概念を理解できる。
- (b) 一文一文を文法的に書くことができる。
- (c) 論理的なエッセイを書くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 外国語基礎理解
- 2 異文化の理解・尊重
- 3 外国語コミュニケーション

内容

英文のモデルエッセイを読み、英語の論理パターンを学ぶ。授業では、「分類」「手順の説明」「言葉の定義」「意見と理由」「観察と分析」「データの説明」などのパターンを取り上げ、それぞれの文章に応じた書き方を練習していく。また教室での演習に加えて、各パターンごとに自宅で課題を行うことによって、実践的な英文読解のスキルを身につけていく。

1	ガイダンス・Unit 1. Conclusions/Reasons モデルエッセイの説明
2	Unit 1. Conclusions/Reasons オリジナルエッセイの作成
3	Unit 2. Analysis モデルエッセイの説明
4	Unit 2. Analysis オリジナルエッセイの作成
5	Unit 4. Controversy モデルエッセイの説明
6	Unit 4. Controversy オリジナルエッセイの作成

7	Unit 6. Classification モデルエッセイの説明
8	Unit 6. Classification オリジナルエッセイの作成
9	Unit 10. Process モデルエッセイの説明
10	Unit 10. Process オリジナルエッセイの作成
11	Unit 12. Definition モデルエッセイの説明
12	Unit 12. Definition オリジナルエッセイの作成
13	Unit 13. Explanation モデルエッセイの説明
14	Unit 13. Explanation オリジナルエッセイの作成
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】モデルエッセイを読み、その構成を予習する。所要時間45分以上。

【事後学修】モデルエッセイのパターンにしたがって、自分のエッセイを作成する。所要時間45分以上。

評価方法および評価の基準

到達目標それぞれに対する評価方法は(a)平常点20%、試験20%、(b)平常点20%、10%、(c)平常点20%、試験10%とします。

評価基準は総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】受講生のエッセイを添削し、返却します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『Skills for Better Writing 構造で書く英文エッセイ（改訂版）』，石谷由美子他，南雲堂，1900円＋税）
その他適宜プリントを使用する

授業には必ず辞書を持参してください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・ライティング		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	NEh3040		
学 科	共通科目 (N/E/S) -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 Students will practice writing in their workbook

s and move from the structure of sentences to the production of paragraphs, through a process approach.

科目の概要 For students to be able to write short discourses in English.

授業の方法 (ALを含む) The teacher will guide the students who wi

ll work at a variety of exercises for understanding writing in their books.

到達目標 For students to be able to recognize and also pr

oduce logical and coherent paragraphs with a topic and development in the paragraphs.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	Introduction to the text book and to paragraph writing.
2	Review of the structure of sentences. Recognizing paragraph topics.
3	Identifying and writing topic sentences. Identifying the main ideas in paragraphs.
4	Brainstorming. Editing lists. Developing description.
5	Using maps for brainstorming. Writing concluding sentences.
6	Using adjectives and descriptive vocabulary.
7	Using descriptive vocabulary to write about trends.
8	Learning to do peer feedback.
9	Expressing opinions. Using discussion to brainstorm.
10	Explaining cause and effect.
11	Writing about feelings and problems. Using logical order.
12	Telling stories. Ordering with after, before, then, next.

13	Making comparisons.
14	Writing about difficult decisions.
15	Final paragraph. Writing about the future.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Students should read the lesson in the textbook before the class.

【事後学修】 Students can finish uany unfinished exercises at home.

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

Students will be graded on their in-class engagement with writing; 50%

Students will be graded on two paragraphs written as assesments; 50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Paragraph Writing; From Sentence to Paragraph by D. Zemach and C. Islam MacMillan.

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

It is essential to try hard and practice a lot to improve writing. Be prepared to write and to rewrite your work.

科目名	TOEIC対策講座		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEh2045		
学 科	共通科目 (N/E/S) -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学部共通外国語選択科目である。

科目の概要

大学に入りたてでTOEICを受けた経験がまだないか、受けても日が浅い人を対象に、TOEIC L&R 400-500点のレベル用に編纂された、易しめで頻出する問題を集めた教材を用いて、確実な基礎力を養成する。

授業の方法 (ALを含む)

授業での間違いから学んだことや新しい気づきをリアクションペーパーに書いてもらい、それを教員に提出するだけでなく、ペア・グループ・クラスで共有発表する時間を適宜設けて、教科書を使い切る。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 企業や社会で要求されるレベルに対応する
2. 社会人になっても通用する資格をつける力を養成する
3. 国際的な資格試験を受験することでより広い分野での活躍の基礎を作る

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 計画を立てる力
- 3 言語運用能力

内容

初めて対策を行う学生にとって、最も正解率を上げやすい部分は、リーディングのPart 5の短文穴埋めの文法・語法問題なので、最初の数週間は、これに最も時間をかける。各課のリスニングとリーディングの前の16題の問題が記憶に残りやすいように工夫して進める。

1	教科書の「 各パートの紹介と本書の編集方針 」について/Unit 1
2	Unit 1 動詞と時制 (1) 語彙増強: supplies, explainなど
3	Unit 2 動詞と時制 (2) 語彙増強: domestic, opportunitiesなど
4	Unit 3 動詞と時制 (3), 品詞 語彙増強: eligible, parallelなど

5	Unit 4 仮定法 語彙増強： profit, cashierなど
6	Unit 5 準動詞 (1) 語彙増強： grateful, registerなど
7	Unit 6 準動詞 (2) 語彙増強： commerce, harvestなど
8	復習とまとめ(1)
9	Unit 7 準動詞 (3) 語彙増強： invoice, attireなど
10	Unit 8 準動詞 (4) 語彙増強： extensive, renovateなど
11	Unit 9 形容詞・副詞と比較 語彙増強： refunds, awningなど
12	Unit 10 不定代名詞anotherとother 語彙増強： qualify, exchangeなど
13	Unit 11 関係詞 (1) 語彙増強： remain, moderateなど
14	Unit 12 関係詞 (2) 語彙増強： additional, withdrawなど
15	復習とまとめ(2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書のweb音声を使って、毎週そのユニットの全ての英語を予習し、語彙増強問題の単語を検索などして、用例に当たること。(毎週60分程度)

【事後学修】補充問題を課すことがあるので、それを解き、テレビのニュースの副音声・語学番組・英語の映画などを通して常に英語力の向上に努めること。(毎週90分以上)

評価方法および評価の基準

2回の「復習とまとめ」の成果を計60%、授業への取り組み(補充問題・予習・参加態度)を40%として、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】北原良夫 編著(2020)『新訂版 TOEIC? L&R テストへようこそ』朝日出版社。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	TOEIC対策講座		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	NEh2045		
学 科	共通科目（N/E/S） -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目では、日常、仕事での英語コミュニケーションに必要な聞く力と読む力の向上を目指し、TOEICテストで目標スコアを目指しながら英語の語彙や言語構造、文章の読み方、聞き方を学習する。また、英語を理解するうえで不可欠な英語圏の社会的・文化的背景を学び理解を深める。

科目の概要

TOEICスコアアップを目指し、各テーマの関連語彙や文法を確認しながらTOEICテスト形式のリスニング、リーディングの演習問題に取り組む。また、実際に使える英語力をつけることを目指し、速読やシャドウイングの練習も行う。疑問点は、ペア、グループワークでの解決を目指し、残った疑問点を教員が補助する形で進める。また、教室外で自律学習が進むよう、効果的な自己学習法の指導を合わせて行う。

授業の方法

テーマごとに組まれたユニットの中で、関連語彙を学習した後、TOEIC問題形式のリスニング、リーディングの問題を解き練習を行う。また、授業外で自律的に学習できるよう、学習法を学び、解説を受けた後、各自復習ノートを作成する。（一部宿題となる。）

到達目標

1. 日常、仕事に必要な内容を英語で聞き、読むために必要な語彙、言語構造を理解し使用できる。
2. TOEICテストの形式を知り、有効な知識や戦略法を身に付け、テストに応用できる。
3. 学期末のTOEICテスト受験で目標点を取得できる。
4. 自律的な学習方法と学習習慣を身に付ける。

. ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3 言語運用能力

内容

1回の授業で1ユニット完了する形で進める。受講者は各授業のテーマ（ユニット表題）、関連語彙、文法、文書のフォーマットなどを学び、それらを使用したTOEICのリスニング、リーディングの練習問題に取り組む。疑問点は、ペア、グループワークでの解決を目指し、残った疑問点を教員が補助する形で進める。また、教室外で自律学習が進むよう、効果的な自己学習法の指導を合わせて行う。また、TOEICの対策学習を実際のコミュニケーションに活かせるよう4技能につなげるための学習法も指導する。

1	オリエンテーション U1 Daily Life 日常生活をテーマとしたリスニング・リーディング練習
2	U2 Places 様々な場所をテーマとしたリスニング・リーディング練習

3	U3 People 様々な様相の人々や職業をテーマとしたリスニング・リーディング練習
4	U4 Travel 旅行の場面をテーマとしたリスニング・リーディング練習
5	U5 Business ビジネスをテーマとしたリスニング・リーディング練習
6	U6 Office オフィス内の場面や機器をテーマとしたリスニング・リーディング練習
7	U7 Technology 技術をテーマとしたリスニング・リーディング練習
8	U8 Personnel 会社内の人事をテーマとしたリスニング・リーディング練習
9	U9 Management 経営をテーマとしたリスニング・リーディング練習
10	U10 Purchasing 主に会社間での購買をテーマとしたリスニング・リーディング練習
11	U11 Finance 金融をテーマとしたリスニング・リーディング練習
12	U12 Media メディアをテーマとしたリスニング・リーディング練習
13	U13 Entertainment エンターテインメントをテーマとしたリスニング・リーディング練習
14	U14 Health 健康をテーマとしたリスニング・リーディング練習
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各課の新出語彙を予習する。(Check Your Vocabulary! Words in Context) (30分)

【事後学修】各課の Self-study quizzes (p.99~) に取り組む。(30分) 各課パー

ト3、4のシャドウイングを行う。(30分) 各課の授業内で終了しなかった問題に取り組み、復習まで行う。(60分)

評価方法および評価の基準

1. 日常、仕事に必要な内容を英語で聞き、読むために必要な語彙、言語構造を理解し使用できる。(試験20%・授業への取り組み10%・小テスト10%)

2. TOEICテストの形式を知り、有効な知識や戦略法を身に付け、テストに応用できる。(試験20%)

3. 学期末のTOEICテスト受験で目標点を取得できる。(試験30%)

4. 自律的な学習方法と学習習慣を身に付ける。(課題10%)

上記合計：試験70点、小テスト10点、課題10点、授業への取り組み10点の合計で評価を行い、60点以上を合格とする。

提出課題は評価を付けて返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】Mark D. Stafford, Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 1 (4th Edition), 桐原書店

【参考図書】『TOEICテスト新公式問題集』(Vol.5) Educational Testing Service

小石裕子 『改訂版 TOEIC(R) TEST 英単語 出るとこだけ!』アルク

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業外での予習、復習、そして自分で学習計画を立て実行することが成功の秘訣です。TOEICは数字で伸びを実感できるので、一所懸命やれば達成感を得られることでしょう。スコアに見合ったスピーキング力も得られるよう、シャドウイングの練習も授業外でしっかりと行ってください。

科目名	TOEIC対策講座		
担当教員名	秋山 まき子		
ナンバリング	NEh2045		
学 科	共通科目 (N/E/S) -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は、共通科目の外国語 (資格科目) の選択科目です。TOEICのスコア上昇のための講座

科目の概要 TOEICの基礎となっているReadingとListeningのスコアアップを目的とする。その為にはTOEICテストの出題形式に慣れること、また解答の為にストラテジーを身につけることが大切である。特に、このクラスでは、ReadingセクションPart 5, 6, 7の攻略を中心とする。語彙力や文法知識、聴解力や読解力などの、より総合的な英語力を高めることを目指す。

授業の方法 (ALを含む) 講義と問題演習を中心とする。毎授業、長文読解の速読の練習を15分行う。CD、DVDなどの視聴覚教材を用いることもある。

到達目標 語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力を総合的に向上させ、TOEIC Testのスコアアップを図る。また、TOEIC各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを学びスコア上昇を目指す。

ディプロマ・ポリシーとの関係 この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの - 1 読み解く力、 - 3 言語運用能力を育成することを目的とする。

内容

1	O r i e n t a t i o n
2	Part5 攻略 Unit1 Part5 Modern Technology、Unit 2 Part5 Travelig
3	Part5 攻略 Unit 3 Part5 Health、Unit 4 Part5 Work
4	Part5 攻略 Unit5 Part5 Food、Unit6 Part5 Headlines
5	Part5 攻略 Unit7 Part5 Shopping、Unit8 Part5 Entertainment and Sports
6	Part 5, 6 攻略 Unit9 Part5 Environment、Unit10 Part6
7	Part 6 攻略 Unit11 Part6、Unit12 Part6
8	Part 7 攻略 Unit13 Part7
9	Part 7 攻略 Unit14 Part7
10	Part 7 攻略 Unit15 Part7
11	TOEIC 模擬テスト Part 5, 6, 7
12	TOEIC 模擬テスト (1)

13	TOEIC 模擬テスト(2)
14	TOEIC 模擬テスト(3)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

外国語の学習は毎日の反復練習が効果的なので、必ず毎日英語に触れる時間を作ること。さらに、予習・復習にはそれぞれ45分以上かけること。

自分で目標を設定し、自分にあった学習法を実践すること。

評価方法および評価の基準

総合評価60点以上を合格とする。100%のうち、出席日数、授業への参加度、課題、理解度の総合的評価70%、TOEIC模擬TEST30%とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】A shorter Course in TOEIC TEST Reading 550, 木村理恵子、片野田浩子、南雲堂、ISBN#9784523175926

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容及び進め方は、クラスの状態により変更することがある。質問等は、遠慮なく担当教員に申し出ること。

科目名	中国語試験対策講座		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	NEh2046		
学 科	共通科目（N/E/S） -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

中国語検定試験/HSK合格を目指し、発音・文法・作文力を高める。

科目の概要

中国語検定試験の過去問を解き、解説を聞く。これを繰り返すことによって解答パターンを体得し、自信をもって受験に臨めるようにしていく。中級受験者向けには長文読解のための訓練を行なう。

授業の方法（ALを含む）

プリント類を活用して各自のレベルに応じて進む。

到達目標

自らが設定した級に合格すること。やや難しい級にチャレンジして、合格すること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本学のディプロマ・ポリシー 1「目標を決める力」・2「計画を立てる力」・3「実践する力」と関連している。

内容

ガイダンス、受験級確定

過去問解き、解説

語彙練習

文法確認

リスニング対策

ライティング対策

模擬試験

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】単語帳の暗記を30分程度で準備してくること。

【事後学修】ミスノート作成を30分程度行うこと。

評価方法および評価の基準

平常点を60%・受験結果を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。平常点とは、授業で扱った過去問などのミス
を修正し、類似問題等で確認することである。これらは授業内でフィードバックを行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントなど

【推薦書】『中国語検定4級合格への手引き』南雲堂フェニックス 2010年 ￥1800 + 税

『中国語検定3級合格への手引き』南雲堂フェニックス 2010年 ￥1800 + 税

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語検定対策講座		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	NEh2047		
学 科	共通科目（N/E/S） -外国語目的別科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年次に在籍するすべての日本語母語話者を対象にした選択科目である。敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容をテキストを用いて学習し、学科の異なりを超えて求められる日本語力の修得を目指す。

科目の概要

日本語検定3級の知識を得ることを目標に、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について幅広く学ぶ。単に日本語の知識を得るだけでなく、正答である理由、誤答である理由を考え、説明できるようにする。

授業の方法（ALを含む）

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。問題を解く際は、ペアワーク、グループワークを行い、当該問題の正答、誤答について相互に説明しあう。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。さらに、リアクションペーパーを活用し、授業内容について共有すべき記述については、翌週取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

学修目標（到達目標）

- (1) 基礎的な日本語の知識を身につけ、テキストで出題された問題の正誤を解説することができる。
- (2) 日本語検定3級に合格する力を身につけることができる。
- (3) 日本語の運用に関心を持ち、実生活で学んだ内容を活かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 言語運用能力

内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。

なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える【リアクションペーパー】
---	------------------------------------

2	敬語 1 (尊敬語・謙讓語・丁寧語) 【グループワーク】
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け) 【グループワーク】
4	敬語 3 (間違いやすい敬語) 【グループワーク】
5	敬語の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・分のねじれ) 【グループワーク】
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞) 【グループワーク】
8	文法の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係) 【グループワーク】
10	語彙 2 (類義語・対義語) 【グループワーク】
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方) 【グループワーク】
12	言葉の意味 2 (慣用句) 【グループワーク】
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り) 【グループワーク】
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語) 【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身につける。(各授業に対して60分)

【事後学修】間違った問題、理解が浅い問題について、再度問題を解いてみる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

「敬語」と「文法」の学習後に行う確認テスト(20%)

授業中に課す課題への取り組み(解答ならびに導いた解答に対する解説)(20%)

期末テスト(60%)

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本語検定委員会編(2010)『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識の定着を確認するために、日本語検定3級(毎年6月、11月に実施)の受検を推奨する。

総合評価60点以下の場合は再試験を行う。該当者には個別に連絡する。

科目名	日本語検定対策講座		
担当教員名			
ナンバリング	NEh2047		
学 科	共通科目（N/E/S） -外国語目的別科目		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年次に在籍するすべての日本語母語話者を対象にした選択科目である。敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容をテキストを用いて学習し、学科の異なりを超えて求められる日本語力の修得を目指す。

科目の概要

日本語検定3級の知識を得ることを目標に、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について幅広く学ぶ。単に日本語の知識を得るだけでなく、正答である理由、誤答である理由を考え、説明できるようにする。

授業の方法（ALを含む）

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。問題を解く際は、ペアワーク、グループワークを行い、当該問題の正答、誤答について相互に説明しあう。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。さらに、リアクションペーパーを活用し、授業内容について共有すべき記述については、翌週取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

学修目標（到達目標）

- (1) 基礎的な日本語の知識を身につけ、テキストで出題された問題の正誤を解説することができる。
- (2) 日本語検定3級に合格する力を身につけることができる。
- (3) 日本語の運用に関心を持ち、実生活で学んだ内容を活かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 言語運用能力

内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。

なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える【リアクションペーパー】
---	------------------------------------

2	敬語 1 (尊敬語・謙讓語・丁寧語) 【グループワーク】
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け) 【グループワーク】
4	敬語 3 (間違いやすい敬語) 【グループワーク】
5	敬語の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・分のねじれ) 【グループワーク】
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞) 【グループワーク】
8	文法の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係) 【グループワーク】
10	語彙 2 (類義語・対義語) 【グループワーク】
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方) 【グループワーク】
12	言葉の意味 2 (慣用句) 【グループワーク】
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り) 【グループワーク】
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語) 【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身につける。(各授業に対して60分)

【事後学修】間違った問題、理解が浅い問題について、再度問題を解いてみる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

「敬語」と「文法」の学習後に行う確認テスト(20%)

授業中に課す課題への取り組み(解答ならびに導いた解答に対する解説)(20%)

期末テスト(60%)

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本語検定委員会編(2010)『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識の定着を確認するために、日本語検定3級(毎年6月、11月に実施)の受検を推奨する。

総合評価60点以下の場合は再試験を行う。該当者には個別に連絡する。

科目名	キャリアデザインとライフプラン		
担当教員名	大友 由紀子、松本 晃子		
ナンバリング	NEc1012		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

後半の「キャリアデザイン」担当教員は、バイヤーやマーケティング業務の経験を有し、教員のキャリアを生かした視点を交えながら講義を構築している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「女性を生きる」1年次配当の選択必修科目。

科目の概要

女性が働くことの意味や目的を考えるとともに、自分自身のライフプランを設計する。結婚、出産、育児などの家庭生活仕事をどう捉えていきたいか。将来を見据えた自己分析を通して、自らのキャリアデザインを考える。統計情報から働く女性の動向を把握するとともに、ポジティブ・アクションや仕事と家庭の両立支援といった女性の活躍を推進する政策、女性労働に関する法的な変遷を学習した上で、固定観念にとらわれない自分らしい職業選択について考える。

授業の方法 (ALを含む)

前半では、十文字こと先生の生き方ビデオの視聴から、本学の建学の精神を組み入れていく。【ワークシート】【リアクションペーパー】【レポート】【ディスカッション】などのAL型講義も取り入れていく。

到達目標

変化する社会の中で意識や制度も大きく変わっている。女性も男性も、社会出来・文化的性差(ジェンダー)にとらわれない多様な生き方が現れ始めていることを理解することができる。それを可能とする考え方、新たな制度の成立などを知ることができる。今後、社会で活躍する自己イメージを明確にし、自信をもって積極的に社会参加できるよう、自己決定力を高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1現代社会理解、 -2社会への参画、 -1キャリアデザイン力

内容

第2回から第8回までの「ライフプラン」では、ワークシートを取り入れた講義形式。第9回から第15回までの「キャリ

「デザイン」では、ディスカッション形式を取り入れながら学びを深めていく。

1	(大友・松本)【共通内容1】オリエンテーション、科目と担当の紹介、十文字こと先生のアニメビデオ視聴
2	(大友)【共通内容2】十文字こと先生の生き方に学ぶ
3	(大友)女性のライフコース・パターン
4	(大友)女性のライフイベント(1)-配偶者選択と結婚
5	(大友)女性のライフイベント(2)-妊娠と出産
6	(大友)夫婦のパートナーシップ
7	(大友)高齢化とジェンダー
8	(大友)ライフプラン総括
9	(松本)働くこととは - 働き方の選択肢と働くことの価値観の相違について考える
10	(松本)自らをマネジメントする - 意思決定のための基礎知識【レポート】
11	(松本)女性の能力を生かすこととは - ウーマノミクスを考える
12	(松本)優れたコミュニケーションと女性のリーダーシップ【レポート】
13	(松本)人生をマネジメントする - 働く女性と法律・政策
14	(松本)本学OGのGoogle勤務のゲストスピーカー招聘 【ディスカッション】
15	(松本)キャリアデザイン総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】冊子『夢の実現と未来へ』を読み、建学理念の理解に基づき、自身のライフプランとキャリアデザインを整理する(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業時に紹介された推薦書・参考図書と返却された課題を使って学びを深める(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

女性も男性も、社会出来・文化的性差(ジェンダー)にとらわれない多様な生き方が現れ始めていることを理解することができる(平常点30%)。それを可能とする考え方、新たな制度の成立などを知ることができる(平常点40%)。今後、社会で活躍する自己イメージを明確にし、自信をもって積極的に社会参加できるよう、自己決定力を高めることができる(平常点30%)。それぞれ、第1回6%、第2回から第8回の前半で47%、第9回から第15回の後半で47%として、合計60%以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシート、リアクションペーパー、レポートは、評価後に返却して補足する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】内閣府(2019)『男女共同参画白書 令和元年版』

【推薦書】内閣府(2019)『令和元年版 少子化社会対策白書』

【参考図書】P・Fドラッカー上田敦夫訳(2000)『プロフェッショナルの条件』ダイヤモンド社

中原淳、トーマツイノベーション(2018)『女性の視点で見直す人材育成』ダイヤモンド社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

大学の講義というものの感覚をつかみ、社会的な知識か・情報から自らの最終進路について考えていくこと。

「ライフプラン」7回(第2回から第8回)、「キャリアデザイン」7回(第9回から第15回)、それぞれについて3分の2以上(7回のうち5回以上)出席すること。

科目名	キャリアデザインとライフプラン		
担当教員名	大友 由紀子、松本 晃子		
ナンバリング	NEc1012		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

後半の「キャリアデザイン」担当教員は、バイヤーやマーケティング業務の経験を有し、教員のキャリアを生かした視点を交えながら講義を構築している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「女性を生きる」1年次配当の選択必修科目。

科目の概要

女性が働くことの意味や目的を考えるとともに、自分自身のライフプランを設計する。結婚、出産、育児などの家庭生活仕事をどう捉えていきたいか。将来を見据えた自己分析を通して、自らのキャリアデザインを考える。統計情報から働く女性の動向を把握するとともに、ポジティブ・アクションや仕事と家庭の両立支援といった女性の活躍を推進する政策、女性労働に関する法的な変遷を学習した上で、固定観念にとらわれない自分らしい職業選択について考える。

授業の方法 (ALを含む)

前半では、十文字こと先生の生き方ビデオの視聴から、本学の建学の精神を組み入れていく。【ワークシート】【リアクションペーパー】【レポート】【ディスカッション】などのAL型講義も取り入れていく。

到達目標

変化する社会の中で意識や制度も大きく変わっている。女性も男性も、社会出来・文化的性差(ジェンダー)にとらわれない多様な生き方が現れ始めていることを理解することができる。それを可能とする考え方、新たな制度の成立などを知ることができる。今後、社会で活躍する自己イメージを明確にし、自信をもって積極的に社会参加できるよう、自己決定力を高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1現代社会理解、 -2社会への参画、 -1キャリアデザイン力

内容

第2回から第8回までの「ライフプラン」では、ワークシートを取り入れた講義形式。第9回から第15回までの「キャリ

「デザイン」では、ディスカッション形式を取り入れながら学びを深めていく。

1	(大友・松本)【共通内容1】オリエンテーション、科目と担当の紹介、十文字こと先生のアニメビデオ視聴
2	(大友)【共通内容2】十文字こと先生の生き方に学ぶ
3	(大友)女性のライフコース・パターン
4	(大友)女性のライフイベント(1)-配偶者選択と結婚
5	(大友)女性のライフイベント(2)-妊娠と出産
6	(大友)夫婦のパートナーシップ
7	(大友)高齢化とジェンダー
8	(大友)ライフプラン総括
9	(松本)働くこととは - 働き方の選択肢と働くことの価値観の相違について考える
10	(松本)自らをマネジメントする - 意思決定のための基礎知識【レポート】
11	(松本)女性の能力を生かすこととは - ウーマノミクスを考える
12	(松本)優れたコミュニケーションと女性のリーダーシップ【レポート】
13	(松本)人生をマネジメントする - 働く女性と法律・政策
14	(松本)本学OGのGoogle勤務のゲストスピーカー招聘 【ディスカッション】
15	(松本)キャリアデザイン総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】冊子『夢の実現と未来へ』を読み、建学理念の理解に基づき、自身のライフプランとキャリアデザインを整理する(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業時に紹介された推薦書・参考図書と返却された課題を使って学びを深める(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

女性も男性も、社会出来・文化的性差(ジェンダー)にとらわれない多様な生き方が現れ始めていることを理解することができる(平常点30%)。それを可能とする考え方、新たな制度の成立などを知ることができる(平常点40%)。今後、社会で活躍する自己イメージを明確にし、自信をもって積極的に社会参加できるよう、自己決定力を高めることができる(平常点30%)。それぞれ、第1回6%、第2回から第8回の前半で47%、第9回から第15回の後半で47%として、合計60%以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシート、リアクションペーパー、レポートは、評価後に返却して補足する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】内閣府(2019)『男女共同参画白書 令和元年版』

【推薦書】内閣府(2019)『令和元年版 少子化社会対策白書』

【参考図書】P・Fドラッカー上田敦夫訳(2000)『プロフェッショナルの条件』ダイヤモンド社

中原淳、トーマツイノベーション(2018)『女性の視点で見直す人材育成』ダイヤモンド社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

大学の講義というものの感覚をつかみ、社会的な知識か・情報から自らの最終進路について考えていくこと。

「ライフプラン」7回(第2回から第8回)、「キャリアデザイン」7回(第9回から第15回)、それぞれについて3分の2以上(7回のうち5回以上)出席すること。

科目名	リーガルリテラシー		
担当教員名	川口 かしみ		
ナンバリング	NEc1013		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部の卒業要件に該当する選択科目であり、学部共通科目である「女性を生きる」に位置づけられる。

科目の概要

現代の社会においては、法規定上では男女が平等になってきていますが、社会のなかの実態としてはその平等は達成されたとはいえません。それはなぜでしょうか？本講義では、みなさんが女性として生活していくなかで、遭遇する / 関連する法律を学ぶとともに、現実の社会環境における法律と制度の位置づけや課題について検討していきます。

授業の方法 (ALを含む)

本講義では、解説が中心となるが、毎回の授業終了後、受講生全員にコメントを書いてもらう。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 現在の社会において、女性として生活するなかで関連する法律や制度を知り、それらの背景となった問題を分析する。
2. それを踏まえ、今後、女性として自分が生きていきたい社会のあり方を構想する。
3. その構想した社会のあり方と社会を取り巻く法律や制度の関連性や課題を認識し、構成員の一員として社会生活に参加する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

? 5 論理的な表現、 ? 2 計画を立てる力、 ? 1 現代社会理解

内容

1	オリエンテーション、身近なジェンダー問題
2	人権とジェンダー
3	国際化社会におけるジェンダー主流化
4	女性に対する暴力
5	性犯罪とジェンダー、売買春と人身取引

6	性と生殖の権利
7	夫婦生活と法、親子関係と法
8	離婚をめぐる諸問題
9	親密圏における暴力
10	雇用における性暴力
11	ワーク・ライフ・バランス
12	LGBTQと法
13	女性を生きる共通授業「女性の生き方」
14	女性を生きる共通授業「女性の生き方」
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業で扱うテーマの文献などを読む。

【事後学修】ハンドアウトも読み返して、重要なポイントをノートにまとめて理解を深める。

評価方法および評価の基準

学期末試験（70％）、コメントシート（リアクションペーパー）（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業で書いてもらうコメントシートでは、課題の他に質疑ももちろん受け付ける。その質疑に対して、次週授業で返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中にハンドアウトを配布する。

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	リーガルリテラシー		
担当教員名	川口 かしみ		
ナンバリング	NEc1013		
学 科	共通科目（N/E/S） -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部の卒業要件に該当する選択科目であり、学部共通科目である「女性を生きる」に位置づけられる。

科目の概要

現代の社会においては、法規定上では男女が平等になってきていますが、社会のなかの実態としてはその平等は達成されたとはいえません。それはなぜでしょうか？本講義では、みなさんが女性として生活していくなかで、遭遇する／関連する法律を学ぶとともに、現実の社会環境における法律と制度の位置づけや課題について検討していきます。

授業の方法（ALを含む）

本講義では、解説が中心となるが、毎回の授業終了後、受講生全員にコメントを書いてもらう。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 現在の社会において、女性として生活するなかで関連する法律や制度を知り、それらの背景となった問題を分析する。
2. それを踏まえ、今後、女性として自分が生きていきたい社会のあり方を構想する。
3. その構想した社会のあり方と社会を取り巻く法律や制度の関連性や課題を認識し、構成員の一員として社会生活に参加する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

？5 論理的な表現、？2 計画を立てる力、？1 現代社会理解

内容

1	オリエンテーション、身近なジェンダー問題
2	人権とジェンダー
3	国際化社会におけるジェンダー主流化
4	女性に対する暴力
5	性犯罪とジェンダー、売買春と人身取引

6	性と生殖の権利
7	夫婦生活と法、親子関係と法
8	離婚をめぐる諸問題
9	親密圏における暴力
10	雇用における性暴力
11	ワーク・ライフ・バランス
12	LGBTQと法
13	女性を生きる共通授業「女性の生き方」
14	女性を生きる共通授業「女性の生き方」
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業で扱うテーマの文献などを読む。

【事後学修】ハンドアウトも読み返して、重要なポイントをノートにまとめて理解を深める。

評価方法および評価の基準

学期末試験（70％）、コメントシート（リアクションペーパー）（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業で書いてもらうコメントシートでは、課題の他に質疑ももちろん受け付ける。その質疑に対して、次週授業で返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中にハンドアウトを配布する。

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ジェンダーリテラシー		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	NEc1014		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

女性にとっても男性にとっても「社会的・文化的につくり出される性別役割」(ジェンダー)にとらわれない個性や多様性のライフスタイルが追求され始めている。

本科目は、本学園創設者「十文字こと」の生き方に触れ、今日的な問題 - 仕事と家庭の両立、性的健康(性暴力)、社会・政治参加、ジェンダーを超えた多様なセクシュアリティ、という視点からジェンダーリテラシーに迫っていくという性格をもつ。

科目の概要

本科目は、日常生活の場面から浮かび上がる、また実際に問題となっている事柄や事件にふれながら、ジェンダーやセクシュアリティについて理解を深め、個性や多様性の尊重が目指される社会の形成のあり方について学んでいく。

授業の方法

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書・必要な資料配布という方法により展開する。

到達目標

1. ジェンダー・セクシュアリティの意味内容について説明することができる。
2. ジェンダー・セクシュアリティの視点から現在の問題状況を変更していく必要について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、本学の共通科目「女性を生きる」領域のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 -1 課題発見・分析能力」、「 -2 社会への参画」に該当する。

内容

1	1 ジェンダーとは何か
2	ジェンダー視点と社会的関係における差別
3	女性の生き方 - 学園創設者「十文字こと」の生き方に学ぶ: 時代とともに
4	セクシュアリティとは何か

5	セクシュアリティと「多様な性」への寛容
6	教育とジェンダー - その中で考える「男らしさ」「女らしさ」とは
7	恋愛・結婚・家族とジェンダー - その中で考える「男らしさ」「女らしさ」とは
8	労働とジェンダー - その中で考える「男らしさ」「女らしさ」とは
9	メディアとジェンダー - その中で考える「男らしさ」「女らしさ」とは
10	政治とジェンダー - 女性参政権の重要性
11	「産む・産まない」とジェンダー - リプロダクティブヘルス・ライツとは何か
12	性暴力とジェンダー - 強制性交等罪（刑法）の意味を考える
13	性交等売買について考える - 売買春かセックスワークか
14	女性の生き方 - 学園創立者「十文字こと」の生き方に学ぶ；何を受け継ぐか
15	全体のまとめ ジェンダーリテラシー - 個性と多様性が尊重される社会形成へむけて

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業終了時に告げられる次回予定の授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習し、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して45分）。

評価方法および評価の基準

小レポート40%、まとめのレポート60%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 - 小レポート40%、まとめのレポート60%

到達目標2 - 小レポート40%、まとめのレポート60%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤・石田・海老原『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社

【推薦書】

【参考図書】参考文献等は授業時に随時、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ジェンダーリテラシー		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	NEc1014		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

女性にとっても男性にとっても「社会的・文化的につくり出される性別役割」(ジェンダー)にとらわれない個性や多様性のライフスタイルが追求され始めている。

本科目は、本学園創設者「十文字こと」の生き方に触れ、今日的な問題 - 仕事と家庭の両立、性的健康(性暴力)、社会・政治参加、ジェンダーを超えた多様なセクシュアリティ、という視点からジェンダーリテラシーに迫っていくという性格をもつ。

科目の概要

本科目は、日常生活の場面から浮かび上がる、また実際に問題となっている事柄や事件にふれながら、ジェンダーやセクシュアリティについて理解を深め、個性や多様性の尊重が目指される社会の形成のあり方について学んでいく。

授業の方法

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書・必要な資料配布という方法により展開する。

到達目標

1. ジェンダー・セクシュアリティの意味内容について説明することができる。
2. ジェンダー・セクシュアリティの視点から現在の問題状況を変更していく必要について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、本学の共通科目「女性を生きる」領域のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 - 1 課題発見・分析能力」、「 - 2 社会への参画」に該当する。

内容

1	1 ジェンダーとは何か
2	ジェンダー視点と社会的関係における差別
3	女性の生き方 - 学園創設者「十文字こと」の生き方に学ぶ: 時代とともに
4	セクシュアリティとは何か

5	セクシュアリティと「多様な性」への寛容
6	教育とジェンダー - その中で考える「男らしさ」「女らしさ」とは
7	恋愛・結婚・家族とジェンダー - その中で考える「男らしさ」「女らしさ」とは
8	労働とジェンダー - その中で考える「男らしさ」「女らしさ」とは
9	メディアとジェンダー - その中で考える「男らしさ」「女らしさ」とは
10	政治とジェンダー - 女性参政権の重要性
11	「産む・産まない」とジェンダー - リプロダクティブヘルス・ライツとは何か
12	性暴力とジェンダー - 強制性交等罪（刑法）の意味を考える
13	性交等売買について考える - 売買春かセックスワークか
14	女性の生き方 - 学園創立者「十文字こと」の生き方に学ぶ；何を受け継ぐか
15	全体のまとめ ジェンダーリテラシー - 個性と多様性が尊重される社会形成へむけて

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業終了時に告げられる次回予定の授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習し、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して45分）。

評価方法および評価の基準

小レポート40%、まとめのレポート60%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 - 小レポート40%、まとめのレポート60%

到達目標2 - 小レポート40%、まとめのレポート60%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤・石田・海老原『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社

【推薦書】

【参考図書】参考文献等は授業時に随時、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子育てと環境		
担当教員名	鈴木 晴子、山田 陽子、長田 瑞恵、近藤 有紀子		
ナンバリング	NEc1015		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場及び特別支援教育の保育・教員実践、児童福祉施設等における職員研修等の経験を持つ教員の経験を活かし授業を行う。また、外部講師として生き生きとした子どもの姿を撮影し続けている写真家から、子どもや大人の表情について講話と質疑応答を通じて理解を持つ。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

2~4年前期と後期で開講される全学共通科目「女性の自立・生き方を学ぶ」の1科目で選択必修科目である。1年制の「子育てと環境」と同時開講である。

現代社会における女性の生き方と地域との共生、社会課題について取り扱う。

科目の概要

現代女性の優れたモデルである本学園創設者「十文字こと」先生の生き方を理解した上で、現代における「子育てと環境」について、「子どもでいること」・「親になること」・「地域で育つこと」の視点から学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義が中心である。適宜、視聴教材を使用し、外部講師による講義も予定している。毎回リアクションペーパーとして気づきや感想の記載を求める。【リアクションペーパー】【レポート(知識)】

到達目標

1. 豊かな子育てとは何かを理解し、考えたことを説明できる。
2. 女性の自立・生き方について理解し、説明できる。
3. 現代社会における女性の生き方と地域との共生、社会課題について考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 問題解決能力
- 2 社会への参画

内容

この授業は講義を基本とする。第1回から第14回授業に関しては、リアクションペーパーに取り組む。【リアクションペーパー】

1	「子育てと環境」に関するイントロダクション[山田・長田・鈴木・近藤]
2	女性の生き方 [山田]
3	女性の生き方 [山田]
4	子どもの表情および共に生きる大人たちの表情[山田]
5	母になること[長田]
6	親として[長田]
7	父になること[長田]
8	子どもとは[近藤]
9	子どもの育ちを学ぶ[近藤]
10	4歳児の育ちに注目する[近藤]
11	子どもの生活の場を知る[近藤]
12	子育てと子どもと地域と[鈴木]【レポート(知識)】
13	さまざまな課題を抱える子どもを支える地域[鈴木]【レポート(知識)】
14	地域をつくる、つなぐとは[鈴木]
15	まとめ[鈴木・近藤]

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】第1週オリエンテーションで、各教員ごとの講義内容を具体的に説明し、それに基づいた事前学習課題を示す。各授業に対して1時間半程度行う。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。また、関連する文献や社会的事象を調べ、現代社会と子育て環境を捉える。各授業に対して2時間半程度行う。

評価方法および評価の基準

各回の振り返りレポート15%、授業課題等による授業への参加度・意欲15%、レポート課題70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(24/60)

到達目標2.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(24/60)

到達目標3.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(12/60)

[フィードバック]フィードバックシートを活用し、次回の授業開始時にフィードバックを行ったり、講義内容に反映させていく。授業課題に関するフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テーマごとに各担当教員が資料を配布、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「子育てと環境」という言葉から、あなたはどのようなことを思いますか？

授業を通して女性の生き方を知り、子ども、保護者、地域に関して理解をしていきましょう。

科目名	子育てと環境		
担当教員名	鈴木 晴子、山田 陽子、長田 瑞恵、近藤 有紀子		
ナンバリング	NEc1015		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場及び特別支援教育の保育・教員実践、児童福祉施設等における職員研修等の経験を持つ教員の経験を活かし授業を行う。また、外部講師として生き生きとした子どもの姿を撮影し続けている写真家から、子どもや大人の表情について講話と質疑応答を通じて理解を持つ。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

2~4年前期と後期で開講される全学共通科目「女性の自立・生き方を学ぶ」の1科目で選択必修科目である。1年制の「子育てと環境」と同時開講である。

現代社会における女性の生き方と地域との共生、社会課題について取り扱う。

科目の概要

現代女性の優れたモデルである本学園創設者「十文字こと」先生の生き方を理解した上で、現代における「子育てと環境」について、「子どもでいること」・「親になること」・「地域で育つこと」の視点から学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義が中心である。適宜、視聴教材を使用し、外部講師による講義も予定している。毎回リアクションペーパーとして気づきや感想の記載を求める。【リアクションペーパー】【レポート(知識)】

到達目標

1. 豊かな子育てとは何かを理解し、考えたことを説明できる。
2. 女性の自立・生き方について理解し、説明できる。
3. 現代社会における女性の生き方と地域との共生、社会課題について考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 問題解決能力
- 2 社会への参画

内容

この授業は講義を基本とする。第1回から第14回授業に関しては、リアクションペーパーに取り組む。【リアクションペーパー】

1	「子育てと環境」に関するイントロダクション[山田・長田・鈴木・近藤]
2	女性の生き方 [山田]
3	女性の生き方 [山田]
4	子どもの表情および共に生きる大人たちの表情[山田]
5	母になること[長田]
6	親として[長田]
7	父になること[長田]
8	子どもとは[近藤]
9	子どもの育ちを学ぶ[近藤]
10	4歳児の育ちに注目する[近藤]
11	子どもの生活の場を知る[近藤]
12	子育てと子どもと地域と[鈴木]【レポート(知識)】
13	さまざまな課題を抱える子どもを支える地域[鈴木]【レポート(知識)】
14	地域をつくる、つなぐとは[鈴木]
15	まとめ[鈴木・近藤]

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】第1週オリエンテーションで、各教員ごとの講義内容を具体的に説明し、それに基づいた事前学習課題を示す。各授業に対して1時間半程度行う。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。また、関連する文献や社会的事象を調べ、現代社会と子育て環境を捉える。各授業に対して2時間半程度行う。

評価方法および評価の基準

各回の振り返りレポート15%、授業課題等による授業への参加度・意欲15%、レポート課題70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(24/60)

到達目標2.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(24/60)

到達目標3.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(12/60)

[フィードバック] フィードバックシートを活用し、次回の授業開始時にフィードバックを行ったり、講義内容に反映させていく。授業課題に関するフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テーマごとに各担当教員が資料を配布、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「子育てと環境」という言葉から、あなたはどのようなことを思いますか？

授業を通して女性の生き方を知り、子ども、保護者、地域に関して理解をしていきましょう。

科目名	女性と健康		
担当教員名	齋藤 麗子、徳野 裕子		
ナンバリング	NEc1016		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り(医師、管理栄養士)

実務経験および科目との関連性

保健衛生行政医師としての経験により、食中毒予防、アルコールやタバコの健康影響、性感染症、骨粗しょう症予防などの講義を実施し、管理栄養士の立場から健康を維持するための職や病気の予防のための食について講義している

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 女子大の特性を生かし、女性の健康問題の特に身近なテーマを具体的に事例を含め学ぶ。受講希望が多いため、前期、後期同様の授業を実施して、受講機会を増やしている。

科目の概要 高齢社会に向けて健康寿命を延伸するためには、女性に多い骨粗しょう症の予防、女性ホルモンの影響、栄養を考えた食生活、日頃の食中毒の知識と予防、未成年喫煙と飲酒の問題点、受動喫煙や性感染症などの知識を学び、妊娠・出産の正しい知識を得て、将来に備える。。

授業の方法 (ALを含む) 教科書、スライド、DVDなどを使用し知識を伝えるとともに、毎時間テーマごとに感想の記載を求める。最終回し学生による発表会で知識の確認を実施する。[リアクションペーパー]、[プレゼンテーション]

到達目標 学生自身が女性特有の健康問題を知り、将来にわたり個人や家庭の健康を維持することができる女性となる。さらに得られた知識を身近な人に伝え、将来の職場でも役立たせることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

卒業後に社会に役立つために、自立した女性となるべく、自分の健康を守ることを自覚する女性を育成する。ゲスト講師(高橋)は産婦人科校医である。

内容

1	健康寿命を延ばす知識 女性に多い骨粗しょう症の予防 (齋藤)
2	アルコールとの付き合い方 (齋藤)
3	女性を生きる共通授業 女性の生き方 (徳野)
4	女性ホルモンと月経 (高橋)
5	食べるということは (徳野)

6	おしゃれ障害 (齋藤)
7	食中毒の予防 (齋藤)
8	女性の体と妊娠・出産 (高橋)
9	健康を維持するための食について (徳野)
10	女性に多い病気の予防のための食 (徳野)
11	喫煙の女性や次世代への影響 (齋藤)
12	女性を生きる共通授業 女性の生き方 (徳野)
13	受動喫煙の無い社会は (齋藤)
14	性感染症の予防 (齋藤)
15	まとめの発表会 (齋藤)(徳野)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書を読む 45分

【事後学修】授業ごとに設問への答えと感想文の記入10分

評価方法および評価の基準

出席回数10回以上の者の中で、毎回の設問の回答と感想のコメントで知識の確認を実施して、自分自身の問題としてどのように理解し、行動変化に結びつけられるかを評価し採点し、総合評価60点以上を合格とする。出席回数は成績に反映される。教科書は必要となり受講者は必ず用意すること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「女性と健康」 齋藤麗子 徳野裕子 東京教学社

【参考図書】スポーツ栄養学 徳野裕子 東京教学社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習として事前に教科書を読み、教科書を元に授業を進めるため、教科書は必須である。また、女性の将来にわたる参考図書となりえる。

科目名	女性と健康		
担当教員名	齋藤 麗子、徳野 裕子		
ナンバリング	NEc1016		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

あり (医師、管理栄養士)

実務経験および科目との関連性

保健衛生行政医師としての経験により、食中毒予防、アルコールやタバコの健康影響、性感染症、骨粗しょう症予防などの講義を実施し、管理栄養士の立場から健康を維持するための職や病気の予防のための食について講義している

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 女子大の特性を生かし、女性の健康問題の特に身近なテーマを具体的に事例を含め学ぶ。受講希望が多いため、前期、後期同様の授業を実施して、受講機会を増やしている。

科目の概要 高齢社会に向けて健康寿命を延伸するためには、女性に多い骨粗しょう症の予防、女性ホルモンの影響、栄養を考えた食生活、日頃の食中毒の知識と予防、未成年喫煙と飲酒の問題点、受動喫煙や性感染症などの知識を学び、妊娠・出産の正しい知識を得て、将来に備える。。

授業の方法 (ALを含む) 教科書、スライド、DVDなどを使用し知識を伝えるとともに、毎時間テーマごとに感想の記載を求める。最終回では学生による発表会で知識の確認を実施する。[リアクションペーパー] [プレゼンテーション]

到達目標 学生自身が女性特有の健康問題を知り、将来にわたり個人や家庭の健康を維持できる女性となる。さらに得られた知識を身近な人に伝え、将来の職場でも役立たせることが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

卒業後に社会に役立つために、自立した女性となるべく、自分の健康を守ることを自覚する女性を育成する。(ゲスト講師は産婦人科医師である。)

内容

1	健康寿命を延ばす知識 女性に多い骨粗しょう症の予防 (齋藤)
2	アルコールとの付き合い方 (齋藤)
3	女性を生きる共通授業 女性の生き方 (徳野)
4	女性ホルモンと月経 (高橋)
5	食べるということは (徳野)

6	おしゃれ障害 (齋藤)
7	食中毒の予防 (齋藤)
8	女性の体と妊娠・出産 (高橋)
9	健康を維持するための食について (徳野)
10	女性に多い病気の予防のための食 (徳野)
11	喫煙の女性や次世代への影響 (齋藤)
12	女性を生きる共通授業 女性の生き方 (徳野)
13	受動喫煙の無い社会は (齋藤)
14	性感染症の予防 (齋藤)
15	まとめの発表会 (齋藤)(徳野)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書を読む 45分

【事後学修】授業ごとに設問への答えと感想文の記入 10分

評価方法および評価の基準

出席回数10回以上の者の中で、毎回の設問の回答と感想のコメントで知識の確認を実施して採点し、自分自身の問題としてどのように理解し、行動変化に結び付けられるかを評価し採点し、総合評価60点以上を合格とする。出席回数は成績に反映される。教科書は必要となり、受講者は必ず用意すること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「女性と健康」 齋藤麗子 徳野裕子 東京教学社

【参考図書】スポーツ栄養学 徳野裕子 東京教学社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習として事前に教科書を読み、教科書を元に授業を進めるため、教科書は必須である。また、女性の将来にわたる参考図書となりえる。

科目名	女性の心と身体		
担当教員名	金子 和正		
ナンバリング	NEc1017		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 共通科目の選択科目であり女性を生きる領域として、他の科目との連携から自身の心と身体について理解を深めていく。

科目の概要 大学生として修得しておくべき、人の体と心の働きについて理解する。

授業の方法 (ALを含む) 講義が中心であるが、視覚教材を十分に用いて具体的に身体の働き、心の働きを学ぶ。

到達目標 自身の身体がどのように成長し、加齢に伴って変化していくのかを様々な数値と比較しながら修得する。1. 人の身体の変化、2. 運動の効果、3. 疾病とその原因について理解をできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係 1 現代社会理解

内容

1	健康な体作りの実践をしていくための基本となる身体の正しい知識を理解する
2	身体について形態と機能について理解する
3	脳は人体の機能や生命活動をつかさどるだけでなく、精神活動も行っていることを学ぶ
4	体を構成する骨と筋肉について運動と関連付けて理解する
5	反射的な運動と、随意的な運動は何によって決められてくるのかを理解する
6	病気でない時は健康なのか、病気と健康について平均寿命や健康寿命の観点から理解する
7	適切なエネルギーの摂取と消費について、運動と栄養から理解する
8	心臓の働きと心筋について理解し、心拍数が体の指標となることを学ぶ
9	呼吸・循環機能が運動により発達していく過程について理解する
10	人間の側性について、スポーツゲームの特徴や関連性から理解する
11	身体の数値の測定から何が分かってくるのか、実際に測定し学んでいく
12	運動刺激による人間の身体の変化について理解する
13	加齢による形態的变化と機能的変化について理解する
14	加齢による怪我や病気はなぜ生じるのかを理解する
15	健康的な生き方について、健康寿命やQOLの側面から理解する

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを読んで45分以上の予習を行う。興味のある事柄について積極的に下調べをする。

【事後学修】リアクションペーパーを見て、45分間以上の授業の復習を行う。

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（30％）と筆記試験（70％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出（10％30％）、筆記試験（30％70％）

到達目標2 課題提出（10％30％）、筆記試験（30％70％）

到達目標3 課題提出（10％30％）、筆記試験（30％70％）

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、次週以降の授業時間内に返却し、解答をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

毎授業時に資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

自身の身体について積極的に知識の修得や運動による変化を楽しむことは重要である。

科目名	女性の心と身体		
担当教員名	金子 和正		
ナンバリング	NEc1017		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 共通科目の選択科目であり女性を生きる領域として、他の科目との連携から自身の心と身体について理解を深めていく。

科目の概要 大学生として修得しておくべき、人の体と心の働きについて理解する。

授業の方法 (ALを含む) 講義が中心であるが、視覚教材を十分に用いて具体的に身体の働き、心の働きを学ぶ。

到達目標 自身の身体がどのように成長し、加齢に伴って変化していくのかを様々な数値と比較しながら修得する。1. 人の身体の変化、2. 運動の効果、3. 疾病とその原因について理解をできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係 この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。1 現代社会理解

内容

1	健康な体作りの実践をしていくための基本となる身体の正しい知識を理解する
2	身体について形態と機能について理解する
3	脳は人体の機能や生命活動をつかさどるだけでなく、精神活動も行っていることを学ぶ
4	体を構成する骨と筋肉について運動と関連付けて理解する
5	反射的な運動と、随意的な運動は何によって決められてくるのかを理解する
6	病気でない時は健康なのか、病気と健康について平均寿命や健康寿命の観点から理解する
7	適切なエネルギーの摂取と消費について、運動と栄養から理解する
8	心臓の働きと心筋について理解し、心拍数が体の指標となることを学ぶ
9	呼吸・循環機能が運動により発達していく過程について理解する
10	人間の側性について、スポーツゲームの特徴や関連性から理解する
11	身体の数値の測定から何が分かってくるのか、実際に測定し学んでいく
12	運動刺激による人間の身体の変化について理解する
13	加齢による形態的变化と機能的変化について理解する
14	加齢による怪我や病気はなぜ生じるのかを理解する
15	健康的な生き方について、健康寿命やQOLの側面から理解する

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを読んで45分以上の予習を行う。興味のある事柄について積極的に下調べをする。

【事後学修】リアクションペーパーを見て、45分以上の授業の確認を行う。

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（30％）と筆記試験（70％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 課題提出（10％/30％）、筆記試験（30％/70％）

到達目標 2 課題提出（10％/30％）、筆記試験（30％/70％）

到達目標 3 課題提出（10％/30％）、筆記試験（30％/70％）

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、次週以降の授業時間内に返却し解答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

毎授業時に資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

自身の身体について積極的に知識の修得や運動による変化を楽しむことは重要である。

科目名	女性の心と身体		
担当教員名	加藤 優		
ナンバリング	NEc1017		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：学部共通科目「女性を生きる」の領域の講義科目である。こころとからだを通して、「健康」とは何かについて、実感を持って、感じ、考える授業である。

科目の概要：健康の現代的な意味を理解するとともに運動のメカニズムと運動することの必要性、その効用などについて、自分のからだの体組成を調べたり、自分の生活を振り返ったりしながら具体的な資料や体験に基づいた内容を取り入れた授業を進める。

授業の方法：資料と講義をもとに健康とからだの関係を総合的に理解し、毎回のリアクションペーパーを使って理解の定着を図る。

学修目標：生涯を健康でこころ豊かに過ごせるように、「健康」「運動」「こころとからだ」などをキーワードに、総合的に理解を深める。

(1) 学生自らが自分の生活を振り返りながら、「健康」の重要性を実践的に理解できる。

(2) 学生が自分自身のからだの仕組みと運動との関係を理解できる。

：ディプロマポリシーとの関係：

- 1 現代社会理解

内容

- 第1回 人間らしさの本質
- 第2回 人間らしさと運動
- 第3回 基本的な健康生活
- 第4回 測定できる身体 (自分のからだを知る)
- 第5回 人生80年と健康
- 第6回 現代社会と運動と肥満
- 第7回 私たちのからだと運動 (運動のメカニズム)
- 第8回 私たちのからだと運動 (運動の種類と方法)
- 第9回 健康と運動の質
- 第10回 健康と運動の量
- 第11回 健康と運動と食事
- 第12回 健康と運動と精神的健康
- 第13回 現代社会が抱える健康問題 (こころとからだ)
- 第14回 現代社会が抱える健康問題 (大人と子ども)
- 第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める(60分)

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

毎回授業終了時の小レポート(15回×4点=60点)を課し、期末試験(40点)とともに以下の基準で総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)小レポート(30/60)、期末テスト(20/40)

到達目標(2)小レポート(30/60)、期末テスト(20/40)

【フィードバック】小レポートすべてに対してコメント入りで返却し、前回授業の質疑等については返答、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

基本的にはプリントを配布し、参考資料は授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	女性の心と身体		
担当教員名	加藤 優		
ナンバリング	NEc1017		
学 科	共通科目 (N/E/S) -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：学部共通科目「女性を生きる」の領域の講義科目である。こころとからだを通して、「健康」とは何かについて、実感を持って、感じ、考える授業である。

科目の概要：健康の現代的な意味を理解するとともに運動のメカニズムと運動することの必要性、その効用などについて、自分のからだの体組成を調べたり、自分の生活を振り返ったりしながら具体的な資料や体験に基づいた内容を取り入れた授業を進める。

授業の方法：資料と講義をもとに健康とからだの関係を総合的に理解し、毎回のリアクションペーパーを使って理解の定着を図る。

学修目標：生涯を健康でこころ豊かに過ごせるように、「健康」「運動」「こころとからだ」などをキーワードに、総合的に理解を深める。

(1) 学生自らが自分の生活を振り返りながら、「健康」の重要性を実践的に理解できる。

(2) 学生が自分自身のからだの仕組みと運動との関係を理解できる。

：ディプロマポリシーとの関係：

- 1 現代社会理解

内容

- 第1回 人間らしさの本質
- 第2回 人間らしさと運動
- 第3回 基本的な健康生活
- 第4回 測定できる身体 (自分のからだを知る)
- 第5回 人生80年と健康
- 第6回 現代社会と運動と肥満
- 第7回 私たちのからだと運動 (運動のメカニズム)
- 第8回 私たちのからだと運動 (運動の種類と方法)
- 第9回 健康と運動の質
- 第10回 健康と運動の量
- 第11回 健康と運動と食事
- 第12回 健康と運動と精神的健康
- 第13回 現代社会が抱える健康問題 (こころとからだ)
- 第14回 現代社会が抱える健康問題 (大人と子ども)
- 第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める(60分)

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

毎回授業終了時の小レポート(15回×4点=60点)を課し、期末試験(40点)とともに以下の基準で総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)小レポート(30/60)、期末テスト(20/40)

到達目標(2)小レポート(30/60)、期末テスト(20/40)

【フィードバック】小レポートすべてに対してコメント入りで返却し、前回授業の質疑等については返答、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

基本的にはプリントを配布し、参考資料は授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	女性の心と身体		
担当教員名	飯田 路佳、布施 晴美		
ナンバリング	NEc1017		
学 科	共通科目（N/E/S） -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小児科看護師および看護教員の経験の元、乳児期から思春期の子どもの心と身体の発達に関わってきた。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：「女性を生きる」領域の講義科目である。こころとからだを通じ、「女性の心と身体とは何か」について、実感を持って、感じ、考える授業である。

科目の概要：「世の中にたちかひある人と生きなむ」と謳われているように、世の中に出て社会的な役割を十分に果たすためには、各自の心身へのたえまない洞察と働きかけが必要となる。本授業では、生物学的な視点と運動学的な視点をベースとして、その洞察と働きかけに関する知見を提供する。

授業を通して女性の生き方としての教養を深め、しなやかに日々を過ごすための素地を整える。

授業の方法（ALを含む）

2週または3週に1回グループ編成し、グループワークを行う。授業の終了時にはリアクションペーパーを記入し、翌週にその中の質問や意見を取り上げ振り返る形式をとる。【リアクションペーパー】【グループワーク】

到達目標：生涯を女性として心豊かに過ごせるように、「女性」「こころ」「からだ」「運動」等をキーワードとして総合的に理解を深める。

1. 「自分を知る」ことで、自分への気づきを深める。
2. 「自ら考える」ことの必要性を理解し、自分なりの魅力的な女性とは何か、自分らしさを探るヒントとする。
3. 「情報を得る」ことの重要性を知り、教養への興味を深める。
4. 「実践に移す」ことで、自分の変化が顕われることを知る。
5. 「他人の考え」を知ることで、世の中には様々な考え方があり、その中での自分の軸を探る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 現代社会理解

内容

身近におこる様々な女性のからだどころに関する問題を取り上げ、生涯を“生き生きと輝く心とからだ”で生き抜くためにはどうしたらよいか、グループワーク、ディスカッションなどを通じてともに考え、論じ合う。特に、この年代での女性の生き方が、いかに将来の生活に大きく影響するか、その重要性を理解する。またそのために、「自分を知る」ことを授業の根底に流れる目標として、女性である自分に対する理解をより深め、行動し実践して行くことをめざす。

1	オリエンテーション（健康とは）	飯田 布施
2	男の子・女の子の分かれ道	布施
3	女性と男性の会話	内田
4	こころの健康（私達が健康を感じていくために）	飯田

5	からだの各部位とデータ	飯田
6	測定値の検証	飯田
7	エネルギー所要量と運動の仕組み	飯田
8	運動と栄養の考え方	飯田
9	女性のからだ(1) 女性ホルモンと月経	布施
10	女性のからだ(2) 妊娠 人口妊娠中絶...	布施
11	いのち・子育て・人生設計のヒント	布施
12	依存とその考え方(薬物、スマホ、その他)	飯田
13	これまでとこれから(人生設計の実践)	飯田
14	危機管理	飯田
15	まとめ	布施 飯田

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

予習：毎回次回のことについて課題を伝え、それについて考えてくる。(各授業に対して45分)

復習：今回の内容について、学びを振り返り、授業ノートを作成する。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

平常点(学習態度および毎回のリアクションペーパー提出)50%、課題提出(3回)20%、最終レポート提出30%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

到達目標1. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標2. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標3. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標4. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標5. 平常点10%/50%、課題提出0%/20%、最終レポート提出10%/30%

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

基本的にはプリントを配布し、参考資料は授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回授業終了時にその日のまとめを必ず提出する。

科目名	女性の心と身体		
担当教員名	飯田 路佳、布施 晴美		
ナンバリング	NEc1017		
学 科	共通科目（N/E/S） -女性を生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小児科看護師および看護教員の経験の元、乳児期から思春期の子どもの心と身体の発達に関わってきた。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：「女性を生きる」領域の講義科目である。こころとからだを通じ、「女性の心と身体とは何か」について、実感を持って、感じ、考える授業である。

科目の概要：「世の中にたちかひある人と生きなむ」と謳われているように、世の中に出て社会的な役割を十分に果たすためには、各自の心身へのたえまない洞察と働きかけが必要となる。本授業では、生物学的な視点と運動学的な視点をベースとして、その洞察と働きかけに関する知見を提供する。

授業を通して女性の生き方としての教養を深め、しなやかに日々を過ごすための素地を整える。

授業の方法（ALを含む）

2週または3週に1回グループ編成し、グループワークを行う。授業の終了時にはリアクションペーパーを記入し、翌週にその中の質問や意見を取り上げ振り返る形式をとる。【リアクションペーパー】【グループワーク】

到達目標：生涯を女性として心豊かに過ごせるように、「女性」「こころ」「からだ」「運動」等をキーワードとして総合的に理解を深める。

1. 「自分を知る」ことで、自分への気づきを深める。
2. 「自ら考える」ことの必要性を理解し、自分なりの魅力的な女性とは何か、自分らしさを探るヒントとする。
3. 「情報を得る」ことの重要性を知り、教養への興味を深める。
4. 「実践に移す」ことで、自分の変化が顕われることを知る。
5. 「他人の考え」を知ることで、世の中には様々な考え方があり、その中での自分の軸を探る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 現代社会理解

内容

身近におこる様々な女性のからだこころに関する問題を取り上げ、生涯を“生き生きと輝く心とからだ”で生き抜くためにはどうしたらよいか、グループワーク、ディスカッションなどを通じてともに考え、論じ合う。特に、この年代での女性の生き方が、いかに将来の生活に大きく影響するか、その重要性を理解する。またそのために、「自分を知る」ことを授業の根底に流れる目標として、女性である自分に対する理解をより深め、行動し実践して行くことをめざす。

1	オリエンテーション（健康とは）	飯田 布施
2	男の子・女の子の分かれ道	布施
3	女性と男性の会話	内田
4	こころの健康（私達が健康を感じていくために）	飯田

5	からだの各部位とデータ	飯田
6	測定値の検証	飯田
7	エネルギー所要量と運動の仕組み	飯田
8	運動と栄養の考え方	飯田
9	女性のからだ(1) 女性ホルモンと月経	布施
10	女性のからだ(2) 妊娠 人口妊娠中絶...	布施
11	いのち・子育て・人生設計のヒント	布施
12	依存とその考え方(薬物、スマホ、その他)	飯田
13	これまでとこれから(人生設計の実践)	飯田
14	危機管理	飯田
15	まとめ	布施 飯田

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

予習：毎回次回のことについて課題を伝え、それについて考えてくる。(各授業に対して45分)

復習：今回の内容について、学びを振り返り、授業ノートを作成する。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

平常点(学習態度および毎回のリアクションペーパー提出)50%、課題提出(3回)20%、最終レポート提出30%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

到達目標1. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標2. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標3. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標4. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標5. 平常点10%/50%、課題提出0%/20%、最終レポート提出10%/30%

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

基本的にはプリントを配布し、参考資料は授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回授業終了時にその日のまとめを必ず提出する。

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	AAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

ー 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作 1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作 2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作 3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作 4 (文書の編集機能 図形の描画)
7	プレゼンテーションソフトの基本操作 (プレゼンテーション資料の作成)

8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	ABクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで必修科目であり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決型のスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作4 (文書の編集機能 図形の描画)

7	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	BAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

ー 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容	
1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作 1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作 2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作 3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作 4 (文書の編集機能 図形の描画)
7	プレゼンテーションソフトの基本操作 (プレゼンテーション資料の作成)

8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	BBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで必修科目であり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決型のスタイルをとる。

学修目標=(到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作4 (文書の編集機能 図形の描画)

7	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	CAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

ー 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作 1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作 2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作 3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作 4 (文書の編集機能 図形の描画)
7	プレゼンテーションソフトの基本操作 (プレゼンテーション資料の作成)

8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	DAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

ー 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作 1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作 2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作 3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作 4 (文書の編集機能 図形の描画)
7	プレゼンテーションソフトの基本操作 (プレゼンテーション資料の作成)

8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目（N/E/S） -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	DBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで必修科目であり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法（ALを含む）

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決型のスタイルをとる。

学修目標=（到達目標）

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作1（文書の作成と管理）
4	ワープロソフトの基本操作2（文書の編集機能 表作成）
5	ワープロソフトの基本操作3（文書の編集機能 レイアウト）
6	ワープロソフトの基本操作4（文書の編集機能 図形の描画）

7	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	EAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

ー 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作 1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作 2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作 3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作 4 (文書の編集機能 図形の描画)
7	プレゼンテーションソフトの基本操作 (プレゼンテーション資料の作成)

8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	EBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで必修科目であり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決型のスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作4 (文書の編集機能 図形の描画)

7	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	FAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

ー 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作 1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作 2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作 3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作 4 (文書の編集機能 図形の描画)
7	プレゼンテーションソフトの基本操作 (プレゼンテーション資料の作成)

8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	GAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで必修科目であり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決型のスタイルをとる。

学修目標=(到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作4 (文書の編集機能 図形の描画)

7	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	GBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

ー 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作 1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作 2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作 3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作 4 (文書の編集機能 図形の描画)
7	プレゼンテーションソフトの基本操作 (プレゼンテーション資料の作成)

8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	HAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

ー 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作 1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作 2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作 3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作 4 (文書の編集機能 図形の描画)
7	プレゼンテーションソフトの基本操作 (プレゼンテーション資料の作成)

8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	HBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで必修科目であり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決型のスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作4 (文書の編集機能 図形の描画)

7	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目（N/E/S） -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	JAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「情報処理」領域の必修科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための基本的なICTスキルと情報リテラシーについて学修する。

科目の概要

課題解決に必要な情報の収集・加工・発信のため、学内の情報システムや各種インターネットサービスの基礎知識・利用方法と、文書処理ソフトウェアによる各種文書作成の基礎スキルを修得する。

授業の方法（ALを含む）

実技を交えながら解説した後、総合的な課題演習を実施する。【実技】【ミニテスト】

到達目標

1. 学内の情報システムを理解し、利用できる。
2. 電子メール等の各種インターネットサービスを情報モラル等に留意して安全・正しく利用できる。
3. 文書処理ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
4. 文書処理ソフトウェアを活用してレポート等の基本的な文書が作成ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 ICTスキル・情報リテラシ

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報システムと利用方法 【実技】
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意（情報モラル等） 【実技】
3	文書の作成と管理（作成・移動・書式設定） 【実技】
4	文書の作成と管理（オプションと表示のカスタマイズ・印刷・保存） 【実技】
5	文字、段落、セクションの書式設定（挿入・書式設定） 【実技】

6	文字、段落、セクションの書式設定（並べ替え・グループ化）【実技】
7	表やリストの作成【実技】
8	参考資料の作成と管理【実技】
9	グラフィック要素の挿入と書式設定【実技】
10	総合演習1【実技】【ミニテスト】
11	総合演習2【実技】【ミニテスト】
12	総合演習3【実技】【ミニテスト】
13	総合演習4【実技】【ミニテスト】
14	総合演習5【実技】【ミニテスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておくとともに、疑問点等授業で確認が必要な事項を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。理解が不十分な内容については、質問項目を整理しておく（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 学内の情報システムを理解し、利用できる。
総合演習：2%×5回
2. 電子メール等の各種インターネットサービスを情報モラル等に留意して安全・正しく利用できる。
総合演習：2%×5回
3. 文書処理ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
総合演習：8%×5回
4. 文書処理ソフトウェアを活用してレポート等の基本的な文書が作成ができる。
総合演習：8%×5回

総合演習：20点×5回＝100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】採点、解説などは専用アプリケーションにより行う。復習の徹底と理解の定着のため、再提出の機会を設ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト&問題集 第2版、FOM出版、2019

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目（N/E/S） -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	JBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「情報処理」領域の必修科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための基本的なICTスキルと情報リテラシー、各種文書作成・管理について学修する。

科目の概要

課題解決に必要な情報の収集・加工・発信のため、学内の情報システムや各種インターネットサービスの基礎知識・利用方法と、文書処理ソフトウェアによる各種文書作成の基礎スキルを修得する。

授業の方法（ALを含む）

実技を交えながら講義・解説を行い、結果や成果物を提出していく。単元等の終了に合わせて総合的な課題演習を実施する。**【実技】【ミニテスト】**

到達目標

1. コンピュータの基本的な知識・操作を理解し、学内の情報システムを利用できる。
2. 電子メール等の各種インターネットサービスを情報モラル等に留意して安全・正しく利用できる。
3. 文書処理ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
4. 文書処理ソフトウェアを活用してレポート等の基本的な文書が作成ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報システムと利用方法【実技】
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意（情報モラル等）【実技】
3	文書の作成と管理（作成・移動・書式設定）【実技】
4	文書の作成と管理（オプションと表示のカスタマイズ・印刷・保存）【実技】
5	文字、段落、セクションの書式設定（挿入・書式設定）【実技】
6	文字、段落、セクションの書式設定（並べ替え・グループ化）【実技】
7	表やリストの作成【実技】
8	参考資料の作成と管理【実技】
9	グラフィック要素の挿入と書式設定【実技】
10	総合演習1：文書の作成と管理【実技】【ミニテスト】

11	総合演習2：文字、段落、セクションの書式設定【実技】【ミニテスト】
12	総合演習3：表やリストの作成【実技】【ミニテスト】
13	総合演習4：参考資料の作成と管理【実技】【ミニテスト】
14	総合演習5：グラフィック要素の挿入と書式設定【実技】【ミニテスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習内容の多くがつながっているため、復習と並行して次回の演習内容を読み、把握・理解しておく。（各授業に対して50分）

【事後学修】授業時に不十分と感じた項目を中心に、繰り返して復習を行う。合わせてその項目自体を把握し、質問項目として整理しておく。（各授業に対して70分）

評価方法および評価の基準

授業全体では各回・単元ごとの課題の提出（70%）と平常点（30%）とし、60点以上を合格とする。到達目標ごとの配分は次の通りとする。

1. 課題の提出（20%/70%）・平常点（10%/30%） / 2. 課題の提出（10%/70%）・平常点（5%/30%）
3. 課題の提出（20%/70%）・平常点（10%/30%） / 4. 課題の提出（20%/70%）・平常点（5%/30%）

【フィードバック】翌週以降に解答の提示や説明などを行う。それらに基づく再提出の機会を設け、各回の実技を複数回行うことで復習の徹底・理解の定着を目指す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト&問題集、FOM出版、2017

実習室の環境に合わせる必要があるため、初回の授業時に詳細を指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目（N/E/S） -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	JCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「情報処理」領域の必修科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための基本的なICTスキルと情報リテラシーについて学修する。

科目の概要

課題解決に必要な情報の収集・加工・発信のため、学内の情報システムや各種インターネットサービスの基礎知識・利用方法と、文書処理ソフトウェアによる各種文書作成の基礎スキルを修得する。

授業の方法（ALを含む）

実技を交えながら解説した後、総合的な課題演習を実施する。【実技】【ミニテスト】

到達目標

1. 学内の情報システムを理解し、利用できる。
2. 電子メール等の各種インターネットサービスを情報モラル等に留意して安全・正しく利用できる。
3. 文書処理ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
4. 文書処理ソフトウェアを活用してレポート等の基本的な文書が作成ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 ICTスキル・情報リテラシ

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報システムと利用方法 【実技】
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意（情報モラル等） 【実技】
3	文書の作成と管理（作成・移動・書式設定） 【実技】
4	文書の作成と管理（オプションと表示のカスタマイズ・印刷・保存） 【実技】
5	文字、段落、セクションの書式設定（挿入・書式設定） 【実技】

6	文字、段落、セクションの書式設定（並べ替え・グループ化）【実技】
7	表やリストの作成【実技】
8	参考資料の作成と管理【実技】
9	グラフィック要素の挿入と書式設定【実技】
10	総合演習1【実技】【ミニテスト】
11	総合演習2【実技】【ミニテスト】
12	総合演習3【実技】【ミニテスト】
13	総合演習4【実技】【ミニテスト】
14	総合演習5【実技】【ミニテスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておくとともに、疑問点等授業で確認が必要な事項を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。理解が不十分な内容については、質問項目を整理しておく（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

総合演習：20点×5回＝100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】採点、解説などは専用アプリケーションにより行う。復習の徹底と理解の定着のため、再提出の機会を設ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト&問題集 第2版、FOM出版、2019

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	名兎耶 厚		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	ECクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで必修科目であり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

実技を交えながら講義・解説を行い、結果や成果物を提出していく。単元等の終了に合わせて総合的な課題演習を実施する。【実技】【ミニテスト】

学修目標=(到達目標)

1. 学内の情報環境を理解し、利用できる。
2. 電子メール等、インターネットを活用することができる。
3. 文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。
4. プレゼンテーション資料を作成することができる。
5. 表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作 1 (文書の作成と管理)

4	ワープロソフトの基本操作2（文書の編集機能 表作成）
5	ワープロソフトの基本操作3（文書の編集機能 レイアウト）
6	ワープロソフトの基本操作4（文書の編集機能 図形の描画）
7	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習内容の多くがつながっているため、復習と並行して次回の演習内容を読み、把握・理解しておく。（各授業に対して50分）

【事後学修】授業時に不十分と感じた項目を中心に、繰り返して復習を行う。合わせてその項目自体を把握し、質問項目として整理しておく。（各授業に対して70分）

評価方法および評価の基準

各到達目標に対し、以下のような配分とする。

1. 課題の提出10%、平常点10%、
2. 課題の提出10%、平常点10%、
3. 課題の提出10%、平常点10%、
4. 課題の提出10%、平常点10%、
5. 課題の提出10%、平常点10%

以上の内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】翌週以降に解答の提示や説明などを行う。それらに基づく再提出の機会を設け、各回の実技を複数回行うことで復習の徹底・理解の定着を目指す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】詳細は授業開始時に指示する。

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	GCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで必修科目であり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット活用、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決型のスタイルをとる。

学修目標= (到達目標)

学内の情報環境を理解し、利用できる。

電子メール等、インターネットを活用することができる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意
3	ワープロソフトの基本操作1 (文書の作成と管理)
4	ワープロソフトの基本操作2 (文書の編集機能 表作成)
5	ワープロソフトの基本操作3 (文書の編集機能 レイアウト)
6	ワープロソフトの基本操作4 (文書の編集機能 図形の描画)

7	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
8	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
9	プレゼンテーションの実施
10	表計算ソフトの特長（数の表現等）
11	表計算ソフトの基本操作1（さまざまな計算）
12	表計算ソフトの基本操作2（グラフ表現）
13	表計算ソフトの基本操作3（データ分析）
14	総合課題演習1（レポート作成）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 学内の情報環境を理解し、利用できる。（レポート10%、平常点10%）

電子メール等、インターネットを活用することができる。（レポート10%、平常点10%）

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

プレゼンテーション資料を作成することができる。（レポート10%、平常点10%）

表計算ソフトを使って基礎的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ基礎的なデータ分析を行うことができる。（レポート10%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

【参考図書】学習サポートの手引き 図書館／情報センター／コンピュータ演習室の使い方(仮)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング	NEf1031		
学 科	共通科目（N/E/S） -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	ECクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「情報処理」領域の必修科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための基本的なICTスキルと情報リテラシー、各種文書作成・管理について学修する。

科目の概要

課題解決に必要な情報の収集・加工・発信のため、学内の情報システムや各種インターネットサービスの基礎知識・利用方法と、文書処理ソフトウェアによる各種文書作成の基礎スキルを修得する。

授業の方法（ALを含む）

実技を交えながら講義・解説を行い、結果や成果物を提出していく。単元等の終了に合わせて総合的な課題演習を実施する。**【実技】【ミニテスト】**

到達目標

1. コンピュータの基本的な知識・操作を理解し、学内の情報システムを利用できる。
2. 電子メール等の各種インターネットサービスを情報モラル等に留意して安全・正しく利用できる。
3. 文書処理ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
4. 文書処理ソフトウェアを活用してレポート等の基本的な文書が作成ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 ICTスキル・情報リテラシ

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報システムと利用方法【実技】
2	電子メールとウェブサイトなどネットワーク利用時の注意（情報モラル等）【実技】
3	文書の作成と管理（作成・移動・書式設定）【実技】
4	文書の作成と管理（オプションと表示のカスタマイズ・印刷・保存）【実技】
5	文字、段落、セクションの書式設定（挿入・書式設定）【実技】
6	文字、段落、セクションの書式設定（並べ替え・グループ化）【実技】
7	表やリストの作成【実技】
8	参考資料の作成と管理【実技】
9	グラフィック要素の挿入と書式設定【実技】
10	総合演習1：文書の作成と管理【実技】【ミニテスト】

11	総合演習2：文字、段落、セクションの書式設定【実技】【ミニテスト】
12	総合演習3：表やリストの作成【実技】【ミニテスト】
13	総合演習4：参考資料の作成と管理【実技】【ミニテスト】
14	総合演習5：グラフィック要素の挿入と書式設定【実技】【ミニテスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習内容の多くがつながっているため、復習と並行して次回の演習内容を読み、把握・理解しておく。（各授業に対して50分）

【事後学修】授業時に不十分と感じた項目を中心に、繰り返して復習を行う。合わせてその項目自体を把握し、質問項目として整理しておく。（各授業に対して70分）

評価方法および評価の基準

授業全体では各回・単元ごとの課題の提出（70%）と平常点（30%）とし、60点以上を合格とする。到達目標ごとの配分は次の通りとする。

1. 課題の提出（20%/70%）・平常点（10%/30%） / 2. 課題の提出（10%/70%）・平常点（5%/30%）
3. 課題の提出（20%/70%）・平常点（10%/30%） / 4. 課題の提出（20%/70%）・平常点（5%/30%）

【フィードバック】翌週以降に解答の提示や説明などを行う。それらに基づく再提出の機会を設け、各回の実技を複数回行うことで復習の徹底・理解の定着を目指す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト&問題集、FOM出版、2017

実習室の環境に合わせる必要があるため、初回の授業時に詳細を指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	AAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。（レポート20%、平常点20%）

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。（レポート20%、平常点10%）

さまざまな情報機器、入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。（レポート20%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしてもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目（N/E/S） - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	ABクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法（ALを含む）

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標（＝到達目標）

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器、入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習1（関数の応用）
2	表計算ソフトの問題演習2（応用的なグラフ作成）
3	表計算ソフトの応用操作1（データベース基礎）
4	表計算ソフトの応用操作2（データベース応用）
5	表計算ソフトの応用操作3（データベース発展）
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	BAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。（レポート20%、平常点20%）

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。（レポート20%、平常点10%）

さまざまな情報機器、入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。（レポート20%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしてもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	BBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目（N/E/S） - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	CAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法（ALを含む）

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標（＝到達目標）

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器、入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1（関数の応用）
2	表計算ソフトの問題演習 2（応用的なグラフ作成）
3	表計算ソフトの応用操作 1（データベース基礎）
4	表計算ソフトの応用操作 2（データベース応用）
5	表計算ソフトの応用操作 3（データベース発展）
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して 6 0 分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して 6 0 分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしてもらう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	DAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしてもらう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	EAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して 6 0 分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して 6 0 分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしてもらう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	EBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	FAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。（レポート20%、平常点20%）

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。（レポート20%、平常点10%）

さまざまな情報機器、入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。（レポート20%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしてもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目（N/E/S） - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	GAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法（ALを含む）

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標（＝到達目標）

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器、入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習1（関数の応用）
2	表計算ソフトの問題演習2（応用的なグラフ作成）
3	表計算ソフトの応用操作1（データベース基礎）
4	表計算ソフトの応用操作2（データベース応用）
5	表計算ソフトの応用操作3（データベース発展）
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	GBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。（レポート20%、平常点20%）

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。（レポート20%、平常点10%）

さまざまな情報機器、入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。（レポート20%、平常点10%）

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしてもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) -情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	JAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「情報処理」領域の選択科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための基本的なICTスキルと情報リテラシーについて学修する。

科目の概要

ワークシートやブックの作成・管理、数式や関数の適用、グラフやオブジェクトの作成など、表計算ソフトウェアの基本的な機能・操作方法を学び、レポートや卒業論文など各種文書で必要とされる表計算・グラフ作成の基礎スキルを修得する。

授業の方法 (ALを含む)

実技を交えながら解説した後、総合的な課題演習を実施する。【実技】【ミニテスト】

到達目標

1. 表計算ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
2. 表計算ソフトウェアを活用して基本的な表計算・グラフ作成ができる。
3. 課題解決のための基本的なデータ集計および資料作成ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 ICTスキル・情報リテラシ

内容

1	オリエンテーション
2	ワークシートやブックの作成と管理 (作成・移動・書式設定) 【実技】
3	ワークシートやブックの作成と管理 (オプション・表示のカスタマイズ) 【実技】
4	セルやセル範囲の作成 (データの挿入・書式設定) 【実技】
5	セルやセル範囲の作成 (データの集計・整理) 【実技】
6	テーブルの作成 【実技】

7	数式や関数の適用 【実技】
8	グラフやオブジェクトの作成（グラフの作成・書式設定） 【実技】
9	グラフやオブジェクトの作成（オブジェクトの作成・書式設定） 【実技】
10	総合演習1 【実技】【ミニテスト】
11	総合演習2 【実技】【ミニテスト】
12	総合演習3 【実技】【ミニテスト】
13	総合演習4 【実技】【ミニテスト】
14	総合演習5 【実技】【ミニテスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておくとともに、疑問点等授業で確認が必要な事項を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。理解が不十分な内容については、質問項目を整理しておく（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 表計算ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
総合演習：8%×5回
2. 表計算ソフトウェアを活用して基本的な表計算・グラフ作成ができる。
総合演習：6%×5回
3. 課題解決のための基本的なデータ集計および資料作成ができる。
総合演習：6%×5回

総合演習：20点×5回＝100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】採点、解説などは専用アプリケーションにより行う。復習の徹底と理解の定着のため、再提出の機会を設ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Special
ist Microsoft Excel 2016 対策テキスト&問題集、FOM出版、2017

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	JBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「情報処理」領域の選択科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための基本的なICTスキルと情報リテラシー、集計・データ処理について学修する。

科目の概要

ワークシートやブックの作成・管理、数式や関数の適用、グラフやオブジェクトの作成など、表計算ソフトウェアの基本的な機能・操作方法を学び、レポートや卒業論文など各種文書で必要とされる表計算・グラフ作成の基礎スキルを修得する。

授業の方法 (ALを含む)

実技を交えながら講義・解説を行い、結果や成果物を提出していく。単元等の終了に合わせて総合的な課題演習を実施する。**【実技】【ミニテスト】**

到達目標

1. コンピュータの基本的な知識・操作に基づきデータの操作・管理を適切に行える。
2. 表計算ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
3. 表計算ソフトウェアを活用して基本的な表計算・グラフ作成ができる。
4. 課題解決のための基本的なデータ集計および資料作成ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション (授業の進め方、資格試験概要など) 【実技】
2	ワークシートやブックの作成と管理 (作成・移動・書式設定) 【実技】
3	ワークシートやブックの作成と管理 (オプション・表示のカスタマイズ) 【実技】
4	セルやセル範囲の作成 (データの挿入・書式設定) 【実技】
5	セルやセル範囲の作成 (データの集計・整理) 【実技】
6	テーブルの作成 【実技】
7	数式や関数の適用 【実技】
8	グラフやオブジェクトの作成 (グラフの作成・書式設定) 【実技】
9	グラフやオブジェクトの作成 (オブジェクトの作成・書式設定) 【実技】
10	総合演習1: ワークシートやブックの作成と管理 【実技】【ミニテスト】

11	総合演習2：セルやセル範囲の作成【実技】【ミニテスト】
12	総合演習3：テーブルの作成【実技】【ミニテスト】
13	総合演習4：数式や関数の適用【実技】【ミニテスト】
14	総合演習5：グラフやオブジェクトの作成【実技】【ミニテスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習内容の多くがつながっているため、復習と並行して次回の演習内容を読み、内容を理解しておく。（各授業に対して50分）

【事後学修】授業時に不十分と感じた項目を中心に、繰り返して復習を行う。合わせてその項目自体を把握し、質問項目として整理しておく。（各授業に対して70分）

評価方法および評価の基準

授業全体では各回・単元ごとの課題の提出（70%）と平常点（30%）とし、60点以上を合格とする。到達目標ごとの配分は次の通りとする。

1. 課題の提出（10%/70%）・平常点（5%/30%） / 2. 課題の提出（20%/70%）・平常点（10%/30%）
3. 課題の提出（20%/70%）・平常点（10%/30%） / 4. 課題の提出（20%/70%）・平常点（5%/30%）

【フィードバック】翌週以降に解答の提示や説明などを行う。それらに基づく再提出の機会を設け、各回の実技を複数回行うことで復習の徹底・理解の定着を目指す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2016 対策テキスト&問題集、FOM出版、2017

実習室の環境に合わせる必要があるため、初回の授業時に詳細を指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	NEf2031		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 情報処理演習		
学 年	1	ク ラ ス	FBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合日本語 a		
担当教員名	稲田 朋晃		
ナンバリング	NEi1048		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 日本語 (非母語者向)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、非母語話者の日本語運用能力を高めるための科目である。日本語学修プログラム (留学生向け) の必修科目にあたる。

科目の概要

読む・書く・聞く・話すの4技能の向上を目指す「総合日本語」科目である。「言語と文化」、「人との関係」などのトピックに基づき、キャンパス内外で実際に起こりうる場面を想定したコミュニケーションの練習を行う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、「聞く練習」「話す練習」「読む練習」「書く練習」など運用練習を中心に進める。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート (表現)】【ロールプレイ】

到達目標

CEFR B1~B2レベルの定着を目指す。(B1: 日常生活で遭遇するような身近な話題について、主要点を理解したり、まとまりのあることを話したりすることができる。B2: 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。)

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力、
- 2 書き表す力、
- 5 日本語運用能力

内容

1	オリエンテーション
2	トピック1「どんな人?」: 聞く練習
3	: 話す練習
4	: 読む練習
5	: 書く練習

6	トピック2「富士登山」：聞く練習
7	：話す練習
8	：読む練習
9	：書く練習
10	トピック3「健康的な生活」：聞く練習
11	：話す練習
12	：読む練習、書く練習
13	トピック4「舞台を見るなら」：聞く練習
14	：話す練習
15	：読む練習、書く練習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の次週扱う部分に目を通し、語彙や表現を確認しておく。[60分]

【事後学修】授業で学習した内容を見直し、できるところとできないところを確認する。できないところは練習する。[60分]

評価方法および評価の基準

【評価方法・評価基準】授業への取り組み：30%、課題への取り組み：70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『まるごと 日本のことばと文化 中級2』（三修社）

【推薦書】教室で指示する

【参考図書】教室で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合日本語 b		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	NEi1048		
学 科	共通科目 (N/E/S) -日本語 (非母語者向)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の「日本語(非母語者向)」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの必修科目である。非母語話者の日本語運用能力を高めるための科目である。

科目の概要

読む・書く・聞く・話すの4技能の向上を目指す「総合日本語」科目である。

「言語と文化」、「人との関係」などのトピックに基づき、キャンパス内外で実際に起こりうる場面を想定したコミュニケーションの練習を行う。

授業の方法 (ALを含む)

テキストをもとに、各トピックに関する語彙・表現の学習や、聴解、読解、会話練習などを行う。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【ロールプレイ】

到達目標

CEFR B1～B2前半レベルの定着を目指す。(B1:日常生活で遭遇するような身近な話題について、主要点を理解したり、まとまりのあることを話したりすることができる。B2:自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。)

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力、 -5論理的に表現する力、 -5日本語運用能力

内容

様々なトピックについて、ペアやグループで話し合ったり、レポートを書いたり、発表したりしながら、日本語能力や異文化理解能力を高めます。

1	オリエンテーション、自己評価チェックリスト
2	トピック5「身近なニュース」1 ニュースを聞く、自分が見たニュースについて話す
3	トピック5「身近なニュース」2 自分の国のニュースについて説明する

4	トピック5「身近なニュース」3 ウェブニュースや新聞などの記事を読む
5	トピック6「これが欲しい！」1 ある日用品に関するやりとりを聞く、欲しいものとその理由について話す
6	トピック6「これが欲しい！」2 自分の国のお土産をおすすめする
7	トピック6「これが欲しい！」3 ネットショップの商品レビューを読む、書く
8	トピック7「お気に入りの映画」1 映画についての感想やコメントを聞く
9	トピック7「お気に入りの映画」2 映画鑑賞、映画についての感想を述べる
10	トピック7「お気に入りの映画」3 好きな映画について話す
11	トピック7「お気に入りの映画」4 映画のレビューを読む、書く
12	トピック8「私の町の交通機関」1 外国の交通機関についての会話を聞く、交通機関のトラブルに対処する
13	トピック8「私の町の交通機関」2 交通機関の利用法や注意点などを説明する
14	トピック8「私の町の交通機関」3 交通機関に関するインターネット上の書き込みを読む
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の次週扱う部分に目を通し、語彙や表現を確認しておく。わからない語彙、表現の意味を調べる。（毎回45分程度）

【事後学修】授業で学習した内容を見直し、聞き取りや会話など、できるところとできないところを確認する。できないところは練習する。（毎回45分程度）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み30%、適宜課す課題70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業で返却する。また、内容についての質問はその場で受け付ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「まるごと 日本のことばと文化 中級2」国際交流基金編著、三修社

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業では、教師の話聞くだけでなく、参加者同士の活動を多く取り入れています。積極的に参加してください。また、自分の言語活動やクラスメイトの言語活動をふり返り、客観的に評価したり、分析したりする機会も設けます。各自目標を設定し、取り組んでください。

科目名	総合日本語 b		
担当教員名			
ナンバリング	NEi1048		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 日本語 (非母語者向)		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の「日本語(非母語者向)」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの必修科目である。非母語話者の日本語運用能力を高めるための科目である。

科目の概要

国内外で起こっている様々な社会問題を題材とし、資料の精読、ニュースの視聴、クラスメイトとのディスカッション、発表などの多様な活動を通して、聞く・話す・読む・書くの統合的日本語能力に加え、思考力や他人と協働する力も養成する。

授業の方法 (ALを含む)

世界、日本、地域などで起こっている社会問題の中から、受講者自身が取り扱いたいテーマを選ぶ。受講者は、選んだテーマに関連する書籍や映像資料を理解し、自分の考えをまとめたり、グループで課題への解決法をディスカッションしたりする中で、日本語運用能力の向上を目指す。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

1. 時事問題に関する新聞記事、雑誌記事、ニュース映像などがおおよそ理解できる。
2. 時事問題について自分の意見を文章にしたり、他者に口頭で伝えたりできる。
3. 他の受講者とともにプレゼンテーション資料を準備し、発表できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力、 -5論理的に表現する力、 -5日本語運用能力

内容

- | | |
|-------|--------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2~4回 | トピック1: 読解、映像視聴 |
| 第5~6回 | トピック1: グループ討論、発表準備 |

第7回	トピック1：発表
第8回	トピック1：フィードバック、討論
第9～11回	トピック2：読解、映像視聴
第12～13回	トピック2：グループ討論、発表準備
第14回	トピック2：発表
第15回	トピック2：フィードバック、討論

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次週扱うテーマに関連するニュースや社会問題について調べる。（毎回45分程度）

【事後学修】授業で学習した内容について分からなかったことやもっと知りたいことについて調べ、A4用紙1枚以内にまとめる。（毎回45分程度）

評価方法および評価の基準

到達目標1：授業への取り組み10%、適宜課す課題20%

到達目標2：授業への取り組み10%、適宜課す課題20%

到達目標3：授業への取り組み10%、適宜課す課題30%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業で返却する。また、内容についての質問はその場で受け付ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。プリントを配布する。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現技術		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	NEi0049		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 日本語 (非母語者向)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の「日本語(非母語者向)」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの選択科目にあたる。

伝わる文章を書くために必要な論理的思考力を養成しながら、「書く」力を伸ばすことを目指す。また、グループでの意見交換、個人の発表の時間も設けることにより、他者と協働しながら学ぶ姿勢も養う。

科目の概要

毎回、授業で取り上げるテーマを設定し、課題をこなしながら、最終的に、自分の意図する事柄を読む人に正しく伝わる文章が書けることを目指す。その過程で、物事を整理、分析し、筋道を立てて考えることができる能力(論理的思考力)を鍛えるための練習にも取り組む。

授業の方法 (ALを含む)

毎回のテーマに関する講義を受け、それに関する課題に取り組む。

個人またはグループで課題に取り組み、場合によっては、発表を行ったりします。

【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

1. 文章を正確に読み取ることができる。
2. 自分の伝えたい内容を整理し、筋道を立てて表現することができる。
3. 自分の伝えたい内容を、効果的に伝える方法を考え、実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2書き表す力、 -5日本語運用能力

内容

1	オリエンテーション
---	-----------

2	思考を整理する1 リストアップ【グループワーク】
3	思考を整理する2 マッピング【グループワーク】
4	読み取る力を鍛える1 イラストや図から読み取る【グループワーク】
5	読み取る力を鍛える2 マッピングしながら読む【グループワーク】
6	読み取る力を鍛える3 理由を考えながら読む【グループワーク】
7	読み取る力を鍛える4 意味を考えながら読む【グループワーク】【レポート（表現）】
8	表現する1 キーワードをつなげる【グループワーク】
9	表現する2 イラストを見て書く【グループワーク】
10	表現する3 定義する【グループワーク】
11	表現する4 順序を考えて書く【グループワーク】
12	表現する5 理由を考えて書く【グループワーク】
13	表現する6 イラストを見て書く【グループワーク】【プレゼンテーション】
14	表現する7 論理的に考えて書く【グループワーク】【レポート（表現）】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】添削後に返却された文章を次の授業までに書き直し、ワードに打ち込む。（毎回45分程度）

【事後学修】復習を必須とし、以後記す文章において、同じ誤りをしないよう、添削を受けた事柄をノートにまとめる。（毎回45分程度）

評価方法および評価の基準

到達目標1：授業への取り組み10%、適宜課す課題20%

到達目標2：授業への取り組み10%、適宜課す課題20%

到達目標3：授業への取り組み10%、適宜課す課題30%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業で返却する。また、内容についての質問はその場で受け付ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。プリントを配布する。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現技術		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	NEi1049		
学 科	共通科目（N/E/S） - 日本語（非母語者向）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、プロフィシェンシー（実際の日本語場面で場に応じた日本語を使う力）を高めるための科目である。また、グループでの意見交換、個人の発表の時間も設けることにより、他者と協働しながら学ぶ姿勢も養う。

日本語学修プログラム（留学生向け）の選択科目にあたる。

科目の概要

毎回、授業で取り上げるテーマを設定し、課題をこなしながら、最終的に、自分の意図する事柄を読む人に正しく伝わる文章が書けることを目指す。その過程で、他の受講者と書いたものを添削し合ったり、意見交換を行ったりする。

授業の方法（ALを含む）

毎回のテーマに関する講義を受け、それに関する課題に取り組む。

個人またはグループで課題に取り組み、それをもとに話し合ったり、発表を行ったりする。

【グループワーク】【プレゼンテーション】【討議・討論】【レポート（表現）】【リアクションペーパー】

到達目標

場面や状況に応じたスタイルを選択し、伝えたいことが相手に伝わる文章を書くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2書き表す力、 -5日本語運用能力

内容

1	オリエンテーション、文のスタイル 【グループワーク】【リアクションペーパー】
2	アポイントをとる 【グループワーク】【リアクションペーパー】
3	誘い

	【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	依頼 【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	授業についてのコメントを書く 【グループワーク】【リアクションペーパー】
6	謝罪 【グループワーク】【リアクションペーパー】
7	伝言 【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	問い合わせる 【グループワーク】【リアクションペーパー】
9	ノートをとる 【グループワーク】【リアクションペーパー】
10	意見文1 意見文を書く 【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	レポート1 作文とレポートの違い 【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	意見文2 発表 【プレゼンテーション】【討議・討論】【リアクションペーパー】
13	レポート2 レポートを書く 【リアクションペーパー】
14	レポート3 推敲する 【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	まとめ 【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】添削後に返却された文章を次の授業までに書き直し、ワードに打ち込む。

【事後学修】復習を必須とし、以後記す文章において、同じ誤りをしないよう、添削を受けた事柄をノートにまとめる。

評価方法および評価の基準

授業への取り組み30%、適宜課す課題70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業で返却する。また、内容についての質問はその場で受け付ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。プリントを配布する。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現技術		
担当教員名	稲田 朋晃		
ナンバリング	NEi2049		
学 科	共通科目（N/E/S） - 日本語（非母語者向）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は共通科目の「日本語（非母語者向）」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの選択科目である。

科目の概要

日本語能力試験N2レベルの「文字語彙」「文法」「読解」の問題を解きながら、CEFR B2レベルの日本語力を養う。単なる試験対策で終わらず、日本語運用の基礎となる知識の習得を目指す。また、学生自身が解答と解法を説明することによって、メタ認知能力と発話能力、ディスカッション力の養成をねらう。

授業の方法（ALを含む）

毎回、各学生は問題を数問ずつ担当し、それらの問題に取り組む。その後、各学生は全員の前で担当問題の解答と解法について説明を行う。適宜、教師がフィードバックを行う。また、N2レベルの語彙習得のために、携帯アプリ"Anki"を利用する。"Anki"用の語彙リストは学生自身が作成する。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 抽象的な語彙や文法を使って、幅広い話題について書いたり話したりできる。
2. 幅広い内容について書かれた新聞や雑誌の記事が読める。
3. 日本語能力試験N2レベルの語彙体系や文法体系について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- － 5 論理的に表現する力、
- － 5 日本語運用能力

内容

1.0

1	オリエンテーション
2	文字語彙：多義語
3	文字語彙：同義語

4	文字語彙：オノマトペ
5	文字語彙：慣用表現
6	文法（文の文法1）
7	文法（文の文法1）
8	文法（文の文法2）
9	文法（文の文法2）
10	文法（文章の文法）
11	読解（短文）
12	読解（中文）
13	読解（統合理解）
14	読解（長文）
15	読解（長文）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に分担された問題を解き、解説できるよう準備しておく [60分]

【事後学修】授業内で新しく覚えた語彙や文法をノートにまとめておく。 [60分]

評価方法および評価の基準

【評価方法・評価基準】授業への取り組み：30%、課題への取り組み：70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示する

【推薦書】授業中に指示する

【参考図書】授業中に指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現技術		
担当教員名	稲田 朋晃		
ナンバリング	NEi2049		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 日本語 (非母語者向)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は共通科目の「日本語 (非母語者向)」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの選択科目である。

科目の概要

日本語能力試験 N 2 レベルの「文字語彙」「文法」「読解」の問題を解きながら、CEFR B2レベルの日本語力を養う。単なる試験対策で終わらず、日本語運用の基礎となる知識の習得を目指す。また、学生自身が解答と解法を説明することによって、メタ認知能力と発話能力、ディスカッション力の養成をねらう。「日本語表現技術III」と同じ構成であるが、異なる問題を用いるため、同時に受講することが可能である。

授業の方法 (ALを含む)

毎回、各学生は問題を数問ずつ担当し、それらの問題に取り組む。その後、各学生は全員の前で担当問題の解答と解法について説明を行う。適宜、教師がフィードバックを行う。また、N 2 レベルの語彙習得のために、携帯アプリ "Anki" を利用する。"Anki"用の語彙リストは学生自身が作成する。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 抽象的な語彙や文法を使って、幅広い話題について書いたり話したりできる。
2. 幅広い内容について書かれた新聞や雑誌の記事が読める。
3. 日本語能力試験 N 2 レベルの語彙体系や文法体系について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- － 5 論理的に表現する力、
- － 5 日本語運用能力

内容

1.0

1	オリエンテーション
2	文字語彙：多義語

3	文字語彙：同義語
4	文字語彙：オノマトペ
5	文字語彙：慣用表現
6	文法（文の文法1）
7	文法（文の文法1）
8	文法（文の文法2）
9	文法（文の文法2）
10	文法（文章の文法）
11	読解（短文）
12	読解（中文）
13	読解（統合理解）
14	読解（長文）
15	読解（長文）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に分担された問題を解き、解説できるよう準備しておく [60分]

【事後学修】授業内で新しく覚えた語彙や文法をノートにまとめておく。 [60分]

評価方法および評価の基準

【評価方法・評価基準】授業への取り組み：30%、課題への取り組み：70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示する

【推薦書】授業中に指示する

【参考図書】授業中に指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語研究A（時事）		
担当教員名	稲田 朋晃、山下 悠貴乃		
ナンバリング	NEi3050		
学 科	共通科目（N/E/S） - 日本語（非母語者向）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は共通科目の「日本語（非母語者向）」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの選択科目である。日本語研究A～Fは、分野ごとにその分野に関連した日本語運用能力を高めることを目指すものであり、本科目はそのうちの時事の分野にあたる。

科目の概要

国内外で起こっているさまざまな社会問題を題材とし、資料の精読、ニュースの視聴、クラスメイトとのディスカッション、発表などの多様な活動を通して、聞く・話す・読む・書くの統合的日本語能力に加え、思考力や他人と協働する力も養成する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、世界各地、日本各地で起こっている社会問題の中から、受講者自身が授業で取り扱いたいトピックを選ぶ。新聞、雑誌記事、ニュース映像など生の資料を視聴し、自分の考えをまとめたり、他の受講生とディスカッションを行う。小グループに分かれてプレゼンテーションを行い、教師や他の受講生からフィードバックを得る中で日本語力を高める。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

到達目標

- 1．時事問題に関する新聞記事、雑誌記事、ニュース映像などがおおよそ理解できる。
- 2．時事問題について自分の意見を文章にしたり、他人に口頭で伝えたりできる。
- 3．他の受講者とともにプレゼンテーション資料を準備し、発表できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- － 5 論理的に表現する力、
- － 5 日本語運用能力

内容

第1回： オリエンテーション

第2-4回： トピック1：読解、映像視聴

第5-6回： トピック1：グループ討論、発表準備

第7回： トピック1：発表

第8回： トピック1：フィードバック、討論

第9-11回： トピック2：読解、映像視聴

第12-13回： トピック2：グループ討論、発表準備

第14回： トピック2：発表

第15回： トピック2：フィードバック、討論

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の授業で扱うテーマに関する語彙や表現を調べておく。[60分]

【事後学修】読んで理解できなかった部分や、口頭でうまく表現できなかった部分などについて復習する。[60分]

評価方法および評価の基準

【評価方法・評価基準】授業への取り組み：30%、課題への取り組み：70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】教室で指定する。

【参考図書】教室で指定する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語研究B（時事）		
担当教員名	加藤 薫		
ナンバリング	NEi3050		
学 科	共通科目（N/E/S） - 日本語（非母語者向）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本語研究A～Fは、分野ごとにその分野に関連した日本語運用能力を高めることを目指すものである。

本科目はそのうちの「時事」の分野にあたる。

また、この科目は共通科目の「日本語(非母語者向)」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの選択科目である。」

科目の概要

日本の「時事」を取り上げた文章（新聞記事など）を読み込みつつ、

自らの意見を持ち、それを分かりやすい日本語で表現できるようになることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

新聞記事などの講読を行いつつ、ディスカッションを取り入れた授業を行う。

学生自らがテーマを選び、小レポートを書くことも行う。

到達目標

- 1.新聞記事が読みこなせるようになる。
- 2.日本の時事問題について知り、それに対する自らの考えを分かりやすく、論理的に表現できるようになる。
- 3.ディスカッションを通して、他者の考えを参考にしつつ自らの考えを深められるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5 論理的に表現する力

内容

1.0

1	オリエンテーション 時事問題について
2	時事問題について知る1（新聞記事1読解）

3	新聞記事1の重要表現の理解と演習
4	新聞記事1について自らの考えを持つ(感想文作成・意見交換)
5	新聞記事1について自らの考えを深め小レポートにまとめる
6	時事問題について知る2(新聞記事2読解)
7	新聞記事2の重要表現の理解と演習
8	新聞記事2について自らの考えを持つ(感想文作成・意見交換)
9	新聞記事2について自らの考えを深め小レポートにまとめる
10	時事問題についてのレポートを作成する(レポート作成上の注意と自らのテーマ探し)
11	参考文献探を探しと文献の読解
12	アウトラインを考える
13	原稿を作成する
14	原稿を整え、完成させる
15	発表と相互批評と教員による講評

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 新聞を読むなどの課題が出たときはしっかりと読んでくるように。また、レポート作成の課題が出た場合は、必要な調査や文章作成に取り組むようにする(45分)。

【事後学修】 授業内容に関する振り返りシートの記入を行う(45分)。 毎回ではない。

評価方法および評価の基準

各授業時における課題への取り組み(30%)とレポート(30%)と筆記試験(40%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

レポートについては、授業時に評価できる点、改善すべき点を伝える。筆記試験については、希望者にはフィードバックを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

プリントを配布して進める。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

筆記試験が合格点に達していない場合、再試験を行う場合がある。

(合格点を著しく下回る場合は再試験は行わない。)

科目名	日本語研究C（ビジネス）		
担当教員名	安恒 佳代子		
ナンバリング	NEi3051		
学 科	共通科目（N/E/S） - 日本語（非母語者向）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は共通科目の「日本語（非母語者向）」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語日本語学修プログラムの選択科目である。。なお、繰り返し受講は不可とする。

日本語研究A～Fは、分野ごとにその分野に関連した日本語運用能力を高めることを目指すものである。本科目はそのうちのビジネスの分野にあたる。

科目の概要 大学で学ぶための日本語能力を高めるとともに、仕事を遂行するために必要な日本語を身につける。

授業の方法（ALを含む）

- ・日本の会社について書かれたものを読み、基礎的な知識を得るとともに、語彙・表現を学ぶ。
また、自国との違いについて考え、随時グループディスカッションを行う。【討議討論】
- ・ビジネス場面で使用する敬語、ビジネス用語などは適宜ミニテストを行い、定着を図る。【ミニテスト】
- ・学習した敬語を使用し、場面練習を行う。【ロールプレー】

到達目標

- 1) 基本的な日本の会社システム、ビジネス文化・知識について理解し、説明することができる。
- 2) 敬語を場面に応じて使い分けすることができる。
- 3) ビジネスメールの内容を正しく読み取ることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 論理的に表現する力
- 5 日本語運用能力と関連する

内容

1.0

1	オリエンテーション、ビジネス日本語の基礎知識について
2	日本型雇用システム 1

3	日本型雇用システム 2
4	働き方が変わる
5	企業が求めるコミュニケーション能力
6	2～5のまとめ ミニテスト
7	仕事の日本語力 敬語 1 初級敬語の復習
8	敬語 2 応用
9	敬語 3 人に頼む、人を誘う 場面でのロールプレー
10	ビジネス場面での(外国人社員の)失敗例から考える 1
11	ビジネス場面での(外国人社員の)失敗例から考える 2
12	ビジネスメール読解 1
13	ビジネスメール読解 2
14	ビジネス場面でのロールプレー
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に渡された課題をよく読み、分からない語彙、表現を調べておく。(60分)

【事後学修】授業で勉強した新しい内容、間違えた個所などを復習する。何度も声を出して覚える。(60分)

評価方法および評価の基準

平常点(授業への参加度・授業内に課すミニテスト、発表)40%、期末テスト60%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は再試験を行う。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】授業中に指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

社会人としての基礎力をつける授業なので、授業中も礼儀正しくふるまうように気をつけること。

授業中は失敗を恐れず、発言すること。

科目名	日本語研究D（ビジネス）		
担当教員名	安恒 佳代子		
ナンバリング	NEi3051		
学 科	共通科目（N/E/S） - 日本語（非母語者向）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は共通科目の「日本語（非母語者向）」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語日本語学修プログラムの選択科目である。なお、繰り返し受講は不可とする。

日本語研究A～Fは、分野ごとにその分野に関連した日本語運用能力を高めることを目指すものである。本科目はそのうちのビジネスの分野にあたる。

科目の概要 ビジネス場面で相手との関係・場面・目的に応じて適切に使い分けるコミュニケーション能力を身につけるとともに社会人としての行動能力の向上も目指す。

授業の方法（ALを含む）

- ・グローバル企業について書かれたものを読み、感じたことを発表し合う。【討議討論】
- ・ビジネス場面で使用する敬語、ビジネス用語などは適宜ミニテストを行い、定着を図る。【ミニテスト】
- ・学習した敬語を使用し、場面練習を行う。【ロールプレー】
- ・ケーススタディから自分ならどうするか考え発表する。【ケースメソッド】
- ・プロジェクトチームを作り、課題に取り組み、プレゼンテーションを行う。【討議討論】【プレゼンテーション】

到達目標

- 1) 長い文章を読んで、理解し、適切な表現で要点をまとめることができる。
- 2) 場面に応じた敬語やクッション言葉など、対人関係に必要な日本語を使うことができる。
- 3) 与えられた課題について、他者と協力して分析し、発表できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 論理的に表現する力
- 1 他者を思う力、
- 5 日本語運用能力と関連する

内容

1.0

1	オリエンテーション、ビジネス日本語の基礎知識について
2	グローバル企業のビジネス例に関する文章を読む 1

3	グローバル企業のビジネス例に関する文章を読む 2
4	グローバル企業のビジネス例に関する文章を読む 3
5	敬語、ビジネスメール 1
6	敬語、ビジネスメール 2
7	敬語、ビジネスメール 3
8	チームビルディング チームで課題に取り組み、発表
9	ケーススタディ 1
10	ケーススタディ 2
11	ビジネス場面での(外国人社員の)失敗例から考える 1
12	ビジネス場面での(外国人社員の)失敗例から考える 2
13	プロジェクトチームを作り課題に取り組む
14	前回のプロジェクトについて企画書を作り、プレゼンテーションを行う
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に渡された課題をよく読み、分からない語彙、表現を調べておく。(60分)

【事後学修】授業で勉強した新しい内容、間違えた個所などを復習する。何度も声を出して覚える。(60分)

評価方法および評価の基準

平常点(授業への参加度・授業内に課すミニテスト、発表)40%、期末テスト60%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は再試験を行う。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】授業中に指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積み重ねの授業になるので、欠席をしないこと。

社会人としての基礎力をつける授業なので、授業中も礼儀正しくふるまうこと。

授業中は失敗を恐れず、発言をすること。

科目名	日本語研究E（医療・福祉専門）		
担当教員名	稲田 朋晃		
ナンバリング	NEi3052		
学 科	共通科目（N/E/S） - 日本語（非母語者向）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は共通科目の「日本語（非母語者向）」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの選択科目である。日本語研究A～Fは、分野ごとにその分野に関連した日本語運用能力を高めることを目指すものであり、本科目はそのうちの医療福祉の分野にあたる。

科目の概要

医療福祉、とくに介護や社会福祉に関連した総合的な日本語力を養う科目である。専門語彙を習得しながら、専門書を読む能力、専門講義を聞く能力、現場で利用者や他の医療従事者と話す能力、介護記録等を書く能力などを高めていく。

授業の方法（ALを含む）

介護や福祉について書かれた文章を読んだり映像資料を視聴したりしながら専門語彙を増やし、受容能力を高める。また、小グループを編成し当該トピックについてディスカッションを行うことで、口頭能力も養う。介護現場で実際に遭遇する場面をロールプレイで演じたり、実際に介護記録を書いたりする。【グループワーク】【討議・討論】【レポート（表現）】【ロールプレイ】

到達目標

1. 介護や社会福祉に関する講義を聞いて理解できる。また、必要に応じてメモがとれる。
2. 介護現場において、専門用語と一般語を使い分けながら、利用者や職員と円滑なコミュニケーションがとれる。
3. 専門用語を用いて、介護実習記録が書ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- － 5 論理的に表現する力、
- － 5 日本語運用能力

内容

第1回： オリエンテーション

第2～3回： 専門語彙を学ぶ

第4～7回： 日本語で学ぶ介護の知識・技術

第8～10回： 介護現場における利用者とのコミュニケーション

第11～12回： 介護現場における医療従事者とのコミュニケーション

第13～15回： 介護実習記録を書く

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】特になし。

【事後学修】授業内で新しく覚えた語彙や文法をノートにまとめておく。[60分]

評価方法および評価の基準

【評価方法・評価基準】授業への取り組み：30%、課題への取り組み：70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で指示する

【推薦書】三橋麻子ほか『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことば』スリーエーネットワーク

【参考図書】甘利庸子『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことば』中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語研究F（人文科学）		
担当教員名	中島 紀子		
ナンバリング	NEi3053		
学 科	共通科目（N/E/S） - 日本語（非母語者向）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 日本語研究A～Fは、分野ごとにその分野に関連した日本語運用能力を高めることを目指すものである。本科目はそのうちの人文分野にあたる。また、この科目は共通科目の「日本語(非母語者向)」領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの選択科目である。なお、繰り返し受講は不可とする。

科目の概要 世界的に活躍する何人かの日本人に関して、足跡（何を行った人か）や考え方を調べ、それに対する自分の意見を加え、聞き手にわかりやすくクラスで発表する。また、自国において、同様の分野で活躍している人を調べ、併せて紹介する。さらに、関連する課題について討論し、最終的にレポートにまとめる。

授業の方法（ALを含む） 受講者人数により多少変動する可能性がある。

- 1) プレゼンテーション：こちらから提示する分野の中から興味のあるものを一つ選び、調べ、発表を行う。
- 2) ディスカッション：関連する課題について、学生同士で討論する。
- 3) レポート：クラス内で得た知識をもとに、事実や自分の意見等を論理的に文章にまとめる。

到達目標

- 1) 日本語で書かれた文献を調べられる。
- 2) 聞き手にわかりやすい表現と内容でプレゼンテーションを行い、日本語で自らの考えを説明できる。
- 3) 与えられた課題について、日本語で意見を伝え、評価・批判ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1) 5「論理的に表現する力」
- 2) 2「話し合う力」
- 3) 5「日本語運用能力」

内容

1.0

1	オリエンテーション（15回の授業に関する進め方を説明） テーマに絡めた自己紹介（プレゼンテーション）
2	アニメ：「宮崎駿ほか」資料読み、DVD鑑賞後、ディスカッション、ショートスピーチならびにまとめ
3	文学：現代作家「村上春樹ほか」資料読み、DVD鑑賞後、ディスカッション、ショートスピーチならびにまとめ
4	歴史：作家「紫式部/清少納言ほか」資料読み、DVD鑑賞後、ディスカッション、ショートスピーチならびにまとめ

5	芸能：「黒澤明ほか」資料読み、DVD鑑賞後、ディスカッション、ショートスピーチならびにまとめ
6	スポーツ：「イチロー（鈴木一郎）ほか」資料読み、DVD鑑賞後、ディスカッション、ショートスピーチならびにまとめ
7	学者：「石黒浩ほか」資料読み、DVD鑑賞後、ディスカッション、ショートスピーチならびにまとめ
8	経営：「秋元康ほか」資料読み、DVD鑑賞後、ディスカッション、ショートスピーチならびにまとめ
9	政治：「杉原千畝ほか」資料読み、DVD鑑賞後、ディスカッション、ショートスピーチならびにまとめ
10	担当決め 発表のための文献資料収集方法講義（図書館利用）
11	学生発表(1)並びに学生相互評価・ディスカッション
12	学生発表(2)並びに学生相互評価・ディスカッション
13	学生発表(3)並びに学生相互評価・ディスカッション
14	学生発表(4)並びに学生相互評価・ディスカッション
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 1回 【事前準備】自己紹介
一人5分で話していただきますので準備をすること。[60分]
【事後学修】本日の授業を受け、日本について興味のあることをまとめる。[60分]
- 2～10回【事前準備】各授業で取り上げるテーマに関して自国の事情を調査しておく。[60分]
【事後学修】授業中に取り上げた内容を復習する[60分]
- 11～14回【事前準備】担当するプレゼンテーションの準備を行う[120分]
【事後学修】授業で取り上げられた課題をまとめる[60分]
- 15回 【事前準備】14回までに取り上げた内容を振り返り、理解が不十分なところを明らかにする[60分]
【事後学修】第1回から第14回までの授業を総まとめする。[60分]

評価方法および評価の基準

毎回の授業における学びのコメント、発表、ディスカッション、相互評価（70%）と最終日に最終課題（30%）を提出することで評価し、総合評価60点以上を合格とする。

- 到達目標 1) 毎回出席し、授業で得たことをコメントシートにまとめ記入（20%）および最終レポート（30%）
到達目標 2) 授業の発言・他者発表に対する相互評価（20%）
到達目標 3) 担当するテーマに関する発表（30%）

【フィードバック】提出されたコメントシートに関しては、翌週の授業において振り返りを行う。発表、ディスカッション、相互評価に関しては、個別にコメントする。最終課題の返却は行わないが、希望者にはメールにてフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】授業中に指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- 日本人と話す機会があれば、最大限に活用すること。（話す機会を得たら積極的に話す）
- 日本語に多くふれること。（本やマンガを読む、ドラマや映画を観る）
- 頭の中で、日本語で自分の意見を考えてみること。（頭の中を、自国語から日本語にスイッチする訓練をする）

科目名	日本語能力試験対策講座		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング	NEi2054		
学 科	共通科目（N/E/S） - 日本語（非母語者向）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は共通科目 - 日本語（非母語者向）領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの選択科目である。留学生のための選択科目であり、日本語能力試験N1合格を目指し、資格取得に必要な知識を学修する。

科目の概要

日本語能力試験の出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）のうち、文法、文字語彙を中心に学習を進める。基本的知識の習得に続いて、演習問題を通して学習内容を確認し、さらに解説を加えるという形で実践的に学習を進める。

授業の方法（ALを含む）

学習した内容を、演習問題（ミニテストの形式）を解きながら、理解の度合いを確認し、学習項目を習得する。また、疑問点、不明な点については随時質問が可能でフィードバックを行う。【ミニテスト】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1 日本語能力試験N1合格に求められる知識（文字）を習得し、試験に合格することができる。
- 2 日本語能力試験N1合格に求められる知識（語彙）を習得し、試験に合格することができる。
- 3 日本語能力試験N1合格に求められる知識（文法）を習得し、試験に合格することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5日本語運用力

内容

日本語能力試験の出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）のうち、「文字語彙・文法」を中心に次のように学習を進めます。

授業は毎回、演習形式で進めていきます。まず各項目の内容を確認し、解説を受け、それに対する実践練習問題に取り組みます。対策講座であるため、できるだけ多くの実践練習を行います。進度に応じて質疑応答の時間を組み入れ、双方向の授業形態で進めていきます。また、実践問題を解く前に、学習効果を上げるため、すでに学習した知識を理解する必要があり、課外での自学習が求められます。

第1回 授業のガイダンス・日本語能力試験受験レベルの測定

第2回～14回

【文字語彙】学習項目

漢字読み

表記

語形成

文脈規定

言い換え類義

用法

【文法】学習項目

文法形式の判断

文の組立

文章の文法

第15回

まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で学習した内容（文字語彙、文法）を、次回に実施する演習問題に取り組むにあたり確認学習を行う。 - 2時間

【事後学修】演習問題で誤答した内容を中心に、復習し、自分のノートに整理する。 - 1時間

評価方法および評価の基準

各授業で提示する課題・演習問題の取り組み(40%)と筆記試験(60%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 10% / 40% 10% / 60%

到達目標 2 10% / 40% 15% / 60%

到達目標 3 20% / 40% 35% / 60%

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業で返却する。また、内容についての質問は授業のその場で受け付ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中にプリントを配布する。

【推薦書】教場で指示する。

【参考図書】教場で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学習効果を高めるために、授業前の自習を望みたい。授業に参加するだけでは対策講座の効果が出ないので、事前の予習、事後の復習を特に望む。

科目名	日本語能力試験対策講座		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング	NEi2054		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 日本語 (非母語者向)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は共通科目 - 日本語 (非母語話者向) 領域の選択科目にあたる。かつ、日本語学修プログラムの選択科目である。留学生のための講座で、日本語能力試験N1合格を目指し、受験に必要な知識を学修する。

科目の概要

日本語能力試験の出題項目 (文字語彙・文法・読解・聴解) のうち、「読解」を中心に学習を進める。基本的知識の習得に続いて、演習問題を通して学習内容を確認し、さらに解説を加えるという形で実践的に学習を進める。

授業の方法 (ALを含む)

学習した内容を、演習問題 (ミニテストの形式) を解きながら、理解の度合いを確認し、学習項目を習得する。また、疑問点、不明な点については随時質問が可能でフィードバックを行う。【ミニテスト】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1 日本語能力試験N1合格に必要な読解力 (短文・中文・長文の読解) を向上させ、試験に合格することができる。
- 2 日本語能力試験N1合格に必要な読解力 (情報探索・意見文比較の読解) を向上させ、試験に合格することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5日本語運用力

内容

日本語能力試験の出題項目 (文字語彙・文法・読解・聴解) のうち、「読解」を中心に以下のように学習を進めます。

授業は毎回、演習形式で進めていきます。まず各項目の内容を確認し、それに対する実践練習問題に取り組みます。対策講座であるため、できるだけ多くの実践練習を行います。各問題の解答後に適宜質疑応答の時間を設け、双方向の授業形態で進めます。また、より多くの文章を速読理解する練習が必要であるので、課外での自学習を課すことがあります。

第1回 授業のガイダンス・日本語能力試験受験レベルの測定

第2回～14回

【読解】学習項目

内容理解（短文）
内容理解（中文）
統合理解（二つの文章の内容比較）
主張理解（長文）
情報検索

第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】様々な分野のモミものを使って演習問題をこなすので、これまでに各自修得した語彙、文法の確認をし、次の授業に臨む。 - 2時間

【事後学修】授業で新たに学習した語彙、文法点などの確認し、自分のノートに整理する。 - 1時間

評価方法および評価の基準

各回の授業で提示する項目の理解、演習問題の取り組み(40%)と筆記試験(60%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 課題達成 30% / 40% 筆記試験 40% / 60%

到達目標 2 課題達成 10% / 40% 引き試験 20% / 60%

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業で返却する。また、内容についての質問は授業のその場で受け付ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中にプリントを配布する。

【推薦書】教場で指示する。

【参考図書】教場で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学習効果を高めるために、授業前の自習を望みたい。授業に参加するだけでは対策講座の効果が出ないので、事前の予習、事後の復習を特に望む。

科目名	朝鮮語 a		
担当教員名	チョ ヒ		
ナンバリング	NEg1034		
学 科	共通科目 (N/E/S) -朝鮮語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1. 外国語科目の学位授与方針1.2.3に該当する。
2. 共通科目の外国語科目のうち選択必須の前期科目で、より学習を深めたい人は後期の朝鮮語1bと併せて受講するとよい。

科目の概要

1. ハングルの文字と発音を学習しながら、基礎的な文法を使って簡単な会話文が話せる。
2. CDを聴いて書く練習や作文の練習を行い、学習した文を活用することができる。

授業の方法 (ALを含む)

1. 各単元が入る前に授業内容の理解を図るため単語と表現のミニテストを行う。
2. アクティブ・ラーニングとして、CDの対話文の練習をペアで行う。
3. 日韓の比較文化についてグループもしくは個人でプレゼンを行う。

到達目標

1. 文字と発音を身に付けて、簡単な文を書いて話す練習を行う。
2. 日韓の比較文化の発表を行うことで両国の文化の違いを理解する。
3. 「韓国語能力試験 TOPIK 」「ハングル能力試験4.5級」レベルの理解力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 言語運用能力 -4コミュニケーション能力

内容

この授業は講義を基本に、グループ発表をしながら日韓の文化の違いを理解していく。

1	Lesson 1-2 ハングル入門 (母音)
---	-----------------------------

2	Lesson 3-6	ハングル入門(子音)
3	Lesson 7 9	濃音・激音・合成母音
4	Lesson 10-12	パッチム/発音ルール
5	Lesson 13-14	発音ルール /復習
6	Lesson 15-16	かしくまった文体 /指示代名詞
7	Lesson 17-18	否定文/かしくまった文体
8	Lesson 19	かしくまった文体 /復習テスト
9	Lesson 20-21	うちとけた文体 (です・ですか/あります・ありません)
10	Lesson 22-23	位置を表す名詞/うちとけた文体 (です・ます)
11	Lesson 24-25	うちとけた文体の縮約形/名詞+する動詞
12	Lesson 26	漢数詞
13	Lesson 27	固有数詞
14	Lesson 28	原因・理由の表現/復習
15		まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各単元の単語と表現をCDを聴きながらノートに書いて予習をする。日韓の比較文化についてテーマを考えて調べておく。テーマについては授業中に知らせる。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回学習した内容をノートにまとめる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

平常点40%(授業参加度・日韓比較文化発表)、定期試験60%として総合的に評価し、60%以上を合格とする。

1. 授業参加度(20%/40%)・日韓比較文化発表(20%/40%)
2. 復習テスト(20%/60%)・期末試験(40%/60%)

【フィードバック】授業の前に毎回の復習や質疑に返答し、学習の理解をより深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】長友英子・萩原優子共著「韓国語をひとつひとつわかりやすく。」(学研,2013年)

【推薦書】「第35回・36回・37回・41回 韓国語能力試験過去問題集TOPIK」NIIED(韓国国立国際教育院)著 公益財団法人韓国教育財団編集

「2019年版 ハングル能力検定試験 ハン検過去問題集5級」ハングル能力検定協会

【参考図書】辞書については授業中に説明する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	朝鮮語 a		
担当教員名	長渡 陽一		
ナンバリング	NEg1034		
学 科	共通科目 (N/E/S) -朝鮮語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

韓国人の労働相談の通訳、日韓労働関係研修会などの韓国語通訳

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・人間生活学部の学位授与方針の1, 2, 3に該当します。

科目の概要

- ・朝鮮語=韓国語=ハングルの基本的な会話、読み書きができることをめざします。
- ・動詞の時制の過去、現在、未来を使います。

授業の方法 (ALを含む)

- ・隣の知らない人とも積極的に会話できるようにしましょう。
- ・まずは声を出し、会話しましょう。
- ・つづいて読んだり書いたり練習もします。
- ・単語を暗記しましょう。

到達目標

- ・あいさつと自己紹介ができるようになろう！
- ・ふだんのことを書いて読めるようになろう！
- ・簡単なことを話せるようになろう！

ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

- ・知らない人、気に入らない人とも積極的に会話しましょう。(-1他者を思う力、 -1前を向く力)
- ・韓国語で意思疎通ができるようになろう。(-3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力)
- ・韓国語でどのくらい、何ができるようになりたいか、自分の目標を立てて、それに向かって学習していきましょう。

(-1目標を決める力)

内容

1	あいさつ、基本的な自己紹介をしよう。
2	もっと自己紹介しよう。
3	誕生日と干支を言えるようにしよう。
4	単語確認、自己紹介を書いてみよう！
5	なに食べた、なに飲んだ？
6	どこに行った？ 何した？

7	どうやって行った？
8	何時に起きた？
9	ふだんのスケジュールは？
10	今日の予定は？ 夏の予定は？
11	どこ行きたい？
12	好きな食べ物
13	好きな俳優、歌手について
14	少し読んでみよう
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事後学修】

- ・習ったものを書く練習 [30分]
- ・読めるように練習 [30分]

【事前準備】

- ・課題問題を解いてくる [30分]
- ・小テストの準備 [30分]

評価方法および評価の基準

【評価方法】

- ・授業内のワークプリントはすべてクリアしなければなりません。
- ・単語テストや暗記などの小テストほかで30%
- ・最後の筆記（読み書き）テストの満点が70%
- ・総合評価60点以上で合格となります。

【フィードバック】

- ・小テストで自分の出来具合を確かめてください。
- ・小テストの用紙やその他の時にもリアクションペーパーで質問などを受け付けます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教室内ですが、積極的に話しましょう。

科目名	朝鮮語 a		
担当教員名	長渡 陽一		
ナンバリング	NEg1034		
学 科	共通科目 (N/E/S) -朝鮮語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

韓国人の労働相談の通訳、日韓労働関係研修会などの韓国語通訳

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・人間生活学部での学位授与方針の1, 2, 3に該当します。

科目の概要

- ・朝鮮語=韓国語=ハングルの基本的な会話、読み書きができることをめざします。
- ・動詞の時制の過去、現在、未来を使います。

授業の方法 (ALを含む)

- ・隣の知らない人とも積極的に会話できるようにしましょう。
- ・まずは声を出し、会話しましょう。
- ・つづいて読んだり書いたり練習もします。
- ・単語を暗記しましょう。

到達目標

- ・あいさつと自己紹介ができるようになろう！
- ・ふだんのことを書いて読めるようになろう！
- ・簡単なことを話せるようになろう！

ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

- ・知らない人、気に入らない人とも積極的に会話しましょう。(-1他者を思う力、 -1前を向く力)
- ・韓国語で意思疎通ができるようになろう。(-3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力)
- ・韓国語でどのくらい、何ができるようになりたいか、自分の目標を立てて、それに向かって学習していきましょう。

(-1目標を決める力)

内容

1	あいさつ、基本的な自己紹介をしよう。
2	もっと自己紹介しよう。
3	誕生日と干支を言えるようにしよう。
4	単語確認、自己紹介を書いてみよう！
5	なに食べた、なに飲んだ？
6	どこに行った？ 何した？

7	どうやって行った？
8	何時に起きた？
9	ふだんのスケジュールは？
10	今日の予定は？ 夏の予定は？
11	どこ行きたい？
12	好きな食べ物
13	好きな俳優、歌手について
14	少し読んでみよう
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事後学修】

- ・習ったものを書く練習 [30分]
- ・読めるように練習 [30分]

【事前準備】

- ・課題問題を解いてくる [30分]
- ・小テストの準備 [30分]

評価方法および評価の基準

【評価方法】

- ・授業内のワークプリントはすべてクリアしなければなりません。
- ・単語テストや暗記などの小テストほかで30%
- ・最後の筆記（読み書き）テストの満点が70%
- ・総合評価60点以上で合格となります。

【フィードバック】

- ・小テストで自分の出来具合を確かめてください。
- ・小テストの用紙やその他の時にもリアクションペーパーで質問などを受け付けます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教室内ですが、積極的に話しましょう。

科目名	朝鮮語 b		
担当教員名	チョ ヒ		
ナンバリング	NEg1034		
学 科	共通科目 (N/E/S) -朝鮮語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1. 外国語科目の学位授与方針1.2.3に該当する。
2. 共通科目の外国語科目のうち選択必須の後期科目である。

科目の概要

1. 朝鮮語1aの復習をして、基礎的な文法を活用して日常の会話文が話せる。
2. CDを聴きながら書く練習や作文の訓練を行い、学習した文法を対話文で活用することができる。

授業の方法 (ALを含む)

1. 各単元が入る前に授業内容の理解を図るために単語と表現のミニテストを行う。
2. アクティブ・ラーニングとして、CDの対話文の練習をペアで行う。
3. ドラマのセリフや歌詞の訳についてグループもしくは個人でプレゼンを行う。

到達目標

1. 簡単な日記や手紙が書けると同時に実践的なコミュニケーションの力を身に付ける。
2. ドラマや歌詞の発表を通じて表現の違いや両国の文化に触れる。
3. 「韓国能力試験TOPIK」、「ハングル能力試験4・5級」レベルの理解力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3言語運用能力 -4コミュニケーション能力

内容

この授業は講義を基本に、グループ発表をしながら日韓の文化の違いを理解していく。

1	Lesson15-28 復習とまとめ (復習テストを中心に)
2	Lesson29-30 時刻・日にちの表し方
3	Lesson31 条件・仮定文/復習
4	Lesson32-33 否定文・尊敬文

5	Lesson34 尊敬文
6	Lesson35-36 依頼文・並列文
7	Lesson37 試み・許可を表す表現/復習テスト
8	Lesson38・42 勧誘文
9	Lesson39-40 過去形
10	Lesson41 希望・願望を表す表現/過去形の復習
11	Lesson43-44 可能表現/動作の先行
12	Lesson45-46 動作の進行形/感嘆表現
13	Lesson47-48 意思と推量表現/不可能表現
14	Lesson49-50 原因・理由の表現/復習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各単元の単語と表現をCDを聴きながらノートに書いて予習をする。好きなドラマのセリフや歌詞の訳を選んで事前に調べておく。発表の内容については授業中に知らせる。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回の学習内容をノートにまとめておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

平常点40%(授業参加度・日韓比較文化発表)、定期試験60%として総合的に評価し、60%以上を合格とする。

1. 授業参加度(20%/40%)・日韓比較文化発表(20%/40%)
2. 復習テスト(20%/60%)・期末試験(40%/60%)

【フィードバック】授業の前に毎回の復習や質疑に返答し、学習の理解をより深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】長友英子・萩原優子共著「韓国語をひとつひとつわかりやすく。」(学研、2013年)

【推薦書】「35回・36回・37回・41回韓国語能力試験過去問題集TOPIK」NIIED(韓国国立国際教育院)

著 公益財団法人韓国教育財団編集

「2019年版ハングル能力検定試験 ハン検過去問題集5級」ハングル能力検定協会

【参考図書】辞書については授業中に説明する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	朝鮮語 b		
担当教員名	長渡 陽一		
ナンバリング	NEg1034		
学 科	共通科目 (N/E/S) -朝鮮語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

韓国人の労働相談の通訳、日韓労働関係研修会などの韓国語通訳

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・人間生活学部の学位授与方針の1, 2, 3に該当します。

科目の概要

- ・朝鮮語=韓国語=ハングルの基本的な会話、読み書きができることをめざします。
- ・1aで勉強した文法の上に、よく使われる表現法や文型を練習します。

授業の方法 (ALを含む)

- ・隣の知らない人とも積極的に会話できるようにしましょう。
- ・まずは声を出し、会話しましょう。
- ・つづいて読んだり書いたり練習もします。
- ・ひきつづき単語をたくさん暗記しましょう。

到達目標

- ・自分が好きなものについて伝え、相手が好きなものについて理解できるようになるう！
- ・旅行したことについて、あるいはこれから行きたい旅行について伝えられるようになるう！
- ・韓国語のことを知り、韓国語について韓国語でやり取りできるようになるう！

ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

- ・知らない人、気に入らない人とも積極的に会話しましょう。(-1他者を思う力、 -1前を向く力)
- ・韓国語で意思疎通ができるようにしましょう。(-3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力)
- ・韓国語でどのくらい、何ができるようになりたいか、自分の目標を立てて、それに向かって学習していきましょう。

(-1目標を決める力)

内容

1	好きな歌手
2	好きなこと、趣味
3	旅行に行きたいところ、したいこと
4	旅行の経験
5	先週の休み
6	旅先でしたこと

7	旅行の感想
8	旅行あれこれ、書いて、読んでみよう
9	歌詞を解読してみよう
10	韓国語上手ですね～
11	韓国語の学習歴、大学で何を学んでいる？
12	韓国語を勉強したきっかけ
13	漢字語を攻略
14	少し読んでみよう
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事後学修】

- ・習ったものを書く練習 [30分]
- ・読めるように練習 [30分]

【事前準備】

- ・小テストの準備 [30分]
- ・課題問題を解いてくる [30分]

評価方法および評価の基準

【評価方法】

- ・授業内のワークプリントはすべてクリアしなければなりません。
- ・単語テストや暗記などの小テストほかで30%
- ・最後の筆記（読み書き）テストの満点が70%
- ・総合評価60点以上で合格となります。

【フィードバック】

- ・小テストで自分の出来具合を確かめてください。
- ・小テストの用紙やその他の時にもアクションペーパーで質問などを受け付けます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教室内ですが、積極的に話しましょう。

科目名	朝鮮語 b		
担当教員名	長渡 陽一		
ナンバリング	NEg1034		
学 科	共通科目 (N/E/S) -朝鮮語 a・b		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

韓国人の労働相談の通訳、日韓労働関係研修会などの韓国語通訳

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・人間生活学部の学位授与方針の1, 2, 3に該当します。

科目の概要

- ・朝鮮語=韓国語=ハングルの基本的な会話、読み書きができることをめざします。
- ・1aで勉強した文法の上に、よく使われる表現法や文型を練習します。

授業の方法 (ALを含む)

- ・隣の知らない人とも積極的に会話できるようにしましょう。
- ・まずは声を出し、会話しましょう。
- ・つづいて読んだり書いたり練習もします。
- ・ひきつづき単語をたくさん暗記しましょう。

到達目標

- ・自分が好きなものについて伝え、相手が好きなものについて理解できるようになるう！
- ・旅行したことについて、あるいはこれから行きたい旅行について伝えられるようになるう！
- ・韓国語のことを知り、韓国語について韓国語でやり取りできるようになるう！

ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

- ・知らない人、気に入らない人とも積極的に会話しましょう。(-1他者を思う力、 -1前を向く力)
- ・韓国語で意思疎通ができるようにしましょう。(-3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力)
- ・韓国語でどのくらい、何ができるようになりたいか、自分の目標を立てて、それに向かって学習していきましょう。

(-1目標を決める力)

内容

1	好きな歌手
2	好きなこと、趣味
3	旅行に行きたいところ、したいこと
4	旅行の経験
5	先週の休み
6	旅先でしたこと

7	旅行の感想
8	旅行あれこれ、書いて、読んでみよう
9	歌詞を解読してみよう
10	韓国語上手ですね～
11	韓国語の学習歴、大学で何を学んでいる？
12	韓国語を勉強したきっかけ
13	漢字語を攻略
14	少し読んでみよう
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事後学修】

- ・習ったものを書く練習 [30分]
- ・読めるように練習 [30分]

【事前準備】

- ・課題問題を解いてくる [30分]
- ・小テストの準備 [30分]

評価方法および評価の基準

【評価方法】

- ・授業内のワークプリントはすべてクリアしなければなりません。
- ・単語テストや暗記などの小テストほかで30%
- ・最後の筆記（読み書き）テストの満点が70%
- ・総合評価60点以上で合格となります。

【フィードバック】

- ・小テストで自分の出来具合を確かめてください。
- ・小テストの用紙やその他の時にもリアクションペーパーで質問などを受け付けます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教室内ですが、積極的に話しましょう。

科目名	海外語学研修		
担当教員名			
ナンバリング	NEg1036		
学 科	共通科目（N/E/S） - 海外語学研修		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

中国北京語言大学への短期・長期留学のために、中国語・異文化理解の授業および演習を行なう。

科目の概要

会話教材（プリント）やDVDなどの視覚教材を用い、中国語及び中国の社会風習に慣れる。

授業の方法（ALを含む）

- 1．中国語の基本的な語彙の確認と会話練習
- 2．異文化理解
- 3．コミュニケーション演習
- 4．危機管理

到達目標

- 1．自分が言いたいことが中国語で言える
- 2．日本と異なる風習について理解できる
- 3．言葉が分からない時のノンバーバル・コミュニケーションができる
- 4．非常時に正しい行動がとれる

ディプロマ・ポリシーとの関係

大学のディプロマ・ポリシー - 3「実践する力」、 - 2「ICTスキル・情報リテラシー」、 - 3「言語運用能力」、 - 4「コミュニケーション能力」に該当する。

内容

ガイダンス

中国語発音復習

中国語文法復習

語彙

リスニング

スピーキング

ロールプレイング

手紙・メールの書き方

北京について

グルメガイド

危機管理

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】プリント・PPT・DVDなどにより指導を行なう。それに先立ち、中国語による自己紹介を60分程度の時間をかけて作成してくる。

【事後学修】報告会のパワーポイント作成指導。そのために、写真・文章を60分程度で準備すること。

評価方法および評価の基準

事前指導の理解力を50%、現地での行動を50%とし、総合評価60点以上を合格とする。事前指導のフィードバックは授業内に行なう。現地での行動はその場で評価を行なう。

- 1.スピーキング： 事前理解（15% / 50%）・現地行動（10% / 50%）
- 2.異文化理解： 事前理解（10% / 50%）・現地行動（15% / 50%）
- 3.ストラテジー能力：事前理解（10% / 50%）・現地行動（15% / 50%）
- 4.非常時対応： 事前理解（15% / 50%）・現地行動（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント

【参考図書】『地球の歩き方・ペキン』

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に学んでください。

科目名	グローバル社会		
担当教員名	新嶋 良恵、落合 真裕		
ナンバリング	NEd1021		
学 科	共通科目 (N/E/S) -社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

朝日新聞『GLOBE』部校閲記者経験から、多言語による情報発信について話すことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目 科目の性格

現代社会において、グローバル化がローカルに与える影響について考察し、共存することについて深く考えるための基礎的な知識を身につける。グローバルな動きに付随して噴出するローカルな帰属意識など、グローバル化が直面する問題を含めこれからの社会を考えていく力について考えていく講義となる。

科目の概要

グローバル化は私たちの生きる社会を端的に表す言葉である。政治、経済、ビジネス網はもちろん、国境を越えて広がるものには映画、音楽などの文化などがある。本講義ではグローバル化とはいったい何なのか、いかなる影響があるのか、そして、私たちはこのような現代社会の中でどのように生きいけば良いか、等について深く考え、探求していく。

授業の方法 (ALを含む)

基本的には講義形式だが、映像をふまえた資料についてのまとめ、グループディスカッションの中で積極的な講義参加も求められる。

到達目標

- ・現代社会を多面的にとらえる視点を理解することができる。
- ・現代社会において、グローバル化がローカルに与える影響について考察ができる。
- ・共存することについて深く考えるために異なる価値観を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3 グローバルマインド
- 4 未来を創造する力

内容

1	講義概要の説明 【担当：新嶋】
2	インターネットによってつながる世界【新嶋】
3	グローバル化する企業活動【新嶋】

4	ローカルなものとの衝突【新嶋】
5	共通内容 持続可能な社会のための課題と取り組み1【落合】
6	共通内容 持続可能な社会のための課題と取り組み2【落合】
7	差異の政治 【新嶋】
8	文化のグローバリズム【新嶋】
9	東南アジア諸国連合と日本【新嶋】
10	欧州 超国家組織（EU）の成り立ち等【新嶋】
11	米国 二分化する社会【新嶋】
12	帰属の政治1【新嶋】
13	帰属の政治2【新嶋】
14	ヘイト・スピーチ問題 【新嶋】
15	総括【新嶋】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】翌週に扱うテーマについて、関連図書、インターネット等で確認し、自分なりに整理し、意見を考えてくること（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内容の復習やアサインメント等によって各自で内容理解に努めること（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（発言等による貢献等）<20%>、リアクションペーパー<30%>、期末試験<50%>。60点以上を合格とする。

到達目標3点について、課題では文章から、試験では設問を通して到達度を評価する。

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションペーパー等に基づき前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教員が提示するハンドアウト。

【推薦書】各教員より授業内で指示。

【参考図書】各教員より授業内で指示。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	グローバル社会		
担当教員名	新嶋 良恵、落合 真裕		
ナンバリング	NEd1021		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

朝日新聞『GLOBE』部校閲記者経験から、多言語による情報発信について話すことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目 科目の性格

現代社会において、グローバル化がローカルに与える影響について考察し、共存することについて深く考えるための基礎的な知識を身につける。グローバルな動きに付随して噴出するローカルな帰属意識など、グローバル化が直面する問題を含めこれからの社会を考えていく力について考えていく講義となる。

科目の概要

グローバル化は私たちの生きる社会を端的に表す言葉である。政治、経済、ビジネス網はもちろん、国境を越えて広がるものには映画、音楽などの文化などがある。本講義ではグローバル化とはいったい何なのか、いかなる影響があるのか、そして、私たちはこのような現代社会の中でどのように生きいけば良いか、等について深く考え、探求していく。

授業の方法 (ALを含む)

基本的には講義形式だが、映像をふまえた資料についてのまとめ、グループディスカッションの中で積極的な講義参加も求められる。

到達目標

- ・現代社会を多面的にとらえる視点を理解することができる。
- ・現代社会において、グローバル化がローカルに与える影響について考察ができる。
- ・共存することについて深く考えるために異なる価値観を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3 グローバルマインド
- 4 未来を創造する力

内容

1	講義概要の説明 【担当：新嶋】
2	インターネットによってつながる世界【新嶋】
3	ローバル化する企業活動【新嶋】

4	ローカルなものとの衝突【新嶋】
5	共通内容 持続可能な社会のための課題と取り組み1【落合】
6	共通内容 持続可能な社会のための課題と取り組み2【落合】
7	差異の政治【新嶋】
8	文化のグローバリズム【新嶋】
9	東南アジア諸国連合と日本【新嶋】
10	欧州 超国家組織（EU）の成り立ち等【新嶋】
11	米国 二分化する社会【新嶋】
12	帰属の政治1【新嶋】
13	帰属の政治2【新嶋】
14	ヘイト・スピーチ問題【新嶋】
15	総括【新嶋】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】翌週に扱うテーマについて、関連図書、インターネット等で確認し、自分なりに整理し、意見を考えてくること（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内容の復習やアサインメント等によって各自で内容理解に努めること（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（発言等による貢献等）<20%>、リアクションペーパー<30%>、期末試験<50%>。60点以上を合格とする。

到達目標3点について、課題では文章から、試験では設問を通して到達度を評価する。

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションペーパー等に基づき前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教員が提示するハンドアウト。

【推薦書】各教員より授業内で指示。

【参考図書】各教員より授業内で指示。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ネットワーク社会		
担当教員名	深澤 進		
ナンバリング	NEd1022		
学 科	共通科目 (N/E/S) -社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は人間生活学部の学位授与方針 1 . に該当する。

基礎的な学修能力を養うために一般的に必要な教養として、「情報」の基本的な性格を学習し、その適切な活用方法を検討する。

科目の概要

- ・情報の基礎 (情報の概念、特徴等)
 - ・情報システムのしくみ (コンピュータ・ネットワーク等)
 - ・セキュリティ、個人情報保護、情報倫理
- を中心に講義する。

授業の方法

講義形式で行う。授業参加者は毎回リアクションペーパーを提出する。

到達目標

- (1)情報とはどのようなものを理解すること
- (2)コンピュータ・ネットワークはどのような仕組みで成り立っているのかを理解すること
- (3)現代社会において、情報と適切に接することができるようになること

以上三点を目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は主にディプロマ・ポリシー -3「グローバルマインド」および -4「未来を創造する力」の養成に関連する。

内容

この授業は講義を基本に進める。受講者は内容に対するリアクションペーパーを授業ごとに提出する。

1	ガイダンス ネットワーク社会とは
2	情報とは何か
3	日本社会の現状とグローバリゼーション

4	持続可能な社会のための課題と取り組み
5	情報化社会とは何か
6	情報とメディア
7	ネットワーク社会における情報
8	データベースによる情報管理
9	現代生活とネットワーク社会
10	コンピュータ・ネットワークの特質
11	「フェイクニュース」拡散の仕組み
12	ネットワーク社会と集団心理
13	情報倫理
14	ネットワーク社会におけるふるまい方
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

授業内容のテーマについて興味を持った点を、事前に調べておくことよい。（各授業に対して45分）

【事後学修】

その回の授業分のリアクションペーパーを作成すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度50%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業への参加度は、授業内での発言や、提出されたリアクションペーパーの内容によって評価する。

授業への参加度と筆記試験双方とも、到達目標に掲げた三点をクリアできているかを基準とする。

リアクションペーパーは評価を記入後返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

使用しない

【推薦書】

駒谷昇一・山川修・中西通雄・北上始・佐々木整・湯瀬裕昭 共著 『情報とネットワーク社会』 オーム社

【参考図書】

教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の進め方や評価方法の詳細は初回の授業時に説明する。

科目名	ネットワーク社会		
担当教員名	深澤 進		
ナンバリング	NEd1022		
学 科	共通科目（N/E/S） -社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は人間生活学部の学位授与方針1．に該当する。

基礎的な学修能力を養うために一般的に必要な教養として、「情報」の基本的な性格を学習し、その適切な活用方法を検討する。

科目の概要

- ・情報の基礎（情報の概念、特徴等）
 - ・情報システムのしくみ（コンピュータ・ネットワーク等）
 - ・セキュリティ、個人情報保護、情報倫理
- を中心に講義する。

授業の方法

講義形式で行う。授業参加者は毎回リアクションペーパーを提出する。

到達目標

- (1)情報とはどのようなものを理解すること
 - (2)コンピュータ・ネットワークはどのような仕組みで成り立っているのかを理解すること
 - (3)現代社会において、情報と適切に接することができるようになること
- 以上三点を目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は主にディプロマ・ポリシー -3「グローバルマインド」および -4「未来を創造する力」の養成に関連する。

内容

この授業は講義を基本に進める。受講者は内容に対するリアクションペーパーを授業ごとに提出する。

1	ガイダンス ネットワーク社会とは
2	情報とは何か
3	日本社会の現状とグローバリゼーション

4	持続可能な社会のための課題と取り組み
5	情報化社会とは何か
6	情報とメディア
7	ネットワーク社会における情報
8	データベースによる情報管理
9	現代生活とネットワーク社会
10	コンピュータ・ネットワークの特質
11	「フェイクニュース」拡散の仕組み
12	ネットワーク社会と集団心理
13	情報倫理
14	ネットワーク社会におけるふるまい方
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

授業内容のテーマについて興味を持った点を、事前に調べておくことよい。（各授業に対して45分）

【事後学修】

その回の授業分のリアクションペーパーを作成すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度50%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業への参加度は、授業内での発言や、提出されたリアクションペーパーの内容によって評価する。

授業への参加度と筆記試験双方とも、到達目標に掲げた三点をクリアできているかを基準とする。

リアクションペーパーは評価を記入後返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

使用しない

【推薦書】

駒谷昇一・山川修・中西通雄・北上始・佐々木整・湯瀬裕昭 共著 『情報とネットワーク社会』 オーム社

【参考図書】

教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の進め方や評価方法の詳細は初回の授業時に説明する。

科目名	共生社会入門		
担当教員名	吉田 亨		
ナンバリング	NEd1023		
学 科	共通科目 (N/E/S) -社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年前期と後期に開講される、共通科目「社会に生きる」の選択必修科目。

科目の概要

「共生」という概念がどのように作られ、広がってきたかを、自然環境との共生、多文化共生、障害者・健常者の共生、地域共生社会をキーワードに、主体的に学んでいく授業である。

授業の方法 (ALを含む)

講義や発表の回では【リアクションペーパー】を利用する。授業の間では、【レポート(表現)】(論述型レポート)を作成し、【プレゼンテーション】を行う。

到達目標

1. 「共生」の概念について説明できる。
2. 論述型レポートの作成方法を説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3グローバルマインド -4未来を創造する力

内容

授業の前半5回は「共生」に関する概論的な講義などを行う。中間8回は、各自が関心を持った「共生」のトピックについて、論述型のレポートをPowerPointで作成し、発表する。なお、発表方法は履修者数に応じて、調整する。最後の2回は「社会に生きる」の共通授業内容である。

1	「共生」概念とその広がり
2	自然環境との共生
3	多文化共生
4	障害者・健常者の共生
5	地域共生社会

6	共生社会の実像を探る
7	共生社会の課題を探る
8	共生社会の未来を描く
9	中間まとめ
10	自然環境との共生(実像・課題・未来)
11	多文化共生(実像・課題・未来)
12	障害者・健常者の共生(実像・課題・未来)
13	地域共生社会(実像・課題・未来)
14	日本社会の現状とグローバリゼーション(「社会に生きる」共通授業内容)
15	持続可能な社会のための課題と取り組み(「社会に生きる」共通授業内容)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前半5回と最後の2回は、次回テーマについて事前学習をする。中間8回は、論述型レポート作成のための課題を課す。(60分)

【事後学修】前半5回と最後の2回は、各回の授業テーマに関する宿題を課す。中間8回は、授業での課題を完成させる。(60分)

評価方法および評価の基準

「共生」のトピックについて、各自がPowerPointで作成した論述型のレポートと、その発表で主に評価する。レポートとその発表が90%、平常点が10%とし、総合評価60点以上を合格とする。評価の比率は、到達目標の1.が3割、2.が7割とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された学生からの質問には、次回の授業で、出来る限り回答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】資料を配付する。

【参考図書】教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	共生社会入門		
担当教員名	吉田 亨		
ナンバリング	NEd1023		
学 科	共通科目 (N/E/S) -社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年前期と後期に開講される、共通科目「社会に生きる」の選択必修科目。

科目の概要

「共生」という概念がどのように作られ、広がってきたかを、自然環境との共生、多文化共生、障害者・健常者の共生、地域共生社会をキーワードに、主体的に学んでいく授業である。

授業の方法 (ALを含む)

講義や発表の回では【リアクションペーパー】を利用する。授業の間では、【レポート(表現)】(論述型レポート)を作成し、【プレゼンテーション】を行う。

到達目標

1. 「共生」の概念について説明できる。
2. 論述型レポートの作成方法を説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3グローバルマインド -4未来を創造する力

内容

授業の前半5回は「共生」に関する概論的な講義などを行う。中間8回は、各自が関心を持った「共生」のトピックについて、論述型のレポートをPowerPointで作成し、発表する。なお、発表方法は履修者数に応じて、調整する。最後の2回は「社会に生きる」の共通授業内容である。

1	「共生」概念とその広がり
2	自然環境との共生
3	多文化共生
4	障害者・健常者の共生
5	地域共生社会

6	共生社会の実像を探る
7	共生社会の課題を探る
8	共生社会の未来を描く
9	中間まとめ
10	自然環境との共生(実像・課題・未来)
11	多文化共生(実像・課題・未来)
12	障害者・健常者の共生(実像・課題・未来)
13	地域共生社会(実像・課題・未来)
14	日本社会の現状とグローバリゼーション(「社会に生きる」共通授業内容)
15	持続可能な社会のための課題と取り組み(「社会に生きる」共通授業内容)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前半5回と最後の2回は、次回テーマについて事前学習をする。中間8回は、論述型レポート作成のための課題を課す。(60分)

【事後学修】前半5回と最後の2回は、各回の授業テーマに関する宿題を課す。中間8回は、授業での課題を完成させる。(60分)

評価方法および評価の基準

「共生」のトピックについて、各自がPowerPointで作成した論述型のレポートと、その発表で主に評価する。レポートとその発表が90%、平常点が10%とし、総合評価60点以上を合格とする。評価の比率は、到達目標の1.が3割、2.が7割とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された学生からの質問には、次回の授業で、出来る限り回答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】資料を配付する。

【参考図書】教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	多様性と倫理		
担当教員名	安達 宏之		
ナンバリング	NEd1024		
学 科	共通科目（N/E/S） - 社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「生物多様性」をキーワードに、具体的な事例を取り上げながら、多様性と倫理について考えていく。教職課程の必修科目ではない。

科目の概要

前半は、生物多様性を中心にした環境問題の現状や国際社会の動向、個別事例を通して、生物多様性の現状を学ぶ。

後半は、前半から抽出できる倫理を紹介するとともに、生物多様性をめぐる法の考え方を取り上げ、保全すべき生物多様性とは何かを学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

教科書を使用した講義と、生物や自然、環境問題に関する画像や映像を提示した講義から成る。また、具体的な課題を提起して質疑応答を織り交ぜ、学びを深めていく。

到達目標

「生物多様性」やその保全の在り方について具体像を描けるきっかけを得るとともに、「生物多様性の保全」、「生態系の中の人」、「多様性と倫理」について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 グローバルマインド、
- 2 未来を創造する力

内容

- 1 「多様性と倫理」を考える
- 2 「生物多様性」とは何か
- 3 日本社会の現状とグローバリゼーション〔共通授業テーマ〕
 - グローバリゼーションについての基礎的な知識を身につけ理解を促す
 - ワークシートを活用して授業を展開
- 4 企業と環境

- 5 企業と生物多様性
- 6 企業と環境 各企業の取り組みと課題
- 7 企業と生物多様性 各企業の取り組みと課題
- 8 持続可能な社会のための課題と取り組み〔共通授業テーマ〕
SDGs（持続可能な開発目標）についての基礎的な知識を身につけ理解を促す
ワークシートを活用して授業を展開
- 9 海の生物多様性と倫理、社会 東京湾三番瀬の自然と開発
- 10 海の生物多様性と倫理、社会 自然再生と市民参加の課題
- 11 人と生物多様性 生命倫理、環境倫理を考える
- 12 人と生物多様性 人にとって保全すべき生物多様性とは
- 13 法と生物多様性 人権と「自然の権利」、「動物の権利」
- 14 法と生物多様性 環境法の進展と課題
- 15 まとめ 生物多様性の保全とは何か

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に告げられる次回授業のテーマについて、インターネット等により情報を収集し、論点を確認する（各回60分）。

【事後学修】今回授業で学んだことを確認し、当該テーマの論点を再確認し、自らの見解をまとめる（各回60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%（毎回の講義において質問をするので積極的に議論に参加する）、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で質疑応答の時間を設け、理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】安達宏之『生物多様性と倫理、社会』（法律情報出版、2020年3月刊行、定価1,500円（税抜））

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

地球環境が危機的な状況の中、「生物多様性」が国際社会のキーワードのひとつになっています。その現状と課題を学ぶとともに、「生命とは何か」「人と他の動物は異なるのか」「保全すべき生物多様性とは何か」など、私たちが生きていくうえで大切な疑問も丁寧に考えていきたいと思えます。

科目名	多様性と倫理		
担当教員名	安達 宏之		
ナンバリング	NEd1024		
学 科	共通科目（N/E/S） - 社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「生物多様性」をキーワードに、具体的な事例を取り上げながら、多様性と倫理について考えていく。教職課程の必修科目ではない。

科目の概要

前半は、生物多様性を中心にした環境問題の現状や国際社会の動向、個別事例を通して、生物多様性の現状を学ぶ。

後半は、前半から抽出できる倫理を紹介するとともに、生物多様性をめぐる法の考え方を取り上げ、保全すべき生物多様性とは何かを学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

教科書を使用した講義と、生物や自然、環境問題に関する画像や映像を提示した講義から成る。また、具体的な課題を提起して質疑応答を織り交ぜ、学びを深めていく。

到達目標

- ・「生物多様性」の基礎知識を習得することができる。
- ・「生物多様性の保全」に向けた倫理の在り方を理解できる。
- ・「生物多様性保全」に向けた社会の在り方を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 グローバルマインド、
- 2 未来を創造する力

内容

1 「多様性と倫理」を考える

2 「生物多様性」とは何か

3 日本社会の現状とグローバリゼーション〔共通授業テーマ〕

グローバリゼーションについての基礎的な知識を身につけ理解を促す

ワークシートを活用して授業を展開

- 4 企業と環境
- 5 企業と生物多様性
- 6 企業と環境 各企業の取り組みと課題
- 7 企業と生物多様性 各企業の取り組みと課題
- 8 持続可能な社会のための課題と取り組み〔共通授業テーマ〕
SDGs（持続可能な開発目標）についての基礎的な知識を身につけ理解を促す
ワークシートを活用して授業を展開
- 9 海の生物多様性と倫理、社会 東京湾三番瀬の自然と開発
- 10 海の生物多様性と倫理、社会 自然再生と市民参加の課題
- 11 人と生物多様性 生命倫理、環境倫理を考える
- 12 人と生物多様性 人にとって保全すべき生物多様性とは
- 13 法と生物多様性 人権と「自然の権利」、「動物の権利」
- 14 法と生物多様性 環境法の進展と課題
- 15 まとめ 生物多様性の保全とは何か

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に告げられる次回授業のテーマについて、インターネット等により情報を収集し、論点を確認する（各回60分）。

【事後学修】今回授業で学んだことを確認し、当該テーマの論点を再確認し、自らの見解をまとめる（各回60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%（毎回の講義において質問をするので積極的に議論に参加する）、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で質疑応答の時間を設け、理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】安達宏之『生物多様性と倫理、社会』（法律情報出版、2020年3月刊行、定価1,500円（税抜））

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

地球環境が危機的な状況の中、「生物多様性」が国際社会のキーワードのひとつになっています。その現状と課題を学ぶとともに、「生命とは何か」「人と他の動物は異なるのか」「保全すべき生物多様性とは何か」など、私たちが生きていくうえで大切な疑問も丁寧に考えていきたいと思えます。

科目名	持続可能な社会		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	NEd1025		
学 科	共通科目（N/E/S） - 社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学共通科目「社会に生きる」分野の科目として、国際社会における環境問題について学ぶ。

科目の概要

地球環境問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作りなおすという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム（生態系）という視点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な対策について検討するとともに、エコシステムに注目する行動の基礎になった環境倫理学の視点も紹介して、生態系を重視する環境保護政策のあり方について考える。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本とし、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく【討議・討論】【リアクションペーパー】【レポート（表現）】

到達目標

持続可能な社会のための国際社会の動きの実態を理解する。

国際社会にとっての今後の課題を考える。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は大学ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 グローバルマインド
- 4 未来を創造する力

内容

1	地球環境問題をどう捉えるか
2	環境を考える4つの視点（1）：市場優先派と制度重視派
3	環境を考える4つの視点（2）：生態系優先派と緑の社会正義派
4	環境保護対策の考え方
5	国際協力体制の始まり：環境問題のグローバル化

6	国際協力体制の発展：SDGs
7	環境問題における国際対立
8	環境問題と経済格差
9	環境問題とジェンダー
10	環境問題と民主主義
11	環境NGO
12	環境倫理学
13	生態系を守る環境保護政策
14	環境学への視座
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】新聞・ニュース等で、環境関連の出来事について情報を集める。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で説明された政治経済社会的背景を踏まえて、集めた情報を整理する。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

レポート（60%）と筆記試験（40%）で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京商工会議所編『eco検定公式テキスト』日本能率協会 2011年

【推薦書】京都大学地球環境学研究会 『地球環境学へのアプローチ』丸善 2008年；関礼子他『環境の社会学』有斐閣アルマ 2009年

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』明石書店 2003年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験は行わない

科目名	持続可能な社会		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	NEd1025		
学 科	共通科目（N/E/S） - 社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学共通科目「社会に生きる」分野の科目として、国際社会における環境問題について学ぶ。

科目の概要

地球環境問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作りなおすという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム（生態系）という視点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な対策について検討するとともに、エコシステムに注目する行動の基礎になった環境倫理学の視点も紹介して、生態系を重視する環境保護政策のあり方について考える。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本とし、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく【討議・討論】【リアクションペーパー】【レポート（表現）】

到達目標

持続可能な社会のための国際社会の動きの実態を理解する。

国際社会にとっての今後の課題を考える。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は大学ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 グローバルマインド
- 4 未来を創造する力

内容

1	地球環境問題をどう捉えるか
2	環境を考える4つの視点（1）：市場優先派と制度重視派
3	環境を考える4つの視点（2）：生態系優先派と緑の社会正義派
4	環境保護対策の考え方
5	国際協力体制の始まり：環境問題のグローバル化
6	国際協力体制の発展：SDGs

7	環境問題における国際対立
8	環境問題と経済格差
9	環境問題とジェンダー
10	環境問題と民主主義
11	環境NGO
12	環境倫理学
13	生態系を守る環境保護政策
14	環境学への視座
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】新聞・ニュース等で、環境関連の出来事について情報を集める。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で説明された政治経済社会的背景を踏まえて、集めた情報を整理する。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

レポート（60%）と筆記試験（40%）で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京商工会議所編『eco検定公式テキスト』日本能率協会 2011年

【推薦書】京都大学地球環境学研究会『地球環境学へのアプローチ』丸善 2008年；関礼子他『環境の社会学』有斐閣アルマ 2009年

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ『生物多様性の危機』明石書店 2003年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験は行わない

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	NEd1026		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人権保障の根本法となる日本国憲法の理念と精神、その内容の全体像を理解していくところにねらいがある。教職必修科目である。

科目の概要

本科目では、国際女性年及び国連女性の10年が掲げた「平等・発展・平和という理念から、またジェンダーに敏感な視点と定着という意欲・姿勢から、国内外で生起する人権問題や憲法政治状況を具体的に取り上げ、憲法全体への理解を深めていく。

授業の方法

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書という方法により展開する。

到達目標

日本国憲法への問題意識をもって、有権者の一人として市民生活を営み、また参政権を行使する者として必要な、日本国憲法を起点にした認識力・考察力・判断力の基本視点を獲得するということを目指とする。

ディプロマポリシーとの関係

本科目は、本学の共通科目「社会に生きる」領域のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 -3 グローバルマインド」、「 -4 未来を創造する力」に該当する。

内容

授業計画ー授業は講義を基本とするが、毎回適宜、質疑応答を行う。

第1回：主権者教育としての憲法学習の意味

第2回：立憲的意味の憲法（立憲主義）とは何か

第3回：日本国憲法の三大原理 - 国民主権

第4回：日本国憲法の三大原理 - 基本的人権の尊重

第5回：日本国憲法の三大原理 - 平和主義

第6回：基本的人権の種類と内容 - 自由権

第7回：基本的人権の種類と内容 - 平等権

第8回：基本的人権の種類と内容 - 社会権

第9回：基本的人権の種類と内容 - 参政権

第10回：基本的人権の種類と内容 - 請求権

第11回：日本国憲法の構成と意味内容 - 前文、象徴天皇制、第9条と平和保障

第12回：日本国憲法の構成と意味内容 - 国民の権利・義務、三権分立の仕組み

第13回：日本国憲法の構成と意味内容 - 財政の意味と役割、地方自治

第14回：憲法改正手続、憲法の最高法規性 - 憲法改正問題への視点

第15回：全体のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読し、要点を調べノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習を行い、板書した項目についてノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

小レポート40%、まとめのレポート60%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 - 小レポート40%、まとめのレポート60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】片居木・福岡・長野・安達著『改訂新版 日本国憲法へのとびら～いま、主権者に求められること～』法律情報出版

【参考書】授業時、適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	NEd1026		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人権保障の根本法となる日本国憲法の理念と精神、その内容の全体像を理解していくところにねらいがある。教職必修科目である。

科目の概要

本科目では、国際女性年及び国連女性の10年が掲げた「平等・発展・平和という理念から、またジェンダーに敏感な視点と定着という意欲・姿勢から、国内外で生起する人権問題や憲法政治状況を具体的に取り上げ、憲法全体への理解を深めていく。

授業の方法

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書という方法により展開する。

到達目標

日本国憲法への問題意識をもって、有権者の一人として市民生活を営み、また参政権を行使する者として必要な、日本国憲法を起点にした認識力・考察力・判断力の基本視点を獲得するということを目指とする。

ディプロマポリシーとの関係

本科目は、本学の共通科目「社会に生きる」領域のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 - 3 グローバルマインド」、「 - 4 未来を創造する力」に該当する。

内容

授業計画－授業は講義を基本とするが、毎回適宜、質疑応答を行う。

第1回：主権者教育としての憲法学習の意味

第2回：立憲的意味の憲法（立憲主義）とは何か

第3回：日本国憲法の三大原理 - 国民主権

第4回：日本国憲法の三大原理 - 基本的人権の尊重

第5回：日本国憲法の三大原理 - 平和主義

第6回：基本的人権の種類と内容 - 自由権

第7回：基本的人権の種類と内容 - 平等権

第8回：基本的人権の種類と内容 - 社会権

第9回：基本的人権の種類と内容 - 参政権

第10回；基本的人権の種類と内容 - 請求権

第11回：日本国憲法の構成と意味内容 - 前文、象徴天皇制、第9条と平和保障

第12回；日本国憲法の構成と意味内容 - 国民の権利・義務、三権分立の仕組み

第13回：日本国憲法の構成と意味内容 - 財政の意味と役割、地方自治

第14回：憲法改正手続、憲法の最高法規性 - 憲法改正問題への視点

第15回：全体のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読し、要点を調べノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習を行い、板書した項目についてノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

小レポート40%、まとめのレポート60%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標－小レポート40%、まとめのレポート60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】片居木・福岡・長野・安達著『改訂新版 日本国憲法へのとびら～いま、主権者に求められること～』法律情報出版

【参考書】授業時、適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	安達 宏之		
ナンバリング	NEd1026		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職課程の必修科目であり、人権保障の根本法となる日本国憲法の理念と精神、その内容の全体像を理解する。

科目の概要

国内外で生起する人権問題や憲法を取り巻く政治状況を具体的に取り上げ、憲法全体への理解を深めていく。

授業の方法 (ALを含む)

教科書を使用した講義を基本に、課題を提起して質疑応答を織り交ぜながら、学びを深めていく。

到達目標

- ・日本国憲法の基本原理と概要を理解することができる。
- ・憲法状況について人権保障の観点から考える思考を学ぶことができる。
- ・主権者の一人として市民生活を営んでいくために、社会問題について自ら考える力を習得することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力、
- 1 グローバルマインド、
- 2 未来を創造する力

内容

教科書を使用した講義を基本に、課題を提起して質疑応答を織り交ぜながら、学びを深めていく。

第1回：憲法とは何か

第2回：日本国憲法の制定過程

第3回：日本国憲法の基本原理

第4回：基本的人権の種類と内容(1)

第5回：基本的人権の種類と内容(2)

第6回：基本的人権の種類と内容(3)

第7回：基本的人権の種類と内容（4）

第8回：基本的人権の種類と内容（5）

第9回：平和主義

第10回：国民主権

第11回：権力分立

第12回：財政と租税

第13回：地方自治

第14回：憲法改正

第15回：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読し、当該箇所の論点や自らの見解をまとめる（各回60分）。

【事後学修】今回授業のテキスト箇所を通読し直すとともに、授業内容を振り返り、当該箇所の論点や自らの見解を再確認する（各回60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%（毎回の講義において質問をするので積極的に議論に参加する）、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で質疑応答の時間を設け、理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片居木・福岡・長野・安達著『改訂新版 日本国憲法へのとびら～いま、主権者に求められること～』法律情報出版（2019年3月刊行）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

特に人権について、実際の社会状況を確認しながら学んでいきます。

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	安達 宏之		
ナンバリング	NEd1026		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職課程の必修科目であり、人権保障の根本法となる日本国憲法の理念と精神、その内容の全体像を理解する。

科目の概要

国内外で生起する人権問題や憲法を取り巻く政治状況を具体的に取り上げ、憲法全体への理解を深めていく。

授業の方法 (ALを含む)

教科書を使用した講義を基本に、課題を提起して質疑応答を織り交ぜながら、学びを深めていく。

到達目標

- ・日本国憲法の基本原理と概要を理解することができる。
- ・憲法状況について人権保障の観点から考える思考を学ぶことができる。
- ・主権者の一人として市民生活を営んでいくために、社会問題について自ら考える力を習得することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力、
- 1 グローバルマインド、
- 2 未来を創造する力

内容

教科書を使用した講義を基本に、課題を提起して質疑応答を織り交ぜながら、学びを深めていく。

第1回：憲法とは何か

第2回：日本国憲法の制定過程

第3回：日本国憲法の基本原理

第4回：基本的人権の種類と内容(1)

第5回：基本的人権の種類と内容(2)

第6回：基本的人権の種類と内容(3)

第7回：基本的人権の種類と内容(4)

第8回：基本的人権の種類と内容（5）

第9回：平和主義

第10回：国民主権

第11回：権力分立

第12回：財政と租税

第13回：地方自治

第14回：憲法改正

第15回：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読し、当該箇所の論点や自らの見解をまとめる（各回60分）。

【事後学修】今回授業のテキスト箇所を通読し直すとともに、授業内容を振り返り、当該箇所の論点や自らの見解を再確認する（各回60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%（毎回の講義において質問をするので積極的に議論に参加する）、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で質疑応答の時間を設け、理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片居木・福岡・長野・安達著『改訂新版 日本国憲法へのとびら～いま、主権者に求められること～』法律情報出版（2019年3月刊行）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

特に人権について、実際の社会状況を確認しながら学んでいきます。

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング	NEd1026		
学 科	共通科目（N/E/S） -社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は共通科目として市民として必要な日本国憲法の歴史・内容・解釈等を理解しそれらを元における社会のものをとを判断し、書き表す力を育成するものである。

科目の概要

憲法について条文を学ぶのみでなく現実の社会において何が問題となっているか時事問題にも目を向けながら憲法について理解していく。憲法をめぐる動き・論点を踏まえつつ、憲法の基本的な内容を概観する。憲法の人権・統治機構・憲法改正の動き等とともに社会の動きと憲法との関連を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

- ・レジュメを配布しその内容を説明すると共に映像視聴によりその内容理解を深める。
- ・学生が授業内容や特定のテーマについて議論し理解を深めるディスカッションを行う。
- ・学生が授業から得た知識や考え方、感想、疑問点などを記入し理解を深めるためリアクションペーパーを一定のまとまりごとに提出する。

【グループワーク】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 学生が日本国憲法の基本的知識を習得する
2. 学生が国や社会、現在起こっていることと憲法との関わりにおいて理解する
3. 学生が上記について自分の意見を持つ

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1読み解く力 -3グローバルマインド

内容

この授業は講義を基本として時事問題を映像で見たり、現代社会の問題を取り上げながら憲法の理解を深めていく。

1. オリエンテーション 日本国憲法とは【リアクションペーパー】

2. 憲法の歴史 欧米の憲法史、明治憲法、日本国憲法制定史
3. 国民主権-憲法前文、平和主義-憲法9条、安保体制、集団的自衛権【ディスカッション】【リアクションペーパー】
4. 基本的人権 幸福追求権、プライバシー権
5. 基本的人権 法の下の平等
6. 基本的人権 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則
7. 基本的人権 表現の自由、報道の自由
8. 憲法改正手続 憲法96条、硬性憲法、自民党改正草案、憲法改正の論点
9. 基本的人権 国務請求権、社会権
10. 基本的人権 財産権、人身の自由【ディスカッション】【リアクションペーパー】
11. 統治機構 国会、内閣、裁判所、権力分立
12. 統治機構 地方自治 地方自治、地域と自治権、予算、条例
13. 国家・政府と憲法 安全保障と憲法、安全保障関連法、憲法改正・憲法9条改正問題、世界の国家と憲法
14. 立憲主義、参政権、18歳選挙権、知る権利【ディスカッション】
15. まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】憲法に関連するニュースをフォローする。授業テーマについて基礎知識を得る。(各授業に対して45分)

【事後学修】授業の論点について調べる、自分の考えをまとめる。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

試験(90%)、平常点(10%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】数回行うリアクションペーパー等の次の回に疑問・意見などに回答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業でレジュメ・資料などを用意する。

推薦書 芦部信喜「憲法 第六版」岩波書店、2015年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ボランティア論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	NEd1027		
学 科	共通科目 (N/E/S) -社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉協議会ボランティアセンターの運営及びボランティアコーディネーターとしてコーディネーションの実務経験を生かして担当し、埼玉県社会福祉協議会や全国社会福祉協議会のボランティアに関する研修講師や研究委員会協力による実証研究を含める専門性を活かして具体的な実践事例を用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は本学の共通科目「社会に生きる」の該当科目で、ディプロマ・ポリシーの「女性のライフデザイン、グローバルと多様性」「社会への参画(学修のための基礎力)」を中心的なねらいとしている。

福祉を中心とする「ボランティア」について全般的な理解とボランティア・コーディネーションの基本姿勢をとらえる。

科目の概要

ボランティアの概観から歴史と性格を理解し、ボランティア活動の実際と推進を支えるボランティア・コーディネーションについて、具体的な実践事例(ゲストスピーカー)を交えながら理解することを内容とする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義とともに、より具体的な実践事例から学修できるようボランティア活動の実践団体やコーディネート専門職等の実践者にゲストスピーカーとして報告をしてもらい、質疑応答やシンキングタイムを設けて、小グループで話し合うことも取り入れた授業を行う。また、広義を通して得た知識の定着と理解度を理解するレポートライティングを行い、毎時リアクションペーパーを記入し、次回開始時に教員がフィードバックし、学修内容の理解促進を充実させる。【グループワーク】【レポート】【リアクションペーパー】

到達目標

1. ボランティアについて説明することができる。
2. ボランティア活動の実際を学び参加できるようにする。
3. ボランティア・コーディネーターの基本姿勢を解釈することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、本学の共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3グローバルマインド
- 4未来を創造する力

内容

1	ボランティアについて-概観-【グループワーク】【リアクションペーパー】
2	実際の活動とともに学ぶ 本学ボランティアセンターや学内活動【リアクションペーパー】
3	ボランティアの必要性和意味【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	ボランティア活動の内容-【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	実際の活動とともに学ぶ 施設等でのボランティア学習【リアクションペーパー】
6	日本のボランティア活動の歴史【グループワーク】【リアクションペーパー】
7	ボランティア活動の性格【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】
8	実際の活動とともに学ぶ 地域で求められるボランティア【リアクションペーパー】
9	ボランティアとNPO【グループワーク】【リアクションペーパー】
10	実際の活動とともに学ぶ NPO法人のボランティア【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	ボランティア活動の課題と弱点【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	ボランティアセンター【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	実際の活動とともに学ぶ ボランティアセンターの実際【リアクションペーパー】
14	ボランティアコーディネーターの役割【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	まとめ【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ボランティアについて、書籍、テレビ、新聞、雑誌、実際のボランティア活動等から確認して、自分なりに内容を整理してまとめておく(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業内容を復習することを必須として、授業時に紹介されたHP、活動等について各自内容を理解し、深められるよう、復習ノートを作成する(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各授業回のグループワーク(10%)、リアクションペーパー(10%)、レポート課題2点提出(80%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.グループワーク(4%/10%)、リアクションペーパー(4%/10%)、レポート(30%/80%)

到達目標2.グループワーク(4%/10%)、リアクションペーパー(4%/10%)、レポート(30%/80%)

到達目標3.グループワーク(2%/10%)、リアクションペーパー(2%/10%)、レポート(20%/80%)

【フィードバック】毎授業のリアクションペーパーの質疑に対しては、授業開始時に応答し、必要に応じてペーパーに返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。

その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会編「ボランティアコーディネーション力」中央法規、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論」(株)みらい

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ボランティア論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	NEd1027		
学 科	共通科目 (N/E/S) -社会に生きる		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉協議会ボランティアセンターの運営及びボランティアコーディネーターとしてコーディネーションの実務経験を生かして担当し、埼玉県社会福祉協議会や全国社会福祉協議会のボランティアに関する研修講師や研究委員会協力による実証研究を含める専門性を活かして具体的な実践事例を用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は本学の共通科目「社会に生きる」の該当科目で、ディプロマ・ポリシーの「女性のライフデザイン、グローバルと多様性」「社会への参画(学修のための基礎力)」を中心的なねらいとしている。

福祉を中心とする「ボランティア」について全般的な理解とボランティア・コーディネーションの基本姿勢をとらえる。

科目の概要

ボランティアの概観から歴史と性格を理解し、ボランティア活動の実際と推進を支えるボランティア・コーディネーションについて、具体的な実践事例(ゲストスピーカー)を交えながら理解することを内容とする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義とともに、より具体的な実践事例から学修できるようボランティア活動の実践団体やコーディネート専門職等の実践者にゲストスピーカーとして報告をしてもらい、質疑応答やシンキングタイムを設けて、小グループで話し合うことも取り入れた授業を行う。また、広義を通して得た知識の定着と理解度を理解するレポートライティングを行い、毎時リアクションペーパーを記入し、次回開始時に教員がフィードバックし、学修内容の理解促進を充実させる。【グループワーク】【レポート】【リアクションペーパー】

到達目標

1. ボランティアについて説明することができる。
2. ボランティア活動の実際を学び参加できるようにする。
3. ボランティア・コーディネーターの基本姿勢を解釈することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、本学の共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3グローバルマインド
- 4未来を創造する力

内容

1	ボランティアについて-概観-【グループワーク】【リアクションペーパー】
2	実際の活動とともに学ぶ 本学ボランティアセンターや学内活動【リアクションペーパー】
3	ボランティアの必要性和意味【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	ボランティア活動の内容-【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	実際の活動とともに学ぶ 施設等でのボランティア学習【リアクションペーパー】
6	日本のボランティア活動の歴史【グループワーク】【リアクションペーパー】
7	ボランティア活動の性格【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】
8	実際の活動とともに学ぶ 地域で求められるボランティア【リアクションペーパー】
9	ボランティアとNPO【グループワーク】【リアクションペーパー】
10	実際の活動とともに学ぶ NPO法人のボランティア【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	ボランティア活動の課題と弱点【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	ボランティアセンター【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	実際の活動とともに学ぶ ボランティアセンターの実際【リアクションペーパー】
14	ボランティアコーディネーターの役割【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	まとめ【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ボランティアについて、書籍、テレビ、新聞、雑誌、実際のボランティア活動等から確認して、自分なりに内容を整理してまとめておく(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業内容を復習することを必須として、授業時に紹介されたHP、活動等について各自内容を理解し、深められるよう、復習ノートを作成する(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各授業回のグループワーク(10%)、リアクションペーパー(10%)、レポート課題2点提出(80%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.グループワーク(4%/10%)、リアクションペーパー(4%/10%)、レポート(30%/80%)

到達目標2.グループワーク(4%/10%)、リアクションペーパー(4%/10%)、レポート(30%/80%)

到達目標3.グループワーク(2%/10%)、リアクションペーパー(2%/10%)、レポート(20%/80%)

【フィードバック】毎授業のリアクションペーパーの質疑に対しては、授業開始時に応答し、必要に応じてペーパーに返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。

その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会編「ボランティアコーディネーション力」中央法規、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論」(株)みらい

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	地域で学ぶ		
担当教員名	星野 敦子、狩野 浩二		
ナンバリング	NEb1006		
学 科	共通科目 (N/E/S) -総合		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学の共通科目「総合領域」に該当する科目である。

科目の概要

「少子・高齢化」「医療費削減につながる健康な体作り」「地方創生」「商店会の活性化」「文化の創出」など、さまざまな地域課題について学び、自らなにごできるのかを模索して行くための授業である。実際に、地域で活躍している方たちの講義を聞いて、課題解決のための糸口を探るとともに、自らの生き方の指針を得る。

授業の方法 (ALを含む)

講師による講義を行う、実際に地域活動に参加して、その経験の振り返りをグループワークで行う【グループワーク】【レポート】

学修目標 (= 到達目標)

地域課題の現状について理解することができる。地域において社会活動に参加することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 3 実践する力 - 3 課題発見能力 -4 論理的思考力

内容

【留意点】

平成22(2010)年度以前に入学した学生は、「経営経済学基礎」として受講することが出来ます。

平成23(2011)年度～平成26(2014)年度までに入学した学生は、十文字学(共通教育)「新座から学ぶ」として履修登録します。

1	ガイダンス
2	ゲスト講師による講義 新座市のなりたちと現状

3	ゲスト講師による講義 新座市の商工業
4	ゲスト講師による講義 新座の町内会活動
5	グループワーク まちづくりと人材育成
6	ゲスト講師による講義 新座市の農業と農産物
7	ゲスト講師による講義 新座市の観光
8	ゲスト講師による講義 子育て支援とプレーパーク
9	ゲスト講師による講義 伝統芸能
10	グループワーク 特産品によるまちおこし
11	ゲスト講師による講義 新座のホタル
12	ゲスト講師による講義 朝霞芸術の森の地域貢献
13	ゲスト講師による講義 議会・議員の役割
14	グループワーク シティプロモーションを考える
15	まとめ（発表）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新座市のホームページをみて興味を持ったところについて、まとめておく（1時間以上）

【事後学修】新座市をはじめとする近隣地域における社会活動への参加（4時間以上）

評価方法および評価の基準

「地域課題の現状について理解することができる。」

授業への取り組みと毎時間ごとの課題を30%

「地域において社会活動に参加することができる」

地域活動への参加と参加レポートを70%

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特にありません 教材や課題はLive Campusで提示するか、または直接配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	地域で学ぶ		
担当教員名	星野 敦子、狩野 浩二		
ナンバリング	NEb1006		
学 科	共通科目 (N/E/S) -総合		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学の共通科目「総合領域」に該当する科目である。

科目の概要

「少子・高齢化」「医療費削減につながる健康な体作り」「地方創生」「商店会の活性化」「文化の創出」など、さまざまな地域課題について学び、自らなにごできるのかを模索して行くための授業である。実際に、地域で活躍している方たちの講義を聞いて、課題解決のための糸口を探るとともに、自らの生き方の指針を得る。

授業の方法 (ALを含む)

講師による講義を行う、実際に地域活動に参加して、その経験の振り返りをグループワークで行う【グループワーク】【レポート】

学修目標 (= 到達目標)

地域課題の現状について理解することができる。地域において社会活動に参加することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 3 実践する力 - 3 課題発見能力 - 4 論理的思考力

内容

【留意点】

平成22(2010)年度以前に入学した学生は、「経営経済学基礎」として受講することが出来ます。

平成23(2011)年度～平成26(2014)年度までに入学した学生は、十文字学(共通教育)「新座から学ぶ」として履修登録します。

1	ガイダンス
2	ゲスト講師による講義 新座市のなりたちと現状

3	ゲスト講師による講義 新座市の商工業
4	ゲスト講師による講義 新座の町内会活動
5	グループワーク まちづくりと人材育成
6	ゲスト講師による講義 新座市の農業と農産物
7	ゲスト講師による講義 新座市の観光
8	ゲスト講師による講義 子育て支援とプレーパーク
9	ゲスト講師による講義 伝統芸能
10	グループワーク 特産品によるまちおこし
11	ゲスト講師による講義 新座のホタル
12	ゲスト講師による講義 朝霞芸術の森の地域貢献
13	ゲスト講師による講義 議会・議員の役割
14	グループワーク シティプロモーションを考える
15	まとめ（発表）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新座市のホームページをみて興味を持ったところについて、まとめておく（1時間以上）

【事後学修】新座市をはじめとする近隣地域における社会活動への参加（4時間以上）

評価方法および評価の基準

「地域課題の現状について理解することができる。」

授業への取り組みと毎時間ごとの課題を30%

「地域において社会活動に参加することができる」

地域活動への参加と参加レポートを70%

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特にありません 教材や課題はLive Campusで提示するか、または直接配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間関係とコミュニケーション		
担当教員名	綿井 雅康、山田 陽子		
ナンバリング	NEb1008		
学 科	共通科目 (N/E/S) -総合		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「総合」領域に配置された選択科目である。対人・対面的なコミュニケーションに関して、基礎的な理論からメディア利用まで多面的な理解を深める。さらに、人間関係を構築していくプロセスに対する心理学的な知見を形成する。生涯にわたり、多様な社会・生活場面のなかで、円滑なコミュニケーションに基づいたより良い人間関係を保つのに資する知識・能力・態度を学修する。

科目の概要

コミュニケーションと人間関係に関して、日常生活で活用できる知識・技能の獲得を目指した授業を展開する。コミュニケーションに関する心理学的なプロセスモデルや記号・メディアとしての記号の活用など、具体的なコミュニケーションを説明する理論を学修する。さらに、私たちの人間関係の様相を客観的かつ分析的に整理することを通して、自らの人間関係と的確に認識する能力と良好な関係を保つためのスキルや態度を学修する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説と並行して、少人数によるディスカッションやグループワーク、ロールプレイの実践、さらには振り返りとしてのミニテストを展開する。【ディスカッション】【グループワーク】【ロールプレイ】【リアクションペーパー】

到達目標

到達目標 1 . コミュニケーションの成り立ちや特性を客観的・科学的に説明することができる

到達目標 2 . 人間関係の様相や特質を客観的・科学的に説明することができる

到達目標 3 . 学修内容を活用し、自らのコミュニケーション活動や人間関係をより良いものにしようと工夫する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 : 課題発見能力、
- 4 : 論理的思考力

内容

- 1 . コミュニケーションに関する基礎理解[綿井]
- 2 . プロセス・相互作用としてのコミュニケーション[綿井]
- 3 . 言語の特質と機能[綿井]【ディスカッション】
- 4 . 非言語メディアの活用[綿井]【ディスカッション】
- 5 . 発信・発話と受容・理解との関係[綿井]【グループワーク】

6. 社会的スキルとしてのコミュニケーション[綿井]
7. 自己意識と社会化[綿井]【ロールプレイ】
8. 対人認知と対人関係の認知[綿井]
9. 対人関係能力の発達[綿井]
10. ソーシャルサポート[綿井]【ロールプレイ】
11. 親密な人間関係[山田]【グループワーク】
12. 集団・組織における人間関係[山田]
13. 親子関係・家族関係[山田]【グループワーク・ロールプレイ】
14. コミュニケーション力を高める[山田]【ロールプレイ】
15. 人間関係力を高める[山田]【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

2～15回 授業内で提示される事前準備事項に取り組む[45分]。

【事後学修】

1～15回 授業内で学修したものをまとめる。さらに、自身のコミュニケーション/人間関係をどのように改善・向上できるかを、学修内容を基づいて考察し文章化する [45分]。

評価方法および評価の基準

授業内課題（リアクションペーパーなど）への取り組み(60%)、最終レポート(40%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 授業内課題(20% / 60%)、最終レポート(10% / 40%)

到達目標 2 . 授業内課題(20% / 60%)、最終レポート(10% / 40%)

到達目標 3 . 授業内課題(20% / 60%)、最終レポート(20% / 40%)

【フィードバック】授業内課題は授業内で全体に対してコメントする、最終レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書・参考図書】授業内で適宜紹介する。

【教材】授業内等でプリントを配布する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

対人場面や集団場面でのコミュニケーションの能力を育成することを目指します。発信力だけでなく、他者を思いやる力や「異なる」を理解し受けとめる力の育成も目指します。授業内では主体的な活動を重視します。

科目名	自主社会活動		
担当教員名			
ナンバリング	NEb2011		
学 科	共通科目 (N/E/S) -総合		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目総合領域の選択科目である。自らの意志で学外のプロジェクトやその他の社会的な活動に参加し、授業内の体験では経験できないことからの気づきや学びを獲得する。

科目の概要

学内外での以下にあげるような条件に合う経験にもとづく学びに対して単位が認定される科目であるため、定時の授業は行わない。しかし、事前・事後のレクチャーならびに打ち合わせ、活動日誌・レポートの作成・提出、報告会での発表は、単位認定に必要な条件である。活動の場と内容は、学外においては、地域活性化のプロジェクト、社会福祉施設、児童館などの教育施設の活動、NGO・NPO、国際NGOなどが行うイベントのサポートなど様々なボランティア活動、学内については、留学生支援ボランティアなどがこれに該当する。

授業の方法 (ALを含む)

事前・事後のレクチャーへの参加と、学内外における社会的な活動を35時間以上、無償で行い、それについて活動日誌・レポートを作成・提出する。さらに活動成果について学内の報告会で発表した場合に、担任など担当教員が評価して1単位を与える。

【実習】【サービスマーケティング】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

1. 参加した社会活動での経験を通して、現場や実社会での課題に対する興味・関心を醸成する。
2. 参加した社会活動での経験を通して、大学の授業からは体験できない気づきや学びを獲得する。
3. 社会活動への参加経験から学んだことや喚起された問題意識について、自分の言葉でそれを他者に向けて発信することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の能力・資質を育成することを目的とする。

- 3実践する力
- 3課題発見能力
- 4論理的思考力

内容

学内、学外における無償の利他的なプロジェクトへの参加、社会的活動などを、以下の3つの条件に合わせて行うこと。

35時間以上の活動であり、活動を通したゴール設定がなされている。(活動先に評価を依頼)【実習】【サービスラーニング】

その内容、自分自身が学んだこと、提案などについて活動日誌・レポートを作成し、提出すること。【レポート(表現)】

学内の発表会で報告すること。【プレゼンテーション】

履修に際して、事前・事後のレクチャーと打ち合わせを行う。活動日誌・レポート:所定の書式に沿ってまとめる。構成・フォーマット、提出先、発表会の日程などについては、就職支援課に確認すること。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】活動やプロジェクトの概要を理解し、その活動から何を体験し学びに結び付けられるかを考え、目標設定を行う。体験によるリスクについて考え、その回避法や管理について明確にし報告する。(60分)

【事後学修】活動の概要と学びについての報告をまとめ、発表報告会を行う。(60分)

評価方法および評価の基準

活動受け入れ先の責任者(または担当者)から提出してもらう評価、本人が作成する活動日誌・レポートの内容、口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された活動日誌・レポートを含め、口頭発表後にコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々に応じて説明を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	自主社会活動		
担当教員名	綿井 雅康、松永 修一		
ナンバリング	NEb2011		
学 科	共通科目 (N/E/S) -総合		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目総合領域の選択科目である。自らの意志で学外のプロジェクトやその他の社会的な活動に参加し、授業内の体験では経験できないことからの気づきや学びを獲得する。

科目の概要

学内外での以下にあげるような条件に合う経験にもとづく学びに対して単位が認定される科目であるため、定時の授業は行わない。しかし、事前・事後のレクチャーならびに打ち合わせ、活動日誌・レポートの作成・提出、報告会での発表は、単位認定に必要な条件である。活動の場と内容は、学外においては、地域活性化のプロジェクト、社会福祉施設、児童館などの教育施設の活動、NGO・NPO、国際NGOなどが行うイベントのサポートなど様々なボランティア活動、学内については、留学生支援ボランティアなどがこれに該当する。

授業の方法 (ALを含む)

事前・事後のレクチャーへの参加と、学内外における社会的な活動を35時間以上、無償で行い、それについて活動日誌・レポートを作成・提出する。さらに活動成果について学内の報告会で発表した場合に、担任など担当教員が評価して1単位を与える。

【実習】【サービスマーケティング】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

1. 参加した社会活動での経験を通して、現場や実社会での課題に対する興味・関心を醸成する。
2. 参加した社会活動での経験を通して、大学の授業からは体験できない気づきや学びを獲得する。
3. 社会活動への参加経験から学んだことや喚起された問題意識について、自分の言葉でそれを他者に向けて発信することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の能力・資質を育成することを目的とする。

- 3実践する力
- 3課題発見能力
- 4論理的思考力

内容

学内、学外における無償の利他的なプロジェクトへの参加、社会的活動などを、以下の3つの条件に合わせて行うこと。

35時間以上の活動であり、活動を通したゴール設定がなされている。(活動先に評価を依頼)【実習】【サービスラーニング】

その内容、自分自身が学んだこと、提案などについて活動日誌・レポートを作成し、提出すること。【レポート(表現)】

学内の発表会で報告すること。【プレゼンテーション】

履修に際して、事前・事後のレクチャーと打ち合わせを行う。活動日誌・レポート:所定の書式に沿ってまとめる。構成・フォーマット、提出先、発表会の日程などについては、就職支援課に確認すること。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】活動やプロジェクトの概要を理解し、その活動から何を体験し学びに結び付けられるかを考え、目標設定を行う。体験によるリスクについて考え、その回避法や管理について明確にし報告する。(60分)

【事後学修】活動の概要と学びについての報告をまとめ、発表報告会を行う。(60分)

評価方法および評価の基準

活動受け入れ先の責任者(または担当者)から提出してもらう評価、本人が作成する活動日誌・レポートの内容、口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された活動日誌・レポートを含め、口頭発表後にコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々に応じて説明を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合科目（新座の祭りとまちおこし）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

地域文化について学び実践するための授業

科目の概要

「大江戸新座祭り」は27年度より開催されており、地域の学校、企業、その他収容団体が参画して市の中心的な行事となっている。また市長が提案している「快適未来都市プロジェクト」においても町おこしの重点項目として位置づけられている。本科目ではまた28年度に本学と新座市商工会青年部の連携により、産業フェスティバルにおいて「阿波踊り教室ステージ企画」を開催した実績に基づいて、本科目についても新座市商工会青年部の協力をいただく。

授業の方法（ALを含む）

必要な教材は直接配布する。演舞指導に従って、実際に踊りの技術を体感し、身に着ける【実技】

学修目標（＝到達目標）

- 1．大和田はだか祭り」などを含む、新座における祭りの歴史と現状について理解できる。
- 2．日本3大盆踊りの一つである阿波踊りの歴史について理解できる。
- 3．「大江戸新座まつり」の意義と課題などについて理解できる。
- 4．阿波踊りの実習を行い「大江戸新座祭り」に十文字連として参画することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 3就業観を養う力 -3課題発見能力 -4論理的思考力

内容

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 新座の祭りと町おこしについて（ガイダンス） |
|---|-----------------------|

2	新座の祭りの歴史と現状
3	大江戸新座まつりの意義と課題
4	阿波踊りの歴史と基礎知識
5	阿波踊りの基本動作（1）男踊り
6	阿波踊りの基本動作（2）女踊り
7	阿波踊りの鳴り物について
8	衣装と連の構成
9	阿波踊り実習（1）
10	阿波踊り実習（2）
11	十文字連の構成
12	十文字連による実習（1）
13	十文字連による実習（2）
14	大江戸新座祭りへの参加にむけて
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当（踊り、鳴り物など）についての事前練習（1時間程度）

【事後学修】自分の担当（踊り、鳴り物など）についての事後練習（1時間程度）

評価方法および評価の基準

1．大和田はだか祭り」などを含む、新座における祭りの歴史と現状について理解できる。2．日本3大盆踊りの一つである阿波踊りの歴史について理解できる。3．「大江戸新座まつり」の意義と課題などについて理解できる。

（授業に対する取り組み、授業ごとの課題を30%）

4．阿波踊りの実習を行い「大江戸新座祭り」に十文字連として参画することができる。（大江戸新座祭りへの参加態度、パフォーマンス70%）

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特にありません 必要な資料は授業で配布します

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合科目（野村証券）		
担当教員名	松本 晃子、込江 雅彦		
ナンバリング	NEb1010		
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

野村証券による冠講座であり、すべての講義を実務経験者が担当する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は野村証券の冠講座であり、共通科目の総合科目として開設されるものである。

科目の概要

「資本市場と証券投資の基礎」として経済学の基礎から資本市場の全容、そして株式投資・債券投資、グローバル証券投資・分散投資の方法やリスクとリターンの考え方などを実務の観点から解説します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- 1．経済学の基礎を理解する。
- 2．証券投資の基礎を理解する。
- 3．株式投資の基礎を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学共通科目の総合科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- － 3 課題発見能力

内容

1	ガイダンス
2	経済事情事始め
3	金融の仕組み
4	リスク&リターン
5	ポートフォリオの考え方
6	債券市場の役割と投資の考え方
7	株式入門の役割と考え方
8	投資信託入門

9	外国為替のいろは
10	日本株の歴史
11	これからの成長産業
12	投資家心理学を学ぶ
13	ライフプランニング1
14	ライフプランニング2
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】経済ニュースを読む。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で扱うプリントを用いて、復習する。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

中間試験（30%）、最終試験（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日本最大の証券会社による授業なので、配布される資料を参考に学習してください。

科目名	総合科目（日中異文化理解）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有。

実務経験および科目との関連性

日本語と中国語の通訳として仕事をしたことがある。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は日本人学生および留学生両方を対象としています。日本人学生には「初めての中国」、留学生には「さらに知りたい日本」をテーマに言語と文化の両視点からの授業展開となる。

科目の概要

担当教員の他、学内外の講師も招く予定である。日本人学生にとって一衣帯水の関係を持つ隣国である中国の文化や言語に触れ、中国の人口、民族、風習などに関する基礎知識を得ていく。また、留学生にとって更に一歩進んだ日本文化への理解を目指す。

授業の方法（ALを含む）

基本は講義の形で進んでいく。グループ討論も入れる予定でいる。

到達目標

まず、自分の母語とその文化を客観視できるようになる。その後、異文化・異国の言語の基礎を理解できるようになる。日本人学生は自分の名前を中国語で言えるようにする。留学生は日本語で体験した文化を口頭発表できるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-3就業観を養う力、 -3課題発見能力、 -4倫理的思考力

内容

この授業は講義、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。主な内容として中国語の基礎知識（地図、人口、民族、風習）をはじめ、主な祝日、有名観光地、京劇、民間芸術、お茶の文化など様々なテーマを取り

上げる。中国の文化を学ぶと同時に日本文化への理解も深めていく。茶道など日本文化に関するテーマも取り上げる。また、言語について中国語の発音の基礎を練習し、リズムに慣れていく。さらに、日本人学生と留学生のグループワークも予定しており、互いに会話ができるような場を提供するので、積極的に取り組んで欲しい。詳細はガイダンスの時に紹介する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回取り上げるテーマと関連分野の単語、キーワード等について調べる。(各授業に対して45分)

【事後学修】習った単語などを復習し、気になった内容を調べていく。自ら質問を最低限一つ考える。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

出席率を含む授業への参加態度(20%)

課題(20%)

自分の母語とその文化を客観視できるようになる。(20%)

異文化・異国の言語の基礎を理解できるようになる。(20%)

(以下のどちらかになる。)

日本人学生は自分の名前を中国語で言えるようにする。(20%)

留学生は日本語で体験した文化を口頭発表できるようにする。(20%)

上記の評価内容と割合をもとに総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】質問や話したいことなどがあったら、気軽に聞いてみて、話しかけてみてください。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】なし(購入する必要がない。)

【推薦書】(おすすめの書籍で、読んだら日本と中国への理解が深まる。)

『日本のタテヨコ』(学習研究社 2001 改定第4版)

『Q&Aでわかる中国人とのつき合いかた』本名信行・羅華(著)(大修館書店 2018)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ぜひ自ら色々考えて、気になることをどんどん調べて欲しいです。また、積極的に質問もして欲しいです。

科目名	総合科目（和食文化概論）		
担当教員名	土井 善晴、名倉 秀子、伊藤 美穂		
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「総合」領域に配置された選択科目である。特定の題目「和食」について、特に自由に、創造的に扱うことによって、学生自らが学ぶ意欲と姿勢、思考力を獲得できるように、基礎的な理論から映像利用による具体的な食の実践など多方面から理解を深める。生きるための食に資する知識・能力・態度を学修する。

科目の概要

東アジアの孤島 その気候風土と共鳴するように生活し、大陸からもたらされた文明に影響を受けながら、育まれた民族の食文化とはなにかを学び、理解し、「和食」とは何かを考察する。 後年行われるであろう食の活動の土台となる和食の基本思想を理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義や食品材料を具体的に示すデモンストレーションによる解説を行う。学習過程で得られた知識や考察、意見などを論理的に文章で表現するためにレポートライティングなども行う。また、ディスカッションも取り入れる。【レポート（表現）】【討議・討論】

到達目標

到達目標1. 「和食とは何か」を説明することができる。

到達目標2. 「和食」について、気づきや問題点などを表現し、他者に伝えることができる。

到達目標3. 学習内容を活用し、日常の食事（一汁一菜）を実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-3：就業感を養う力、 -3：課題発見能力、 -4：論理的思考力

内容

1	清潔（和食文化の起源）
2	ご飯（稲・粳・玄米・米（白米）・ごはん）粥・餅

3	味噌汁（味噌の製法・味噌汁の作り方）
4	一汁一菜（和食のスタイル・進化）
5	食育（家庭教育としての食）
6	「料理する」意味：五感を使う・感受性・予測する能力
7	ケハレ（背景にある日本の風土）（現代の食）
8	ケハレの調理法（栄養評価）
9	旬を食べる意味（季節感・旬を楽しむとは）
10	魚食文化（衛生管理）
11	器と料理（器の種類・民芸と工芸・器と料理の関係性）
12	流通システム（自然から食卓へ）
13	調理デモンストレーション（調理学実習室にて）
14	和食の調理法（焼く・蒸す・炒る（揚げる）・切る（なます）・にる（炊く））
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業を受けるにあたり、初回にご紹介する教科書を確認しておく。[60分]

【事後学修】一汁一菜の食事を実践する。[120分]

評価方法および評価の基準

授業への取組み状況（50%）、最終レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回の授業時に説明する。

【推薦書】初回の授業時に説明する。

【参考図書】初回の授業時に説明する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

初回の授業において履修希望者が多数の場合には、受講制限を行うことがある。

科目名	総合科目（和食文化概論）		
担当教員名	土井 善晴、名倉 秀子、伊藤 美穂		
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「総合」領域に配置された選択科目である。特定の題目「和食」について、特に自由に、創造的に扱うことによって、学生自らが学ぶ意欲と姿勢、思考力を獲得できるように、基礎的な理論から映像利用による具体的な食の実践など多方面から理解を深める。生きるための食に資する知識・能力・態度を学修する。

科目の概要

東アジアの孤島 その気候風土と共鳴するように生活し、大陸からもたらされた文明に影響を受けながら、育まれた民族の食文化とはなにかを学び、理解し、「和食」とは何かを考察する。 後年行われるであろう食の活動の土台となる和食の基本思想を理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義や食品材料を具体的に示すデモンストレーションによる解説を行う。学習過程で得られた知識や考察、意見などを論理的に文章で表現するためにレポートライティングなども行う。また、ディスカッションも取り入れる。【レポート（表現）】【討議・討論】

到達目標

到達目標1. 「和食とは何か」を説明することができる。

到達目標2. 「和食」について、気づきや問題点などを表現し、他者に伝えることができる。

到達目標3. 学習内容を活用し、日常の食事（一汁一菜）を実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-3：就業感を養う力、 -3：課題発見能力、 -4：論理的思考力

内容

1	清潔（和食文化の起源）
2	ご飯（稲・粳・玄米・米（白米）・ごはん）粥・餅

3	味噌汁（味噌の製法・味噌汁の作り方）
4	一汁一菜（和食のスタイル・進化）
5	食育（家庭教育としての食）
6	「料理する」意味：五感を使う・感受性・予測する能力
7	ケハレ（背景にある日本の風土）（現代の食）
8	ケハレの調理法（栄養評価）
9	旬を食べる意味（季節感・旬を楽しむとは）
10	魚食文化（衛生管理）
11	器と料理（器の種類・民芸と工芸・器と料理の関係性）
12	流通システム（自然から食卓へ）
13	調理デモンストレーション（調理学実習室にて）
14	和食の調理法（焼く・蒸す・炒る（揚げる）・切る（なます）・にる（炊く））
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業を受けるにあたり、初回にご紹介する教科書を確認しておく。[60分]

【事後学修】一汁一菜の食事を実践する。[120分]

評価方法および評価の基準

授業への取組み状況（50%）、最終レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回の授業時に説明する。

【推薦書】初回の授業時に説明する。

【参考図書】初回の授業時に説明する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

初回の授業において履修希望者が多数の場合には、受講制限を行うことがある。

科目名	総合科目（中山間地域に学ぶ）		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

87年から四年間宮城県中学校教諭、91年から2年間東北高校兼任講師。

学校教育実践を踏まえた内容にも、取り組みます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、COC（センター・オブ・コミュニティ）「知（地）の拠点事業」により、開発した地域から学ぶ授業科目です。埼玉県比企郡小川町や秩父郡皆野町で、地域の方たちから、郷土の歴史や文化などを学び、自己成長を図るためにカリキュラムを開発します。参加する受講生のみなさん自身が学ぶことについて、考える授業です。平成30年度から開始しました。考えながら学ぶことになると思います。

科目の概要

「総合科目」は、共通教育科目のなかの選択科目です。後期木曜日の2限目に時間を設定しますが、週末や休みの日を利用して、埼玉県比企郡小川町や秩父郡皆野町に出かけます。学外で、学外の人たちとともにお話をしたり、お手伝いをしたりします。

授業の方法

授業は、PBL（Project&Problem・Based・Learning）を基本とします。みなさんが問題を発見し、解決方法を探り、解決するまでを指導します。

到達目標

○仲間とともに、地域に入り、地域の方たちと話し合ったり、ともに働いたりすることができる。

○教室で仲間とともに中山間支援の中身を相談したり、企画したりすることができる。

○中山間地域と都市部との仲立ちができるような企画を考え、実行することができる。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関係

就業力の育成、課題の発見、整理の力の育成、課題解決力の育成をこの科目を通して実現します。

内容

アクティブラーニングとして、討論、口頭発表、実地調査、省察とその交流を行ないます。

○講義は、後期木曜日の2限目に開講しますが、ここでの学修は、地域の歴史や文化を知り、どのような交流や支援ができるかを考える時間とします。仲間とともに、地域を知り、地域の良さ、課題などについて話し合います。

○活動は、週末や休日など、大学の授業がない日に行います。

○これまでの活動は、おおよそ次のようでした。実際の日程は、後期の授業が開始されたあとで履修者のみなさんと相談しながら決めます。

（活動例） 内容は、これまでの取り組み例です。必ずこのようにするというものではありません。

- 大河地区民体育祭への協力（10月上旬）
- ソバの収穫をお手伝いする（11月）
- ソバ、うどん打ちを学ぶ（12月下旬）
- 生芋こんにゃくづくりを学ぶ（1月中旬）
- 生芋こんにゃくを使った加工品を創作する（1月下旬）
- 新座駅前商店会主催のチャリティー餅つき大会で、中山間地の郷土食を紹介する（2月上旬）
- 収益金を新座市こぶし福祉基金に寄付する（3月上旬）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教室で示した資料を読解し、中山間地域についての理解をふかめ、授業にのぞみます。毎回の授業の前に45分以上の下準備を必要としています。

【事後学修】授業を踏まえ、中山間地域についての理解をさらにふかめ、省察します。毎回の授業の後で、45分以上の問題整理、課題解決の時間を必要とします。

評価方法および評価の基準

レスポンスカードの記入内容1割(事前事後学修成果の確認)、最終レポート8割(課題発見、解決状況の確認)、参加状況1割(共同作業、就業力育成状況の確認)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レスポンスカードの内容により、活動内容を修正します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教室でプリントを配布します。

【推薦書】教室で参考となる本を紹介します。

【参考図書】学修や活動の参考となる本を、教室で紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

地域活動への参加を必修としています。週末の予定を開けられる方が参加してください。

科目名	総合科目（デザイナーのように考える）		
担当教員名	杉元 葉子		
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

建築デザインの経験を通して得たデザイナーとしての思考を授業に生かす

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

科目の性格

学部共通科目「総合科目」の一つであり、仕事の場など社会における汎用能力の育成に関わる。

科目の概要

意図をもってかたちをつくることすべてはデザインの対象であり、デザインはデザイナーだけのものではない。デザイナーが身につけている、よりよい解を柔軟に探し出す「コツ」は、＜デザイン思考＞としてビジネスでも社会活動でも注目されている。幅広くデザインの紹介からはじめ、デザイナーのように発想しながら柔軟に課題と向き合うことを学ぶ。事前に美術的な知識やスキルは不要

授業の方法（ALを含む）

講義の他、一部授業内容にかかわる実技、グループワークなどのALおよびPBL型の授業とする。【実技】【グループワーク】【PBL】

到達目標

身近な世界を一步良くする潜在的な力や気持ちは誰もが持っている。その一步を踏み出し、発想をかたちにしていく方法の基礎を身につけ、そこから社会で貢献する力を身に着けることが目標である。

- （１）身近に課題を発見することができる
- （２）課題解決へのプロセスに習熟し、論理的に提案を導くことができる
- （３）課題解決への提案を的確に表現することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、ディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -3就業観を養う力、 -3課題発見能力、 -4論理的思考力

内容

1	オリエンテーション/＜デザイン＞とは何か
2	近代のデザイン
3	現代のデザイン
4	デザイン・マインドへのウォーミングアップ
5	クリエイティブ・シンキング
6	デザイン・マインドの実践 ユーザーを深く知る/課題をつかむ

7	デザイン・マインドの実践 アイデアを創出する
8	デザインのプロセスと<デザイン思考>
9	デザインの現場から まちと建築のデザイン [学外講師：池田雪絵先生]
10	デザインの現場から 地域とブランドのデザイン [学外講師：大井鉄也先生、大井福也先生]
11	地域のデザインを考える
12	デザインにチャレンジ STAGE 1 課題を見つける
13	デザインにチャレンジ STAGE 2 提案を導く
14	デザインにチャレンジ STAGE 3 表現する
15	発表とまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業外での観察と記録など、アクティブラーニングに必要となる準備を授業で指示する。45分程度。

【事後学修】授業の進行に合わせて各自の課題を進めておく。また授業で紹介する参考資料を自習する。45分程度。

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー30点、中間課題20点、最終課題50点として、総合評価60点以上を合格とする。

リアクションペーパー及び中間課題は各回の授業の理解度を評価する。最終課題は、(1)課題発見、(2)提案へのプロセス、(3)提案の表現、をどの程度的確に修得できているかを評価する。

【フィードバック】課題等に対してコメントをフィードバックする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じてプリントを配布する

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】 原研哉 『デザインのデザイン』 岩波書店

佐藤可士和 『佐藤可士和の超整理術』 日本経済新聞出版社

佐藤可士和 『佐藤可士和のクリエイティブシンキング』 日本経済新聞出版社

その他授業内で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

私たちの生活世界をは、大小たくさんの<デザイン>が重なって形づくられています。正解はありませんが、生活世界は私たちの選択と実践によって、少しずつでもよくすることはできます。多くの人に参加して一緒に考えていくことができるといいと考えます。社会情報デザイン学科専門科目「デザイン思考入門」と一部重複しますが、互いに補完する科目です。

科目名	総合科目（オリンピックムーブメント5）		
担当教員名	石山 隆之		
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学、高等学校保健体育科教諭を長年務め、日本サッカー協会A級ライセンス、インストラクターやライフセイビングの資格、大学スポーツの理事、スポーツマネージャー資格、日本体育協会上級指導員の資格など多数を持つ。スポーツで地域を盛り上げるシンポジウムの開催など多数あり、その分野の著書も出版している。また一般社団法人十文字スポーツクラブの理事を務め、実社会でのセミプロスポーツクラブと地域発展事業に現在も携わる教員が担当する。その経験を活かした授業を実践し指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

「総合科目」は、共通科目「学びの基礎をつくる」領域に配置されており「地域で学ぶ」「読書入門」「総合科目」の3科目から1科目選択必修科目となっている。

学外の企業、団体、有志などの協力を得て、「地域活性とスポーツビジネス（地域発信）」の観点から、受講生ひとり一人が、東京五輪に参加する方法を自ら見出す力を養う。そして、TOKYO 2020に、十文字発 2020への発信のきっかけとしたい。地域発ムーブメント実践編として十文字が進めている学園型総合スポーツクラブや、「日本版NCAA」の「UNIVAS」などを軸に大学スポーツが社会的に期待されていることなどをテーマにしていくことで学生達の関与もしやすく、地域を始め講義のステークホルダーとの連携も関心をひく。また、本学は女子大学であるが故、女性アスリートの視点でも本講義を展開し、国連のSDG'sや Beyond2020をキーワードに授業を進める。

講義を聞くだけの聴講型の授業にとどまらず、ワークショップやプレゼンテーションなどのAL要素を取り入れ、学生主体の、スポーツを原動力とした社会貢献のアイデアを引き出すような展開を試みる。

過去に積み上げてきた授業の実績を引き続き発展させつつ、社会からの注目度が高く受講者にとって関心の高いテーマ（2020 TOKYO）を軸に講義を展開する。単なるオリンピックを受け身の講義型の授業でなく、学生らが2020に主体的に行動できるようにするため、履修学生一人一人がどのように東京五輪に参加できるかの思考を広げる事を目的とする。スポーツ庁を中心にスポーツSDGs スポーツで社会を変えるという考え方が、スポーツ国際戦略で提唱されています。その目標は、2020年ではなく、2030年をゴールとしたバックカastingという視点から地域発2020オリンピック・パラリンピック ムーブメント5 Beyond2020、スポーツSDGsが指し示す未来。とし、「東京五輪に参加する方法を自ら主体的に考え、行動に移すことができる」授業にする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-4創造する力

-3協働する力

-9実践する力

内容

5月13日(水)

【担当】石山隆之

【内容】・ガイダンス インTRODクシヨン オリパラレガシ-・ムーブメント エッセンス SDGs概要の講義

【授業の方法】ZOOMにて講義

【出席】ワークシートをメールにて提出

【その他】授業を休校にした 3時間分の課題を提示します。(石山)

5月20日(水)

【担当】染谷栄一 十文字学園女子大学特命教授

【内容】・“Beyond2020、スポーツSDGsが指し示す未来”をテーマに、この授業全体を俯瞰してもら

5月27日(水)

【担当】 八鍬晶子 十文字学園女子大学カレッジスポーツセンター特別招聘講師

【内容】

6月3日(水)

【担当】 マリブポイント代表取締役社長 高梨三(遠隔授業の場合は、変更予定) 担当;石山

【内容】テーマ『遊びを仕事にして飯を食う』

6月10日(水)

【担当】 染谷教授担当 キャスティング

スポーツ庁、JSC、JSP0 を検討

スポーツ栄養学Beyond2020 の健康社会実現の観点から管理栄養士(高橋大吾)を招聘検討

6月17日(水)

【担当】 染谷教授担当 キャスティング

スポーツ庁、JSC、JSP0 を検討

スポーツ栄養学Beyond2020 の健康社会実現の観点から管理栄養士(高橋大吾)を招聘

6月24日(水)

【担当】 染谷 栄一、石山 隆之、八鍬 晶子

【内容】ワークショップに向けた講義

スポーツ基本法に基づき、する・観る・支えるの各領域で、十文字女子学園が担う学園型スポーツクラブの未来像及び地域発オリンピックムーブメントづくりの基本的な考え方を受講生と共に整理します。また、日本の大学スポーツの発展の観点から、Beyond2020、スポーツSDGsが指し示す未来というテーマを軸にしつつ、十文字学園女子大学や地域社会にどのように落とし込んでいくのかを考え、受講生との共通理解を深め整理します。ワークショップについてのガイダンスとグループ分けを行います。

授業コマ数が例年より減少するので グループに対して課題を明確に提示します

7月1日(水)

【担当】 染谷 栄一、八鍬 晶子、石山 隆之

【内容】

ワークショップ

前回の講義によって導かれた方向性から、する・観る・支えるを具体的に展開してゆく企画を受講生と共に策定します。テーマ別にグループ分けし、グループごと企画の実施計画をつくりあげ、授業内で確認いたします。

ワークショップ

アクションプランをさらに深く考察し、パワーポイントの整理や実際のプレゼンテーションのリハーサルを行います。課題の提出についてのガイダンスも行います。

7月8日(水)

【担当】 染谷 栄一、 八鍬 晶子、石山 隆之

【内容】ワークショップとグループ面談

7月15日(水)

【担当】 染谷 栄一、 八鍬 晶子、石山 隆之

【内容】 学生によるワークショップのプレゼンテーション(1)

ワークショップを通して作られた企画を、テーマごとにプレゼンテーションする機会を設けます。

7月22日(水)

【担当】 染谷 栄一、 八鍬 晶子、石山 隆之

【内容】 学生によるワークショップのプレゼンテーション(2)

7月29日(水)

【担当】 中江瑞紀(カレッジスポーツセンター)、石山 隆之

【内容】 総復習 まとめ 試験

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】オリパラ組織委員会ホームページ、スポーツ庁ホームページ「スポーツSDG's」を確認して、自分なりに内容を整理しまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介されたホームページ、オリパラTOKYO2020や「UNIVAS」「スポーツSDG's」について各自で内容を理解し、深める。復習ノートなどを作成したり、学生同士のディスカッションなどを行い理解を深めておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度40%、毎回のリアクションペーパーやワークショップ30%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、追試験を行う。

【フィードバック】毎授業に前回授業の内容を振り返り、質疑に返答するなどして学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定の教科書は使用せず、プリント配布などをする

【推薦書】平田武男 スポーツビジネス最強の教科書 東洋経済新聞社

一般社団法人 Think the Earth 未来を変える目標SDG'sアイデアブック

【参考図書】 授業内で随時紹介していく

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Tokyo2020から生まれた社会変革のレガシーを学生の皆さんとともに考え、学生の皆さんが 次世代を担っていく人材に成長するきっかけとなれば 嬉しい限りです。

科目名	総合科目（食の文化論）		
担当教員名	船曳 建夫、名倉 秀子、伊藤 美穂		
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「総合」領域の選択科目である。健康や栄養についての他の科目を関連づけるために、広い見地から「食」について学ぶ。

科目の概要

「食」とは私たちが生存するために食べ物をからだに入れることである。しかし私たちは生活の中で食べ物を美味しいから、元旦にふさわしいからと選び、神が汚れと定めているからと避け、「からだ」だけではなく「頭」でも食べている。その「食べる頭」の中味について考える。

授業の方法

私たちが食べ物についてどう考えているかを、

- 1) 毎回の講義の前半では具体的な事例を挙げて、そこに潜んでいる論理や仕組みを説明する。
- 2) 後半ではその論理や仕組みが私たち個人の食生活にどのように働いているか、またその論理や仕組みが私たちが生きている世界をどのように作り上げているかを、解き明かす。

到達目標

- 1) 「食」が、からだに食物、栄養を取り込む、というシンプルな行為以上の、広く大きな文化的、社会的な意味のあることを理解し、「食」について考え直す。
- 2) 「私」から世界に向かって：自分が「食」に美しさやおぞましさ、見栄や誇りを感じることによって、自分が外の世界と「食」を通じた関係を持っていることを生活のいろいろな場面で気づく。
- 3) 「世界」から私に向かって：私たちの食生活を成立させている地球規模のシステムのあること、そうした外側からの影響やルールによって私たちの食生活が作られていることを、自分自身の問題として理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 3 就業観を養う力
- 3 課題発見能力
- 4 論理的思考力

1	オリエンテーション 「食」は私たちの「すべて」であること 事例:「食わず嫌い」
2	ヒト(人類一般のこと)は何でも食べられるように進化した。それでも食べるものと食べないものがあるのはなぜ? ・事例:「ベジタリアン」
3	食べることと「結婚」すること 事例:すべてのヒトは結婚相手に「外の人」を選ぶ。しかし、「外の、そのまた外の人」は選ばない
4	食べることと「戦争」すること 事例:ヒトは「外の人」と戦争をするが、友だちにもなる。しかし、戦争もしないし友人にもならない相手とはどうなる?
5	食べることがあれば、「食べない」こともある 事例:断食、タブー、「ティファニーで朝食を」
6	料理の三角形 事例:「焼いたもの」と「生(なま)のもの」。鮭はどこに入る?
7	中休み:ここまでの講義で説明された「食」にひそむ論理と仕組みをおさらいする。
8	世界を制覇した食料、世界を旅する食物。 事例:胡椒、砂糖、ピザ、サンドイッチ、そしてSUSHI
9	ファーストフードはどこまで速くなるか? 事例:マクドナルドと回転鮭。
10	「共食」と「個食」が作る社会関係。 事例:祭りと宴、鍋物、インスタントラーメン。
11	「食」に見られる道徳と倫理。 事例:「フェアトレード」
12	頂上で一休み:「頭で食べる」とはどういうことかをおさらいする。
13	鮭の過去と未来 事例:「小僧の神様」、ミシュラン三つ星。
14	神との食事、神話の食物 事例:「聖書・最後の晩餐」、「古事記」。
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】受講者自身の「食生活」の中にある、講義内容の「事例」および前回の講義終了時に指示した問題点について関心を持ち、考えてくる。[30分]

【事後学修】講義内容と、受講者自身の「食生活」を結びつけてとらえ直してみる。[30分]

評価方法および評価の基準

講義期間中に一回、到達度を調べるための小レポートを提出(30%)、最終講義の「まとめ」において筆記試験を行う(70%)。それらの評価を合わせた総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

指定なし。

科目名	総合科目（「食う・着る・見る」のゼミナール）		
担当教員名	船曳 建夫、名倉 秀子、伊藤 美穂		
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学びの基礎をつくる共通科目である。大学における「知」を「生きる技法」ととらえ、日常生活の食べること、装うこと、観ること、について、あらためて考えなおし、実践してみる。繰り返しの受講は可である。

科目の概要

世界は豊かになっているが、その分、複雑になっている。その豊かな世界の複雑さに負けず、どうやってほしいものに手を伸ばせばよいのか。この科目では、食う、着る、見る、という単純で具体的なことを生きる方法ととらえ直して近づいてみる。世界という薄暗がりの中を歩き回るので、仲間が必要である。この授業は人に話をするのが好きな人、人の話を聞くのが得意な人に向いている。

授業の方法

1) 毎回の授業は「話す」ことで進める。話しが拡散しすぎないように、共通する「話題」として、本、雑誌、ネット、映画、テレビなど、だれもが手に入るものを使う。このゼミナールは、専門書講読ではない、一般的な「読書会」に近い。担当教員である私はそうした「読書会」を長年にわたって行ってきた経験がある。このセミナーは、必ず面白いものになる。
2) 毎回の授業で話し合われたことを発展させて、実際に「食う、着る、見る」を学外でも行いたい。その実現は難しいが、どうやって克服するか自体がこのゼミナールの到達目標でもある。目標をかなえるためには「強化合宿」も考えている。

到達目標

1) 「食う」ことが、からだに食物、栄養を取り込むという生物的な行動以上の、広く大きな文化的、社会的な意味を持つことを理解し、「食」について気付き、考え直してみる。
2) 「着る」ことが、裸のからだを外界から保護するという生物的な行動以上の、広く大きな文化的、社会的な意味を持つことを理解し、「衣」について気付き、考え直してみる。
3) 「見る」ことが、外界を察知するという生物的な行動以上の、広く大きな文化的、社会的な意味を持つことを理解し、「見る」ことについて気付き、考え直してみる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 3 就業観を養う力
- 3 課題発見能力
- 4 論理的思考力

内容

1	オリエンテーション 自己紹介と必要な場合は選抜を行う。
2	オリエンテーション(続き) 自己紹介と必要な場合は選抜を行う。
3	「食う」についての理論の説明。自分の食生活について語り合う。これからのゼミナールの内容として、「食う」の活動についての相談をする。
4	「食う」についてあらかじめ共有した小説、マンガ、雑誌などを「話題の種」として語り合う。
5	今回は、講義の流れから少し外れて、「豊かな世界」全体を見渡すための「重大問題発表会」である。あらかじめ担当教員が口頭で伝えた「種」を用いる。事例：小説『コンビニ人間』
6	「着る」ことについての自分を語り合う。語るほどのことがない、と思う人は、他の人の話を聞くのでよい。
7	「着る」ことについての、「広告」を「種」として、語り合う。
8	「着る」からだについて、考える。事例：「Fat Acceptance」とは何のことだろうか？
9	「見る」ことについての自分を語り合う。「見る」の中心的なイメージは、「観劇」のことである。事例：タカラヅカ、ジャニーズ、歌舞伎、その他、何でも。
10	「見る」ことについて、みなで一緒に何を「観劇」するかの相談をする。(1)事例:第9回で出た劇やダンスをDVDで観る。
11	「見る」ことについて、みなで一緒に何を「観劇」するかの相談をする。(2)事例:第9回で出た劇やダンスをDVDで観る。
12	今回は、こうしたゼミナールで「語り合う」こととは何だろうか、について語る。
13	いままでで、取り落としたことについて、語り合う。この回では、あまり語らない人が語り、あまり人の話を聞かない人が、聞き手に回る。
14	食う・着る・見る、を総合する。この三つは、生活の中で重なる。「強化合宿」の可能性を探る。
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】演習参加者自身の生活の中にある、演習内容の「事例」および前回の演習終了時に担当教員が指示した問題点について関心を持ち、考えてくる。[30分]

【事後学修】演習内容と、演習参加者自身の生活を結びつけてとらえ直してみる。[30分]

評価方法および評価の基準

平常点を50点とし、演習時に課されたレポートの評点を50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

当初の指定なし。演習の中で随時指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合科目（SDGs概論）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	共通科目（N/E/S） -総合科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学、高等学校保健体育科教諭を長年務め、日本サッカー協会A級ライセンス、インストラクターやライフセービングの資格、大学スポーツの理事、スポーツマネージャー資格、日本体育協会上級指導員の資格など多数を持つ。スポーツで地域を盛り上げるシンポジウムの開催など多数あり、その分野の著書も出版している。また一般社団法人十文字スポーツクラブの理事を務め、実社会でのセミプロスポーツクラブと地域発展事業に現在も携わる教員が担当する。過去の総合科目では、スポーツで社会課題を解決する取り組み『スポーツSDGs』をテーマに講義を行う。また、サーフィンを通して、環境問題やCO2問題にも深い関心を寄せ研究活動を行っているなどの経験を活かした授業を実践し指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

「総合科目」は、共通科目「学びの基礎をつくる」領域に配置されており「地域で学ぶ」「読書入門」「総合科目」の3科目から1科目選択必修科目となっている。

2022年に十文字学園が創立100周年を迎える。「身をきたえ 心きたえて世の中に立ちてかひある人と生きなむ」に込められた教育理念を見つめ、さらに「変わらぬものの価値」「変わるものの価値」の選択眼を持って、新しい時代に柔軟に対応できる女性教育に突き進んでいくであろう。そのキーワードとなるのは、「持続可能な社会の実現」であり、何よりそのためには、次世代育成（Education for Sustainable Development）が重要である。学校法人に課せられた使命は、次世代の人材を育てることであり、社会変革の源泉となる人を育てる事。この考えは、先に述べた十文字の建学の精神に相通じる。今回開講する『SDG's概論 ～女性の自立と食糧支援そして気候変動を中心に～』は、このような人材を育成する足掛かりとなるように、受講学生らに世界の社会問題をSDG'sを学修することにより、深く意味のある問題意識をもって、持続可能な社会の為に何が大切かを自らが学ぶ姿勢を育てることを目的とする。

講義を聞くだけの聴講型の授業にとどまらず、ワークショップやプレゼンテーションなどのAL要素を取り入れ、学生主体の、スポーツを原動力とした社会貢献のアイデアを引き出し、将来実践するきっかけとなる授業にしたい。

15週という限られた時間での講義になるので、女性の自立、食糧問題（WFPの活動）、気候変動（映画；不都合な真実を活用）を主な題材に概要を理解するように授業を進める。授業の終盤には、学生によるワークショップを行う参加型の授業へと発展させていく。またSDG's関連に取り組む国際NGO/Plan Internationalらの取り組みや世界食糧計画（WFP）などの活動とリンクさせ、講師を招へいし、いま世界で起きている現場の声を届ける講義内容としたい。またSDG'sをより深く理解し問題意識を持ってもらうため、学生によるワークショップを授業で導入する。

「SDG's活動を実践する方法を自ら主体的に考え、行動に移すことができる」授業を展開する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-4創造する力

-3協働する力

-9実践する力

内容

- ・9月21日(月) ガイダンス・イントロダクション
- ・9月28日(月) 映画『不都合な真実』鑑賞
- ・10月5日(月) 映画『不都合な真実』鑑賞
- ・10月12日(月) SDG'sの歴史と概要
- ・10月19日(月) SDG'sでできること
- ・11月2日(月) 日本のSDG'sへの取り組み、SDG'sとビジネスチャンス
- ・11月9日(月) 国連WFP講師招聘 特別講義(日程調整中)
- ・11月16日(月) 一般社団法人 Think the Earth 特別講義(日程調整中)
- ・11月23日(月) ワークショップガイダンス
- ・11月30日(月) ワークショップ
- ・12月7日(月) ワークショップ
- ・12月14日(月) ワークショップ
- ・12月21日(月) プレゼンテーション&ディスカッション
- ・1月18日(月) プレゼンテーション&ディスカッション
- ・1月25日(月) まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】SDG's関連ホームページ、スポーツ庁ホームページ「スポーツSDG's」などを確認して、自分なりに内容を整理しまとめておく。(各授業に対して30分)

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介されたホームページや、国連の関連活動について各自で内容を理解し、深める。復習ノートなどを作成したり、学生同士のディスカッションなどを行い理解を深めておく。(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度40%、毎回のリアクションペーパーやワークショップ30%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、追試験を行う。

【フィードバック】毎授業に前回授業の内容を振り返り、質疑に返答するなどして学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定の教科書は使用せず、プリント配布などをする

【推薦書】SDG'sの基礎 事業構想大学院 出版部

一般社団法人 Think the Earth 未来を変える目標SDG'sアイデアブック

【参考図書】授業内で随時紹介していく

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

未来の地球の姿を皆さんとともに考え、学生の皆さんが 次世代を担っていく人材に成長するきっかけとなれば 嬉しい限りです。主体的に 授業に取り組み この授業を履修した学生同士が仲間となりましょう。

科目名	英語 a		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	AAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

This class will help students increase the four skills of English while learning through interesting topics about the world we live in.

科目の概要

Students will expand their vocabulary and will have a lot of chances to practice through grammar exercises and communication activities.

授業の方法 (ALを含む)

Students will be introduced to a topic and will do exercises on that topic and use listening, written materials and videos as input for their work.

到達目標

Increasing vocabulary and ability to use a variety of grammatical structures and increasing awareness of issues in the world.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1-1 読み解く力 7-3 言語運用能力

内容

1	Introduction to the materials, Ted Talks and Vocabulary worksheet.
2	Discussing diet. Simple and continuous present tense. Describing dishes.
3	World foods. Simple past. Giving main ideas and supporting details.
4	Expressing oneself. Present perfect. Starting conversations and small talk.
5	Discussing languages. Simple past. Saving languages and culture.

6	Discussing future cities. Future with will. Changing cities.
7	Evaluating good cities. Using time clauses. Streets and apartments for people.
8	Review of units 1-3.
9	Healthy lifestyles. Comparative and superlative adjectives. Human organs.
10	Positive attitudes. Using infinitives. Ailments and body parts.
11	Past accomplishments. Past continuous, and simple past. Discussing abilities.
12	Facing challenges. Not enough, enough, too much. Making a difference.
13	Stages of life. The past perfect. Talking about becoming an adult.
14	Discussing changing technologies. Adjectives for age. Describing life's transitions.
15	Review of units 4-6.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Read the reading passages before the lesson.

【事後学修】 Complete any exercises given.

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

Lesson participation 40 and short tests 40%

Mid-term review 30%

Final review 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 World English 2a 3rd Edition National Geographic Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Increasing vocabulary is the biggest challenge so keep word lists and review vocabulary as much as possible.

科目名	英語 a		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	ABクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの「選択科目」です。

科目の概要

基礎的な教材を用い、英語コミュニケーション力を身に付けます。

授業の方法 (ALを含む)

ペアワークなどを多く含む。

到達目標

特にリスニング力、スピーキング力に重点を置き、英語でコミュニケーションをする上で最低限の能力と態度を身につけること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3グローバルマインド、 -3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力

内容

1	Introduction
2	Unit 1: Friends and Family 1
3	Unit 1: Friends and Family 2
4	Unit 2: Jobs around the World 1
5	Unit 2: Jobs around the World 2
6	Unit 3: Houses and Apartments 1
7	Unit 3: Houses and Apartments 2
8	まとめ 1
9	Unit 4: Possessions 1
10	Unit 4: Possessions 2
11	Unit 5: Daily Activities 1

12	Unit 5: Daily Activities 2
13	Unit 6: Getting There 1
14	Unit 6: Getting There 2
15	まとめ2

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】特になし

【事後学修】授業で扱った内容の復習 30 - 60分程度

評価方法および評価の基準

毎回の課題（50%）、期末試験（50%）をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English IntroA, 2nd Ed., Cengage Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が必須となります。

科目名	英語 a		
担当教員名	宮崎 順子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	ACクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、全学共通科目「外国語（基礎科目）」領域の選択科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。さらに英語を学びたい場合は英語Ib, IIa, IIbを履修する。

科目の概要

「聞く・話す、読む・書く」の4技能のうち、特に「聞く、読む」に重点を置き、英語を正確に聞き取る力、ある程度まとまった長さの英文を読み取る力を養成する。さらに、学習したことをもとに、自分の意見を簡単な英語で述べる力をつけることも目指す。

授業の方法 (ALを含む)

授業ごとに、ダイアログを聞いて練習問題に取り組んだのち、そのダイアログをペアで練習する。次に、重要な語句・文構造を確認しながら、本文を読みすすめていく。さらに、リーディング素材に書いてあるトピックについて、英語で自分の意見を述べる練習を行う。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) さまざまなテーマに関する語句の意味を理解し、書くことができる。
- (2) さまざまなテーマに関するまとまった文章を読み、内容を理解することができる。
- (3) さまざまなテーマに関する会話を聞き、ディクテーションすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 3 言語運用能力

内容

1	授業の進め方 Unit 1 Cross-Cultural Understanding Listening
2	Unit 1 Reading Unit 2 Foods Listening / Reading
3	Unit 2 復習 Unit 3 Foreign Language Learning Listening / Reading
4	Unit 3 復習 Unit 4 Sports Listening / Reading
5	Unit 4 復習 Unit 5 Fashion Listening / Reading
6	Unit 5 復習 Unit 6 Living Things Listening / Reading
7	Unit 6 復習 Unit 7 Art Listening / Reading

8	Unit 7 復習 Unit 8 Global Issues Listening / Reading
9	Unit 8 復習 Unit 9 Japanese Culture Listening / Reading
10	Unit 9 復習 Unit 10 Human Rights Listening / Reading
11	Unit 10 復習 Unit 11 Health & Medical Issues Listening / Reading
12	Unit 11 復習 Unit 12 Environmental Issues Listening / Reading
13	Unit 12 復習 Unit 13 Economy & Industry Listening / Reading
14	Unit 13 復習 Unit 14 Legal Issues Listening / Reading
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】(1) 本文のわからない語句を調べておくこと。(2) 指定した箇所(本文、練習問題)を予習してくるこ
。毎週30分～1時間程度。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習。毎週30分～1時間程度。

評価方法および評価の基準

期末テスト60%、教科書2～3課ごとに行う復習のための小テスト・授業内での発言等をもとにした授業への参加度を4
0%とし、評価60点以上を合格とする。なお、で設定したそれぞれの目標の評価の割合は以下の通り。

(1) 期末試験(15%) 小テスト・授業参加度(20%)

(2) 期末試験(30%) 小テスト・授業参加度(10%)

(3) 期末試験(15%) 小テスト・授業参加度(10%)

【フィードバック】復習のための小テストは採点して翌週返却をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】VELC研究会教材開発グループ・熊澤孝昭・静哲人・望月正道著『AMBITIONS Elementary
y 4技能統合型で学ぶ英語コース:初級編』金星堂

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

指定箇所を予習したうえで、積極的に授業に参加してください。授業で学んだことの復習も欠かさないようにしましょう。

科目名	英語 a		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	ADクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全額共通科目における外国語（基礎科目）の選択科目です。英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の習得を目指します。とりわけ、「聞く、話す、読む、書く」の4技能の総合的演習を行い、大学を経て社会に出ても通用する英語力の習得を目標としています。

科目の概要

英語力の「聞く」「読む」ための認知能力の効率的な習得を目指し、重要な文法事項や語彙を学習した上で、習得した内容を基に「話す」「書く」の運用能力の習得すべく練習を行う。

授業の方法

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。【グループワーク】

到達目標

この授業を履修することにより、以下のことができるようになることを到達目標とします。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 読み解く力
- 3 言語運用能力

内容

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。

前期

第1回	オリエンテーション・U1 Meeting people
第2回&3回	U1 Meeting people
第4回&5回	U2 Country and Nationalities
第6回&7回	U3 Family
第8回&9回	U4 Describing people

第10回&11回 U5 Food and drinks

第12回&13回 U6 Things we do

第14回復習(1)

第15回復習(2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学習ユニットの未知語、文法を確認しておくこと。(30分)

【事後学習】 授業で行ったユニットのダイアログ音読・シャドウイングを行う。(シャドウイングの方法については授業内で指導する。)(30分) 授業で指示されたリスニングタスクを行う。(隔週30分) まとめのプリントを行う(隔週30分)

評価方法および評価の基準

テスト70点・課題20点、授業への取り組み10点で評価を行い、60点以上を合格とする。到達目標と評価の内訳は以下の通り。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)

課題のフィードバックは、授業中の解答チェックの中で質疑応答をとおして行う。シャドウイングの練習結果は学生間のペア・ワークでチェックを行い、全体チェックの中で気づいたことを教員からコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】S.Stempleski,Stretch -Starter Student Book & Workbook Multi-Pack A, Oxford University Press

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業への積極的な参加が成功の鍵です。内容が理解できないときには、積極的に質問してください。

科目名	英語 a		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	BAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語（基礎科目）」領域の選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。さらに英語を学びたい場合は英語Ib, IIa, IIbを履修する。

科目の概要

英語によるコミュニケーションのための基礎的な英語運用能力の育成を目指す。「聞く・話す、読む・書く」の4技能のうち、特に「聞く・読む」に重点を置き、ある程度まとまった内容の英文を読みとる力、英語の音変化の特徴を理解し、正しく聞き取る力を養成する。さらに正しい英語の構造の短文が書ける力も合わせて養成し、社会に出ても通用する英語基礎力の育成を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

授業の初めに前回の重要語句・構文・聞き取りの復習小テストを行う。次に、グループワークも取り入れ、文構造・文章構造を確認しながら、テキストの内容を理解する。最後に、テキストの内容を簡単な英語で聞き手に伝える。【ミニテスト】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 栄養や食・健康に関する基本的な語句の意味を口頭で述べたり、書いたりすることができる。
- (2) 栄養や食・健康に関する短い文を聞き、ディクテーションができる。
- (3) 栄養や食・健康に関するまとまった文章を読み、内容を理解して、日本語で説明することができる。
- (4) (3)で理解した内容について、簡単な英語で説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 言語運用能力、 -1 読み解く力

内容

1	オリエンテーション
---	-----------

2	Unit 1: エネルギー産生栄養素
3	Unit 2: 栄養学:略史
4	栄養・食・健康に関する記事(1)
5	Unit 3: 主食
6	Unit 4: 食の文化遺産
7	栄養・食・健康に関する記事(2)
8	Unit 5: 弁当箱のアート
9	Unit 6: 日本の給食制度
10	栄養・食・健康に関する記事(3)
11	Unit 7: こども食堂
12	Unit 8: スーパーフード
13	栄養・食・健康に関する記事(4)
14	まとめ: Unit 1~8
15	まとめ: 栄養・食・健康に関する記事(1)~(4)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】(1)本文でわからない単語を調べておくこと、(2)指定した箇所(教科書A~Fの語彙、ディクテーション、読解など)をやってくること。毎日少しずつ行うことが望ましい。毎週30分~1時間程度。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習。毎日20分程度。

評価方法および評価の基準

期末試験70%、毎回授業の冒頭で行う復習の小テスト・授業内での発言等の授業参加・課題を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

- (1) 期末試験(10%/70%) 小テスト・授業参加度・課題(5%/30%)
- (2) 期末試験(20%/70%) 小テスト・授業参加度・課題(5%/30%)
- (3) 期末試験(30%/70%) 小テスト・授業参加度・課題(10%/30%)
- (4) 期末試験(10%/70%) 小テスト・授業参加度・課題(10%/30%)

【フィードバック】復習の小テストは翌週に採点して返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】A津田晶子ほか, Matter of Taste<Intro>, 南雲堂, 1870円.

栄養・食・健康に関する記事はプリントで配布

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語 a		
担当教員名	津田 久美子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	BBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、全学共通科目「外国語（基礎科目）」領域の選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。さらに英語を学びたい場合は英語Ib, IIa, IIbを履修する。

科目の概要

英語によるコミュニケーションのための基礎的な英語運用能力の育成を目指す。「聞く・話す、読む・書く」の4技能のうち、特に「聞く・読む」に重点を置き、ある程度まとまった内容の英文を読みとる力、英語の音変化の特徴を理解し、正しく聞き取る力を養成する。さらに正しい英語の構造の短文が書ける力も合わせて養成し、社会に出ても通用する英語基礎力の育成を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

授業の初めに前回の重要語句・構文・聞き取りの復習小テストを行う。次に、グループワークも取り入れ、文構造・文章構造を確認しながら、テキストの内容を理解する。最後に、テキストの内容を簡単な英語で聞き手に伝える。【ミニテスト】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 栄養や食・健康に関する基本的な語句の意味を口頭で述べたり、書いたりすることができる。
- (2) 栄養や食・健康に関する短い文を聞き、ディクテーションができる。
- (3) 栄養や食・健康に関するまとまった文章を読み、内容を理解して、日本語で説明することができる。
- (4) (3)で理解した内容について、簡単な英語で説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 言語運用能力、 -1 読み解く力

内容

1	オリエンテーション
---	-----------

2	Unit 1: エネルギー産生栄養素
3	Unit 2: 栄養学：略史
4	栄養・食・健康に関する記事(1)
5	Unit 3: 主食
6	Unit 4: 食の文化遺産
7	栄養・食・健康に関する記事(2)
8	Unit 5: 弁当箱のアート
9	Unit 6: 日本の給食制度
10	栄養・食・健康に関する記事(3)
11	Unit 7: こども食堂
12	Unit 8: スーパーフード
13	栄養・食・健康に関する記事(4)
14	まとめ: Unit 1~8
15	まとめ: 栄養・食・健康に関する記事(1)~(4)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】(1) 本文でわからない単語を調べておくこと、(2) 指定した箇所(教科書A~Fの語彙、ディクテーション、読解など)をやってもらうこと。毎日少しずつ行うことが望ましい。毎週30分~1時間程度。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習。毎日20分程度。

評価方法および評価の基準

期末試験70%、予習および授業への参加態度・各課毎回行う復習の小テスト・課題等を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各課毎回行う復習の小テストから間違いが多かった箇所を次回の授業で共有し、理解を深めてもらう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】A Matter of Taste Intro, 津田晶子ほか著, 南雲堂, 1870円.

栄養・食・健康に関する記事はプリントで配布

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語 a		
担当教員名	榊原 理枝子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	BCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の外国語科目 (基礎科目) の選択科目。

科目の概要

英語の語彙力、文法力などを高め、また英語の音声に慣れ、英文を正しく読み取り、聞き取れるようになってもらうことを目指します。また、英語を話す力、書く力を研鑽し、英語で意思などを表現できるようになってもらうことを目標とします。さらに、英語圏文化への理解を深めてもらいます。

授業の方法

アクティブ・ラーニングの実践として、学生に英語での発言や発表などをしてもらったり、小テストを受けてもらいながら授業を進めます。【ミニテスト】

到達目標

- (1) 英語の文法、語彙、音声などについての知識を深め、英語を正しく読解でき、聞き取り、また英文を書くことができる。
- (2) 英語の文法、語彙、音声などについての知識を深め、英語を話す力を伸ばし、英語で意思などを表現できる。
- (3) 英語圏文化についての知識を深め、理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目指します。

- 1読み解く力
- 3言語運用能力

内容

(授業の方針)

- (1) テスト、試験類は実施後正解を配布。採点して翌週に返却、解説。
- (2) 定期試験は最後から2番目の週に実施。最終週には返却、解説。定期試験だけではなく返却解説も欠席不可。
- (3) 就活、公欠など正当な欠席の場合、また定期試験欠席の場合は、就活の証明や診断書などの証明が必要。
- (4) 出席不足などで単位取得が危うくなってから課題等で救済というのは本人のためにならないのでいけません。
- (5) テスト等は欠席しても別日程で受けることはできません。(実施後正解を配布するため。) また、課題での代替もありません。欠席しないように注意。(ただし実習などの場合は別。)
- (6) 授業内の発表も、授業進行上の理由で原則別日程ではできませんから欠席しないように注意してください。

(授業内容)

『ハリー・ポッター』、『クマのプーさん』、『ピーター・ラビット』、『ブリジット・ジョーンズの日記』など、著名な物語、映画などに登場する「食」に注目するという教科書を使います。そして関連した映画を見たり、物語を読んだりします。また、時にはニュースを見たりもしますし、プレゼンテーションや会話練習などもします。

(授業進行予定) (学生の理解度や関心に応じて変更する場合があります。)

(1回目)オリエンテーション(2回目)ハリー・ポッターと蛙チョコレート(3回目)ピーター・ラビットとパイ(4回目)ピーター・ラビットのお母さんとハーブティ(5回目)クマのプーさんと蜂蜜(6回目)アイスクリームと『あしながおじさん』と『赤毛のアン』(7回目)トマト 日本での受容と宮沢賢治(8回目)魚とヘミングウェイと『老人と海』(9回目)レタスの輸送とスタインバック『エデンの東』(10回目)チーズ作りと『大草原の小さな家』(11回目)朝食、オードリー・ヘップバーン、『ティファニーで朝食を』(12回目)ダイエット 『ブリジット・ジョーンズの日記』(13回目)リンゴとアガサ・クリスティと名探偵ポワロ(14回目)まとめ(15回目)総復習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

(事前学習)教科書や配布教材などの指定箇所を勉強する。主にリスニング、読解、文法などの練習問題。語句などは覚える。音声は聞いて発音する。小テスト、ロールプレイング、発表等の準備。(各授業に対して45分以上)

(事後学習)教科書、配布教材を復習。また、返却された小テストの復習。授業に出てきた英語表現も覚える。その際、音声は聞いて発音する。(各授業に対して45分以上)

*英語は一度にまとめて勉強するのではなく、毎日勉強してください。「各授業に対して45分以上」とは、毎日の勉強時間の合計が、1回の授業につき事前・事後学習それぞれ45分以上という意味です。つまり事前・事後学習を合わせた1回の授業に対する毎日の勉強時間の合計が90分以上です。

評価方法および評価の基準

到達目標(1)(3)

英語圏文化についての理解を深め、文法、語彙、音声などについての知識を高め、英語の読解力、聴解力、また書く力を付ける。

=>読解、聴解などに関する授業中のアクティビティ:25%

=>文法、語彙、表現、読解力、聴解力などに関する小テストや定期試験:50%

【フィードバック】

*小テストは終了後、正解発表。そして実施の次の授業で返却し、今後の学習に生かしてもらいます。小テストの結果によっては同じ範囲をまたテスト範囲にすることもあります。

*定期試験は最後から2番目の授業で実施。試験修了後、正解発表。そして最終週には答案を返却、解説。

到達目標(2)(3)

英語圏文化についての知識を深め、文法、語彙、音声などについての知識を高め、英語を話す力を伸ばす。

=>授業中のロールプレイング、発言、発表など:25%

(単位取得について)

*上記の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とします。

*単位取得には3分の2以上の授業参加と定期試験を受けていることが必須。原則として定期試験は欠席しないでください。やむを得ず定期試験を欠席する場合は診断書等の証明と、指定した時刻までに指定したアドレスへのメールがないと単位は取れません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(教科書)Minami、田口、本山『A Taste of English: Food and Fictionフィクションにみる食文化』(無料音声ダウンロードサービス付き)(朝日出版社、本体1,700円。フジショップで買ってください。万が一品切れの場合はフジショップで注文してください。ISBN978-4-255-15528-9)

その他、プリント、データ配布教材等。

(辞書) 辞書はお持ちの物を第1回目から持って来てください。スマホ等による代用禁止。(授業中はスマホ等はしまってもらいます。授業に集中してもらうためです。)辞書をこれから購入する予定の場合、初回以降に購入でも構いません。失敗を防ぐためです。

(推薦書) 授業で適宜紹介。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- (1) 体調管理に注意し、欠席しないようにしてください。そして万が一欠席の場合は、欠席したために宿題などが分からず次の授業に支障をきたすといったことのないように、授業についてお友達に教えてもらうなどの対策をとってください。
- (2) Live Campusによる授業連絡(授業終了後の質問への回答を全員に周知する必要がある場合や宿題の説明など)は随時行いますから注意しておいてください。
- (3) 詳細は初回に配付。またCALL教室の使い方を覚えてもらわないといけないので最初数回は欠席しないでください。
- (4) 授業で配布するデータ教材の保存や宿題の発表などのためUSBが必要。毎回持ってきてください。

科目名	英語 a		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	CAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

This class will help students increase the four skills of English while learning through interesting topics about the world we live in.

科目の概要

Students will expand their vocabulary and will have a lot of chances to practice through grammar exercises and communication activities.

授業の方法 (ALを含む)

Students will be introduced to a topic and will do exercises on that topic and use listening, written materials and videos as input for their work.

到達目標

Increasing vocabulary and ability to use a variety of grammatical structures and increasing awareness of issues in the world.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1-1 読み解く力 7-3 言語運用能力

内容

1	Introduction to the materials, Ted Talks and Vocabulary worksheet.
2	Discussing diet. Simple and continuous present tense. Describing dishes.
3	World foods. Simple past. Giving main ideas and supporting details.
4	Expressing oneself. Present perfect. Starting conversations and small talk.
5	Discussing languages. Simple past. Saving languages and culture.

6	Discussing future cities. Future with will. Changing cities.
7	Evaluating good cities. Using time clauses. Streets and apartments for people.
8	Review of units 1-3.
9	Healthy lifestyles. Comparative and superlative adjectives. Human organs.
10	Positive attitudes. Using infinitives. Ailments and body parts.
11	Past accomplishments. Past continuous, and simple past. Discussing abilities.
12	Facing challenges. Not enough, enough, too much. Making a difference.
13	Stages of life. The past perfect. Talking about becoming an adult.
14	Discussing changing technologies. Adjectives for age. Describing life's transitions.
15	Review of units 4-6.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Read the reading passages before the lesson.

【事後学修】 Complete any exercises given.

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

Lesson participation 40 and short tests 40%

Mid-term review 30%

Final review 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 World English 2a 3rd Edition National Geographic Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Increasing vocabulary is the biggest challenge so keep word lists and review vocabulary as much as possible.

科目名	英語 a		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	CBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語科目内の選択必修科目である

科目の概要

「聞く・読む・書く・観る」活動を含めた総合的な訓練によって、社会に出ても通用する英語力を育成する

授業の方法

教科書の豊富な教材・活動のうち、クラスで共有しながら学ぶのに適するものを取り出し、合理的な順番で取り上げる。オンライン自修を援助する。疑問点は【リアクションペーパー】を効果的に用いて、クラスの【討論】の活性化で解決する。

到達目標

1. 外国語としての英語の学習基本語彙1000語レベルを文脈に応じて適切に使用できる
2. 形容詞の叙述と限定・単純現在・数の一致等の基本的文法を使って、通じる文を書き、発話できる
3. 人を紹介する・道案内をするなどの日常的場面の英語を書き、発音できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

*各回の授業の前半は動画の視聴・リスニングに取り組み、後半は音声のない問題を中心に取り組む。

*各unitを約2週間で進め、音声のない問題の一部は事前の自修中心となる。

1	TED 2本(pages 38, 62 & 78)の視聴、Unit 1の宿題の設定等ガイダンス
2	Unit 1 Friends and Family
3	Unit 1 仕上げ (動画: Animal Families)
4	Unit 2 Jobs Around the World

5	Unit 2 仕上げ (動画: A Job for Children)
6	Unit 3 Houses and Apartments
7	Unit 3 仕上げ (動画: A Very Special Village)
8	まとめ (1)
9	Unit 4 Possessions
10	Unit 4 仕上げ (動画: Uncovering the Past)
11	Unit 5 Daily Activities
12	Unit 5 仕上げ (動画: Zoo Dentists)
13	Unit 6 Getting There
14	Unit 6 仕上げ (動画: Volcano Trek)
15	まとめ (2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新しいunitに入る前に、音声がなくとも解ける問題は教科書・online共に全て解いて授業に臨むこと。次の週は、動画視聴・listening問題を全て解くこと。Online workbookの音声はスマホで聞けるが、問題全体を閲覧するにはPCかtabletが必要。毎週45分以上。

【事後学修】授業で出された課題を解き、作文はワード文書がメール本文に残すこと。また、教科書に関連する動画のoriginalなものを英語に注目して何度も視聴すること。週あたり平均60分以上。？

評価方法および評価の基準

上記ねらいの 到達目標の1から3の、筆記力に関しては小テスト・Online Workbook・2回程度の確認試験・リアクションペーパー等への書き込み英文を中心に、発音力・発話力・その他の授業への参加度は通常の授業中に評価する。

1. 基本単語の筆記力20% 基本単語の発音力10%
2. 基本文法の筆記力20% 基本文法の発話力10%
3. 場面に応じた筆記力20% 場面に応じた発話力10%

その他、授業への参加度10% として、総合して60%以上を合格とする。

【フィードバック】Online Workbookで正答率の悪い問題を、全員が再挑戦して全問正解になる前に、クラスに解説してその後に活かすようにする予定。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】_World English, 2nd Edition, Book IntroA_ (M Milner著、National Geographic Learning) ISBN 978-1-305-08951-8.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

世界で使われる英語と自分の実力の間を少しずつ埋めていくのがこの教科書シリーズのコンセプトです。動画の英語をめあてに楽しく努力して、全員良い成績を獲得しましょう。

科目名	英語 a		
担当教員名	大友 彩子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	CCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の外国語科目のうちの選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。

科目の概要

実社会で使用できる語学4技能スキルの訓練および文法、語彙の知識、運用能力の獲得。

授業の方法 (ALを含む)

教科書の内容に沿い、講義とディスカッションにより進行。

到達目標

文法の知識を4技能において実践できる。語彙の知識を4技能において実践でできる。自発的に英語でコミュニケーションできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

適宜ペアワーク、グループワークも取り入れ、学生に発言をしてもらいながら授業を進める。

1週目 導入

2～3週目 Unit1 People

4～5週目 Unit2 A Day in the Life

6～7週目 Unit3 Going Places

8～9週目 Unit4 Food

10～11週目 Unit5 Sports

12～13週目 Unit6 Destinations

14週目 復習

まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】宿題として指定した箇所（リスニング、読解、語彙、文法などの練習問題など。週最低60分。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習・課題の暗唱。毎日20分程度。週最低60分。

評価方法および評価の基準

出席10%、授業態度30%、課題30%、試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】適宜必要に応じてクラス内で復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English 1A 著者 John Hughes and Martin Milner 出版社 National Geographic Learning

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

語学学習は毎日の積み重ねとなります。少しずつでも予習、復習を各自で行ってください。

科目名	英語 a		
担当教員名	秋山 まき子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	CDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。The course is designed to develop and extend international communication skills, while building a foundation for the further development of academic English skills.

科目の概要 The main objective of this course is to increase the independent ability of students to receive (listen and read), produce (written and verbal presentation), and interact in a specific, measureable level of English.

授業の方法 (ALを含む) In the class, we have textbook activities, listening exercises, discussions, collaborative group work, and practice tests. Audio and video training material can be used.

到達目標 Students who have completed this course should be able to:

1. demonstrate the completion of a variety of language tasks (through, for example, portfolios of student work), which link the four core language skills (speaking, listening, reading, writing)
2. write and converse to meet basic communicative and academic needs

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシー - 1 読み解く力・ - 3 言語運用能力を育成することを目的とする。

内容

1	Orientation
2	Unit 5. America was once the world's leading whaling nation
3	Unit 6. Mussels are a "must" with spaghetti
4	Unit 7. Is Paris best for tuna, and Southeast Asia best for red sea bream?
5	Unit 8. Eel?The Mystery Fish
6	REVIEW(1) TEST1

	REVIEW(1) TEST1
7	Unit 13. Don't say "It's only an egg."
8	Unit 14. Shabu-shabu and fondue
9	Unit 15. Wild animals stir the blood of Westerners
10	Unit 16. Which is tastier, sukiyaki or gyunabe?
11	REVIEW(2) TEST2
12	Unit 17. Toast, Skoal, and kanpai!
13	Unit 18・ Wine goes global
14	Unit 19. The relation between cacao and chocolate
15	REVIEW(3) TEST3

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

Pre-class and post-class activities which will be taken

more than 30 minutes each include but are not limited to:

- Specific language skills development activities assigned as homework;
- Careful preparation of necessary class materials.

評価方法および評価の基準

到達目標の総合評価60点以上を合格とする。100%のうち。到達目標の1は、授業の出席率、参加度、理解度の総合評価70%、到達目標の2はテスト・プレゼンテーション30%とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】The East and the West in Dietary Culture, Hisatoshi Ohashi, Blake Baxter, Seibido, ISBN#9784791900732

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容及び進め方は、クラスの状態により変更することがあります。質問等は、遠慮なく担当教員に申し出てください

科目名	英語 a		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	DAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この授業では英文を正確に読み取る練習を行います。その際、単語や熟語をの知識も重要ですが、英文の構造を把握する力が不可欠です。この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。

科目の概要

前期は、構造を読み解くための基本的な知識を復習しながら、重要な文法事項を学びます。

授業の方法

英語で書かれた、日本人にもなじみの深い物語を読み進めます。随時、英文構造の理解に必要な補助プリントを配布します。

また、映像資料を見て文化的なトピックを学びながら、基本的なコミュニケーションスキルを学びます。

前期は有名な児童文学作品を読む予定です。英語圏の子供たちがおそらく一度は読んだものを知ることが、必要なことだからです。

【討議・討論】

到達目標

(a)受講生は、辞書を引くことができる。(b)英文が正確に理解できる。(c)内容について自分の考えを述べることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力 -1外国語基礎理解 -2異文化の理解・尊重 -3外国語コミュニケーション -3言語運用能力

内容

英語で書かれた、日本人にも馴染みのある物語を読み進めていきます。随時、英文構造の理解に必要な補助的なプリントを配布します。授業でおおまかな訳が発表できるよう、しっかり予習してくることを望みます。

1	第1週：ガイダンス
2	第2週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
3	第3週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
4	第4週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント

5	第5週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
6	第6週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
7	第7週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
8	第8週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
9	第9週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
10	第10週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
11	第11週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
12	第12週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
13	第13週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
14	第14週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト
15	第15週：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】辞書を引き、テキストを読む。疑問点などをメモしておく。（1時間程度）

【事後学修】辞書を引き、テキストを読む。（20分程度）

評価方法および評価の基準

到達目標(a)平常点20%、試験20%、(b)平常点20%、試験10%、(c)平常点20%、試験10%とします。

評価基準は60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語 a		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	DBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの「選択科目」です。

科目の概要

基礎的な教材を用い、英語コミュニケーション力を身に付けます。

授業の方法 (ALを含む)

ペアワークなどを多く含む。

到達目標

特にリスニング力、スピーキング力に重点を置き、英語でコミュニケーションをする上で最低限の能力と態度を身につけること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3グローバルマインド、 -3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力

内容

1	Introduction
2	Unit 1: Friends and Family 1
3	Unit 1: Friends and Family 2
4	Unit 2: Jobs around the World 1
5	Unit 2: Jobs around the World 2
6	Unit 3: Houses and Apartments 1
7	Unit 3: Houses and Apartments 2
8	まとめ 1
9	Unit 4: Possessions 1
10	Unit 4: Possessions 2
11	Unit 5: Daily Activities 1

12	Unit 5: Daily Activities 2
13	Unit 6: Getting There 1
14	Unit 6: Getting There 2
15	まとめ2

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】特になし

【事後学修】授業で扱った内容の復習 30 - 60分程度

評価方法および評価の基準

毎回の課題（50%）、期末試験（50%）をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English IntroA, 2nd Ed., Cengage Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が必須となります。

科目名	英語 a		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	EAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この授業では英文を正確に読み取る練習を行います。その際、単語や熟語をの知識も重要ですが、英文の構造を把握する力が不可欠です。この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。

科目の概要

前期は、構造を読み解くための基本的な知識を復習しながら、重要な文法事項を学びます。

授業の方法

英語で書かれた、日本人にもなじみの深い物語を読み進めます。随時、英文構造の理解に必要な補助プリントを配布します。

また、映像資料を見て文化的なトピックを学びながら、基本的なコミュニケーションスキルを学びます。

前期は有名な児童文学作品を読む予定です。英語圏の子供たちがおそらく一度は読んだものを知ることは、必要なことだからです。

【討議・討論】

到達目標

(a)受講生は、辞書を引くことができる。(b)英文が正確に理解できる。(c)内容について自分の考えを述べることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力 -1外国語基礎理解 -2異文化の理解・尊重 -3外国語コミュニケーション -3言語運用能力

内容

英語で書かれた、日本人にも馴染みのある物語を読み進めていきます。随時、英文構造の理解に必要な補助的なプリントを配布します。授業でおおまかな訳が発表できるよう、しっかり予習してくることを望みます。

1	第1週：ガイダンス
2	第2週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
3	第3週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
4	第4週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント

5	第5週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
6	第6週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
7	第7週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
8	第8週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
9	第9週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
10	第10週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
11	第11週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
12	第12週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
13	第13週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
14	第14週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト
15	第15週：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】辞書を引き、テキストを読む。疑問点などをメモしておく。（1時間程度）

【事後学修】辞書を引き、テキストを読む。（20分程度）

評価方法および評価の基準

到達目標(a)平常点20%、試験20%、(b)平常点20%、試験10%、(c)平常点20%、試験10%とします。

評価基準は60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語 a		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	EBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの「選択科目」です。

科目の概要

基礎的な教材を用い、英語コミュニケーション力を身に付けます。

授業の方法 (ALを含む)

ペアワークなどを多く含む。

到達目標

特にリスニング力、スピーキング力に重点を置き、英語でコミュニケーションをする上で最低限の能力と態度を身につけること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3グローバルマインド、 -3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力

内容

1	Introduction
2	Unit 1: Friends and Family 1
3	Unit 1: Friends and Family 2
4	Unit 2: Jobs around the World 1
5	Unit 2: Jobs around the World 2
6	Unit 3: Houses and Apartments 1
7	Unit 3: Houses and Apartments 2
8	まとめ 1
9	Unit 4: Possessions 1
10	Unit 4: Possessions 2
11	Unit 5: Daily Activities 1

12	Unit 5: Daily Activities 2
13	Unit 6: Getting There 1
14	Unit 6: Getting There 2
15	まとめ2

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】特になし

【事後学修】授業で扱った内容の復習 30 - 60分程度

評価方法および評価の基準

毎回の課題（50%）、期末試験（50%）をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English IntroA, 2nd Ed., Cengage Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が必須となります。

科目名	英語 a		
担当教員名	森川 智成		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	ECクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。

科目の概要

食、コミュニケーション、都市、身体、旅などの様々な文化事象の内容理解を英文読解を通じて進めていく中で、英文法の実理解、リスニング、英語による表現を高めていく学習を行う。

授業の方法 (ALを含む)

各テーマの1回目は、英文読解を通じて該当分野に関する理解を深めるとともに、英文法を確認する。2回目は、該当分野についての補足的な読解、及びディスカッションを行う。【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】

到達目標

- (1) 学生が英語の知識を獲得し、英語を使って学習できる。
- (2) 学生が各該当分野で扱うトピックを通じて英語に関心を持つとともに、英語で内容が理解できる。
- (3) 学生が大学という場所で学ぶための態度を身につけられる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 読み解く力
- 3 言語運用能力

内容

1	オリエンテーション
2	"Food for Life"
3	Further Discussion on "Food for Life"【プレゼンテーション】
4	"Express Yourself"
5	Further Discussion on "Express Yourself"【プレゼンテーション】
6	"Cities"
7	Further Discussion on "Cities"【プレゼンテーション】
8	ライティングワークショップ【グループワーク】
9	"The Body"
10	Further Discussion on "The Body"【プレゼンテーション】
11	"Challenges"
12	Further Discussion on "Challenges"【プレゼンテーション】

13	"Transitions"
14	Further Discussion on "Transitions"【プレゼンテーション】
15	まとめ【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】Live Campusに提示した事前課題を行う。[60分]

【事後学修】授業で学んだことを整理し、課題をまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み(30%)、中間レポート(30%)、筆記試験(40%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題・レポートにはコメントを付して返却し、解説する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】World English 2A Combo Split Third Edition, National Geographic

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Live Campusを用いて、授業連絡を行う。

科目名	英語 a		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	EDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

This class will help students increase the four skills of English while learning through interesting topics about the world we live in.

科目の概要

Students will expand their vocabulary and will have a lot of chances to practice through grammar exercises and communication activities.

授業の方法 (ALを含む)

Students will be introduced to a topic and will do exercises on that topic and use listening, written materials and videos as input for their work.

到達目標

Increasing vocabulary and ability to use a variety of grammatical structures and increasing awareness of issues in the world.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1-1 読み解く力 7-3 言語運用能力

内容

1	Introduction to the materials, Ted Talks and Vocabulary worksheet.
2	Discussing diet. Simple and continuous present tense. Describing dishes.
3	World foods. Simple past. Giving main ideas and supporting details.
4	Expressing oneself. Present perfect. Starting conversations and small talk.
5	Discussing languages. Simple past. Saving languages and culture.

6	Discussing future cities. Future with will. Changing cities.
7	Evaluating good cities. Using time clauses. Streets and apartments for people.
8	Review of units 1-3.
9	Healthy lifestyles. Comparative and superlative adjectives. Human organs.
10	Positive attitudes. Using infinitives. Ailments and body parts.
11	Past accomplishments. Past continuous, and simple past. Discussing abilities.
12	Facing challenges. Not enough, enough, too much. Making a difference.
13	Stages of life. The past perfect. Talking about becoming an adult.
14	Discussing changing technologies. Adjectives for age. Describing life's transitions.
15	Review of units 4-6.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Read the reading passages before the lesson.

【事後学修】 Complete any exercises given.

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

Lesson participation 40 and short tests 40%

Mid-term review 30%

Final review 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 World English 2a 3rd Edition National Geographic Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Increasing vocabulary is the biggest challenge so keep word lists and review vocabulary as much as possible.

科目名	英語 a		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	EEクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語科目内の選択必修科目である

科目の概要

「聞く・読む・書く・観る」活動を含めた総合的な訓練によって、社会に出ても通用する英語力を育成する

授業の方法

教科書の豊富な教材・活動のうち、クラスで共有しながら学ぶのに適するものを取り出し、合理的な順番で取り上げる。オンライン自修を援助する。疑問点は【リアクションペーパー】を効果的に用いて、クラスの【討論】の活性化で解決する。

到達目標

1. 外国語としての英語の学習基本語彙1000語レベルを文脈に応じて適切に使用できる
2. 形容詞の叙述と限定・単純現在・数の一致等の基本的文法を使って、通じる文を書き、発話できる
3. 人を紹介する・道案内をするなどの日常的場面の英語を書き、発音できる

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

*各回の授業の前半は動画の視聴・リスニングに取り組み、後半は音声のない問題を中心に取り組む。

*各unitを約2週間で進め、音声のない問題の一部は事前の自修中心となる。

1	TED 2本(pages 38, 62 & 78)の視聴、Unit 1の宿題の設定等ガイダンス
2	Unit 1 Friends and Family
3	Unit 1 仕上げ (動画: Animal Families)
4	Unit 2 Jobs Around the World

5	Unit 2 仕上げ (動画: A Job for Children)
6	Unit 3 Houses and Apartments
7	Unit 3 仕上げ (動画: A Very Special Village)
8	まとめ (1)
9	Unit 4 Possessions
10	Unit 4 仕上げ (動画: Uncovering the Past)
11	Unit 5 Daily Activities
12	Unit 5 仕上げ (動画: Zoo Dentists)
13	Unit 6 Getting There
14	Unit 6 仕上げ (動画: Volcano Trek)
15	まとめ (2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新しいunitに入る前に、音声がなくとも解ける問題は教科書・online共に全て解いて授業に臨むこと。次の週は、動画視聴・listening問題を全て解くこと。Online workbookの音声はスマホで聞けるが、問題全体を閲覧するにはPCかtabletが必要。毎週45分以上。

【事後学修】授業で出された課題を解き、作文はワード文書がメール本文に残すこと。また、教科書に関連する動画のoriginalなものを英語に注目して何度も視聴すること。週あたり平均60分以上。？

評価方法および評価の基準

次の1から3の、筆記力に関しては小テスト・Online Workbook・2回程度の確認試験・リアクションペーパー等への書き込み英文を中心に、発音力・発話力・その他の授業への参加度は通常の授業中に評価する。

1. 基本単語の筆記力20% 基本単語の発音力10%
2. 基本文法の筆記力20% 基本文法の発話力10%
3. 場面に応じた筆記力20% 場面に応じた発話力10%

その他、授業への参加度10% として、総合して60%以上を合格とする。

【フィードバック】Online Workbookで正答率の悪い問題を、全員が再挑戦して全問正解になる前に、クラスに解説してその後に活かすようにする予定。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】_World English, 2nd Edition, Book IntroA_ (M Milner著、National Geographic Learning) ISBN 978-1-305-08951-8.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

世界で使われる英語と自分の実力の間を少しずつ埋めていくのがこの教科書シリーズのコンセプトです。動画の英語をめあてに楽しく努力して、全員良い成績を獲得しましょう。

科目名	英語 a		
担当教員名	津田 久美子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	FAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、全学共通科目「外国語（基礎科目）」領域の選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。さらに英語を学びたい場合は英語Ib, IIa, IIbを履修する。

科目の概要

英語によるコミュニケーションのための基礎的な英語運用能力の育成を目指す。「聞く・話す、読む・書く」の4技能のうち、特に「聞く・読む」に重点を置き、ある程度まとまった内容の英文を読みとる力、英語の音変化の特徴を理解し、正しく聞き取る力を養成する。さらに正しい英語の構造の短文が書ける力も合わせて養成し、社会に出ても通用する英語基礎力の育成を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

授業の初めに各課ごとに重要語句・構文・聞き取り等の復習小テストを行う。また、グループワークも取り入れ、文構造・文章構造を確認しながら、テキストの内容を理解する。【ミニテスト】【グループワーク】

到達目標

- (1)基本的、かつ日常よく使われる語句の意味を口頭で述べたり、書いたりすることができる。
- (2)短い英文を聞き、ディクテーションができる。
- (3)まとまった文章を読み、内容を理解して、日本語で説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 言語運用能力、 -1 読み解く力

内容

英語の文の構造を理解する上で役に立つ基本文型をはじめとして、以下のような基本的文法事項を確認していきます（順不同）。

- ・文の要素 ・5文型 ・動詞 ・基本時制 ・進行形 ・完了形 ・名詞 ・冠詞 ・代名詞
- ・助動詞 ・受動態 ・不定詞

1. Introduction
- 2.~3. UNIT1: They got tired of waiting so they left.
- 4.~5. UNIT2: I'll bet you haven't thought about Peggy Jean once.
- 6.~7. UNIT3: It says here that the duck population has declined.
- 8.~9. UNIT4: Nobody knows for sure what happened to them.
- 10.~11. UNIT5: I'll go find a box to pack them in.
- 12.~13. UNIT6: What am I staring at?
- 14.~15. 前期のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の授業で扱う範囲の単語の意味を調べ、和訳や練習問題に取り組んでおくこと。目安の時間は1週あたり2時間。

【事後学修】授業で扱った範囲の単語と文法事項を復習しておくこと。目安の時間は1週あたり30分。

評価方法および評価の基準

期末試験70%、予習および授業への参加態度・各課毎回行う復習の小テスト・課題等を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各課毎回行う復習の小テストから間違いが多かった箇所を次回の授業で共有し、理解を深めてもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小中秀彦著『Fun English with SNOOPY スヌーピーと楽しく学ぶ基礎英語』（ナショナルジオグラフィック ラーニング）

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語 a		
担当教員名	榊原 理枝子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	FBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の外国語科目 (基礎科目) の選択科目。

科目の概要

英語の語彙力、文法力などを高め、また英語の音声に慣れ、英文を正しく読み取り、聞き取れるようになってもらうことを目指します。また、英語を話す力、書く力を研鑽し、英語で意思などを表現できるようになってもらうことを目標とします。さらに、英語圏文化への理解を深めてもらいます。

授業の方法

アクティブ・ラーニングの実践として、学生に英語での発言や発表などをしてもらったり、小テストを受けてもらいながら授業を進めます。【ミニテスト】

到達目標

- (1) 英語の文法、語彙、音声などについての知識を深め、英語を正しく読解でき、聞き取り、また英文を書くことができる。
- (2) 英語の文法、語彙、音声などについての知識を深め、英語を話す力を伸ばし、英語で意思などを表現できる。
- (3) 英語圏文化についての知識を深め、理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目指します。

- 1読み解く力
- 3言語運用能力

内容

(授業の方針)

- (1) テスト、試験類は実施後正解を配布。採点して翌週に返却、解説。
- (2) 定期試験は最後から2番目の週に実施。最終週には返却、解説。定期試験だけではなく返却解説も欠席不可。
- (3) 就活、公欠など正当な欠席の場合、また定期試験欠席の場合は、就活の証明や診断書などの証明が必要。
- (4) 出席不足などで単位取得が危うくなってから課題等で救済というのは本人のためにならないのでいけません。
- (5) テスト等は欠席しても別日程で受けることはできません。(実施後正解を配布するため。) また、課題での代替もありません。欠席しないように注意。(ただし実習などの場合は別。)
- (6) 授業内の発表も、授業進行上の理由で原則別日程ではできませんから欠席しないように注意してください。

(授業の内容)

イギリスBBCのドキュメンタリー番組を題材にした教科書を使用。英語力だけではなく、世界の文化や社会、歴史などについての知識も得ることができます。DVD付属で、映像を見ながら勉強できるので楽しいです。DVDはイギリス英語とアメリカ英語の切り替え可能で、英語の多様性も学べます。また、時にはニュースを見たりもしますし、プレゼンテーションや会話練習などもします。

(授業進行予定) (学生の理解度や関心に依りて以下の予定を変更することがあります。)

(1回目)オリエンテーション(2回目)Laughter: 笑いと健康の関係(前半)・リスニングや内容把握(3回目) Laughter(後半)・内容に関連した会話の練習など(4回目)Hats: 帽子の役割と帽子が映し出すもの(前半)・リスニングや内容把握(5回目) Hats(後半)・内容に関連した会話の練習など(6回目)Sphinx's Nose: ライオンの体に人間の顔を持つスフィンクス。その鼻は・・・(前半)・リスニングや内容把握(7回目) Sphinx's Nose(後半)・内容に関連した会話の練習など(8回目)Terracotta Warriors: 兵馬俑: 秦の始皇帝の墓(9回目) Silver and Platinum: 銀とプラチナ: 金属の歴史と利用法(前半)・リスニングや内容把握(10回目) Silver and Platinum(後半)・内容に関連した会話の練習など(11回目) Athens: アテネ: 今のアテネと古代の歴史(前半)・リスニングや内容把握(12回目) Athens(後半)・内容に関連した会話の練習など(13回目) Skydiving: 空を飛ぶ魅力(14回目)まとめ(15回目)総復習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

(事前学習)教科書や配布教材などの指定箇所を勉強する。主にリスニング、読解、文法などの練習問題。語句などは覚える。音声は聞いて発音する。小テスト、ロールプレイング、発表等の準備。(各授業に対して45分以上)

(事後学習)教科書、配布教材を復習。また、返却された小テストの復習。授業に出てきた英語表現も覚える。その際、音声は聞いて発音する。(各授業に対して45分以上)

*英語は一度にまとめて勉強するのではなく、毎日勉強してください。「各授業に対して45分以上」とは、毎日の勉強時間の合計が、1回の授業につき事前・事後学習それぞれ45分以上という意味です。つまり事前・事後学習を合わせた1回の授業に対する毎日の勉強時間の合計が90分以上です。

評価方法および評価の基準

到達目標(1)(3)

英語圏文化についての理解を深め、文法、語彙、音声などについての知識を高め、英語の読解力、聴解力、また書く力を付ける。

=>読解、聴解などに関する授業中のアクティビティ:25%

=>文法、語彙、表現、読解力、聴解力などに関する小テストや定期試験:50%

【フィードバック】

*小テストは終了後、正解発表。そして実施の次の授業で返却し、今後の学習に活かしてもらいます。小テストの結果によっては同じ範囲をまたテスト範囲にすることもあります。

*定期試験は最後から2番目の授業で実施。試験終了後、正解発表。そして最終週には答案を返却、解説。

到達目標(2)(3)

英語圏文化についての知識を深め、文法、語彙、音声などについての知識を高め、英語を話す力を伸ばす。

=>授業中のロールプレイング、発言、発表など:25%

(単位取得について)

*上記の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とします。

*単位取得には3分の2以上の授業参加と定期試験を受けていることが必須。原則として定期試験は欠席しないでください。やむを得ず定期試験を欠席する場合は診断書等の証明と、指定した時刻までに指定したアドレスへのメールがないと単位は取れません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）森田、萱、佐藤、他『BBC World Profile on DVD: BBC やさしい英語と映像で学ぶ総合英語』（南雲堂、本体2,500円=>素晴らしい映像とともに、イギリス英語とアメリカ英語が両方聴ける内容充実のDVD付きでこの価格はお得です。フジショップで買ってください。万が一品切れの場合はフジショップで注文してください。ISBN978-4-523-17740-1 C0082)

その他、プリント、データ配布教材等。

（辞書）辞書はお持ちの物を第1回目から持って来てください。スマホ等による代用禁止。（授業中はスマホ等はしまってもらいます。授業に集中してもらうためです。）辞書をこれから購入する予定の場合、初回以降に購入でも構いません。失敗を防ぐためです。

（推薦書）授業で適宜紹介。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- (1)体調管理に注意し、欠席しないようにしてください。そして万が一欠席の場合は、欠席したために宿題などが分からず次の授業に支障をきたすといったことのないように、授業についてお友達に教えてもらうなどの対策をとってください。
- (2)Live Campusによる授業連絡（授業終了後の質問への回答を全員に周知する必要がある場合や宿題の説明など）は随時行いますから注意しておいてください。
- (3)詳細は初回に配付。またCALL教室の使い方を覚えてもらわないといけないので最初数回は欠席しないでください。
- (4)授業で配布するデータ教材の保存や宿題の発表などのためUSBが必要。毎回持ってきてください。

科目名	英語 a		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	FCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全額共通科目における外国語（基礎科目）の選択科目です。英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の習得を目指します。とりわけ、「聞く、話す、読む、書く」の4技能の総合的演習を行い、大学を経て社会に出ても通用する英語力の習得を目標としています。

科目の概要

英語力の「聞く」「読む」ための認知能力の効率的な習得を目指し、重要な文法事項や語彙を学習した上で、習得した内容を基に「話す」「書く」の運用能力の習得すべく練習を行う。

授業の方法

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。【グループワーク】

到達目標

この授業を履修することにより、以下のことができるようになることを到達目標とします。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 読み解く力
- 3 言語運用能力

内容

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。

前期

第1回	オリエンテーション・U1 Meeting people
第2回&3回	U1 Meeting people
第4回&5回	U2 Country and Nationalities
第6回&7回	U3 Family
第8回&9回	U4 Describing people

第10回&11回 U5 Food and drinks

第12回&13回 U6 Things we do

第14回復習(1)

第15回復習(2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学習ユニットの未知語、文法を確認しておくこと。(30分)

【事後学習】 授業で行ったユニットのダイアログ音読・シャドウイングを行う。(シャドウイングの方法については授業内で指導する。)(30分) 授業で指示されたリスニングタスクを行う。(隔週30分) まとめのプリントを行う(隔週30分)

評価方法および評価の基準

テスト70点・課題20点、授業への取り組み10点で評価を行い、60点以上を合格とする。到達目標と評価の内訳は以下の通り。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)

課題のフィードバックは、授業中の解答チェックの中で質疑応答をとおして行う。シャドウイングの練習結果は学生間のペア・ワークでチェックを行い、全体チェックの中で気づいたことを教員からコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】S.Stempleski,Stretch -Starter Student Book & Workbook Multi-Pack A, Oxford University Press

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業への積極的な参加が成功の鍵です。内容が理解できないときには、積極的に質問してください。

科目名	英語 a		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	GAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

This class will help students increase the four skills of English while learning through interesting topics about the world we live in.

科目の概要

Students will expand their vocabulary and will have a lot of chances to practice through grammar exercises and communication activities.

授業の方法 (ALを含む)

Students will be introduced to a topic and will do exercises on that topic and use listening, written materials and videos as input for their work.

到達目標

Increasing vocabulary and ability to use a variety of grammatical structures and increasing awareness of issues in the world.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1-1 読み解く力 7-3 言語運用能力

内容

1	Introduction to the materials, Ted Talks and Vocabulary worksheet.
2	Discussing diet. Simple and continuous present tense. Describing dishes.
3	World foods. Simple past. Giving main ideas and supporting details.
4	Expressing oneself. Present perfect. Starting conversations and small talk.
5	Discussing languages. Simple past. Saving languages and culture.

6	Discussing future cities. Future with will. Changing cities.
7	Evaluating good cities. Using time clauses. Streets and apartments for people.
8	Review of units 1-3.
9	Healthy lifestyles. Comparative and superlative adjectives. Human organs.
10	Positive attitudes. Using infinitives. Ailments and body parts.
11	Past accomplishments. Past continuous, and simple past. Discussing abilities.
12	Facing challenges. Not enough, enough, too much. Making a difference.
13	Stages of life. The past perfect. Talking about becoming an adult.
14	Discussing changing technologies. Adjectives for age. Describing life's transitions.
15	Review of units 4-6.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Read the reading passages before the lesson.

【事後学修】 Complete any exercises given.

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

Lesson participation 40 and short tests 40%

Mid-term review 30%

Final review 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 World English 2a 3rd Edition National Geographic Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Increasing vocabulary is the biggest challenge so keep word lists and review vocabulary as much as possible.

科目名	英語 a		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	GBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語科目内の選択必修科目である

科目の概要

「聞く・読む・書く・観る」活動を含めた総合的な訓練によって、社会に出ても通用する英語力を育成する

授業の方法

教科書の豊富な教材・活動のうち、クラスで共有しながら学ぶのに適するものを取り出し、合理的な順番で取り上げる。オンライン自修を援助する。疑問点は【リアクションペーパー】を効果的に用いて、クラスの【討論】の活性化で解決する。

到達目標

CEFR A2の入口への到達を目標とする

ディプロマポリシーとの関係

全学部ディプロマポリシー1と、ポリシー内の共通科目外国語領域の能力・資質の主に1に該当し、以下を図る

1. 聴く、話す、読む、書くの4技能の基礎を作ることで、外国語の基礎学力をつける
2. 外国や文化の異なる状況に対応出来る人材の育成
3. よりグローバル化する世界へ対応し、より広い視野で世界を見る力を養う

内容

*各回の授業の前半は動画の視聴・リスニングに取り組み、後半は音声のない問題を中心に取り組む。

*各unitを約2週間で進め、音声のない問題の一部は事前の自修中心となる。

1	TED 2本(pages 38, 62 & 78)の視聴、Unit 1の宿題の設定等ガイダンス
2	Unit 1 Friends and Family
3	Unit 1 仕上げ (動画: Animal Families)
4	Unit 2 Jobs Around the World

5	Unit 2 仕上げ (動画: A Job for Children)
6	Unit 3 Houses and Apartments
7	Unit 3 仕上げ (動画: A Very Special Village)
8	まとめ (1)
9	Unit 4 Possessions
10	Unit 4 仕上げ (動画: Uncovering the Past)
11	Unit 5 Daily Activities
12	Unit 5 仕上げ (動画: Zoo Dentists)
13	Unit 6 Getting There
14	Unit 6 仕上げ (動画: Volcano Trek)
15	まとめ (2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新しいunitに入る前に、音声がなくとも解ける問題は教科書・online共に全て解いて授業に臨むこと。次の週は、動画視聴・listening問題を全て解くこと。Online workbookの音声はスマホで聞けるが、問題全体を閲覧するにはPCかtabletが必要。毎週45分以上。

【事後学修】授業で出された課題を解き、作文はワード文書がメール本文に残すこと。また、教科書に関連する動画のoriginalなものを英語に注目して何度も視聴すること。週あたり平均60分以上。？

評価方法および評価の基準

第8週のまとめの成果を30%、最終週のまとめの成果を30%、平常点（授業への参加度・online workbook成績）を40%とし、総合して60%以上を合格とする。

【フィードバック】Online workbookで正答率の悪い問題を、全員が再挑戦して全問正解になる前に、クラスに解説してその後に活かすようにする予定。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】_World English, 2nd Edition, Book IntroA_ (M Milner著、National Geographic Learning) ISBN 978-1-305-08951-8.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

世界で使われる英語と自分の実力の間を少しずつ埋めていくのがこの教科書シリーズのコンセプトです。動画の英語をめあてに楽しく努力して、全員良い成績を獲得しましょう。

科目名	英語 a		
担当教員名	大友 彩子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	GCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の外国語科目のうちの選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。

科目の概要

実社会で使用できる語学 4 技能スキルの訓練および文法、語彙の知識、運用能力の獲得。

授業の方法 (ALを含む)

教科書の内容に沿い、講義とディスカッション により進行。

到達目標

文法の知識を 4 技能において実践できる。語彙の知識を 4 技能において実践でできる。
自発的に英語でコミュニケーションできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

適宜ペアワーク、グループワークも取り入れ、学生に発言をしてもらいながら授業を進める。

1 週目 導入

2 ~ 3 週目 Unit1 People

4 ~ 5 週目 Unit2 A Day in the Life

6 ~ 7 週目 Unit3 Going Places

8 ~ 9 週目 Unit4 Food

10 ~ 11 週目 Unit5 Sports

12 ~ 13 週目 Unit6 Destinations

14 週目 復習

まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】宿題として指定した箇所（リスニング、読解、語彙、文法などの練習問題など。週最低60分。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習・課題の暗唱。毎日20分程度。週最低60分。

評価方法および評価の基準

出席10%、授業態度30%、課題30%、試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】適宜必要に応じてクラス内で復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English 1A 著者 John Hughes and Martin Milner 出版社 National Geographic Learning

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

語学学習は毎日の積み重ねとなります。少しずつでも予習、復習を各自で行ってください。

科目名	英語 a		
担当教員名	秋山 まき子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	GDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。The course is designed to develop and extend international communication skills, while building a foundation for the further development of academic English skills.

科目の概要 The main objective of this course is to increase the independent ability of students to receive (listen and read), produce (written and verbal presentation), and interact in a specific, measureable level of English.

授業の方法 (ALを含む) In the class, we have textbook activities, listening exercises, discussions, collaborative group work, and practice tests. Audio and video training material can be used.

到達目標 Students who have completed this course should be able to:

1. demonstrate the completion of a variety of language tasks (through, for example, portfolios of student work), which link the four core language skills (speaking, listening, reading, writing)
2. write and converse to meet basic communicative and academic needs

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシー - 1 読み解く力・ - 3 言語運用能力を育成することを目的とする。

内容

1	Orientation
2	Unit 1
3	Unit 1, 2
4	Unit 2
5	REVIEW(1) TEST!
6	Unit 3

7	Unit 3
8	Unit 4
9	Unit 4
10	REVIEW(2) TEST2
11	Unit 5
12	Unit 5
13	Unit 6
14	Unit 6
15	REVIEW(3) TEST3

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

Pre-class and post-class activities which will be taken

more than 30 minutes each include but are not limited to:

- Specific language skills development activities assigned as homework;
- Careful preparation of necessary class materials.

評価方法および評価の基準

達成目標の総合評価60点以上を合格とする。

100%のうち、達成目標の1は授業の出席率、参加度、理解度の総合評価70%、達成目標の2はテスト、プレゼンテーションの30%とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Mystery Tour with Sherlock Homes, Atsuko Uemura, Miwako Yamashina, CENGAGE Learning, ISBN#9784863121133

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容及び進め方は、クラスの状態により変更することがあります。質問等は、遠慮なく担当教員に申し出てください

科目名	英語 a		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	HAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

This class will help students increase the four skills of English while learning through interesting topics about the world we live in.

科目の概要

Students will expand their vocabulary and will have a lot of chances to practice through grammar exercises and communication activities.

授業の方法 (ALを含む)

Students will be introduced to a topic and will do exercises on that topic and use listening, written materials and videos as input for their work.

到達目標

Increasing vocabulary and ability to use a variety of grammatical structures and increasing awareness of issues in the world.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1-1 読み解く力 7-3 言語運用能力

内容

1	Introduction to the materials, Ted Talks and Vocabulary worksheet.
2	Discussing diet. Simple and continuous present tense. Describing dishes.
3	World foods. Simple past. Giving main ideas and supporting details.
4	Expressing oneself. Present perfect. Starting conversations and small talk.
5	Discussing languages. Simple past. Saving languages and culture.

6	Discussing future cities. Future with will. Changing cities.
7	Evaluating good cities. Using time clauses. Streets and apartments for people.
8	Review of units 1-3.
9	Healthy lifestyles. Comparative and superlative adjectives. Human organs.
10	Positive attitudes. Using infinitives. Ailments and body parts.
11	Past accomplishments. Past continuous, and simple past. Discussing abilities.
12	Facing challenges. Not enough, enough, too much. Making a difference.
13	Stages of life. The past perfect. Talking about becoming an adult.
14	Discussing changing technologies. Adjectives for age. Describing life's transitions.
15	Review of units 4-6.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Read the reading passages before the lesson.

【事後学修】 Complete any exercises given.

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

Lesson participation 40 and short tests 40%

Mid-term review 30%

Final review 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 World English 2a 3rd Edition National Geographic Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Increasing vocabulary is the biggest challenge so keep word lists and review vocabulary as much as possible.

科目名	英語 a		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	HBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語科目内の選択必修科目である

科目の概要

「聞く・読む・書く・観る」活動を含めた総合的な訓練によって、社会に出ても通用する英語力を育成する

授業の方法

教科書の豊富な教材・活動のうち、クラスで共有しながら学ぶのに適するものを取り出し、合理的な順番で取り上げる。オンライン自修を援助する。疑問点は【リアクションペーパー】を効果的に用いて、クラスの【討論】の活性化で解決する。

到達目標

1. 外国語としての英語の学習基本語彙1000語レベルを文脈に応じて適切に使用できる
2. 形容詞の叙述と限定・単純現在・数の一致等の基本的文法を使って、通じる文を書き、発話できる
3. 人を紹介する・道案内をするなどの日常的場面の英語を書き、発音できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

*各回の授業の前半は動画の視聴・リスニングに取り組み、後半は音声のない問題を中心に取り組む。

*各unitを約2週間で進め、音声のない問題の一部は事前の自修中心となる。

1	TED 2本(pages 38, 62 & 78)の視聴、Unit 1の宿題の設定等ガイダンス
2	Unit 1 Friends and Family
3	Unit 1 仕上げ (動画: Animal Families)
4	Unit 2 Jobs Around the World

5	Unit 2 仕上げ (動画: A Job for Children)
6	Unit 3 Houses and Apartments
7	Unit 3 仕上げ (動画: A Very Special Village)
8	まとめ (1)
9	Unit 4 Possessions
10	Unit 4 仕上げ (動画: Uncovering the Past)
11	Unit 5 Daily Activities
12	Unit 5 仕上げ (動画: Zoo Dentists)
13	Unit 6 Getting There
14	Unit 6 仕上げ (動画: Volcano Trek)
15	まとめ (2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新しいunitに入る前に、音声がなくとも解ける問題は教科書・online共に全て解いて授業に臨むこと。次の週は、動画視聴・listening問題を全て解くこと。Online workbookの音声はスマホで聞けるが、問題全体を閲覧するにはPCかtabletが必要。毎週45分以上。

【事後学修】授業で出された課題を解き、作文はワード文書がメール本文に残すこと。また、教科書に関連する動画のoriginalなものを英語に注目して何度も視聴すること。週あたり平均60分以上。？

評価方法および評価の基準

上記ねらいの 到達目標の1から3の、筆記力に関しては小テスト・Online Workbook・2回程度の確認試験・リアクションペーパー等への書き込み英文を中心に、発音力・発話力・その他の授業への参加度は通常の授業中に評価する。

1. 基本単語の筆記力20% 基本単語の発音力10%
 2. 基本文法の筆記力20% 基本文法の発話力10%
 3. 場面に応じた筆記力20% 場面に応じた発話力10%
- その他、授業への参加度10% として、総合して60%以上を合格とする。

【フィードバック】Online Workbookで正答率の悪い問題を、全員が再挑戦して全問正解になる前に、クラスに解説してその後に活かすようにする予定。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】_World English, 2nd Edition, Book IntroA_ (M Milner著、National Geographic Learning) ISBN 978-1-305-08951-8.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

世界で使われる英語と自分の実力の間を少しずつ埋めていくのがこの教科書シリーズのコンセプトです。動画の英語をめあてに楽しく努力して、全員良い成績を獲得しましょう。

科目名	英語 a		
担当教員名	大友 彩子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	HCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の外国語科目のうちの選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。

科目の概要

実社会で使用できる語学 4 技能スキルの訓練および文法、語彙の知識、運用能力の獲得。

授業の方法 (ALを含む)

教科書の内容に沿い、講義とディスカッション により進行。

到達目標

文法の知識を 4 技能において実践できる。語彙の知識を 4 技能において実践でできる。
自発的に英語でコミュニケーションできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

適宜ペアワーク、グループワークも取り入れ、学生に発言をしてもらいながら授業を進める。

1 週目 導入

2 ~ 3 週目 Unit1 People

4 ~ 5 週目 Unit2 A Day in the Life

6 ~ 7 週目 Unit3 Going Places

8 ~ 9 週目 Unit4 Food

10 ~ 11 週目 Unit5 Sports

12 ~ 13 週目 Unit6 Destinations

14 週目 復習

まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】宿題として指定した箇所（リスニング、読解、語彙、文法などの練習問題など。週最低60分。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習・課題の暗唱。毎日20分程度。週最低60分。

評価方法および評価の基準

出席10%、授業態度30%、課題30%、試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】適宜必要に応じてクラス内で復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English 1A 著者 John Hughes and Martin Milner 出版社 National Geographic Learning

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

語学学習は毎日の積み重ねとなります。少しずつでも予習、復習を各自で行ってください。

科目名	英語 a		
担当教員名	秋山 まき子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	HDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。The course is designed to develop and extend international communication skills, while building a foundation for the further development of academic English skills.

科目の概要 The main objective of this course is to increase the independent ability of students to receive (listen and read), produce (written and verbal presentation), and interact in a specific, measureable level of English.

授業の方法 (ALを含む) In the class, we have textbook activities, listening exercises, discussions, collaborative group work, and practice tests. Audio and video training material can be used.

到達目標 Students who have completed this course should be able to:

1. demonstrate the completion of a variety of language tasks (through, for example, portfolios of student work), which link the four core language skills (speaking, listening, reading, writing)
2. write and converse to meet basic communicative and academic needs

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシー - 1 読み解く力・ - 3 言語運用能力を育成することを目的とする。

内容

1	Orientation
2	Unit 5. America was once the world's leading whaling nation
3	Unit 6. Mussels are a "must" with spaghetti
4	Unit 7. Is Paris best for tuna, and Southeast Asia best for red sea bream?
5	Unit 8. Eel?The Mystery Fish
6	REVIEW(1) TEST1

7	Unit 13. Don't say "It's only an egg."
8	Unit 14. Shabu-shabu and fondue
9	Unit 15. Wild animals stir the blood of Westerners
10	Unit 16. Which is tastier, sukiyaki or gyunabe?
11	REVIEW(2) TEST2
12	Unit 17. Toast, Skoal Kanpai!
13	Unit 18・ Wine goes global
14	Unit 19. The relation between cacao and chocolate
15	REVIEW(3) TEST3

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

Pre-class and post-class activities which will be taken

more than 30 minutes each include but are not limited to:

- Specific language skills development activities assigned as homework;
- Careful preparation of necessary class materials.

評価方法および評価の基準

達成目標の総合評価60点以上を合格とする。

100%のうち、達成目標の1は授業の出席率、参加度、理解度の総合評価70%、達成目標の2はテスト、プレゼンテーションの30%とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】The East and the West in Dietary Culture, Hisatoshi Ohashi, Blake Baxter, Seibido, ISBN#9784791900732

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容及び進め方は、クラスの状態により変更することがあります。質問等は、遠慮なく担当教員に申し出てください

科目名	英語 a		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	JAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語科目内の選択必修科目である

科目の概要

「聞く・読む・書く・観る」活動を含めた総合的な訓練によって、社会に出ても通用する英語力を育成する

授業の方法

教科書の豊富な教材・活動のうち、クラスで共有しながら学ぶのに適するものを取り出し、合理的な順番で取り上げる。オンライン自修を効果的に取り入れ、疑問点はクラスの【討論】を活性化できるよう、【リアクションペーパー】を効果的に用いる。

到達目標

1. 外国語としての英語の学習基本語彙1500語レベルを文脈に応じて適切に使用できる
2. 現在進行形・単純過去・前置詞・所有表現等の基本的文法を使って、通じる文を書き、発話できる
3. 家族を人に紹介する・調理法レシピを説明するなどの日常的場面の英語を書き、発音できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

*各回の授業の前半は動画の視聴・リスニングに取り組み、後半は音声のない問題を中心に取り組む。

*各unitを約2週間で進め、問題の一部は事前の自修となる。

*第10週以降に教科書に直接関係ない英語力測定をする可能性がある。

1	TED (Unit 4)のoriginal動画ほかの視聴、Unit 1の宿題の提示等ガイダンス
2	Unit 1 People

3	Unit 1 仕上げ (動画: Where I Am a Local)
4	Unit 2 A Day in the Life
5	Unit 2 仕上げ (動画: Ruben's Elevator)
6	Unit 3 Going Places
7	Unit 3 仕上げ (動画: The UK in 100 Seconds)
8	Unit 4 Food
9	Unit 4 仕上げ (動画: A Guerrilla Gardener in South Central LA)
10	Unit 5 Sports
11	Unit 5 仕上げ (動画: Free Soloing with Alex Honnold)
12	Unit 6 Destinations
13	Unit 6 仕上げ (動画: Vietnam's Green Jewels)
14	復習 (online workbookを中心に)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新しいunitに入る前に、音声がなくとも解ける問題は教科書・online共に全て解いて授業に臨むこと。次の週は、動画視聴・listening問題を全て解くこと。Online workbookの音声はスマホで聞けるが、問題全体を閲覧するにはPCかtabletが必要。毎週45分以上。

【事後学修】授業で出された課題を解き、作文はワード文書がメール本文に残すこと。また、教科書に関連する動画のoriginalなものを英語に注目して何度も視聴すること。週あたり平均60分以上。？

評価方法および評価の基準

上記ねらいの 到達目標の1から3の、筆記力に関しては小テスト・Online Workbook・2回程度の確認試験・リアクションペーパー等への書き込み英文を中心に、発音力・発話力・その他の授業への参加度は通常の授業中に評価する。

1. 基本単語の筆記力20% 基本単語の発音力10%
2. 基本文法の筆記力20% 基本文法の発話力10%
3. 場面に応じた筆記力20% 場面に応じた発話力10%

その他、授業への参加度10% として、総合して60%以上を合格とする。

【フィードバック】Online Workbookで正答率の悪い問題を、全員が再挑戦して全問正解になる前に、クラスに解説してその後に活かすようにする予定。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】_World English, 3rd Edition, Book 1A_ (J HughesとM Milner著、National Geographic Learning) ISBN 978-0-357-13029-2.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

世界で使われる英語と自分の実力の間を少しずつ埋めていくのがこの教科書シリーズのコンセプトです。動画の英語をめあてに楽しく努力して、全員良い成績を獲得しましょう。

科目名	英語 a		
担当教員名	宮崎 順子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	JBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。さらに英語を学びたい場合は英語Ib, IIa, IIbを履修する。

科目の概要

「聞く・話す、読む・書く」の4技能のうち、特に「聞く、読む」に重点を置き、英語を正確に聞き取る力、ある程度まとまった長さの英文を読み取る力を養成する。さらに、学習したことをもとに、自分の意見を英語で述べる力をつけることも目指す。

授業の方法 (ALを含む)

授業ごとに、重要語句、文法事項の確認を行い、読解・聴解問題を通してテキストの内容理解のチェックをしていく。次に、グループワークも取り入れて、教科書で取り上げられているトピックについて、英語で簡単に意見を述べる練習を行う。

【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 社会問題に関する語句の意味を理解し、書くことができる。
- (2) 社会問題に関するまとまった文章を読み、内容を理解することができる。
- (3) 社会問題をテーマとした会話を聞き、ディクテーションすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 3 言語運用能力

内容

1	授業の進め方、Chapter1 Smokey Bear: A Mascot with a Message リーディング
2	Chapter1 リスニング Chapter2 Overtourism is a Problem! リーディング
3	Chapter2 リスニング Chapter3 Gender Equality in the Workplace リーディング
4	Chapter3 リスニング Chapter4 Changing Definitions of Beauty リーディング
5	Chapter4 リスニング Chapter5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance リーディング
6	Chapter5 リスニング Chapter6 Nature and Health リーディング
7	Chapter6 リスニング Chapter7 Golden Years and Silver Divorces リーディング

8	Chapter7 リスニング Chapter8 Trees: A Gift from Nature リーディング
9	Chapter8 リスニング Chapter9 Tattoos リーディング
10	Chapter9 リスニング Chapter10 Redefining Gender and Marriage リーディング
11	Chapter10 リスニング Chapter11All the Lonely People リーディング
12	Chapter11 リスニング Chapter12 Think Before You Talk, Text, or Tweet リーディング
13	Chapter12 リスニング Chapter13 Jeans Go Global! リーディング
14	Chapter13 リスニング Chapter14 Helping People with Disabilities リーディング
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】(1) 本文のわからない語句を調べておくこと。(2) 指定した箇所(本文、練習問題)を予習しておくこと。毎週30分～1時間程度。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習。毎週30分～1時間程度。

評価方法および評価の基準

期末テスト60%、教科書2～3課ごとに行う復習のための小テスト・授業内での発言等をもとにした授業への参加度を40%とし、評価60点以上を合格とする。なお、で設定したそれぞれの目標の評価の割合は以下の通り。

(1) 期末試験(15%) 小テスト・授業参加度(20%)

(2) 期末試験(30%) 小テスト・授業参加度(10%)

(3) 期末試験(15%) 小テスト・授業参加度(10%)

【フィードバック】復習のための小テストは採点して翌週返却をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】Joan McConnell, 山内圭著『Changing Times, Changing Worlds やさしく読める社会事情』成美堂

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

指定箇所を予習したうえで、積極的に授業に参加してください。授業で学んだことの復習も欠かさないようにしましょう。

科目名	英語 a		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	JCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全額共通科目における外国語（基礎科目）の選択科目です。英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の習得を目指します。とりわけ、「聞く、話す、読む、書く」の4技能の総合的演習を行い、大学を経て社会に出ても通用する英語力の習得を目標としています。

科目の概要

英語力の「聞く」「読む」ための認知能力の効率的な習得を目指し、重要な文法事項や語彙を学習した上で、習得した内容を基に「話す」「書く」の運用能力の習得すべく練習を行う。

授業の方法

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。【グループワーク】

到達目標

この授業を履修することにより、以下のことができるようになることを到達目標とします。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 読み解く力
- 3 言語運用能力

内容

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。

前期

第1回	オリエンテーション・U1 Meeting people
第2回&3回	U1 Meeting people
第4回&5回	U2 Country and Nationalities
第6回&7回	U3 Family
第8回&9回	U4 Describing people

第10回&11回 U5 Food and drinks

第12回&13回 U6 Things we do

第14回復習(1)

第15回復習(2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学習ユニットの未知語、文法を確認しておくこと。(30分)

【事後学習】 授業で行ったユニットのダイアログ音読・シャドウイングを行う。(シャドウイングの方法については授業内で指導する。)(30分) 授業で指示されたリスニングタスクを行う。(隔週30分) まとめのプリントを行う(隔週30分)

評価方法および評価の基準

テスト70点・課題20点、授業への取り組み10点で評価を行い、60点以上を合格とする。到達目標と評価の内訳は以下の通り。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)

課題のフィードバックは、授業中の解答チェックの中で質疑応答をとおして行う。シャドウイングの練習結果は学生間のペア・ワークでチェックを行い、全体チェックの中で気づいたことを教員からコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】S.Stempleski,Stretch -Starter Student Book & Workbook Multi-Pack A, Oxford University Press

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業への積極的な参加が成功の鍵です。内容が理解できないときには、積極的に質問してください。

科目名	英語 a		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	BDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全額共通科目における外国語（基礎科目）の選択科目です。英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の習得を目指します。とりわけ、「聞く、話す、読む、書く」の4技能の総合的演習を行い、大学を経て社会に出ても通用する英語力の習得を目標としています。

科目の概要

英語力の「聞く」「読む」ための認知能力の効率的な習得を目指し、重要な文法事項や語彙を学習した上で、習得した内容を基に「話す」「書く」の運用能力の習得すべく練習を行う。

授業の方法

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。【グループワーク】

到達目標

この授業を履修することにより、以下のことができるようになることを到達目標とします。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 読み解く力
- 3 言語運用能力

内容

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。

前期

第1回	オリエンテーション・U1 Meeting people
第2回&3回	U1 Meeting people
第4回&5回	U2 Country and Nationalities
第6回&7回	U3 Family
第8回&9回	U4 Describing people

第10回&11回 U5 Food and drinks

第12回&13回 U6 Things we do

第14回復習(1)

第15回復習(2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学習ユニットの未知語、文法を確認しておくこと。(30分)

【事後学習】 授業で行ったユニットのダイアログ音読・シャドウイングを行う。(シャドウイングの方法については授業内で指導する。)(30分) 授業で指示されたリスニングタスクを行う。(隔週30分) まとめのプリントを行う(隔週30分)

評価方法および評価の基準

テスト70点・課題20点、授業への取り組み10点で評価を行い、60点以上を合格とする。到達目標と評価の内訳は以下の通り。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)

課題のフィードバックは、授業中の解答チェックの中で質疑応答をとおして行う。シャドウイングの練習結果は学生間のペア・ワークでチェックを行い、全体チェックの中で気づいたことを教員からコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】S.Stempleski,Stretch -Starter Student Book & Workbook Multi-Pack A, Oxford University Press

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業への積極的な参加が成功の鍵です。内容が理解できないときには、積極的に質問してください。

科目名	英語 a		
担当教員名	秋山 まき子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・ b・ a・ b		
学 年	1	ク ラ ス	JDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。The course is designed to develop and extend international communication skills, while building a foundation for the further development of academic English skills.

科目の概要 The main objective of this course is to increase the independent ability of students to receive (listen and read), produce (written and verbal presentation), and interact in a specific, measureable level of English.

授業の方法 (ALを含む) In the class, we have textbook activities, listening exercises, discussions, collaborative group work, and practice tests. Audio and video training material can be used.

到達目標 Students who have completed this course should be able to:

1. demonstrate the completion of a variety of language tasks (through, for example, portfolios of student work), which link the four core language skills (speaking, listening, reading, writing)
2. write and converse to meet basic communicative and academic needs

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシー - 1 読み解く力・ - 3 言語運用能力を育成することを目的とする。

内容

1	Orientation
2	Unit 5. America was once the world's leading whaling nation
3	Unit 6. Mussels are a "must" with spaghetti
4	Unit 7. Is Paris best for tuna, and Southeast Asia best for red sea bream?
5	Unit 8. Eel?The Mystery Fish
6	REVIEW(1) TEST1

	REVIEW(1) TEST1
7	Unit 13. Don't say "It's only an egg."
8	Unit 14. Shabu-shabu and fondue
9	Unit 15. Wild animals stir the blood of Westerners
10	Unit 16. Which is tastier, sukiyaki or gyunabe?
11	REVIEW(2) TEST2
12	Unit 17. Toast, Skoal, and kanpai!
13	Unit 18・ Wine goes global
14	Unit 19. The relation between cacao and chocolate
15	REVIEW(3) TEST3

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

Pre-class and post-class activities which will be taken

more than 30 minutes each include but are not limited to:

- Specific language skills development activities assigned as homework;
- Careful preparation of necessary class materials.

評価方法および評価の基準

到達目標の総合評価60点以上を合格とする。100%のうち。到達目標の1は、授業の出席率、参加度、理解度の総合評価70%、到達目標の2はテスト・プレゼンテーション30%とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】The East and the West in Dietary Culture, Hisatoshi Ohashi, Blake Baxter, Seibido, ISBN#9784791900732

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容及び進め方は、クラスの状態により変更することがあります。質問等は、遠慮なく担当教員に申し出てください

科目名	英語 b		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	AAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの「選択科目」です。

科目の概要

基礎的な教材を用い、英語コミュニケーション力を身に付けます。

授業の方法 (ALを含む)

ペアワークなどを多く含む。

到達目標

特にリスニング力、スピーキング力に重点を置き、英語でコミュニケーションをする上で最低限の能力と態度を身につけること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3グローバルマインド、 -3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力

内容

1	Introduction
2	Unit 7: Free Time 1
3	Unit 7: Free Time 2
4	Unit 8: Clothes 1
5	Unit 8: Clothes 2
6	Unit 9: Eat Well 1
7	Unit 9: Eat Well 2
8	まとめ 1
9	Unit 10: Health 1
10	Unit 10: Health 2
11	Unit 11: Making Plans 1

12	Unit 11: Making Plans 2
13	Unit 12: On the Move 1
14	Unit 12: On the Move 2
15	まとめ2

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

【事後学修】

評価方法および評価の基準

毎回の課題（50％）、期末試験（50％）をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English IntroB, 2nd Ed., Cengage Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が必須となります。

科目名	英語 b		
担当教員名	宮崎 順子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	ABクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、全学共通科目「外国語（基礎科目）」領域の選択科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。さらに英語を学びたい場合は英語IIa, IIbを履修する。

科目の概要

「聞く・話す、読む・書く」の4技能のうち、特に「聞く、読む」に重点を置き、英語を正確に聞き取る力、ある程度まとまった長さの英文を読み取る力を養成する。さらに、学習したことをもとに、簡単な英語の文章が書ける力を身に付けることも目指す。

授業の方法 (ALを含む)

授業ごとに、重要な語句・文構造を確認しながら、ニューヨークを題材にした、さまざまなテーマの本文を読みすすめていく。次に、本文に関連した実用会話を聞き取る問題に取り組んだのち、その会話をペアで練習する。さらに、リーディング素材で使われている慣用表現を用いて短文を書く練習も行う。【グループワーク】

到達目標

- (1) さまざまなテーマに関する語句の意味を理解し、書くことができる。
- (2) さまざまなテーマに関するまとまった文章を読み、内容を理解することができる。
- (3) さまざまなテーマに関する会話を聞き、ディクテーションすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 3 言語運用能力

内容

1	授業の進め方 Unit 1 Arriving in New York
2	Unit 2 Visiting an Apartment in Chelsea
3	Unit 3 Streets and Avenues in Manhattan
4	Unit 4 Discovering the American Heart
5	Unit 5 Getting Around by Subway
6	Unit 6 College Life
7	Unit 7 Food in New York

8	Unit 8 Skyscrapers are the Landmarks
9	Unit 9 Dazzling Brooklyn
10	Unit 10 Email from the Teacher (1)
11	Unit 11 Friends from Different Countries
12	Unit 12 Musicals on a Shoestring
13	Unit 13 Viva Grand Central Terminal Unit 14 Markets are Fun
14	Unit 15 September 11 Memorial Unit 16 Central Park & City Marathon
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】(1)本文の分からない語句を調べておくこと。(2)指定した箇所(本文、練習問題)を予習しておくこと。毎週30分～1時間程度。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習。毎週30分～1時間程度。

評価方法および評価の基準

期末テスト60%、教科書2～3課ごとに行う復習のための小テスト・授業内での発言等をもとにした授業への参加度を40%とし、評価60点以上を合格とする。なお、で設定したそれぞれの目標の評価の割合は以下の通り。

(1)期末試験(15%) 小テスト・授業参加度(20%)

(2)期末試験(30%) 小テスト・授業参加度(10%)

(3)期末試験(15%) 小テスト・授業参加度(10%)

【フィードバック】復習のための小テストは採点して翌週返却をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】光藤京子/上杉恵美著『マイ・ニューヨーク・スケッチブック [バージョン2]』三修社

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

指定箇所を予習したうえで、積極的に授業に参加してください。授業で学んだことの復習も欠かさないようにしましょう。

科目名	英語 b		
担当教員名	津田 久美子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	BAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、全学共通科目「外国語（基礎科目）」領域の選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。さらに英語を学びたい場合は英語Ib, IIa, IIbを履修する。

科目の概要

英語によるコミュニケーションのための基礎的な英語運用能力の育成を目指す。「聞く・話す、読む・書く」の4技能のうち、特に「聞く・読む」に重点を置き、ある程度まとまった内容の英文を読みとる力、英語の音変化の特徴を理解し、正しく聞き取る力を養成する。さらに正しい英語の構造の短文が書ける力も合わせて養成し、社会に出ても通用する英語基礎力の育成を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

授業の初めに前回の重要語句・構文・聞き取りの復習小テストを行う。次に、グループワークも取り入れ、文構造・文章構造を確認しながら、テキストの内容を理解する。最後に、テキストの内容を簡単な英語で聞き手に伝える。【ミニテスト】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 栄養や食・健康に関する基本的な語句の意味を口頭で述べたり、書いたりすることができる。
- (2) 栄養や食・健康に関する短い文を聞き、ディクテーションができる。
- (3) 栄養や食・健康に関するまとまった文章を読み、内容を理解して、日本語で説明することができる。
- (4) (3)で理解した内容について、簡単な英語で説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 言語運用能力、 -1 読み解く力

内容

1	オリエンテーション
---	-----------

2	Unit 9: ハラルフード
3	Unit 10: 味が肝心
4	栄養・食・健康に関する記事(1)
5	Unit 11: 機内食
6	Unit 12: 砂糖：知っておくべきこと
7	栄養・食・健康に関する記事(2)
8	Unit 13: 砂糖税
9	Unit 14: 抗酸化物質
10	栄養・食・健康に関する記事(3)
11	Unit 15: 遺伝子組み換え食品
12	栄養・食・健康に関する記事(4)
13	栄養・食・健康に関する記事(5)
14	まとめ: Unit 9～15
15	まとめ: 栄養・食・健康に関する記事(1)～(5)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】(1) 本文でわからない単語を調べておくこと、(2) 指定した箇所(教科書A～Fの語彙、ディクテーション、読解など)をやってもらうこと。毎日少しずつ行うことが望ましい。毎週30分～1時間程度。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習。毎日20分程度。

評価方法および評価の基準

期末試験70%、予習および授業への参加態度・各課毎回行う復習の小テスト・課題等を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各課毎回行う復習の小テストから間違いが多かった箇所を次回の授業で共有し、理解を深めてもらう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】A Matter of Taste Intro, 津田晶子ほか著, 南雲堂, 1870円。

栄養・食・健康に関する記事はプリントで配布

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語 b		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	CAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語科目内の選択必修科目である

科目の概要

「聞く・読む・書く・観る」活動を含めた総合的な訓練によって、社会に出ても通用する英語力を育成する

授業の方法

教科書の豊富な教材・活動のうち、クラスで共有しながら学ぶのに適するものを取り出し、合理的な順番で取り上げる。オンライン自修を援助する。疑問点は【リアクションペーパー】を効果的に用いて、クラスの【討論】の活性化で解決する。

到達目標

1. 外国語としての英語の学習基本語彙1500語レベルを文脈に応じて適切に使用できる
2. 現在進行形・単純過去・助動詞の使い分け等の基本的文法を使って、通じる文を書き、発話できる
3. 意見・希望・計画等を端的に表現する英語を書き、発話できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

*各回の授業の前半は動画の視聴・リスニングに取り組み、後半は音声のない問題を中心に取り組む。

*各unitを約2週間で進め、音声のない問題の一部は事前の自修中心となる。

1	TED 3本(pages 114-121, 142 & 158-161)の視聴、Book Intro A (Units 1-6)の紹介
2	Unit 7 Free Time
3	Unit 7 仕上げ (動画: Danny's Challenge)
4	Unit 8 Clothes

5	Unit 8 仕上げ (動画: Traditional Silk Making)
6	Unit 9 Eat Well
7	Unit 9 仕上げ (動画: Slow Food)
8	まとめ (1)
9	Unit 10 Health
10	Unit 10 仕上げ (動画: Farley, the Red Panda)
11	Unit 11 Making Plans
12	Unit 11 仕上げ (動画: Making a Thai Boxing Champion)
13	Unit 12 On the Move
14	Unit 12 仕上げ (動画: Monarch Migration)
15	まとめ (2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新しいunitに入る前に、音声がなくとも解ける問題は教科書・online共に全て解いて授業に臨むこと。次の週は、動画視聴・listening問題を全て解くこと。Online workbookの音声はスマホで聞けるが、問題全体を閲覧するにはPCかtabletが必要。毎週45分以上。

【事後学修】授業で出された課題を解き、作文はワード文書がメール本文に残すこと。また、教科書に関連する動画のoriginalなものを英語に注目して何度も視聴すること。週あたり平均60分以上。？

評価方法および評価の基準

上記ねらいの 到達目標の1から3の、筆記力に関しては小テスト・Online Workbook・2回程度の確認試験・リアクションペーパー等への書き込み英文を中心に、発音力・発話力・その他の授業への参加度は通常の授業中に評価する。

1. 基本単語の筆記力20% 基本単語の発音力10%
2. 基本文法の筆記力20% 基本文法の発話力10%
3. 場面に応じた筆記力20% 場面に応じた発話力10%

その他、授業への参加度10% として、総合して60%以上を合格とする。

【フィードバック】Online Workbookで正答率の悪い問題を、全員が再挑戦して全問正解になる前に、クラスに解説してその後に活かすようにする予定。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】_World English, 2nd Edition, Book IntroB_ (M Milner著、National Geographic Learning) ISBN 978-1-305-08950-1.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

世界で使われる英語と自分の実力の間を少しずつ埋めていくのがこの教科書シリーズのコンセプトです。動画の英語をめあてに楽しく努力して、全員良い成績を獲得しましょう。

科目名	英語 b		
担当教員名	大友 彩子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	CBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の外国語科目のうちの選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。

科目の概要

実社会で使用できる語学4技能スキルの訓練および文法、語彙の知識、運用能力の獲得。

授業の方法 (ALを含む)

教科書の内容に沿い、講義とディスカッションにより進行。

到達目標

文法の知識を4技能において実践できる。語彙の知識を4技能において実践でできる。自発的に英語でコミュニケーションできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

適宜ペアワーク、グループワークも取り入れ、学生に発言をしてもらいながら授業を進める。

1週目 導入

2～3週目 Unit1 People

4～5週目 Unit2 A Day in the Life

6～7週目 Unit3 Going Places

8～9週目 Unit4 Food

10～11週目 Unit5 Sports

12～13週目 Unit6 Destinations

14週目 復習

まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】宿題として指定した箇所（リスニング、読解、語彙、文法などの練習問題など。週最低60分。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習・課題の暗唱。毎日20分程度。週最低60分。

評価方法および評価の基準

出席10%、授業態度30%、課題30%、試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】適宜必要に応じてクラス内で復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English 1A 著者 John Hughes and Martin Milner 出版社 National Geographic Learning

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

語学学習は毎日の積み重ねとなります。少しずつでも予習、復習を各自で行ってください。

科目名	英語 b		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	DAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この授業では英文を正確に読み取る練習を行います。その際、単語や熟語をの知識も重要ですが、英文の構造を把握する力が不可欠です。この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。

科目の概要

前期は、構造を読み解くための基本的な知識を復習しながら、重要な文法事項を学びます。

授業の方法

英語で書かれた、日本人にもなじみの深い物語を読み進めます。随時、英文構造の理解に必要な補助プリントを配布します。

また、映像資料を見て文化的なトピックを学びながら、基本的なコミュニケーションスキルを学びます。

前期は有名な児童文学作品を読む予定です。英語圏の子供たちがおそらく一度は読んだものを知ることは、必要なことだからです。

【討議・討論】

到達目標

(a)受講生は、辞書を引くことができる。(b)英文が正確に理解できる。(c)内容について自分の考えを述べることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力 -1外国語基礎理解 -2異文化の理解・尊重 -3外国語コミュニケーション -3言語運用能力

内容

英語で書かれた、日本人にも馴染みのある物語を読み進めていきます。随時、英文構造の理解に必要な補助的なプリントを配布します。授業でおおまかな訳が発表できるよう、しっかり予習してくることを望みます。

1	第1週：ガイダンス
2	第2週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
3	第3週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
4	第4週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント

5	第5週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
6	第6週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
7	第7週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
8	第8週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
9	第9週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
10	第10週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
11	第11週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
12	第12週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
13	第13週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
14	第14週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト
15	第15週：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】辞書を引き、テキストを読む。疑問点などをメモしておく。（1時間程度）

【事後学修】辞書を引き、テキストを読む。（20分程度）

評価方法および評価の基準

到達目標(a)平常点20%、試験20%、(b)平常点20%、試験10%、(c)平常点20%、試験10%とします。

評価基準は60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語 b		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	DBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの「選択科目」です。

科目の概要

基礎的な教材を用い、英語コミュニケーション力を身に付けます。

授業の方法 (ALを含む)

ペアワークなどを多く含む。

到達目標

特にリスニング力、スピーキング力に重点を置き、英語でコミュニケーションをする上で最低限の能力と態度を身につけること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3グローバルマインド、 -3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力

内容

1	Introduction
2	Unit 7: Free Time 1
3	Unit 7: Free Time 2
4	Unit 8: Clothes 1
5	Unit 8: Clothes 2
6	Unit 9: Eat Well 1
7	Unit 9: Eat Well 2
8	まとめ 1
9	Unit 10: Health 1
10	Unit 10: Health 2
11	Unit 11: Making Plans 1

12	Unit 11: Making Plans 2
13	Unit 12: On the Move 1
14	Unit 12: On the Move 2
15	まとめ2

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

【事後学修】

評価方法および評価の基準

毎回の課題（50%）、期末試験（50%）をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English IntroB, 2nd Ed., Cengage Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が必須となります。

科目名	英語 b		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	EAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この授業では英文を正確に読み取る練習を行います。その際、単語や熟語をの知識も重要ですが、英文の構造を把握する力が不可欠です。この科目は、全学共通科目「外国語（基礎科目）」領域の選択科目です。

科目の概要

前期は、構造を読み解くための基本的な知識を復習しながら、重要な文法事項を学びます。

授業の方法

英語で書かれた、日本人にもなじみの深い物語を読み進めます。随時、英文構造の理解に必要な補助プリントを配布します。

また、映像資料を見て文化的なトピックを学びながら、基本的なコミュニケーションスキルを学びます。

前期は有名な児童文学作品を読む予定です。英語圏の子供たちがおそらく一度は読んだものを知ることは、必要なことだからです。

【討議・討論】

到達目標

(a)受講生は、辞書を引くことができる。(b)英文が正確に理解できる。(c)内容について自分の考えを述べることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力 -1外国語基礎理解 -2異文化の理解・尊重 -3外国語コミュニケーション -3言語運用能力

内容

英語で書かれた、日本人にも馴染みのある物語を読み進めていきます。随時、英文構造の理解に必要な補助的なプリントを配布します。授業でおおまかな訳が発表できるよう、しっかり予習してくることを望みます。

1	第1週：ガイダンス
2	第2週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
3	第3週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
4	第4週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント

5	第5週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
6	第6週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
7	第7週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
8	第8週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
9	第9週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
10	第10週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
11	第11週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
12	第12週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト；文法プリント
13	第13週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント
14	第14週：テキストの精読 および資料による内容確認；文法プリント 確認テスト
15	第15週：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】辞書を引き、テキストを読む。疑問点などをメモしておく。（1時間程度）

【事後学修】辞書を引き、テキストを読む。（20分程度）

評価方法および評価の基準

到達目標(a)平常点20%、試験20%、(b)平常点20%、試験10%、(c)平常点20%、試験10%とします。

評価基準は60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語 b		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	EBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの「選択科目」です。

科目の概要

基礎的な教材を用い、英語コミュニケーション力を身に付けます。

授業の方法 (ALを含む)

ペアワークなどを多く含む。

到達目標

特にリスニング力、スピーキング力に重点を置き、英語でコミュニケーションをする上で最低限の能力と態度を身につけること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3グローバルマインド、 -3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力

内容

1	Introduction
2	Unit 7: Free Time 1
3	Unit 7: Free Time 2
4	Unit 8: Clothes 1
5	Unit 8: Clothes 2
6	Unit 9: Eat Well 1
7	Unit 9: Eat Well 2
8	まとめ 1
9	Unit 10: Health 1
10	Unit 10: Health 2
11	Unit 11: Making Plans 1

12	Unit 11: Making Plans 2
13	Unit 12: On the Move 1
14	Unit 12: On the Move 2
15	まとめ2

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

【事後学修】

評価方法および評価の基準

毎回の課題（50%）、期末試験（50%）をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English IntroB, 2nd Ed., Cengage Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が必須となります。

科目名	英語 b		
担当教員名	秋山 まき子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	ECクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。The course is designed to develop and extend international communication skills, while building a foundation for the further development of academic English skills.

科目の概要 The main objective of this course is to increase the independent ability of students to receive (listen and read), produce (written and verbal presentation), and interact in a specific, measureable level of English.

授業の方法 (ALを含む) In the class, we have textbook activities, listening exercises, discussions, collaborative group work, and practice tests. Audio and video training material can be used.

到達目標 Students who have completed this course should be able to:

1. demonstrate the completion of a variety of language tasks (through, for example, portfolios of student work), which link the four core language skills (speaking, listening, reading, writing)
2. write and converse to meet basic communicative and academic needs

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシー - 1 読み解く力・ - 3 言語運用能力を育成することを目的とする。

内容

1	Orientation Unit 7
2	Unit 7
3	Unit 8
4	Unit 8
5	REVIEW(1) TEST1
6	Unit 9

7	Unit 9
8	Unit 10
9	Unit 10
10	REVIEW(2) TEST2
11	Unit 11
12	Unit 11
13	Unit 12
14	Unit 12
15	REVIEW(3) TEST3

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

Pre-class and post-class activities which will be taken

more than 30 minutes each include but are not limited to:

- Specific language skills development activities assigned as homework;
- Careful preparation of necessary class materials.

評価方法および評価の基準

達成目標の総合評価60点以上を合格とする。

100%のうち、達成目標の1は授業の出席率、参加度、理解度の総合評価70%、達成目標の2はテスト、プレゼンテーションの30%とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Mystery Tour with Sherlock Homes, Atsuko Uemura, Miwako Yamashina, CENGAGE Learning, ISBN#9784863121133

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容及び進め方は、クラスの状態により変更することがあります。質問等は、遠慮なく担当教員に申し出てください

科目名	英語 b		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	EDクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

This class will help students increase the four skills of English while learning through interesting topics about the world we live in.

科目の概要

Students will expand their vocabulary and will have a lot of chances to practice through grammar exercises and communication activities.

授業の方法 (ALを含む)

Students will be introduced to a topic and will do exercises on that topic and use listening, written materials and videos as input for their work.

到達目標

Increasing vocabulary and ability to use a variety of grammatical structures and increasing awareness of issues in the world.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1-1 読み解く力 7-3 言語運用能力

内容

1	Introduction to the materials, Ted Talks and Vocabulary worksheet.
2	Spending habits. Passive voice. Needs and wants.
3	Lifestyles and priorities. Passive voice with by. Discussing priorities and waste.
4	Consequences. Conditional in the future. Issues with nature.
5	Conservation and climate change. Considering how to protect animals.

6	Life in the past. Used to. Comparing the past and present.
7	Discussing historical facts. Passive voice in the past. Describing historical sites.
8	Review of units 7-9.
9	Organizing vacations. Necessity with must. Preparations.
10	Using airports. Necessity with must not. Why travel is good for you.
11	Career choices and planning. Writing a personal profile.
12	Job planning. Interviews. Changing jobs.
13	Describing celebrations. Comparisons using as - as.
14	Rituals and holidays. Expressing congratulations and good wishes.
15	Review of units 10-12.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Read the reading passages before the lesson.

【事後学修】 Complete any exercises given.

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

Lesson participation 40 and short tests 40%

Mid-term review 30%

Final review 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 World English 2a 3rd Edition National Geographic Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Increasing vocabulary is the biggest challenge so keep word lists and review vocabulary as much as possible.

科目名	英語 b		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	EEクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語科目内の選択必修科目である

科目の概要

「聞く・読む・書く・観る」活動を含めた総合的な訓練によって、社会に出ても通用する英語力を育成する

授業の方法

教科書の豊富な教材・活動のうち、クラスで共有しながら学ぶのに適するものを取り出し、合理的な順番で取り上げる。オンライン自修を援助する。疑問点は【リアクションペーパー】を効果的に用いて、クラスの【討論】の活性化で解決する。

到達目標

1. 外国語としての英語の学習基本語彙1500語レベルを文脈に応じて適切に使用できる
2. 現在進行形・単純過去・助動詞の使い分け等の基本的文法を使って、通じる文を書き、発話できる
3. 意見・希望・計画等を端的に表現する英語を書き、発話できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

*各回の授業の前半は動画の視聴・リスニングに取り組み、後半は音声のない問題を中心に取り組む。

*各unitを約2週間で進め、音声のない問題の一部は事前の自修中心となる。

1	TED 3本(pages 114-121, 142 & 158-161)の視聴、Book Intro A (Units 1-6)の紹介
2	Unit 7 Free Time
3	Unit 7 仕上げ (動画: Danny's Challenge)
4	Unit 8 Clothes

5	Unit 8 仕上げ (動画: Traditional Silk Making)
6	Unit 9 Eat Well
7	Unit 9 仕上げ (動画: Slow Food)
8	まとめ (1)
9	Unit 10 Health
10	Unit 10 仕上げ (動画: Farley, the Red Panda)
11	Unit 11 Making Plans
12	Unit 11 仕上げ (動画: Making a Thai Boxing Champion)
13	Unit 12 On the Move
14	Unit 12 仕上げ (動画: Monarch Migration)
15	まとめ (2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新しいunitに入る前に、音声がなくとも解ける問題は教科書・online共に全て解いて授業に臨むこと。次の週は、動画視聴・listening問題を全て解くこと。Online workbookの音声はスマホで聞けるが、問題全体を閲覧するにはPCかtabletが必要。毎週45分以上。

【事後学修】授業で出された課題を解き、作文はワード文書がメール本文に残すこと。また、教科書に関連する動画のoriginalなものを英語に注目して何度も視聴すること。週あたり平均60分以上。？

評価方法および評価の基準

上記ねらいの 到達目標の1から3の、筆記力に関しては小テスト・Online Workbook・2回程度の確認試験・リアクションペーパー等への書き込み英文を中心に、発音力・発話力・その他の授業への参加度は通常の授業中に評価する。

1. 基本単語の筆記力20% 基本単語の発音力10%
2. 基本文法の筆記力20% 基本文法の発話力10%
3. 場面に応じた筆記力20% 場面に応じた発話力10%

その他、授業への参加度10% として、総合して60%以上を合格とする。

【フィードバック】Online Workbookで正答率の悪い問題を、全員が再挑戦して全問正解になる前に、クラスに解説してその後に活かすようにする予定。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】_World English, 2nd Edition, Book IntroB_ (M Milner著、National Geographic Learning) ISBN 978-1-305-08950-1.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

世界で使われる英語と自分の実力の間を少しずつ埋めていくのがこの教科書シリーズのコンセプトです。動画の英語をめあてに楽しく努力して、全員良い成績を獲得しましょう。

科目名	英語 b		
担当教員名	津田 久美子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	FAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、全学共通科目「外国語（基礎科目）」領域の選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。さらに英語を学びたい場合は英語Ib, IIa, IIbを履修する。

科目の概要

英語によるコミュニケーションのための基礎的な英語運用能力の育成を目指す。「聞く・話す、読む・書く」の4技能のうち、特に「聞く・読む」に重点を置き、ある程度まとまった内容の英文を読みとる力、英語の音変化の特徴を理解し、正しく聞き取る力を養成する。さらに正しい英語の構造の短文が書ける力も合わせて養成し、社会に出ても通用する英語基礎力の育成を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

授業の初めに各課ごとに重要語句・構文・聞き取り等の復習小テストを行う。また、グループワークも取り入れ、文構造・文章構造を確認しながら、テキストの内容を理解する。【ミニテスト】【グループワーク】

到達目標

- (1)基本的、かつ日常よく使われる語句の意味を口頭で述べたり、書いたりすることができる。
- (2)短い英文を聞き、ディクテーションができる。
- (3)まとまった文章を読み、内容を理解して、日本語で説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 言語運用能力、 -1 読み解く力

内容

英語の文の構造を理解する上で役に立つ基本文型をはじめとして、以下のような基本的文法事項を確認していきます（順不同）。

- ・文の要素 ・5文型 ・動詞 ・基本時制 ・進行形 ・完了形 ・名詞 ・冠詞 ・代名詞
- ・助動詞 ・受動態 ・不定詞

- 1.~3. UNIT7: That's the first time I've ever seen him spill his water dish.
4. UNIT8: I'd like to buy a Christmas present for a girl I know.
5. UNIT9: We wonder what happened to the frosting on the cookies.
6. UNIT10: They say that the first thing a woman notices about a man is his eyes.
- 7.~8. UNIT11: I know what I should have said.
- 9.~10. UNIT12: I don't want to get hit in the stomach with the ball.
- 11.~12. UNIT13: Are you going to stay home this summer?
- 13.~14. 後期のまとめ
15. 全体のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の授業で扱う範囲の単語の意味を調べ、和訳や練習問題に取り組んでおくこと。目安の時間は1週あたり2時間。

【事後学修】授業で扱った範囲の単語と文法事項を復習しておくこと。目安の時間は1週あたり30分。

評価方法および評価の基準

期末試験70%、予習および授業への参加態度・各課毎回行う復習の小テスト・課題等を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各課毎回行う復習の小テストから間違いが多かった箇所を次回の授業で共有し、理解を深めてもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小中秀彦著『Fun English with SNOOPY スヌーピーと楽しく学ぶ基礎英語』（ナショナルジオグラフィック ラーニング）

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語 b		
担当教員名	榊原 理枝子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	FBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の外国語科目 (基礎科目) の選択科目。

科目の概要

英語の語彙力、文法力などを高め、また英語の音声に慣れ、英文を正しく読み取り、聞き取れるようになってもらうことを目指します。また、英語を話す力、書く力を研鑽し、英語で意思などを表現できるようになってもらうことを目標とします。さらに、英語圏文化への理解を深めてもらいます。

授業の方法

アクティブ・ラーニングの実践として、学生に英語での発言や発表などをしてもらったり、小テストを受けてもらいながら授業を進めます。【ミニテスト】

到達目標

- (1)英語の文法、語彙、音声などについての知識を深め、英語を正しく読解でき、聞き取り、また英文を書くことができる。
- (2)英語の文法、語彙、音声などについての知識を深め、英語を話す力を伸ばし、英語で意思などを表現できる。
- (3)英語圏文化についての知識を深め、理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目指します。

- 1読み解く力
- 3言語運用能力

内容

(授業の方針)

- (1)テスト、試験類は実施後正解を配布。採点して翌週に返却、解説。
- (2)定期試験は最後から2番目の週に実施。最終週には返却、解説。定期試験だけではなく返却解説も欠席不可。
- (3)就活、公欠など正当な欠席の場合、また定期試験欠席の場合は、就活の証明や診断書などの証明が必要。
- (4)出席不足などで単位取得が危うくなってから課題等で救済というのは本人のためにならないのでいけません。
- (5)テスト等は欠席しても別日程で受けることはできません。(実施後正解を配布するため。)また、課題での代替もありません。欠席しないように注意。(ただし実習などの場合は別。)
- (6)授業内の発表も、授業進行上の理由で原則別日程ではできませんから欠席しないように注意してください。

(授業内容)

イギリスBBCのドキュメンタリー番組を題材にした教科書を使用。英語力だけではなく、世界の文化や社会、歴史などについての知識も得ることができます。DVD付属で、映像を見ながら勉強できるので楽しいです。DVDはイギリス英語とアメリカ英語の切り替え可能で、英語の多様性も学べます。また、時にはニュースを見たりもしますし、プレゼンテーションや会話練習などもします。

(授業進行予定)(学生の理解度や関心に依りて以下の予定を変更することがあります。)

(1回目)前期の復習(2回目)Food and Society: 食の文化と歴史、食の社会側面(前半)・リスニングや内容把握(3回目) Food and Society(後半)・内容に関連した会話の練習など
(4回目) Shinjuku Station: 新宿駅の乗客対策に見る世界が目にする日本のテクノロジー(前半)・リスニングや内容把握(5回目) Shinjuku Station(後半)・内容に関連した会話の練習など(6回目)Bali's Temples: 神秘の島バリの文化(7回目)Car Recycling: こうして車はリサイクルされる!(前半)・リスニングや内容把握(8回目) Car Recycling(後半)・内容に関連した会話の練習など(9回目)Hi-Tech Farming: 衛星を駆使した効率的なハイテク農業(前半)・リスニングや内容把握(10回目) Hi-Tech Farming(後半)・内容に関連した会話の練習など(11回目)Honolulu: アメリカとアジアが融合するホノルルの魅力(前半)・リスニングや内容把握(12回目) Honolulu(後半)・内容に関連した会話の練習など(13回目)Life on Volcanoes: 火山に住む家族(14回目)まとめ(15回目)総復習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

(事前学習)教科書や配布教材などの指定箇所を勉強する。主にリスニング、読解、文法などの練習問題。語句などは覚える。音声は聞いて発音する。小テスト、ロールプレイング、発表等の準備。(各授業に対して45分以上)

(事後学習)教科書、配布教材を復習。また、返却された小テストの復習。授業に出てきた英語表現も覚える。その際、音声は聞いて発音する。(各授業に対して45分以上)

*英語は一度にまとめて勉強するのではなく、毎日勉強してください。「各授業に対して45分以上」とは、毎日の勉強時間の合計が、1回の授業につき事前・事後学習それぞれ45分以上という意味です。つまり事前・事後学習を合わせた1回の授業に対する毎日の勉強時間の合計が90分以上です。

評価方法および評価の基準

到達目標(1)(3)

英語圏文化についての理解を深め、文法、語彙、音声などについての知識を高め、英語の読解力、聴解力、また書く力を付ける。

=>読解、聴解などに関する授業中のアクティビティ:25%

=>文法、語彙、表現、読解力、聴解力などに関する小テストや定期試験:50%

【フィードバック】

*小テストは終了後、正解発表。そして実施の次の授業で返却し、今後の学習に生かしてもらいます。小テストの結果によっては同じ範囲をまたテスト範囲にすることもあります。

*定期試験は最後から2番目の授業で実施。試験終了後、正解発表。そして最終週には答案を返却、解説。

到達目標(2)(3)

英語圏文化についての知識を深め、文法、語彙、音声などについての知識を高め、英語を話す力を伸ばす。

=>授業中のロールプレイング、発言、発表など:25%

(単位取得について)

*上記の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とします。

*単位取得には3分の2以上の授業参加と定期試験を受けていることが必須。原則として定期試験は欠席しないでください。やむを得ず定期試験を欠席する場合は診断書等の証明と、指定した時刻までに指定したアドレスへのメールがないと単位は取れません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書） 森田、萱、佐藤、他『BBC World Profile on DVD: BBC やさしい英語と映像

で学ぶ総合英語』（南雲堂、本体2,500円=>素晴らしい映像とともに、イギリス英語とアメリカ英語が両方聴ける内容充実のDVD付きでこの価格はお得です。フジショップで買ってください。万が一品切れの場合はフジショップで注文してください。ISBN978-4-523-17740-1 C0082)

その他、プリント、データ配布教材等。

（辞書）辞書はお持ちの物を第1回目から持って来てください。スマホ等による代用禁止。（授業中はスマホ等はしまってもらいます。授業に集中してもらうためです。）辞書をこれから購入する予定の場合、初回以降に購入でも構いません。失敗を防ぐためです。

（推薦書）授業で適宜紹介。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- (1)体調管理に注意し、欠席しないようにしてください。そして万が一欠席の場合は、欠席したために宿題などが分からず次の授業に支障をきたすといったことのないように、授業についてお友達に教えてもらうなどの対策をとってください。
- (2)Live Campusによる授業連絡（授業終了後の質問への回答を全員に周知する必要がある場合や宿題の説明など）は随時行いますから注意しておいてください。
- (3)詳細は初回に配付。またCALL教室の使い方を覚えてもらわないといけないので最初数回は欠席しないでください。
- (4)授業で配布するデータ教材の保存や宿題の発表などのためUSBが必要。毎回持ってきてください。

科目名	英語 b		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	FCクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、全額共通科目における外国語（基礎科目）の選択科目です。英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の習得を目指します。とりわけ、「聞く、話す、読む、書く」の4技能の総合的演習を行い、大学を経て社会に出ても通用する英語力の習得を目標としています。

科目の概要

英語力の「聞く」「読む」ための認知能力の効率的な習得を目指し、重要な文法事項や語彙を学習した上で、習得した内容を基に「話す」「書く」の運用能力の習得すべく練習を行う。

授業の方法

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。【グループワーク】

到達目標

この授業を履修することにより、以下のことができるようになることを到達目標とします。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 読み解く力
- 3 言語運用能力

内容

テキスト1ユニットを通常2回で完了するよう進める。主に1回目を各ユニットのテーマ（表題）についての語彙、言語構造の確認と演習、2回目をそれらを使用するまとめの演習という形で進める。演習の際は、個人でタスクに取り組んだ後、ペア、グループ学習にて疑問点の解決を図る。各ユニットの1回目と二回目の間にリスニング課題、2回目の終わりにまとめのプリント課題を出し、それらの解答チェック、疑問点の質疑応答も授業内で行う。

前期

第1回	オリエンテーション・U7 At home
第2回&3回	U7 At home
第4回&5回	U8 Free time activities
第6回&7回	U9 Popular sports
第8回&9回	U10 Big events

第10回&11回 U11 Plans

第12回&13回 U12 On vacation

第14回復習(1)

第15回復習(2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学習ユニットの未知語、文法を確認しておくこと。(30分)

【事後学習】 授業で行ったユニットのダイアログ音読・シャドウイングを行う。(シャドウイングの方法については授業内で指導する。)(30分) 授業で指示されたリスニングタスクを行う。(隔週30分) まとめのプリントを行う(隔週30分)

評価方法および評価の基準

テスト70点・課題20点、授業への取り組み10点で評価を行い、60点以上を合格とする。到達目標と評価の内訳は以下の通り。

1. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を読み、または聞いて理解することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)
2. 英語によるコミュニケーションで使用する基礎的なフレーズや語彙を書き、または話す中で使用することができる。(テスト35%、課題10%、授業への取り組み5%)

課題のフィードバックは、授業中の解答チェックの中で質疑応答をとおして行う。シャドウイングの練習結果は学生間のペア・ワークでチェックを行い、全体チェックの中で気づいたことを教員からコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】S.Stempleski,Stretch -Starter Student Book & Workbook Multi-Pack B, Oxford University Press

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業への積極的な参加が成功の鍵です。内容が理解できないときには、積極的に質問してください。

科目名	英語 b		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	GAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

This class will help students increase the four skills of English while learning through interesting topics about the world we live in.

科目の概要

Students will expand their vocabulary and will have a lot of chances to practice through grammar exercises and communication activities.

授業の方法 (ALを含む)

Students will be introduced to a topic and will do exercises on that topic and use listening, written materials and videos as input for their work.

到達目標

Increasing vocabulary and ability to use a variety of grammatical structures and increasing awareness of issues in the world.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1-1 読み解く力 7-3 言語運用能力

内容

1	Introduction to the materials, Ted Talks and Vocabulary worksheet.
2	Spending habits. Passive voice. Needs and wants.
3	Lifestyles and priorities. Passive voice with by. Discussing priorities and waste.
4	Consequences. Conditional in the future. Issues with nature.
5	Conservation and climate change. Considering how to protect animals.

6	Life in the past. Used to. Comparing the past and present.
7	Discussing historical facts. Passive voice in the past. Describing historical sites.
8	Review of units 7-9.
9	Organizing vacations. Necessity with must. Preparations.
10	Using airports. Necessity with must not. Why travel is good for you.
11	Career choices and planning. Writing a personal profile.
12	Job planning. Interviews. Changing jobs.
13	Describing celebrations. Comparisons using as - as.
14	Rituals and holidays. Expressing congratulations and good wishes.
15	Review of units 10-12.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Read the reading passages before the lesson.

【事後学修】 Complete any exercises given.

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

Lesson participation 40 and short tests 40%

Mid-term review 30%

Final review 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 World English 2a 3rd Edition National Geographic Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Increasing vocabulary is the biggest challenge so keep word lists and review vocabulary as much as possible.

科目名	英語 b		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	GBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの「選択科目」です。

科目の概要

基礎的な教材を用い、英語コミュニケーション力を身に付けます。

授業の方法 (ALを含む)

ペアワークなどを多く含む。

到達目標

特にリスニング力、スピーキング力に重点を置き、英語でコミュニケーションをする上で最低限の能力と態度を身につけること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3グローバルマインド、 -3言語運用能力、 -4コミュニケーション能力

内容

*各回の授業の前半は動画の視聴・リスニングに取り組み、後半は音声のない問題を中心に取り組む。

*各unitを約2週間で進め、音声のない問題の一部は事前の自修中心となる。

1	Introduction
2	Unit 7: Free Time 1
3	Unit 7: Free Time 2
4	Unit 8: Clothes 1
5	Unit 8: Clothes 2
6	Unit 9: Eat Well 1
7	Unit 9: Eat Well 2

8	まとめ 1
9	Unit 10: Health 1
10	Unit 10: Health 2
11	Unit 11: Making Plans 1
12	Unit 11: Making Plans 2
13	Unit 12: On the Move 1
14	Unit 12: On the Move 2
15	まとめ 2

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

【事後学修】

評価方法および評価の基準

毎回の課題（50%）、期末試験（50%）をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English IntroB, 2nd Ed., Cengage Learning

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が必須となります。

科目名	英語 b		
担当教員名	大友 彩子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	GCクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の外国語科目のうちの選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。

科目の概要

実社会で使用できる語学4技能スキルの訓練および文法、語彙の知識、運用能力の獲得。

授業の方法 (ALを含む)

教科書の内容に沿い、講義とディスカッション により進行。

到達目標

文法の知識を4技能において実践できる。語彙の知識を4技能において実践でできる。
自発的に英語でコミュニケーションできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

適宜ペアワーク、グループワークも取り入れ、学生に発言をしてもらいながら授業を進める。

1 週目 導入

2 ~ 3 週目 Unit1 People

4 ~ 5 週目 Unit2 A Day in the Life

6 ~ 7 週目 Unit3 Going Places

8 ~ 9 週目 Unit4 Food

10 ~ 11 週目 Unit5 Sports

12 ~ 13 週目 Unit6 Destinations

14 週目 復習

まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】宿題として指定した箇所（リスニング、読解、語彙、文法などの練習問題など。週最低60分。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習・課題の暗唱。毎日20分程度。週最低60分。

評価方法および評価の基準

出席10%、授業態度30%、課題30%、試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】適宜必要に応じてクラス内で復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English 1A 著者 John Hughes and Martin Milner 出版社 National Geographic Learning

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

語学学習は毎日の積み重ねとなります。少しずつでも予習、復習を各自で行ってください。

科目名	英語 b		
担当教員名	秋山 まき子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	GDクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は、全学共通科目「外国語 (基礎科目)」領域の選択科目です。The course is designed to develop and extend international communication skills, while building a foundation for the further development of academic English skills.

科目の概要 The main objective of this course is to increase the independent ability of students to receive (listen and read), produce (written and verbal presentation), and interact in a specific, measureable level of English.

授業の方法 (ALを含む) In the class, we have textbook activities, listening exercises, discussions, collaborative group work, and practice tests. Audio and video training material can be used.

到達目標 Students who have completed this course should be able to:

1. demonstrate the completion of a variety of language tasks (through, for example, portfolios of student work), which link the four core language skills (speaking, listening, reading, writing)
2. write and converse to meet basic communicative and academic needs

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシー - 1 読み解く力・ - 3 言語運用能力を育成することを目的とする。

内容

1	Unit 7
2	Unit 7
3	Unit 8
4	Unit 8
5	REVIEW(1) TEST1
6	Unit 9

7	Unit 9
8	Unit 10
9	Unit 10
10	REVIEW(2) TEST2
11	Unit 11
12	Unit 11
13	Unit 12
14	Unit 12
15	REVIEW(3) TEST3

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

Pre-class and post-class activities which will be taken

more than 30 minutes each include but are not limited to:

- Specific language skills development activities assigned as homework;
- Careful preparation of necessary class materials.

評価方法および評価の基準

達成目標の総合評価60点以上を合格とする。

100%のうち、達成目標の1は授業の出席率、参加度、理解度の総合評価70%、達成目標の2はテスト、プレゼンテーションの30%とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Mystery Tour with Sherlock Homes, Atsuko Uemura, Miwako Yamashina, CENGAGE Learning, ISBN#9784863121133

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容及び進め方は、クラスの状態により変更することがあります。質問等は、遠慮なく担当教員に申し出てください

科目名	英語 b		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	HAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語科目内の選択必修科目である

科目の概要

「聞く・読む・書く・観る」活動を含めた総合的な訓練によって、社会に出ても通用する英語力を育成する

授業の方法

教科書の豊富な教材・活動のうち、クラスで共有しながら学ぶのに適するものを取り出し、合理的な順番で取り上げる。オンライン自修を援助する。疑問点は【リアクションペーパー】を効果的に用いて、クラスの【討論】の活性化で解決する。

到達目標

1. 外国語としての英語の学習基本語彙1500語レベルを文脈に応じて適切に使用できる
2. 現在進行形・単純過去・助動詞の使い分け等の基本的文法を使って、通じる文を書き、発話できる
3. 意見・希望・計画等を端的に表現する英語を書き、発話できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

*各回の授業の前半は動画の視聴・リスニングに取り組み、後半は音声のない問題を中心に取り組む。

*各unitを約2週間で進め、音声のない問題の一部は事前の自修中心となる。

1	TED 3本(pages 114-121, 142 & 158-161)の視聴、Book Intro A (Units 1-6)の紹介
2	Unit 7 Free Time
3	Unit 7 仕上げ (動画: Danny's Challenge)
4	Unit 8 Clothes

5	Unit 8 仕上げ (動画: Traditional Silk Making)
6	Unit 9 Eat Well
7	Unit 9 仕上げ (動画: Slow Food)
8	まとめ (1)
9	Unit 10 Health
10	Unit 10 仕上げ (動画: Farley, the Red Panda)
11	Unit 11 Making Plans
12	Unit 11 仕上げ (動画: Making a Thai Boxing Champion)
13	Unit 12 On the Move
14	Unit 12 仕上げ (動画: Monarch Migration)
15	まとめ (2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新しいunitに入る前に、音声がなくとも解ける問題は教科書・online共に全て解いて授業に臨むこと。次の週は、動画視聴・listening問題を全て解くこと。Online workbookの音声はスマホで聞けるが、問題全体を閲覧するにはPCかtabletが必要。毎週45分以上。

【事後学修】授業で出された課題を解き、作文はワード文書がメール本文に残すこと。また、教科書に関連する動画のoriginalなものを英語に注目して何度も視聴すること。週あたり平均60分以上。？

評価方法および評価の基準

上記ねらいの 到達目標の1から3の、筆記力に関しては小テスト・Online Workbook・2回程度の確認試験・リアクションペーパー等への書き込み英文を中心に、発音力・発話力・その他の授業への参加度は通常の授業中に評価する。

1. 基本単語の筆記力20% 基本単語の発音力10%
2. 基本文法の筆記力20% 基本文法の発話力10%
3. 場面に応じた筆記力20% 場面に応じた発話力10%

その他、授業への参加度10% として、総合して60%以上を合格とする。

【フィードバック】Online Workbookで正答率の悪い問題を、全員が再挑戦して全問正解になる前に、クラスに解説してその後に活かすようにする予定。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】_World English, 2nd Edition, Book 1IntroB_ (M Milner著、National Geographic Learning) ISBN 978-1-305-08950-1.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

世界で使われる英語と自分の実力の間を少しずつ埋めていくのがこの教科書シリーズのコンセプトです。動画の英語をめあてに楽しく努力して、全員良い成績を獲得しましょう。

科目名	英語 b		
担当教員名	大友 彩子		
ナンバリング	NEg1032		
学 科	共通科目 (N/E/S) -英語 a・b・a・b		
学 年	1	ク ラ ス	HBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の外国語科目のうちの選択必修科目で、英語によるコミュニケーションのための基礎的英語能力の育成を目指す。

科目の概要

実社会で使用できる語学 4 技能スキルの訓練および文法、語彙の知識、運用能力の獲得。

授業の方法 (ALを含む)

教科書の内容に沿い、講義とディスカッション により進行。

到達目標

文法の知識を 4 技能において実践できる。語彙の知識を 4 技能において実践でできる。
自発的に英語でコミュニケーションできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 読み解く力 -3 言語運用能力

内容

適宜ペアワーク、グループワークも取り入れ、学生に発言をしてもらいながら授業を進める。

1 週目 導入

2 ~ 3 週目 Unit1 People

4 ~ 5 週目 Unit2 A Day in the Life

6 ~ 7 週目 Unit3 Going Places

8 ~ 9 週目 Unit4 Food

10 ~ 11 週目 Unit5 Sports

12 ~ 13 週目 Unit6 Destinations

14 週目 復習

まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】宿題として指定した箇所（リスニング、読解、語彙、文法などの練習問題など。週最低60分。

【事後学修】授業で学習した箇所の復習・課題の暗唱。毎日20分程度。週最低60分。

評価方法および評価の基準

出席10%、授業態度30%、課題30%、試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】適宜必要に応じてクラス内で復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】World English 1A 著者 John Hughes and Martin Milner 出版社 National Geographic Learning

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

語学学習は毎日の積み重ねとなります。少しずつでも予習、復習を各自で行ってください。

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名	神田 俊平		
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目（N/E/S） -読書入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	AAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、新入生の皆さんがさまざまな学科の仲間とともに一つの本を読み合いながら学習する科目です。学科の異なる先生から指導を受けて、所属以外の仲間とともに学びあい、新鮮な学習体験を作り上げることを目的としています。

科目の概要

前期中に配布される読書入門の開設科目一覧表により、皆さんが学びたいと思う本を選んでください。皆さんの所属学科の先生が担当するものは受講できません。教室で出会った仲間と先生とともに1冊の本を読みあいます。読み進める中で浮かんだ疑問や感想を仲間同士で話し合い、交流します。

授業の方法（ALを含む）

この授業は、講義、グループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていきます。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

受講者全員にとって、より良い講義とするために主体的に考え、行動することができる。
自分なりの意見を仲間に伝えることができるとともに、仲間の意見を受け止めることができる。
日常的に読書に親しむ態度を養うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力、 -2書き表す力、 -5論理的に表現する力

内容

1	オリエンテーション、書籍選定の意図について
2	第1章 日米スポーツ事情
3	第1章 日米スポーツ事情

4	第1章 日米スポーツ事情
5	第1章総括
6	第2章 アメリカスポーツにあり、日本スポーツにないもの
7	第2章 アメリカスポーツにあり、日本スポーツにないもの
8	第2章 アメリカスポーツにあり、日本スポーツにないもの
9	第2章 アメリカスポーツにあり、日本スポーツにないもの
10	第2章 アメリカスポーツにあり、日本スポーツにないもの
11	第2章総括
12	2020年へ、そして、日本スポーツへの提案
13	2020年へ、そして、日本スポーツへの提案
14	第3章総括
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回授業で取り上げる箇所を熟読しておくこと。(45分)

【事後学修】授業内容をふまえ、当該箇所について自身の考えをまとめる。(45分)

評価方法および評価の基準

評価は毎回の授業への参加度(50%)および発表(25%)、レポート(25%)で総合的に評価し、総合評価の60%以上を単位取得とします。それぞれの評価については、到達目標に沿って行う。

【フィードバック】提出された課題は、コメントを記載し翌週以降の授業内で返却します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

河田 剛 / 著, 『不合理だらけの日本スポーツ界』, ディスカヴァー・トゥエンティワン ディスカヴァー携書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本を読み、理解し、自身の考えを理論的に表現することに積極的に取り組むことに期待する。

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名	飯村 九林		
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目 (N/E/S) -読書入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	BAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、一つの本を通して、読書の楽しさを知るとともに、学科をこえた交流の輪を広げることを目的としている。

科目の概要

一冊の本を通して読書の楽しさを知るとともに、様々な考え方があることを学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、朗読や関連項目に関する講義を中心に、ディスカッションを取り入れた授業を行う。【討議・議論】

到達目標

1. 本の内容を理解する。
2. 読書を通して多様な考え方や価値観があることを理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力、 -2書き表す力、 -5論理的に表現する力

内容

第1回目：オリエンテーション (授業の進め方、自己紹介、本の紹介)

第2回～第14回目：読書とグループディスカッション

第15回目：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指定された範囲を読み込んでおく (各授業に対して30分)。

【事後学修】授業を振り返り、学んだことをまとめる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

毎回の授業への意欲・関心・態度 (60%) 並びに、事後学修レポートおよび最終レポート (40%) で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業ごとにグループディスカッションを行い、その内容を踏まえた課題を提出してもらいます。これに対し、授業の中でコメントします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

福岡 伸一 / 著, 『生物と無生物のあいだ』, 講談社 講談社現代新書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目（N/E/S） - 読書入門ゼミナール		
学 年		ク ラ ス	CAクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

読書入門ゼミナールでは、所属学部・学科以外の仲間と一冊の本を読みながら、ともに学びあい、論理的に表現する力を養う。

科目の概要

学部・学科の枠組みを超えて、皆で一冊の書籍を読みあう事で他者の理解、解釈、疑問、感想を共有し、相互に交流する。

授業の方法（ALを含む）

授業時間の前半は音読をしながら、授業時間の後半は教員による解説とグループディスカッションを中心に進める。【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

到達目標

- (1) 書籍を理解するための基礎的な知識を習得し、説明することができる。
- (2) 課題について分析したことを簡潔に文章にまとめ、表現することができる。
- (3) 仲間と積極的かつ論理的な討議・討論を交わすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 読み解く力 -2 書き表す力 -5 論理的に表現する力

内容

この授業では池上彰氏の著書「おとなの教養 私たちはどこから来て、どこへ行くのか?」を取り扱う。本書籍は宗教・宇宙・人類の旅路・人間の病気・経済学・歴史・日本と日本人の7つのテーマについて解説している。

1	授業の進め方について、本の紹介、自己紹介【グループワーク】
2	序章 私たちはどこから来て、どこへ行くのか? 現代の教養七科目【グループワーク】
3	第一章 宗教 唯一絶対の神はどこから生まれたのか?【討議・討論】【レポート（表現）】
4	第二章 宇宙 ヒッグス粒子が解き明かす私たちの起源【討議・討論】【レポート（表現）】
5	第三章 人類の旅路 私たちは突然変異から生まれた 【討議・討論】

6	第三章 人類の旅路 私たちは突然変異から生まれた 【討議・討論】【レポート(表現)】
7	グループで発表資料の作成【グループワーク】
8	グループ発表と中間まとめ【プレゼンテーション】
9	第四章 人間と病気 世界を震撼させたウイルスの正体 【討議・討論】
10	第四章 人間と病気 世界を震撼させたウイルスの正体 【討議・討論】【レポート(表現)】
11	第五章 経済学 歴史を変えた四つの理論とは？【討議・討論】【レポート(表現)】
12	第六章 歴史 過去はたえず書き換えられる【討議・討論】【レポート(表現)】
13	第七章 日本と日本人 いつ、どのようにして生まれたのか？【討議・討論】【レポート(表現)】
14	グループで発表資料の作成【グループワーク】
15	グループ発表と総まとめ【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前にシラバスを確認し、本書の該当箇所を読んでおく。(各回45分)

【事後学修】講義内容を復習し、講義を受けて気づいたこと、仲間とディスカッションした内容についてノートにまとめる。(各回45分)

評価方法および評価の基準

各章(テーマ)ごとに小レポートを課す(7回×10点=70点)。平常点を30点とする。

総合評価60点以上を合格とする。

- (1) 書籍を理解するための基礎的知識を習得し、説明することができる。(小レポート(20/70)、平常点(10/30))
- (2) 課題について分析・考察したことを簡潔に文章にまとめ、表現することができる。(小レポート(25/70)、平常点(10/30))
- (3) 仲間と主体的かつ論理的な討議・討論を交わすことができる。(小レポート(25/70)、平常点(10/30))

【フィードバック】提出課題は、コメントを記載し翌週以降に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

池上 彰/著、『おとなの教養 私たちはどこから来て、どこへ行くのか?』, NHK出版 NHK出版新書

【推薦書】

特になし

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本書は一般的なことをわかりやすく伝えているリベラルアーツの入門書である。

本講義をきっかけに幅広く教養を深めてほしい。

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目（N/E/S） - 読書入門ゼミナール		
学 年		ク ラ ス	DAクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、本との出会いや読書の楽しさをお互いに感じることで共有し合い、交流することを目的とする。

科目の概要

読書の楽しさを知るとともに、関連する様々事柄について触れながら、視野・考え方の幅を広げる。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、輪読や内容に関連する事柄について講義を行うとともに、ディスカッションを取り入れて授業を行う。【討議・議論】

到達目標

1. 本の内容を理解することができる。
2. 読書を通して多様な考え方や価値観があることを理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1読み解く力
- 2書き表す力
- 5論理的に表現する力

内容

第1回：オリエンテーション

第2回～第14回目：読書とグループディスカッション

第15回目：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指定された範囲を読み込んでおく（各回30分）。

【事後学修】授業を振り返り、学んだことをまとめる。(各回60分)

評価方法および評価の基準

毎回の授業への意欲・関心・態度(60%)、事後学修レポートおよび最終レポート(40%)で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: (30%/60%) (20%/40%)

到達目標2: (30%/60%) (20%/40%)

【フィードバック】授業でのグループディスカッション、課題に対し、授業の中でコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

丸山 幸子/著, 『マイネフント 僕らが育ったあの家のこと』, 文芸社

【推薦書】【参考図書】は授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名	曾野 麻紀		
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目（N/E/S） - 読書入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	EAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は新入生の皆さんが、様々な学部・学科の仲間と共に1冊の本を読みあいながら学びを深めます。新しい仲間と一緒に学びあうことで、読書の楽しさや新鮮な学習体験を作り上げることを目的としています。

科目の概要

前期に配布される読書入門の解説科目一覧表により、皆さんが学びたいと思う本を選びます。皆さんの所属する学科の教員が担当するものは受講できません。人数制限があるので、複数の本を選んでください。履修登録の後で、抽選により所属クラスが決まります。新しく出会った仲間と一緒に1冊の本を読みあい、学びあい、最後は受講体験記を作成します。

授業の方法（ALを含む）

毎時間、数話ごとに丁寧に読みあい、お互いに思いや内容にまつわる話題を話し合います。

【討議・討論】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 主体的に読書に取り組み、課題発見と考察に主体的に取り組むことができる。
2. 課題について仲間とともに積極的に討論し、そこから様々な考え方を発見することができる。
3. 日常的に読書に親しむ態度を身に付ける。

内容

第1回：授業概要・自己紹介・本の紹介

第2回～第14回：グループディスカッションおよび個人発表

受講人数によりますが、本を読んで気付いたことや感じた事、内容に関して調べたことについて発表してもらう予定です。

第15回：授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】担当の内容を読んでおく。発表する内容をまとめておく。(各授業に対し60分)

【事後学修】ディスカッションや発表について、自分の考えをさらに深めてまとめておく。(各授業に対し60分)

評価方法および評価の基準

評価は、プレゼンテーション(30)、討論・討議などの参加(40%)、最終の課題(30%)を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

1. プレゼンテーション(30/100)
2. 討論・討議などの参加(40/100)
3. 課題の提出および内容(30/100)

【フィードバック】授業の質問については次の講義内でコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

石井 桃子/作・吉井 爽子/画、『幼ものがたり』,福音館書店 福音館文庫

【推薦書】【参考図書】授業内で適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

今回取り上げる本の著者、石井桃子さんは、日本の児童文学の礎を築いた人です。この本を通して、著者が生きた時代や、素晴らしい子どもの本の世界を知り、視野を広げてください。

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 読書入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	FAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

国語の教師としての実践を踏まえ、演習を展開します。87年から四年間宮城県中学校教諭、91年から2年間東北高校兼任講師。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育として新入生の皆さんが様々な学科の仲間とともに一つの本を読みあいながら学修をする時間です。所属や所属以外の学科の先生から指導を受け、所属や所属学科の異なる新しい仲間と学びあうことで、新鮮な学修体験を創り上げることが目的としています。

前期中に配布される読書入門の開設科目一覧表により、皆さんが学びたいと思う本を選んでください。人数制限があるので、抽選に漏れたときのためにいくつかの本を選ぶようにしてください。履修登録の後で、機械的な抽選により所属するクラスが決まります。教室で出会った仲間や先生とともに一冊の本を読みあい、疑問や感想を交流しあって、最終的な受講体験記を書き上げます。

主体的に読書に取り組み、その中で生じた課題を主体的に追究する態度を養うこと、自分の追究した課題を仲間とともに積極的に討論し合い、さらに質の高い考え方を創り上げる技能を身につけること、日常的に読書に親しむ態度を養うこと、をめあてとします。積極的に参加し、本をとおして仲間と共に学び合う体験をして下さい。

読書を通して、言葉そのものや言葉の裏側にある社会を見通したり、理解することができるようになります。読後の討論では、人と人との交流のあり方に理解することができます。最終的なレポートの作成を通して、自分を外から眺めてみる力がみつきます。

(社会に生きる実践力)について、読書を通じ、討論を通じて養います。テキストの内容は、(専門知の活用)の方法を学ぶ手段となります。授業を通して、問題を発見し、(課題解決力)を育成します。

内容

アクティブラーニングとして、討論、口頭発表、レポート作成とその交流を行ないます。

第1回：ガイダンス 日程の決定、班討論、班発表等の説明

第2回：第1回読書会

第3回：第2回読書会

第4回：第3回読書会

第5回：第4回読書会

第6回：第5回読書会

第7回：第6回読書会

第8回：第7回読書会

第9回：第8回読書会

第10回：第9回読書会

第11回：第10回読書会

第12回：第11回読書会

第13回：第12回読書会

第14回：第13回読書会

第15回：まとめ 読書入門大賞応募への準備

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストの該当箇所を読み、内容を理解します。疑問点を追究し、メモを講義に持参します（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義中に読んだ箇所をふり返し、討論の内容、感想等を整理し、ノートに記録します。読書入門大賞に応募する体験記を書きます（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

成績は、音読1割、グループ討論2割、班発表（交代で）2割、最終レポート5割を総合してつけます。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業ごとにリアクションペーパーの内容を次回において紹介し、内容の定着を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『僕は、そして僕たちはどう生きるか』梨木 香歩著、岩波現代文庫

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名			
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目（N/E/S） -読書入門ゼミナール		
学 年		ク ラ ス	GAクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、新入生の皆さんが様々な学科の仲間とともに一つの本を読みあいながら学習をする時間です。学科の異なる先生から指導を受け、所属の異なる新しい仲間と学びあうことで、新鮮な学習体験を創り上げることを目的としています。

科目の概要

前期中に配布される読書入門の開設科目一覧表により、皆さんが学びたいと思う本を選びます。人数制限があるので、いくつかの本を選ぶようにしてください。履修登録の後で、機械的な抽選により所属するクラスが決まります。教室で出会った仲間や先生とともに一冊の本を読みあい、疑問や感想を交流しあって、それぞれの理解を深め本から得た気づきや課題を口頭や文章で表現していきます。

授業の進め方（ALを含む）

担当する章や関連するテーマを決めて、順にプレゼンテーションをしてもらい、内容について全員でディスカッションを行う。【プレゼンテーション】【討議・討論】

学修目標

- 1.主体的に読書に取り組み、その中で生じた課題を主体的に追究することができる
- 2.自分の追究した課題を仲間とともに積極的に討論し合い、そこから新たな課題や考えを発見することができる
- 3.日常的に読書に親しむ態度を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1読み解く力
- 2書き表す力
- 5論理的に表現する力

内容

私は人間発達心理学科で、主に「乳幼児期の心理学」や「行動観察法」などを担当しています。専門は「発達心理学」です。特に、幼児期の認知発達について研究しています。子どもがどのように世界を捉え、その捉え方がわたしたち大人の知識や考えにどのように発達していくのかに興味を持っています。また、「発達」というキーワードに似ていて関連が深いキーワードには「進化」があります。人が産まれてから死ぬまで発達し変化を遂げていくと同時に、より長い時間をかけて「

ヒト」として進化してきたのです。私は人の変化にもヒトの変化にも同じくらい興味があり、関連づけて考えてみることでたくさんの面白い発見があると思っています。

今回選んだ本は、まさに、ヒトがどのように進化してきたのかというテーマについて、様々な観点から論じた本です。考古学から心理学まで幅広い研究を紹介しながら、ヒトがいまのように話したり考えたり交流し合ったりするようになるまでの道のりを考察しています。その長い道のりについて思いを巡らせることで、今の私たちの生活や将来へのヒントが得られる機会になればと思っています。

各回の内容は以下の通りです。

第1回 イン트로ダクション 本の紹介、自己紹介など

第2～14回 担当章と関連するテーマに関するプレゼンテーションと討論

第15回 まとめ 各自がそれぞれ本から得た学びを発表し合う

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に本の指定箇所を読み、気づいた点や疑問点などをまとめておく（60分）

【事後学修】再度、本の指定箇所を読み、新たに気づいた点や理解が深まった点を含め要点を整理する（60分）

評価方法および評価の基準

評価は、プレゼンテーション（60%）、意見交換などの授業への参加度（40%）から総合的に行う。総合評価60点以上を合格とする。

1. プレゼンテーション（50/60） 授業への参加度（10/40）

2. プレゼンテーション（10/60） 授業への参加度（15/40）

3. プレゼンテーション（10/60） 授業への参加度（15/40）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木光太郎「ヒトの心はどう進化したのか」ちくま新書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

様々な領域にわたる内容の本なので、各自が興味のある領域をみつけて、さらにそこから関連する情報を探して深めることができると思います。

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目 (N/E/S) - 読書入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	HAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

新入生の皆さんが様々な学科の仲間とともに一つの本を読み合い、学習する時間です。読書の楽しさを知るとともに、新しい仲間と読書を通しての学習体験をつくり上げていきます。

科目の概要

『民族という名の宗教』など社会と人との関係に関する著作で有名な、なだいなだ先生の『TN君の伝記』を読みます。鋭い社会批評で、時代時代の権力を見つめてきたなだいなだ先生が描く伝記には今の時代を読み解く視座も含まれているでしょう。自ら問いを発見する能力や、「あたりまえ」とされることに疑問を持つ力などを「TN君」を通して育み、大学における学びのきっかけをつかんでください。

授業の方法 (ALを含む)

毎回少しずつ読み進めながら、ディスカッションを通して受講者の皆さんそれぞれが自身の考えを深めることを目指します。講論形式をとりますので、内容についての発表もしていただきます。

【討議・討論】【プレゼンテーション】

到達目標

読書を通して様々な考えや世界観に触れる楽しさを体験し、読書の意欲を育みます。

- (1) 文章を読んで、意味や記述者(作者)の意図を理解すること
- (2) 論理的に考えたことを、(文章や口頭および視覚的に)的確に相手に伝えること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 1 読み解く力、
- 2 書き表す力、
- 5 論理的に表現する力

内容

各回の進め方については、最適な方法を受講者数を考慮して決定します。

1	オリエンテーション
---	-----------

2	レジュメの作り方
3	発表と討論の方法
4	文献講読と報告、討論
5	文献講読と報告、討論
6	時代背景考察 1
7	文献講読と報告、討論
8	文献講読と報告、討論
9	文献講読と報告、討論
10	文献講読と報告、討論
11	時代背景考察 2
12	文献講読と報告、討論
13	文献講読と報告、討論
14	最終課題に向けての解説
15	総括とアンケート

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】本書の指定箇所を読んでおくこと。内容のわからない言葉は調べておくこと（各授業に対して60分）。報告者は資料を作ること（90分）。

【事後学修】討論でキーワードとなった言葉や概念を確認し理解を深めること。扱ったトピックについて復習することを必須とし、意見交換を通じて浮かび上がった疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

評価の対象は担当部分の報告、報告課題を含めた提出課題（40%）とディスカッションへの参加（30%）、最終レポート（30%）とし、その合計で評価します。合計60%以上の評価点で単位取得とします。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパー等は授業内で共有し、コメントや質問への回答をします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

なだいなだ / 作・司修 / 画, 『TN君の伝記』, 福音館書店 福音館文庫

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名	鳥越 信吾		
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目（N/E/S） - 読書入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	JAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目の目的は、大学生活にとって必要なスキルである精読能力と意思伝達能力を養うことにある。

科目の概要

本演習は、所属学部・学科を超えた仲間と一冊の本を読む科目である。一冊の本を読んでいくことを通して読書の楽しさを知るとともに、本を精読するスキルを身につけることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

本演習では、グループで本を読み、発表し、議論する。【グループワーク】【ディスカッション】【プレゼンテーション】

到達目標

- ・本を精読することができる。
- ・自分で考えたことを他人に伝え、ディスカッションすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力
- 2 書き表す力
- 4 論理的に表現する力

内容

1	オリエンテーション
2	レジュメの作り方、プレゼンの仕方
3	第1章 人は一人では生きられない？
4	第2章 幸せも苦しみも他者がもたらす
5	第3章 共同性の幻想：なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか
6	中間考察

7	中間発表
8	第4章 「ルール」関係と「フィーリング共有関係」
9	第5章 熱心さゆえの教育幻想
10	第6章 家族との関係と、大人になること
11	第7章 「傷つきやすい私」と友だち幻想
12	第8章 言葉によって自分を作り変える
13	終わりに 「友だち幻想」を超えて
14	レポートの書き方
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指定された範囲を読み、自分の意見をもつ（60分）

【事後学修】授業を振り返り、学んだことをまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

毎回の授業への取り組みと課題（70%）および最終のレポート（30%）を総合的に評価し、60%以上を合格とする。到達目標の評価方法としては、授業内での発話および課題での記述、そして最終レポートでの記述、これらの精確さで評価する。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての振り返りおよび質疑を行い、学習理解の深化を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

菅野 仁著、『友だち幻想 人と人の つながり を考える』, 筑摩書房 ちくまプリマー新書

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	読書入門ゼミナール		
担当教員名	仇 暁芸		
ナンバリング	NEa1003		
学 科	共通科目（N/E/S） -読書入門ゼミナール		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は読書の基礎力を養い、本を読むことを好きになることも目指している。

科目の概要

指定教材の内容を中心に授業を展開していく。話を聞くのみならず、自ら発言することもある。質問をしたり、グループ討論で発言をしたりすることを入れている。

授業の方法（ALを含む）

講義もあるが、学生側からの発言も多くする予定。対面レッスンで双方向での授業を展開する。

到達目標

- ・指定教材の内容を理解することができる。
- ・その内容に基づき、自分の考えを持つようになる。
- ・自ら読みたい本を見つけ、1冊読み終えるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1読み解く力、 -5論理的に表現する力、 -9実践する力

内容

主に次の順番で授業を展開していく。

- ・ガイダンス、「読書」について
- ・「ターシャ」という人

- ・ 第一章 幸福とは、心が充たされること
- ・ 第二章 世界を好きなように造れる職業
- ・ 第三章 子どもの気持ちは、ちょっとしたことで楽しくなる
- ・ 第四章 ガーデニングと山羊乳とガーリック
- ・ 第五章 価値のある良いことは、時間も手間もかかるもの
- ・ 第六章 死さえ怖くないのは、人生に悔いがないから
- ・ まとめ
- ・ 展開
- ・ 皆さんの私の一冊の紹介

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】（15分）翌週に取り上げる内容を事前に読み、質問を用意してきてください。

【事後学修】（15分）授業で習った部分を読み返し、新たに気付いたところを書いてみてください。（提出不要）

評価方法および評価の基準

普通の学習態度と姿勢:40%

指定教材の内容理解:20%

自分の考えを持つようになる:20%

自ら読みたい本を見つけ、1冊読み終えるようになる:20%

上記の内容と割合をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

ターシャ・テューダー / 文・リチャード・W. ブラウン / 写真・食野 雅子 / 訳, 『思うとおりに歩めばいいのよ ターシャの言葉』, KADOKAWA 中経の文庫

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「本」というものへの向き合え形、少し考えが深くなるといいですね。楽しいという気持ちも芽生えたら嬉しいです。

科目名	身体運動		
担当教員名	若葉 京良、神田 俊平		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	AAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許取得のための必修科目である。この科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針 1. 2. 3 を踏まえて実施する。体育実技 (運動) を通して、受講生相互の活発なコミュニケーションを生み出すことで、大学生活における修学の基礎を育むこと、さらには集団活動を通して、大学や学科への帰属意識を高めるきっかけとすることを目的とする。(人間生活学部の学位授与方針 1. に該当)

科目の概要

1 年次前期に学科クラスごとに履修し、2～5 週を単位に協働型および競争型の集団スポーツをおこなう。多様なスポーツを楽しみながら、仲間との交流を深める。

授業の方法 (ALを含む)

毎回1つのスポーツ種目を取り上げて、実践する。

到達目標

1. グループで協力して活動し、リーダーシップを育み、幅広い交友関係を構築する
2. 豊かな人間性・感受性を醸成する
3. 学生生活を活発・健全に送るための体力をつける
4. 生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

身体運動Iでは、スポーツを通じた仲間作りを目標に、スポーツやレクリエーション活動、リズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」など、主体的な活動を積極的に取り入れ、授業を進める。

【第1週】オリエンテーション（運動できる服装に着替えて集合）

【第2週】体力測定

【第3週～】実技（レクリエーションスポーツなど）

【第5週～】実技（ボールゲームなど）

【第11週～】実技（ニュースポーツなど）

【第15週】まとめ

受講者数などにより内容が変更になる場合もある。

運動に適した服装でなければ出席と認めない。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）60%、毎回のまとめ（振り返りシート）20%、実技テスト20%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却し、実技テストにはテスト終了後にコメントをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講学生同士の積極的な交流を期待する。

科目名	身体運動		
担当教員名	神田 俊平、若葉 京良		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	ABクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許取得のための必修科目である。この科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1.2.3を踏まえて実施する。体育実技(運動)を通して、受講生相互の活発なコミュニケーションを生み出すことで、大学生活における修学の基礎を育むこと、さらには集団活動を通して、大学や学科への帰属意識を高めるきっかけとすることを目的とする。(人間生活学部の学位授与方針1.に該当)

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、2～5週を単位に協働型および競争型の集団スポーツをおこなう。多様なスポーツを楽しみながら、仲間との交流を深める。

授業の方法 (ALを含む)

毎回1つのスポーツ種目を取り上げて、実践する。

到達目標

- 1.グループで協力して活動し、リーダーシップを育み、幅広い交友関係を構築する
- 2.豊かな人間性・感受性を醸成する
- 3.学生生活を活発・健全に送るための体力をつける
- 4.生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

身体運動Iでは、スポーツを通じた仲間作りを目標に、スポーツやレクリエーション活動、リズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」など、主体的な活動を積極的に取り入れ、授業を進める。

【第1週】オリエンテーション（運動できる服装に着替えて集合）

【第2週】体力測定

【第3週～】実技（レクリエーションスポーツなど）

【第5週～】実技（ボールゲームなど）

【第11週～】実技（ニュースポーツなど）

【第15週】まとめ

受講者数などにより内容が変更になる場合もある。

運動に適した服装でなければ出席と認めない。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）60%、毎回のまとめ（振り返りシート）20%、実技テスト20%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却し、実技テストにはテスト終了後にコメントをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講学生同士の積極的な交流を期待する。

科目名	身体運動		
担当教員名	相馬 満利、飯田 路佳		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目（N/E/S）-身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	ACクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許取得のための必修科目である。体育実技（運動）を通して、受講生相互の活発なコミュニケーションを生み出すことで、大学生活における修学の基礎を育むこと、さらには集団活動を通して、大学や学科への帰属意識を高めるきっかけとすることを目的とする。（人間生活学部の学位授与方針1．に該当）

科目の概要

スポーツを通じて、心を豊に、体を動かす楽しさや自己表現力を養い、より学生とのコミュニケーションを密に行い、人間形成に努めた。意図的に体を動かすことは、更なる運動能力や運動技能の向上を促し、体力の向上につながっていく。同時に、病気から体を守る体力を強化してより健康な状態をつくり、高まった体力は人としての活動を支えることとなる。体を動かすことによって得られる体力は、意欲や気力の充実に大きくかかわっており、人間の発達・成長を支える基本的な要素であるため、重要であると考えられる。

授業の方法（ALを含む）

毎回1つのスポーツ種目を取り上げて、実践する。

到達目標

- 1.グループで協力して活動し、リーダーシップを育み、幅広い交友関係を構築する
- 2.豊かな人間性・感受性を醸成する
- 3.学生生活を活発・健全に送るための体力をつける
- 4.生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

協同する力・前を向く力・心身の健康

内容

身体運動Iでは、スポーツを通じた仲間作りを目標に、スポーツやレクリエーション活動、リズムエクササイズ、球技等

を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」など、主体的な活動を積極的に取り入れ、授業を進める。

1	オリエンテーション(飯田・相馬)
2	体力測定(飯田・相馬)
3	ボールゲーム 1 (飯田・相馬)
4	ボールゲーム 2 (飯田・相馬)
5	ボールゲーム 3 (飯田・相馬)
6	ボールゲーム 4 (飯田・相馬)
7	ボールゲーム 5 (飯田・相馬)
8	ニュースポーツ 1 (飯田・相馬)
9	ニュースポーツ 2 (飯田・相馬)
10	集団スポーツ(飯田・相馬)
11	集団スポーツ(飯田・相馬)
12	集団スポーツ(飯田・相馬)
13	集団スポーツ(飯田・相馬)
14	集団スポーツ(飯田・相馬)
15	スポーツ大会、まとめ(飯田・相馬)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する(60分)

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる(60分)

評価方法および評価の基準

平常点(授業に対する意欲、関心、態度を含む)60%、毎回のまとめ(振り返りシート)20%、実技テスト20%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却し、実技テストにはテスト終了後にコメントをおこなう。到達目標の評価方法は、リアクションペーパーで評価することとする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品(ピアスやネックレス等)は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講生同士の積極的な交流を期待する。

科目名	身体運動		
担当教員名	扇原 淳		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	BAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

日本テニール協会上級公認指導者としての活動・経験の内容を取り込んでいる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

体育の実技科目です。身体運動を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学生生活に臨む修学態度の基礎を養います。また、一部健康運動実践指導者受験資格取得のために必要な授業内容です。

科目の概要

2~5週を単位に数種類の体育実技を行います。協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、学科内の交流を深める機会を提供します。身体を動かすことの楽しさ、仲間とともに戦術を練る楽しさを味わい、人間と運動との関係を学びます。

授業の方法 (ALを含む)

種目ごとにグループをつくり、各グループで協力・工夫しながらゲームを進めます。【実技】【グループワーク】【PBL】

学修目標 (到達目標)

- (1)身体を動かすことの楽しさを五感で感じ取ることができる。
- (2)体を動かす仕組みが理解できる。
- (3)仲間と一緒に運動・スポーツを楽しむ方法が理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

共通科目のディプロマポリシーと特に関係するのは、
-3協働する力、 -1前を向く力、そして -1心身の健康
です。

内容

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前日7時以上の睡眠、バランスの取れた食事を摂取するなど、体調を整えておく (45分)

【事後学修】授業を通じて感じた体の使い方や運動・スポーツの楽しみ方を書き留め、生涯を通じた運動・スポーツの楽しみ方の理解を深める（15分）

評価方法および評価の基準

授業ごとの振り返りを含む平常点を80%、最終レポートを20%として、総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考資料】授業中に配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施します。グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意してください。見学者も運動できる服装に着替えて出席してください。実技科目のため、授業への出席を重視します。平常点では、技能レベルや勝敗、記録での評価は行いません。欠席が4回を超える場合は、評価の対象としません。授業開始時刻から20分以上の遅刻と早退については、2回で欠席1回分とします。やむを得ない理由で見学の場合は、出席とみなす場合があります。

科目名	身体運動		
担当教員名	扇原 淳		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	BBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

日本テニール協会上級公認指導者としての活動・経験の内容を取り込んでいる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

体育の実技科目です。身体運動を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学生生活に臨む修学態度の基礎を養います。また、一部健康運動実践指導者受験資格取得のために必要な授業内容です。

科目の概要

2~5週を単位に数種類の体育実技を行います。協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、学科内の交流を深める機会を提供します。身体を動かすことの楽しさ、仲間とともに戦術・戦略を考える楽しさを味わい、人間と運動との関係、子どもたちに伝えるための基礎知識を学びます。

授業の方法 (ALを含む)

種目ごとにグループをつくり、各グループで協力・工夫しながらゲームを進めます。【実技】【グループワーク】【PBL】

学修目標 (到達目標)

- (1)身体を動かすことの楽しさを五感で感じ取ることができる。
- (2)体を動かす仕組みが理解できる。
- (3)仲間と一緒に運動・スポーツを楽しむ方法が理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

共通科目のディプロマポリシーと特に関係するのは、
-3協働する力、 -1前を向く力、そして -1心身の健康
です。

内容

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前日7時以上の睡眠、バランスの取れた食事を摂取するなど、体調を整えておく (45分)

【事後学修】授業を通じて感じた体の使い方や運動・スポーツの楽しみ方を書き留め、生涯を通じた運動・スポーツの楽しみ方の理解を深める（15分）

評価方法および評価の基準

授業ごとの振り返りを含む平常点を80%，最終レポートを20%として，総合評価60点以上を合格とします．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考資料】授業中に配布します．

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施します．グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意してください．見学者も運動できる服装に着替えて出席してください．実技科目のため，授業への出席を重視します．平常点では，技能レベルや勝敗，記録での評価は行いません．欠席が4回を超える場合は，評価の対象としません．授業開始時刻から20分以上の遅刻と早退については，2回で欠席1回分とします．やむを得ない理由で見学の場合は，出席とみなす場合があります．

科目名	身体運動		
担当教員名	扇原 淳		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	BCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

日本テニール協会上級公認指導者としての活動・経験の内容を取り込んでいる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

体育の実技科目です。身体運動を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学生生活に臨む修学態度の基礎を養います。また、一部健康運動実践指導者受験資格取得のために必要な授業内容です。

科目の概要

2~5週を単位に数種類の体育実技を行います。協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、学科内の交流を深める機会を提供します。身体を動かすことの楽しさ、仲間とともに戦術・戦略を考える楽しさを味わい、人間と運動との関係、子どもたちに伝えるための基礎知識を学びます。

授業の方法 (ALを含む)

種目ごとにグループをつくり、各グループで協力・工夫しながらゲームを進めます。【実技】【グループワーク】【PBL】

学修目標 (到達目標)

- (1)身体を動かすことの楽しさを五感で感じ取ることができる。
- (2)体を動かす仕組みが理解できる。
- (3)仲間と一緒に運動・スポーツを楽しむ方法が理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

共通科目のディプロマポリシーと特に関係するのは、
-3協働する力、 -1前を向く力、そして -1心身の健康
です。

内容

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前日7時以上の睡眠、バランスの取れた食事を摂取するなど、体調を整えておく (45分)

【事後学修】授業を通じて感じた体の使い方や運動・スポーツの楽しみ方を書き留め、生涯を通じた運動・スポーツの楽しみ方の理解を深める（15分）

評価方法および評価の基準

授業ごとの振り返りを含む平常点を80%、最終レポートを20%として、総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考資料】授業中に配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施します。グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意してください。見学者も運動できる服装に着替えて出席してください。実技科目のため、授業への出席を重視します。平常点では、技能レベルや勝敗、記録での評価は行いません。欠席が4回を超える場合は、評価の対象としません。授業開始時刻から20分以上の遅刻と早退については、2回で欠席1回分とします。やむを得ない理由で見学の場合は、出席とみなす場合があります。

科目名	身体運動		
担当教員名	神田 俊平		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	CAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許取得のための必修科目である。この科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1.2.3を踏まえて実施する。体育実技(運動)を通して、受講生相互の活発なコミュニケーションを生み出すことで、大学生活における修学の基礎を育むこと、さらには集団活動を通して、大学や学科への帰属意識を高めるきっかけとすることを目的とする。

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、2～5週を単位に協働型および競争型の集団スポーツをおこなう。多様なスポーツを楽しみながら、仲間との交流を深める。

授業の方法 (ALを含む)

毎回1つのスポーツ種目を取り上げて、実践する。【実技】

到達目標

- 1.グループで協力して活動し、リーダーシップを育み、幅広い交友関係を構築する
- 2.豊かな人間性・感受性を醸成する
- 3.学生生活を活発・健全に送るための体力をつける
- 4.生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

身体運動Iでは、スポーツを通じた仲間作りを目標に、スポーツやレクリエーション活動、リズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」など、主体的な活動を積極的に取り入れ、授業を進める。

【第1週】オリエンテーション（運動できる服装に着替えて集合）

【第2週】体力測定【実技】

【第3週～】実技（レクリエーションスポーツなど）【実技】

【第5週～】実技（ボールゲームなど）【実技】

【第11週～】実技（ニュースポーツなど）【実技】

【第15週】まとめ

受講者数などにより内容が変更になる場合もある。

運動に適した服装でなければ出席と認めない。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）60%、毎回のまとめ（振り返りシート）20%、実技テスト20%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。それぞれの評価については、到達目標に沿って行う。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却し、実技テストにはテスト終了後にコメントをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講学生同士の積極的な交流を期待する。

科目名	身体運動		
担当教員名	清水 文子		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	DAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科で実技指導に携わっている経験を活かし、種目の基礎及び身体運動の必要性を学生自身が体感できる指導を行なう。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

ウォーミングアップにリズムエクササイズを行う他、様々な種目を楽しみながらしっかりと運動量を確保する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、体育実技を中心に授業を展開する。また授業終盤に縄跳びの実施試験を行なう。授業のまとめとして課題を設定しレポート提出を行なう。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を体感するとともに、自らの身体についての気づきを深める。
2. コミュニケーション能力を養い、仲間とともに時間と空間を共有する喜びを感じる心を育てる。
3. スポーツが得意な人は不得意な人のフォローができるように、不得意な人は、苦手意識を克服できるように (無理のない程度に) 努力する。
4. 和やかにかつ前向きに取り組む姿勢を育て、学生生活の活性化および体力増進をはかれるようにする。
5. 卒業しても何らかの身体活動に興味を持てるよう、生涯スポーツへの動機付けとなるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通選択科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 3 協働する力 - 1 前を向く力 - 1 心身の健康

内容

スポーツを通じた仲間作りを目標に、ニュースポーツをはじめとした様々なレクリエーションスポーツやリズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気づく」「考える」「工夫する」「話し合う」等を積極的に取り入れ、授業を進めて行く。また、ストレッチ、リズムエクササイズ、マッサージ等は、ウォームアップやクーリングダウンとして毎時取り入れ、爽快感、ストレス解消、気分転換等、スポーツの価値をこころとからだ全体で実感するようにする。

第1週 オリエンテーション（授業のねらい、内容説明、運動調査等）

（w-up リズムエクササイズ、c-dnストレッチは毎回）

第2週？ 実技（コミュニケーションゲーム・ボールトレーニングなど）

第4週？ 実技（ネット型ゲーム・ゴール型ゲーム等各種競技など）

第11週？ 実技（リズムエクササイズ、筋力トレーニング、縄跳びなど）

第15週 まとめ

受講者数などにより、内容が変更される場合もある。

運動の際の服、靴などは必ずふさわしいものを着用しなければ出席と認めない。

30分以上遅れた場合は欠席とする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組、協調性、意欲や関心）50%、毎回の学習シート記入30%、試験（レポート）20%による評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

2) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

3) 学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし。（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨む「こと。

見学者も運動着に着替えて出席する。

科目名	身体運動		
担当教員名	清水 文子		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	DBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科で実技指導に携わっている経験を活かし、種目の基礎及び身体運動の必要性を学生自身が体感できる指導を行なう。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

ウォーミングアップにリズムエクササイズを行う他、様々な種目を楽しみながらしっかりと運動量を確保する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、体育実技を中心に授業を展開する。また授業終盤に縄跳びの実施試験を行なう。授業のまとめとして課題を設定しレポート提出を行なう。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を体感するとともに、自らの身体についての気づきを深める。
2. コミュニケーション能力を養い、仲間とともに時間と空間を共有する喜びを感じる心を育てる。
3. スポーツが得意な人は不得意な人のフォローができるように、不得意な人は、苦手意識を克服できるように (無理のない程度に) 努力する。
4. 和やかにかつ前向きに取り組む姿勢を育て、学生生活の活性化および体力増進をはかれるようにする。
5. 卒業しても何らかの身体活動に興味を持てるよう、生涯スポーツへの動機付けとなるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通選択科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 3 協働する力 - 1 前を向く力 - 1 心身の健康

内容

スポーツを通じた仲間作りを目標に、ニュースポーツをはじめとした様々なレクリエーションスポーツやリズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気づく」「考える」「工夫する」「話し合う」等を積極的に取り入れ、授業を進めて行く。また、ストレッチ、リズムエクササイズ、マッサージ等は、ウォームアップやクーリングダウンとして毎時取り入れ、爽快感、ストレス解消、気分転換等、スポーツの価値をこころとからだ全体で実感するようにする。

第1週 オリエンテーション（授業のねらい、内容説明、運動調査等）

（w-up リズムエクササイズ、c-dnストレッチは毎回）

第2週？ 実技（コミュニケーションゲーム・ボールトレーニングなど）

第4週？ 実技（ネット型ゲーム・ゴール型ゲーム等各種競技など）

第11週？ 実技（リズムエクササイズ、筋力トレーニング、縄跳びなど）

第15週 まとめ

受講者数などにより、内容が変更される場合もある。

運動の際の服、靴などは必ずふさわしいものを着用しなければ出席と認めない。

30分以上遅れた場合は欠席とする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組、協調性、意欲や関心）50%、毎回の学習シート記入30%、試験（レポート）20%による評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

2) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

3) 学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし。（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨む「こと。

見学者も運動着に着替えて出席する。

科目名	身体運動		
担当教員名	藤生 栄一郎、渡邊 孝枝、増田 未来		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目（N/E/S）-身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	EAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

乳幼児期から青年期に至るまで、多様なフィールドでのスポーツやダンスの指導経験のある教員が授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。

体育の実技科目を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、入学直後の学生が学科内の交流を深める機会を提供する。

授業の方法

2～5週を単位に数種類の体育実技を行う。【実技】【グループワーク】

授業終了後に毎回、リアクションペーパーの記入を求め、翌週以降にフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

到達目標

- 1、身体を動かすことの楽しさを感じ、自分や他者のからだについて気づきを深めること。
- 2、仲間との交流を深めながら協働し、協調性を高めること。
- 3、グループ活動においては、経験の有無にかかわらず、皆楽しむことができるように活動のしかたやルールを工夫すること。

ディプロマ・ポリシーとの関連

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

授業は実技中心です。上手・下手は問いません。自ら進んで身体を動かして下さい。多くの人と分け隔てなく協力し、友達を増やして下さい。

第1週 イン트로ダクション（渡邊・藤生・増田）@メインアリーナ 【グループワーク】【リアクションペーパー】

第2週～第8週 レクリエーションとダンス（渡邊・増田）@サブアリーナ 【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第9週～第15週 バレーボールを中心とした球技各種（藤生）@メインアリーナ 【実技】【グループワーク】【リアク

ションペーパー】

天候と進度、人数に応じて授業内容や順序を変更します。

ゼッケン着用（ゼッケンの作り方は初回授業で案内しますので、2回目の授業までに用意してください。）

第8週と第9週の間で担当教員が変わります。

グラウンドを使用することもありますので、前の週の指示に従い靴の用意をしてください。

< 初回授業の案内 >

運動できる格好で、体育館シューズを用意してください。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 授業で取り組むスポーツについて調べ、文献等の自主的な購読を行う（60分）

【事後学修】 継続可能な運動を見つけ、生き生きと学生生活を送るための体づくりを日々心がける。また、授業の内容や調べたことのまとめを行う。（60分）

評価方法および評価の基準

平常点：授業への参加度（運動への取組み、積極性など）60点、リアクションペーパー20点、実技のまとめ20点として、総合的に評価。60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度 20点 / 60点、リアクションペーパー 10点 / 20点

到達目標 2) 授業への参加度 20点 / 60点、リアクションペーパー 10点 / 20点

到達目標 3) 授業への参加度 20点 / 60点、実技のまとめ 20点

【フィードバック】 毎時提出するリアクションペーパーは、コメントをつけ翌週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	藤生 栄一郎、渡邊 孝枝、増田 未来		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目（N/E/S）-身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	EBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

乳幼児期から青年期に至るまで、多様なフィールドでのスポーツやダンスの指導経験のある教員が授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。

体育の実技科目を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、入学直後の学生が学科内の交流を深める機会を提供する。

授業の方法

2～5週を単位に数種類の体育実技を行う。【実技】【グループワーク】

授業終了後に毎回、リアクションペーパーの記入を求め、翌週以降にフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

到達目標

- 1、身体を動かすことの楽しさを感じ、自分や他者のからだについて気づきを深めること。
- 2、仲間との交流を深めながら協働し、協調性を高めること。
- 3、グループ活動においては、経験の有無にかかわらず、皆楽しむことができるように活動のしかたやルールを工夫すること。

ディプロマ・ポリシーとの関連

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

授業は実技中心です。上手・下手は問いません。自ら進んで身体を動かして下さい。多くの人と分け隔てなく協力し、友達を増やして下さい。

第1週 イン트로ダクション（渡邊・藤生・増田）@メインアリーナ 【グループワーク】【リアクションペーパー】

第2週～第8週 バレーボールを中心とした球技各種（藤生）@メインアリーナ 【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第9週～第15週 レクリエーションとダンス（渡邊・増田）@サブアリーナ 【実技】【グループワーク】【リアクシ

ンペーパー】

天候と進度、人数に応じて授業内容や順序を変更します。

ゼッケン着用（ゼッケンの作り方は初回授業で案内しますので、2回目の授業までに用意してください。）

第8週と第9週の間で担当教員が変わります。

グラウンドを使用することもありますので、前の週の指示に従い靴の用意をしてください。

< 初回授業の案内 >

運動できる格好で、体育館シューズを用意してください。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 授業で取り組むスポーツについて調べ、文献等の自主的な購読を行う（60分）

【事後学修】 継続可能な運動を見つけ、生き生きと学生生活を送るための体づくりを日々心がける。また、授業の内容や調べたことのまとめを行う。（60分）

評価方法および評価の基準

平常点：授業への参加度（運動への取組み、積極性など）60点、リアクションペーパー20点、実技のまとめ20点として、総合的に評価。60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度 20点 / 60点、リアクションペーパー 10点 / 20点

到達目標 2) 授業への参加度 20点 / 60点、リアクションペーパー 10点 / 20点

到達目標 3) 授業への参加度 20点 / 60点、実技のまとめ 20点

【フィードバック】 毎時提出するリアクションペーパーは、コメントをつけ翌週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	藤生 栄一郎、渡邊 孝枝、増田 未来		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目（N/E/S）-身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	ECクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

乳幼児期から青年期に至るまで、多様なフィールドでのスポーツやダンスの指導経験のある教員が授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。

体育の実技科目を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、入学直後の学生が学科内の交流を深める機会を提供する。

授業の方法

2～5週を単位に数種類の体育実技を行う。【実技】【グループワーク】

授業終了後に毎回、リアクションペーパーの記入を求め、翌週以降にフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

到達目標

- 1、身体を動かすことの楽しさを感じ、自分や他者のからだについて気づきを深めること。
- 2、仲間との交流を深めながら協働し、協調性を高めること。
- 3、グループ活動においては、経験の有無にかかわらず、皆楽しむことができるように活動のしかたやルールを工夫すること。

ディプロマ・ポリシーとの関連

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

授業は実技中心です。上手・下手は問いません。自ら進んで身体を動かして下さい。多くの人と分け隔てなく協力し、友達を増やして下さい。

第1週 イン트로ダクション（渡邊・藤生・増田）@メインアリーナ 【グループワーク】【リアクションペーパー】

第2週～第8週 レクリエーションとダンス（渡邊・増田）@サブアリーナ 【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第9週～第15週 バレーボールを中心とした球技各種（藤生）@メインアリーナ 【実技】【グループワーク】【リアク

ションペーパー】

天候と進度、人数に応じて授業内容や順序を変更します。

ゼッケン着用（ゼッケンの作り方は初回授業で案内しますので、2回目の授業までに用意してください。）

第8週と第9週の間で担当教員が変わります。

グラウンドを使用することもありますので、前の週の指示に従い靴の用意をしてください。

< 初回授業の案内 >

運動できる格好で、体育館シューズを用意してください。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 授業で取り組むスポーツについて調べ、文献等の自主的な購読を行う（60分）

【事後学修】 継続可能な運動を見つけ、生き生きと学生生活を送るための体づくりを日々心がける。また、授業の内容や調べたことのまとめを行う。（60分）

評価方法および評価の基準

平常点：授業への参加度（運動への取組み、積極性など）60点、リアクションペーパー20点、実技のまとめ20点として、総合的に評価。60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度 20点 / 60点、リアクションペーパー 10点 / 20点

到達目標 2) 授業への参加度 20点 / 60点、リアクションペーパー 10点 / 20点

到達目標 3) 授業への参加度 20点 / 60点、実技のまとめ 20点

【フィードバック】 毎時提出するリアクションペーパーは、コメントをつけ翌週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	藤生 栄一郎、渡邊 孝枝、増田 未来		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	EDクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

乳幼児期から青年期に至るまで、多様なフィールドでのスポーツやダンスの指導経験のある教員が授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。

体育の実技科目を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、入学直後の学生が学科内の交流を深める機会を提供する。

授業の方法

2~5週を単位に数種類の体育実技を行う。【実技】【グループワーク】

授業終了後に毎回、リアクションペーパーの記入を求め、翌週以降にフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

到達目標

- 1、身体を動かすことの楽しさを感じ、自分や他者のからだについて気づきを深めること。
- 2、仲間との交流を深めながら協働し、協調性を高めること。
- 3、グループ活動においては、経験の有無にかかわらず、皆楽しむことができるように活動のしかたやルールを工夫すること。

ディプロマ・ポリシーとの関連

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

授業は実技中心です。上手・下手は問いません。自ら進んで身体を動かして下さい。多くの人と分け隔てなく協力し、友達を増やして下さい。

第1週 イン트로ダクション (渡邊・藤生・増田) @メインアリーナ 【グループワーク】【リアクションペーパー】

第2週~第8週 バレーボールを中心とした球技各種 (藤生) @メインアリーナ 【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第9週~第15週 レクリエーションとダンス (渡邊・増田) @サブアリーナ 【実技】【グループワーク】【リアクシ

ンペーパー】

天候と進度、人数に応じて授業内容や順序を変更します。

ゼッケン着用（ゼッケンの作り方は初回授業で案内しますので、2回目の授業までに用意してください。）

第8週と第9週の間で担当教員が変わります。

グラウンドを使用することもありますので、前の週の指示に従い靴の用意をしてください。

< 初回授業の案内 >

運動できる格好で、体育館シューズを用意してください。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 授業で取り組むスポーツについて調べ、文献等の自主的な購読を行う（60分）

【事後学修】 継続可能な運動を見つけ、生き生きと学生生活を送るための体づくりを日々心がける。また、授業の内容や調べたことのまとめを行う。（60分）

評価方法および評価の基準

平常点：授業への参加度（運動への取組み、積極性など）60点、リアクションペーパー20点、実技のまとめ20点として、総合的に評価。60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度 20点 / 60点、リアクションペーパー 10点 / 20点

到達目標 2) 授業への参加度 20点 / 60点、リアクションペーパー 10点 / 20点

到達目標 3) 授業への参加度 20点 / 60点、実技のまとめ 20点

【フィードバック】 毎時提出するリアクションペーパーは、コメントをつけ翌週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	FAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

・小学校教員として体育科実技指導に携わった経験を持つ教員が担当し、指導内容に小学校の体育教材を含めるとともに、児童を対象とした指導法の基礎に関する学びについても取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生それぞれがコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養うことを支援する。教員免許取得に関する必修科目のため、児童教育学科対象クラスは小学校体育科運動教材の学び直しも行う。

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、2～5週を単位に数種類の体育実技を行う。協働型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、入学直後の学生が学科内の交流を深める機会を提供する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、体育実技を中心に授業を展開する。また、授業終盤には長縄跳びを題材にグループで演技を創作発表する活動を実施する。授業のまとめとして筆記による試験を行う。【実技】【創作、制作】【レポート(知識)】

学修目標(到達目標)

- 1) 身体を動かすことの楽しさを体感し、身体技能や体力の維持・向上を図る。
- 2) 自らと他者の身体についての気づきを深め、理解するとともに、言葉で表現することができる。
- 3) 小・中・高校と学習してきた「体育」という教科についての考え方を振り返る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

1	オリエンテーション(グループ作り・授業概要説明・長なわとび) 【実技】
2	長なわとび (8の字とび:かぶりとび&むかえとび、ダブルダッチ)、マット運動(前転) 【実技】
3	長なわとび (ダブルダッチ、ひょうたんとび、十字とび)、マット運動(後転) 【実技】
4	短なわとび(30秒早とび、かえしとび、2重とび)、マット運動(壁逆立ち、側転) 【実技】
5	卓球 (個人技能練習:サーブ、ラリーの継続) 【実技】
6	卓球 (トーナメント大会:ダブルス戦) 【実技】
7	野球型ボール運動 (チーム作り、基本練習)、鉄棒運動(前回り、逆上がり) 【実技】

8	野球型ボール運動（チーム練習、練習試合）、鉄棒運動（前回り、逆上がり）【実技】
9	ソフトバレーボール（チーム作り、個人技能練習：パス、サーブ）【実技】
10	ソフトバレーボール（チーム練習：連係プレーとスパイク、練習試合）【実技】
11	ソフトバレーボール（チーム対抗リーグ戦）【実技】
12	長なわパフォーマンス（創作なわとび演技作り）、跳び箱運動（開脚とび）【実技】【創作・制作】
13	長なわパフォーマンス（創作なわとび演技作り）【実技】【創作・制作】
14	長なわパフォーマンス（発表会）【実技】【創作・制作】
15	まとめ【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）。

【事後学修】毎回の授業内容をノートや学習カードに整理する（60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組、協働性、意欲と関心）50%、ノート整理（提出2回）30%、試験（レポート）20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度（30%/50%） ノート整理（10%/30%）

到達目標 2) 授業への参加度（20%/50%） ノート整理（10%/30%） 試験orレポート（10%/20%）

到達目標 3) ノート整理（10%/30%） 試験orレポート（10%/20%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認を行い学習理解を深める。提出したノートはコメントを記載し翌週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配付する

【推薦書】高橋健夫、他編著『すべての子どもが必ずできる 体育の基本』 学研教育みらい

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施するため、グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意すること。見学者も運動着に着替えて出席する。

毎時間、授業ノート（ルーズリーフ不可）と筆記具を用意すること。

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	FBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

・小学校教員として体育科実技指導に携わった経験を持つ教員が担当し、指導内容に小学校の体育教材を含めるとともに、児童を対象とした指導法の基礎に関する学びについても取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生それぞれがコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養うことを支援する。教員免許取得に関する必修科目のため、児童教育学科対象クラスは小学校体育科運動教材の学び直しも行う。

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、2～5週を単位に数種類の体育実技を行う。協働型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、入学直後の学生が学科内の交流を深める機会を提供する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、体育実技を中心に授業を展開する。また、授業終盤には長縄跳びを題材にグループで演技を創作発表する活動を実施する。授業のまとめとして筆記による試験を行う。【実技】【創作、制作】【レポート(知識)】

学修目標(到達目標)

- 1) 身体を動かすことの楽しさを体感し、身体技能や体力の維持・向上を図る。
- 2) 自らと他者の身体についての気づきを深め、理解するとともに、言葉で表現することができる。
- 3) 小・中・高校と学習してきた「体育」という教科についての考え方を振り返る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

1	オリエンテーション(グループ作り・授業概要説明・長なわとび) 【実技】
2	長なわとび (8の字とび:かぶりとび&むかえとび、ダブルダッチ)、マット運動(前転) 【実技】
3	長なわとび (ダブルダッチ、ひょうたんとび、十字とび)、マット運動(後転) 【実技】
4	短なわとび(30秒早とび、かえしとび、2重とび)、マット運動(壁逆立ち、側転) 【実技】
5	卓球 (個人技能練習:サーブ、ラリーの継続) 【実技】
6	卓球 (トーナメント大会:ダブルス戦) 【実技】
7	野球型ボール運動 (チーム作り、基本練習)、鉄棒運動(前回り、逆上がり) 【実技】

8	野球型ボール運動（チーム練習、練習試合）、鉄棒運動（前回り、逆上がり）【実技】
9	ソフトバレーボール（チーム作り、個人技能練習：パス、サーブ）【実技】
10	ソフトバレーボール（チーム練習：連係プレーとスパイク、練習試合）【実技】
11	ソフトバレーボール（チーム対抗リーグ戦）【実技】
12	長なわパフォーマンス（創作なわとび演技作り）、跳び箱運動（開脚とび）【実技】【創作・制作】
13	長なわパフォーマンス（創作なわとび演技作り）【実技】【創作・制作】
14	長なわパフォーマンス（発表会）【実技】【創作・制作】
15	まとめ【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）。

【事後学修】毎回の授業内容をノートや学習カードに整理する（60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組、協働性、意欲と関心）50%、ノート整理（提出2回）30%、試験（レポート）20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度（30%/50%） ノート整理（10%/30%）

到達目標 2) 授業への参加度（20%/50%） ノート整理（10%/30%） 試験orレポート（10%/20%）

到達目標 3) ノート整理（10%/30%） 試験orレポート（10%/20%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認を行い学習理解を深める。提出したノートはコメントを記載し翌週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配付する

【推薦書】高橋健夫、他編著『すべての子どもが必ずできる 体育の基本』 学研教育みらい

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施するため、グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意すること。見学者も運動着に着替えて出席する。

毎時間、授業ノート（ルーズリーフ不可）と筆記具を用意すること。

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	GAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども大学わこうでのレクリエーション活動、および和光市の生涯学習指導者研修会におけるアイスブレイク講義の内容を取り込んでいる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

体育の実技科目である。養護教諭免許取得に関する必修科目にもなっている。

身体運動を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、
大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

2~5週を単位に数種類の体育実技を行う。協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、学科内の交流を深める機会を提供する。さらに身体を動かすことの楽しさを味わい、子どもたちに伝えるための基礎知識も学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

種目ごとに班をつくり、各班で協力・工夫しながらゲームを進める。【実技】【グループワーク】【PBL】

学修目標 (到達目標)

- (1) 「身体を動かすことの楽しさ」を体感するとともに、自らと他者の身体についての気づきを深める。
- (2) 「できなかったことができるようになる」嬉しさを多く味わう。
- (3) 参加者全員が楽しめるよう、「ゲームやルールの工夫」を柔軟に行う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

共通科目のディプロマポリシーと特に関係するのは、
-3協働する力、 -1前を向く力、そして -1心身の健康
である。

内容

授業は実技中心です。上手・下手は問いません。自ら進んで身体を動かして下さい。各種目は2~5週ずつ行います。種目ごとに班を変えますので、多くの人と分け隔てなく協力し、友達を増やして下さい。

予定種目 (カッコ内は予定回数) : イントロダクション(1), レクリエーションゲーム(2), ティーボール(4), ジ

ャグリング(2), バレーボール(5), 予備(1)。

天候と進度, 人数に応じて授業内容や順序を変更します。天候によってグラウンドか体育館を使いますので, 毎週, グラウンド用, 体育館用2種類の靴を用意して下さい。また, 前後に名前をはっきり書いたゼッケンを毎回着用すること(ゼッケンの作り方を初回授業で案内しますので, 2回目の授業までに用意して下さい)。

<初回授業の案内>

初回授業はサブアリーナ(記念ホール1F)で行います。運動できる格好で, 体育館シューズを用意すること。また, なるべくカラフルな筆記用具を持参して下さい。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】十分な睡眠時間を確保し, 朝食を摂り, 運動できる体調を整えておく[45分]。

【事後学修】実技を通じて体感した「気付き」を書き留め, 自らの身体についての理解を深める[15分]。

評価方法および評価の基準

初回授業でこの科目のシャトルカードを配布する。これに毎回の実技内容と, 自らの気付きを記入し, 毎回提出する。これらにより, 学修目標の を評価する。実技中の発言などにより, 学修目標 を評価する。シャトルカード50%と平常点50%を総合して評価し, 合計60%以上を合格とする。平常点では技能レベルや勝敗, 記録での評価はしない。欠席が4回を超える場合には評価の対象としない。また遅刻・早退は2回で欠席1回分に数える。やむを得ぬ理由のある見学は出席とみなすことがある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】バーバラ・コナブル 『音楽家ならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』 誠信書房

演奏家向けの本ですが, 身体が動く仕組みが「図入りで分かりやすく」書いてあります。自分の身体に備わる筋肉と骨格の構造を知るだけでも, 運動に対する視点が柔軟になり, 自然と自分(と自分の身体)が好きになります。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	GBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども大学わこうでのレクリエーション活動、および和光市の生涯学習指導者研修会におけるアイスブレイク講義の内容を取り込んでいる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

体育の実技科目である。養護教諭免許取得に関する必修科目にもなっている。

身体運動を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

2~5週を単位に数種類の体育実技を行う。協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、学科内の交流を深める機会を提供する。さらに身体を動かすことの楽しさを味わい、子どもたちに伝えるための基礎知識も学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

種目ごとに班をつくり、各班で協力・工夫しながらゲームを進める。【実技】【グループワーク】【PBL】

学修目標 (到達目標)

- (1) 「身体を動かすことの楽しさ」を体感するとともに、自らと他者の身体についての気づきを深める。
- (2) 「できなかったことができるようになる」嬉しさを多く味わう。
- (3) 参加者全員が楽しめるよう、「ゲームやルールの工夫」を柔軟に行う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

共通科目のディプロマポリシーと特に関係するのは、
-3協働する力、 -1前を向く力、そして -1心身の健康である。

内容

授業は実技中心です。上手・下手は問いません。自ら進んで身体を動かして下さい。各種目は2~5週ずつ行います。種目ごとに班を変えますので、多くの人と分け隔てなく協力し、友達を増やして下さい。

予定種目 (カッコ内は予定回数) : イントロダクション(1), レクリエーションゲーム(2), ティーボール(4), ジ

ャグリング(2), バレーボール(5), 予備(1)。

天候と進度, 人数に応じて授業内容や順序を変更します。天候によってグラウンドか体育館を使いますので, 毎週, グラウンド用, 体育館用2種類の靴を用意して下さい。また, 前後に名前をはっきり書いたゼッケンを毎回着用すること(ゼッケンの作り方を初回授業で案内しますので, 2回目の授業までに用意して下さい)。

< 初回授業の案内 >

初回授業はメインアリーナ(記念ホール1F)で行います。運動できる格好で, 体育館シューズを用意すること。また, なるべくカラフルな筆記用具を持参して下さい。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】十分な睡眠時間を確保し, 朝食を摂り, 運動できる体調を整えておく[45分]。

【事後学修】実技を通じて体感した「気付き」を書き留め, 自らの身体についての理解を深める[15分]。

評価方法および評価の基準

初回授業でこの科目のシャトルカードを配布する。これに毎回の実技内容と, 自らの気付きを記入し, 毎回提出する。これらにより, 学修目標の を評価する。実技中の発言などにより, 学修目標 を評価する。シャトルカード50%と平常点50%を総合して評価し, 合計60%以上を合格とする。平常点では技能レベルや勝敗, 記録での評価はしない。欠席が4回を超える場合には評価の対象としない。また遅刻・早退は2回で欠席1回分に数える。やむを得ぬ理由のある見学は出席とみなすことがある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】バーバラ・コナブル 『音楽家ならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』 誠信書房

演奏家向けの本ですが, 身体が動く仕組みが「図入りで分かりやすく」書いてあります。自分の身体に備わる筋肉と骨格の構造を知るだけでも, 運動に対する視点が柔軟になり, 自然と自分(と自分の身体)が好きになります。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	GCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども大学わこうでのレクリエーション活動、および和光市の生涯学習指導者研修会におけるアイスブレイク講義の内容を取り込んでいる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

体育の実技科目である。養護教諭免許取得に関する必修科目にもなっている。

身体運動を通じて、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

2~5週を単位に数種類の体育実技を行う。協同型および競争型のスポーツやレクリエーション活動を織り交ぜ、学科内の交流を深める機会を提供する。さらに身体を動かすことの楽しさを味わい、子どもたちに伝えるための基礎知識も学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

種目ごとに班をつくり、各班で協力・工夫しながらゲームを進める。【実技】【グループワーク】【PBL】

学修目標 (到達目標)

- (1) 「身体を動かすことの楽しさ」を体感するとともに、自らと他者の身体についての気づきを深める。
- (2) 「できなかったことができるようになる」嬉しさを多く味わう。
- (3) 参加者全員が楽しめるよう、「ゲームやルールの工夫」を柔軟に行う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

共通科目のディプロマポリシーと特に関係するのは、
-3協働する力、 -1前を向く力、そして -1心身の健康である。

内容

授業は実技中心です。上手・下手は問いません。自ら進んで身体を動かして下さい。各種目は2~5週ずつ行います。種目ごとに班を変えますので、多くの人と分け隔てなく協力し、友達を増やして下さい。

予定種目 (カッコ内は予定回数) : イントロダクション(1), レクリエーションゲーム(2), ティーボール(4), ジ

ャグリング(2), バレーボール(5), 予備(1)。

天候と進度, 人数に応じて授業内容や順序を変更します。天候によってグラウンドか体育館を使いますので, 毎週, グラウンド用, 体育館用2種類の靴を用意して下さい。また, 前後に名前をはっきり書いたゼッケンを毎回着用すること(ゼッケンの作り方を初回授業で案内しますので, 2回目の授業までに用意して下さい)。

<初回授業の案内>

初回授業はメインアリーナ(記念ホール1F)で行います。運動できる格好で, 体育館シューズを用意すること。また, なるべくカラフルな筆記用具を持参して下さい。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】十分な睡眠時間を確保し, 朝食を摂り, 運動できる体調を整えておく[45分]。

【事後学修】実技を通じて体感した「気付き」を書き留め, 自らの身体についての理解を深める[15分]。

評価方法および評価の基準

初回授業でこの科目のシャトルカードを配布する。これに毎回の実技内容と, 自らの気付きを記入し, 毎回提出する。これらにより, 学修目標の を評価する。実技中の発言などにより, 学修目標 を評価する。シャトルカード50%と平常点50%を総合して評価し, 合計60%以上を合格とする。平常点では技能レベルや勝敗, 記録での評価はしない。欠席が4回を超える場合には評価の対象としない。また遅刻・早退は2回で欠席1回分に数える。やむを得ぬ理由のある見学は出席とみなすことがある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】バーバラ・コナブル 『音楽家ならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』 誠信書房

演奏家向けの本ですが, 身体が動く仕組みが「図入りで分かりやすく」書いてあります。自分の身体に備わる筋肉と骨格の構造を知るだけでも, 運動に対する視点が柔軟になり, 自然と自分(と自分の身体)が好きになります。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	清水 文子		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	HAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科で実技指導に携わっている経験を活かし、種目の基礎及び身体運動の必要性を学生自身が体感できる指導を行なう。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

ウォーミングアップにリズムエクササイズを行う他、様々な種目を楽しみながらしっかりと運動量を確保する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、体育実技を中心に授業を展開する。また授業終盤に縄跳びの実施試験を行なう。授業のまとめとして課題を設定しレポート提出を行なう。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を体感するとともに、自らの身体についての気づきを深める。
2. コミュニケーション能力を養い、仲間とともに時間と空間を共有する喜びを感じる心を育てる。
3. スポーツが得意な人は不得意な人のフォローができるように、不得意な人は、苦手意識を克服できるように (無理のない程度に) 努力する。
4. 和やかにかつ前向きに取り組む姿勢を育て、学生生活の活性化および体力増進をはかれるようにする。
5. 卒業しても何らかの身体活動に興味を持てるよう、生涯スポーツへの動機付けとなるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通選択科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 3 協働する力 - 1 前を向く力 - 1 心身の健康

内容

スポーツを通じた仲間作りを目標に、ニュースポーツをはじめとした様々なレクリエーションスポーツやリズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気づく」「考える」「工夫する」「話し合う」等を積極的に取り入れ、授業を進めて行く。また、ストレッチ、リズムエクササイズ、マッサージ等は、ウォームアップやクーリングダウンとして毎時取り入れ、爽快感、ストレス解消、気分転換等、スポーツの価値をこころとからだ全体で実感するようにする。

第1週 オリエンテーション（授業のねらい、内容説明、運動調査等）

（w-up リズムエクササイズ、c-dnストレッチは毎回）

第2週？ 実技（コミュニケーションゲーム・ボールトレーニングなど）

第4週？ 実技（ネット型ゲーム・ゴール型ゲーム等各種競技など）

第11週？ 実技（リズムエクササイズ、筋力トレーニング、縄跳びなど）

第15週 まとめ

受講者数などにより、内容が変更される場合もある。

運動の際の服、靴などは必ずふさわしいものを着用しなければ出席と認めない。

30分以上遅れた場合は欠席とする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組、協調性、意欲や関心）50%、毎回の学習シート記入30%、試験（レポート）20%による評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

2) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

3) 学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし。（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨む「こと。

見学者も運動着に着替えて出席する。

科目名	身体運動		
担当教員名	清水 文子		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	HBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科で実技指導に携わっている経験を活かし、種目の基礎及び身体運動の必要性を学生自身が体感できる指導を行なう。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

ウォーミングアップにリズムエクササイズを行う他、様々な種目を楽しみながらしっかりと運動量を確保する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、体育実技を中心に授業を展開する。また授業終盤に縄跳びの実施試験を行なう。授業のまとめとして課題を設定しレポート提出を行なう。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を体感するとともに、自らの身体についての気づきを深める。
2. コミュニケーション能力を養い、仲間とともに時間と空間を共有する喜びを感じる心を育てる。
3. スポーツが得意な人は不得意な人のフォローができるように、不得意な人は、苦手意識を克服できるように (無理のない程度に) 努力する。
4. 和やかにかつ前向きに取り組む姿勢を育て、学生生活の活性化および体力増進をはかれるようにする。
5. 卒業しても何らかの身体活動に興味を持てるよう、生涯スポーツへの動機付けとなるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通選択科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 3 協働する力 - 1 前を向く力 - 1 心身の健康

内容

スポーツを通じた仲間作りを目標に、ニュースポーツをはじめとした様々なレクリエーションスポーツやリズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気づく」「考える」「工夫する」「話し合う」等を積極的に取り入れ、授業を進めて行く。また、ストレッチ、リズムエクササイズ、マッサージ等は、ウォームアップやクーリングダウンとして毎時取り入れ、爽快感、ストレス解消、気分転換等、スポーツの価値をこころとからだ全体で実感できるようにする。

第1週 オリエンテーション（授業のねらい、内容説明、運動調査等）

（w-up リズムエクササイズ、c-dnストレッチは毎回）

第2週？ 実技（コミュニケーションゲーム・ボールトレーニングなど）

第4週？ 実技（ネット型ゲーム・ゴール型ゲーム等各種競技など）

第11週？ 実技（リズムエクササイズ、筋力トレーニング、縄跳びなど）

第15週 まとめ

受講者数などにより、内容が変更される場合もある。

運動の際の服、靴などは必ずふさわしいものを着用しなければ出席と認めない。

30分以上遅れた場合は欠席とする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組、協調性、意欲や関心）50%、毎回の学習シート記入30%、試験（レポート）20%による評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

2) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

3) 学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし。（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨む「こと。

見学者も運動着に着替えて出席する。

科目名	身体運動		
担当教員名	佐藤 典子		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	JAクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員及び指導講師として体育科実技指導に携わってきた経験を活かし、受講者の技能技術レベルに考慮しながら授業を展開していく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実技方針1.2.3を踏まえ、身体運動を通し受講生自らが各々にあった身体を動かす楽しさや、クラス内の交流が図れるよう支援をする。

また、健康や体力の増進、技術上達等を各人が体験し生涯スポーツへの橋渡しとなる授業をねらいとする。

科目の概要

スポーツを通してたくさんの仲間を作ることを目標にし各種スポーツを実施する。

スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」等を積極的に取り入れ授業を進める。

また、女性特有の不快症状緩和のためピラティス・ストレッチ等コンディショニングを取り入れ、爽快感・ストレス解消・気分転換等をこころとからだで体感できるようにする。

授業の方法 (AL含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎授業を振り返り学習カードに記入し提出する。【実技】

到達目標

- 1) クラス内で交流をしながら仲間とともに楽しみながら運動技能を習得する。
- 2) 自身の健康の為に生涯運動に親しむ素地を養う。

ディプロマ・ポリシー - との関係

この科目は全学共通科目のディプロマ・ポリシー - の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

1	ガイダンス (授業概要説明)	*更衣の必要なし
2	からだほぐし 【実技】	

3	コミュニケ - ションワ - ク・ドッジボール【実技】
4	バドミントン 【実技】
5	バスケットボ - ル 【実技】
6	ソフトバレ - ボ - ル【実技】
7	フロアボ - ル 【実技】
8	コンディショニング（骨盤フィットネス、ピラティス）【実技】
9	グル - プワ - ク 学生希望による種目 （グル - プ編成、担当決め）【実技】
10	学生希望による種目 （スポ - ツの歴史、ルールの理解、展開）【実技】
11	学生希望による種目 （まとめ、発表）【実技】
12	グル - プワ - ク 学生希望による種目 （グル - プ編成、担当決め）【実技】
13	学生希望による種目 （スポ - ツの歴史、ルールの理解、展開）【実技】
14	学生希望による種目 （まとめ、発表）【実技】
15	まとめ【レポ - ト（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で行うスポ - ツの特性やル - ルを事前に調べ理解する(60分)

【事後学修】各自授業内容を記録し、振り返り、整理する(60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組・意欲・関心・協調性）60%、学習力 - ドの整理20%、授業のまとめ20%とし、特に積極的に授業に参加し楽しもうとしている姿勢を重要視する。技能のレベルでの評価はしない。総合評価60点以上を合格とする。

[フィードバック] 毎時間前授業の振り返りをし、学習理解を深める。

到達目標 1) 授業への参加度(30%/60%) 学習力 - ド整理(10%/20%) まとめ(10%/20%)

到達目標 2) 授業への参加度(30%/60%) 学習力 - ド整理(10%/20%) まとめ(10%/20%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容は当日の天候、施設の状況、受講者数により変更することがある。

着用する服・靴などはふさわしい物を着用しなければ出席と認めない。（初回に説明します）

体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	佐藤 典子		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	JBクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員及び指導講師として体育科実技指導に携わってきた経験を活かし、受講者の技能技術レベルに考慮しながら授業を展開していく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実技方針1.2.3を踏まえ、身体運動を通し受講生自らが各々にあった身体を動かす楽しさや、クラス内の交流が図れるよう支援をする。

また、健康や体力の増進、技術上達等を各人が体験し生涯スポーツへの橋渡しとなる授業をねらいとする。

科目の概要

スポーツを通してたくさんの仲間を作ることを目標にし各種スポーツを実施する。

スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」等を積極的に取り入れ授業を進める。

また、女性特有の不快症状緩和のためピラティス・ストレッチ等コンディショニングを取り入れ、爽快感・ストレス解消・気分転換等をこころとからだで体感できるようにする。

授業の方法 (AL含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎授業を振り返り学習カードに記入し提出する。【実技】

到達目標

- 1) クラス内で交流をしながら仲間とともに楽しみながら運動技能を習得する。
- 2) 自身の健康の為に生涯運動に親しむ素地を養う。

ディプロマ・ポリシー - との関係

この科目は全学共通科目のディプロマ・ポリシー - の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1前を向く力 -1心身の健康

内容

1	ガイダンス (授業概要説明)	*更衣の必要なし
2	からだほぐし 【実技】	
3	コミュニケーションワーク・ドッジボール【実技】	

4	バドミントン	【実技】
5	バスケットボール	【実技】
6	ソフトバレーボール	【実技】
7	フロアボール	【実技】
8	コンディショニング（骨盤フィットネス、ピラティス）	【実技】
9	グルーブワーク	学生希望による種目（グルーブ編成、担当決め）【実技】
10		学生希望による種目（スポーツの歴史、ルールの理解、展開）【実技】
11		学生希望による種目（まとめ、発表）【実技】
12	グルーブワーク	学生希望による種目（グルーブ編成、担当決め）【実技】
13		学生希望による種目（スポーツの歴史、ルールの理解、展開）【実技】
14		学生希望による種目（まとめ、発表）【実技】
15	まとめ【レポート（知識）】	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で行うスポーツの特性やルールを事前に調べ理解する(60分)

【事後学修】各自授業内容を記録し、振り返り、整理する(60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組・意欲・関心・協調性）60%、学習力・ドの整理20%、授業のまとめ20%とし、特に積極的に授業に参加し楽しもうとしている姿勢を重要視する。技能のレベルでの評価はしない。総合評価60点以上を合格とする。

[フィードバック] 毎時間前回授業の振り返りをし、学習理解を深める。

到達目標 1) 授業への参加度(30%/60%) 学習力・ド整理(10%/20%) まとめ(10%/20%)

到達目標 2) 授業への参加度(30%/60%) 学習力・ド整理(10%/20%) まとめ(10%/20%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容は当日の天候、施設の状況、受講者数により変更することがある。

着用する服・靴などはふさわしい物を着用しなければ出席と認めない。（初回に説明します）

体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	清水 文子		
ナンバリング	NEe1030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	JCクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科で実技指導に携わっている経験を活かし、種目の基礎及び身体運動の必要性を学生自身が体感できる指導を行なう。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。

科目の概要

ウォーミングアップにリズムエクササイズを行う他、様々な種目を楽しみながらしっかりと運動量を確保する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、体育実技を中心に授業を展開する。また授業終盤に縄跳びの実施試験を行なう。授業のまとめとして課題を設定しレポート提出を行なう。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を体感するとともに、自らの身体についての気づきを深める。
2. コミュニケーション能力を養い、仲間とともに時間と空間を共有する喜びを感じる心を育てる。
3. スポーツが得意な人は不得意な人のフォローができるように、不得意な人は、苦手意識を克服できるように (無理のない程度に) 努力する。
4. 和やかにかつ前向きに取り組む姿勢を育て、学生生活の活性化および体力増進をはかれるようにする。
5. 卒業しても何らかの身体活動に興味を持てるよう、生涯スポーツへの動機付けとなるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通選択科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 3 協働する力 - 1 前を向く力 - 1 心身の健康

内容

スポーツを通じた仲間作りを目標に、ニュースポーツをはじめとした様々なレクリエーションスポーツやリズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気づく」「考える」「工夫する」「話し合う」等を積極的に取り入れ、授業を進めて行く。また、ストレッチ、リズムエクササイズ、マッサージ等は、ウォームアップやクーリングダウンとして毎時取り入れ、爽快感、ストレス解消、気分転換等、スポーツの価値をこころとからだ全体で実感するようにする。

第1週 オリエンテーション（授業のねらい、内容説明、運動調査等）

（w-up リズムエクササイズ、c-dnストレッチは毎回）

第2週？ 実技（コミュニケーションゲーム・ボールトレーニングなど）

第4週？ 実技（ネット型ゲーム・ゴール型ゲーム等各種競技など）

第11週？ 実技（リズムエクササイズ、筋力トレーニング、縄跳びなど）

第15週 まとめ

受講者数などにより、内容が変更される場合もある。

運動の際の服、靴などは必ずふさわしいものを着用しなければ出席と認めない。

30分以上遅れた場合は欠席とする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組、協調性、意欲や関心）50%、毎回の学習シート記入30%、試験（レポート）20%による評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

2) 授業への参加度(30%.50%)学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

3) 学習シート整理(10%.30%)試験orレポート(10%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし。（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨む「こと。

見学者も運動着に着替えて出席する。

科目名	身体運動		
担当教員名			
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目（N/E/S）-身体運動		
学 年		ク ラ ス	2Wクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学、高等学校保健体育科教諭を長年務め、日本サッカー協会A級ライセンス、インストラクターやライフセービングの資格、大学スポーツの理事、スポーツマネージャー資格、日本体育協会上級指導員の資格など多数を持つ。また一般社団法人十文字スポーツクラブの理事を務め、実社会でのセミプロスポーツクラブと地域発展事業に現在も携わる教員が担当する。その経験を活かした授業を実践し指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目保健体育の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを目指す。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴。スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。

科目の概要

テニス、バドミントン、卓球などを行う。またウォーキングやポーリングなどの健康づくり運動を行う予定で授業を構成している。テニス、バドミントン、卓球では、初歩的な技能を身につけ、最終的にはダブルスのゲームができるようになることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして授業内容を整理する学習カードやノートの記述、および授業の総まとめレポートの作成提出を行う。【レポート(知識)・実技】

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 「 -1」心身の健康

内容

1	ガイダンス（履修上の諸注意等）・班分け 平服でアリーナに集合してください
2	バドミントンの基礎基本技術の習得 リアクションペーパー・実技
3	バドミントン シングルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
4	バドミントン ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
5	バドミントン ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
6	バドミントン ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
7	ウォーキング 実践 リアクションペーパー・実技
8	卓球の基礎基本技術の習得 リアクションペーパー・実技
9	卓球のゲーム ダブルス リアクションペーパー・実技
10	卓球のゲーム ダブルス リアクションペーパー・実技
11	テニスの基礎基本技術の習得 リアクションペーパー・実技
12	テニス ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
13	テニス ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
14	ボーリング リアクションペーパー・実技
15	総まとめ 実技テストなど 資料提出

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

シラバス等を予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通す。（20分）

【事後学修】

授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

評価は、運動量及び協働力や協調性の達成度（授業への取り組みで評価、60点）、運動の質（実技チェック：20点）、毎回の授業における理解や気づきに関するコメント表の作成及びまとめのレポート（20点）の観点から総合的に行うとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

授業の最初に前回授業の振り返りと質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しないが、必要に応じてプリントなどの資料を配布

【推薦書】必要に応じて、授業内で紹介

【参考図書】必要に応じて、授業内で紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

まずは安全留意して、各種目の特性を理解しながら、楽しみつつ学修してください。

ボーリングの単元は、ゲーム代金とレンタルシューズなどの自己負担金が生じます。

初講時は平服でメインアリーナに筆記用部持参で集合してください。

ボーリング、ウォーキングは 学外活動届を提出します。

科目名	身体運動		
担当教員名	清水 文子		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科の実技指導に携わっている経験を活かし、授業で扱うスポーツ種目の進め方やルール等も受講者の技能レベルを考慮してアレンジしながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。そして学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科間、学年間の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必須科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、バドミントンなど様々な種目を行う。またゲーム中心で十分な運動量を確保したい。

授業の方法 (AL含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容を整理する学習カーの記述および授業の総まとめレポートの作成し提出する。

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力
- 2 自己を理解する力
- 1 心身の健康

内容

天候や施設状況によって、授業内容が変わることがあります。毎時間感想を記入しそれを元に出席管理を行います。

1	オリエンテーション
2	ボール慣らし、ドッジボール
3	パス・シュート練習、簡易ゲーム (4対4)
4	パス・シュート練習、連携プレーからシュートへの展開簡易ゲーム (5対5)

5	バスケットボール、パス・シュート練習、ゲーム
6	バレーボール、トス・スパイク・サーブ練習、ゲーム
7	バドミントン(シングル)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
8	バドミントン(ダブルス)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
9	火気取扱演習
10	テーブルゲーム(1)シングル
11	テーブルゲーム(2)ダブルス
12	フットサル、練習～ゲーム
13	ユニホッケー、練習～ゲーム
14	からだを知る、ストレッチ・筋力トレーニングなど
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度(運動への取組、協調性、意欲や関心)50%、学習シート整理30%、試験(レポート)20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標1) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標2) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標3) レポート(20%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定なし(必要に応じて推薦書を授業内に紹介)

初回授業の案内

初回授業は記念ホール入り口、ホワイトボードで実施場所を確認して集まってください。更衣をせず運動靴を準備してください。また、学習シートを作成しますので筆記用具・顔写真も忘れず準備してください。

私物(靴・手荷物)はすべて実施場所へ持参してください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨むこと。

見学者も運動着に着替えて出席すること。

科目名	身体運動		
担当教員名	清水 文子		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科の実技指導に携わっている経験を活かし、授業で扱うスポーツ種目の進め方やルール等も受講者の技能レベルを考慮してアレンジしながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。そして学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科間、学年間の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必須科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、バドミントンなど様々な種目を行う。またゲーム中心で十分な運動量を確保したい。

授業の方法 (AL含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容を整理する学習カーの記述および授業の総まとめレポートの作成し提出する。

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力
- 2 自己を理解する力
- 1 心身の健康

内容

天候や施設状況によって、授業内容が変わることがあります。毎時間感想を記入しそれを元に出席管理を行います。

1	オリエンテーション
2	ボール慣らし、ドッジボール
3	パス・シュート練習、簡易ゲーム (4対4)
4	パス・シュート練習、連携プレーからシュートへの展開簡易ゲーム (5対5)

5	バスケットボール、パス・シュート練習、ゲーム
6	バレーボール、トス・スパイク・サーブ練習、ゲーム
7	バドミントン(シングル)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
8	バドミントン(ダブルス)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
9	火気取扱演習
10	テーブルゲーム(1)シングル
11	テーブルゲーム(2)ダブルス
12	フットサル、練習～ゲーム
13	ユニホッケー、練習～ゲーム
14	からだを知る、ストレッチ・筋力トレーニングなど
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度(運動への取組、協調性、意欲や関心)50%、学習シート整理30%、試験(レポート)20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標1) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標2) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標3) レポート(20%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定なし(必要に応じて推薦書を授業内に紹介)

初回授業の案内

初回授業は記念ホール入り口、ホワイトボードで実施場所を確認して集まってください。更衣をせず運動靴を準備してください。また、学習シートを作成しますので筆記用具・顔写真も忘れず準備してください。

私物(靴・手荷物)はすべて実施場所へ持参してください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨むこと。

見学者も運動着に着替えて出席すること。

科目名	身体運動		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として体育科実技指導に携わった経験を持つ教員が担当し、授業で扱うスポーツ種目の進め方やルール等も受講者の技能レベルを考慮してアレンジしながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

ボールを手や道具で打つ動作を主体にしたスポーツ種目を継続的に実施する。具体的には、ゴルフ・バドミントン・卓球・ソフトバレーボール等を2～5週間を単位にして行う予定である。

授業の方法 (AL含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容を整理する学習カードやノートの記述を行う。また授業の総まとめとしてレポートを作成し提出する。【実技】 【レポート(知識)】

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -2自己を理解する力 -1心身の健康

内容

1	オリエンテーション (運動のできる服装で集合・グループ作り・ゴルフの基本を理解) 【実技】
2	ゴルフ (個人技能練習: 小さいスイングで打つ、グリップ) 【実技】
3	ゴルフ (個人技能練習: 大きなスイングで打つ) 【実技】
4	ゴルフ (個人技能練習: 様々なスイングで打つ・ショートゲームの理解と実践) 【実技】
5	ゴルフ (ショートゲームの理解と実践) 【実技】
6	ゴルフ (ショートゲーム大会) 【実技】

7	卓球（個人技能練習：サーブ、ラリーの継続）【実技】
8	卓球（トーナメント大会：ダブルス戦）【実技】
9	火気使用実習【実技】
10	ソフトバレーボール（チーム作り、個人技能練習：パス、サーブ）【実技】
11	ソフトバレーボール（スパイク等の連係プレー練習、練習試合）【実技】
12	ソフトバレーボール（チーム対抗リーグ戦）【実技】
13	バドミントン（チーム作り、個人技能練習：サーブ、ラリーの継続）【実技】
14	バドミントン（ダブルス戦の進め方を理解、練習試合）【実技】
15	バドミントン（チーム対抗リーグ戦）～まとめ【実技】【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組むスポーツ種目を理解する（60分）。

【事後学修】毎回の授業内容をノートまたは学習カードに整理する（60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組、協働性、意欲や関心など）50%、ノートまたは学習カードの整理（提出2回）30%、およびレポート20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度（25%/50%） ノートまたは学習カードの整理（15%/30%）

到達目標 2) 授業への参加度（25%/50%） ノートまたは学習カードの整理（15%/30%）

到達目標 3) レポート（20%/20%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認を行い学習理解を深める。提出した学習カードやノート等はコメントを記載し翌週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に使用しないが、講義の中で随時、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施するため、グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意すること。見学者も運動着に着替えて出席すること。

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しなし。体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名			
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目（N/E/S）-身体運動		
学 年		ク ラ ス	2Vクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学、高等学校保健体育科教諭を長年務め、日本サッカー協会A級ライセンス、インストラクターやライフセービングの資格、大学スポーツの理事、スポーツマネージャー資格、日本体育協会上級指導員の資格など多数を持つ。また一般社団法人十文字スポーツクラブの理事を務め、実社会でのセミプロスポーツクラブと地域発展事業に現在も携わる教員が担当する。その経験を活かした授業を実践し指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目保健体育の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを目指す。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴。スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。

科目の概要

テニス、バドミントン、卓球などを行う。またウォーキングやポーリングなどの健康づくり運動を行う予定で授業を構成している。テニス、バドミントン、卓球では、初歩的な技能を身につけ、最終的にはダブルスのゲームができるようになることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして授業内容を整理する学習カードやノートの記述、および授業の総まとめレポートの作成提出を行う。【レポート(知識)・実技】

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 「 -1」心身の健康

内容

1	ガイダンス（履修上の諸注意等）・班分け	平服でアリーナに集合してください
2	バドミントンの基礎基本技術の習得	リアクションペーパー・実技
3	バドミントン シングルスゲームの実践	リアクションペーパー・実技
4	バドミントン ダブルスゲームの実践	リアクションペーパー・実技
5	バドミントン ダブルスゲームの実践	リアクションペーパー・実技
6	バドミントン ダブルスゲームの実践	リアクションペーパー・実技
7	ウォーキング 実践	リアクションペーパー・実技
8	卓球の基礎基本技術の習得	リアクションペーパー・実技
9	卓球のゲーム ダブルス	リアクションペーパー・実技
10	卓球のゲーム ダブルス	リアクションペーパー・実技
11	テニスの基礎基本技術の習得	リアクションペーパー・実技
12	テニス ダブルスゲームの実践	リアクションペーパー・実技
13	テニス ダブルスゲームの実践	リアクションペーパー・実技
14	ボーリング	リアクションペーパー・実技
15	総まとめ 実技テストなど	資料提出

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

シラバス等を予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通す。（20分）

【事後学修】

授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

評価は、運動量及び協働力や協調性の達成度（授業への取り組みで評価、60点）、運動の質（実技チェック：20点）、毎回の授業における理解や気づきに関するコメント表の作成及びまとめのレポート（20点）の観点から総合的に行うとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

授業の最初に前回授業の振り返りと質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しないが、必要に応じてプリントなどの資料を配布

【推薦書】必要に応じて、授業内で紹介

【参考図書】必要に応じて、授業内で紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

まずは安全留意して、各種目の特性を理解しながら、楽しみつつ学修してください。

ボーリングの単元は、ゲーム代金とレンタルシューズなどの自己負担金が生じます。

初講時は平服でメインアリーナに筆記用部持参で集合してください。

ボーリング、ウォーキングは 学外活動届を提出します。

科目名	身体運動		
担当教員名	藤生 栄一郎		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として保健体育科の実技指導に携った経験をもつ教員が担当し、授業内で扱う各スポーツ種目の進め方やルール等も、受講者の技能レベルを考慮してアレンジして指導する。また、高校までの体育実技授業の意味や大学における体育実技の意義も伝えたい。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成、実施方針 1 . 2 . 3 . を踏まえ、身体運動を通して、受講生自らの意欲、興味、関心、能力に応じて、体を動かすことの楽しみを見出すことを支援し、身体づくりとともに、学科や学年を越えた学生同士の交流や仲間づくりを促す機会にもしたい。

教員免許や各種視覚取得の必修科目である。

科目の概要

ネット型球技 (バレーボール、バドミントン、卓球) の技術練習とゲームを中心に、様々な運動を行い、身体を動かすことの楽しさを味わい、積極的に動ける身体づくりを目指すとともに、学生同士の交流やコミュニケーション能力の向上も目的の一つとする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回、授業のふりかえりとして、授業内容を整理する学習カードの記入及び提出と、最終的にはまとめプリントの提出をする。【実技】

到達目標

- ・身体を動かすことの楽しさを味わう中で、積極性とチャレンジ精神をより高め、実技技能も高める。
- ・ウォーミングアップを兼ねて、ストレッチ、体操、トレーニングなども行い、それらを通して自らの身体づくりや健康増進、体力向上、ストレス解消などにも役立てる。
- ・スポーツ・運動を積極的に楽しめる感覚や考え方、知識を身につける。
- ・仲間と過ごす活動の楽しさ、協働、協調、協力、チームワーク、リーダーシップ、フォロワーシップなどを学ぶ。
- ・生涯に渡ってスポーツ・運動に取り組む姿勢を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全額共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

内容

ネット型球技として、バレーボール、バドミントン、卓球の技術的な練習とゲームを中心に、様々な身体活動運動を行なう。

- 第1回 オリエンテーション（授業概要説明）体ほぐし運動、バレーボール（1）【実技】【グループワーク】
- 第2回 バレーボール（2）バレーボールの基礎技能、グループ分け、簡単なゲーム 【実技】【グループワーク】
- 第3回 バレーボール（3）フォーメーションの理解とゲーム 【実技】【グループワーク】
- 第4回 バレーボール（4）戦術の理解とゲーム 【実技】【グループワーク】
- 第5回 バレーボール（5）戦術の理解とゲーム(2) 【実技】【グループワーク】
- 第6回 バドミントン（1）バドミンントンの基礎技能、簡単なゲーム 【実技】【グループワーク】
- 第7回 バドミントン（2）バドミンントンのルールの理解とシングルスゲーム、ダブルスゲーム 【実技】【グループワーク】
- 第8回 バドミントン（3）グルーピングと団体戦のやり方 【実技】【グループワーク】
- 第9回 バドミントン（4）団体戦(1) 【実技】【グループワーク】
- 第10回 バドミントン（5）団体戦(2) 【実技】【グループワーク】
- 第11回 卓球（1）卓球の基礎技能と簡単なゲーム 【実技】【グループワーク】
- 第12回 卓球（2）卓球のルールの理解とシングルのゲーム 【実技】【グループワーク】
- 第13回 卓球（3）ダブルスルールの理解とダブルスのゲーム 【実技】【グループワーク】
- 第14回 卓球（4）ダブルス、シングルスによる団体戦 【実技】【グループワーク】
- 第15回 卓球（5）団体戦(2)、身体運動 のまとめプリントの作成 【実技】【グループワーク】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】授業で取り組むスポーツ種目の概要を理解する。（30分）
前回授業内容等を整理し、課題や目標を明確にする。（10分）
- 【事後学修】毎回の授業内容を学習カードに整理する。（10分）
日常的に体を動かす習慣を確立し、身体づくりを継続する。（30分）

評価方法および評価の基準

- 平常点：授業への参加度（運動への取り組み、積極性、協調性、意欲、関心など）60点、
毎回の学習カード整理20点、実技まとめプリント20点による評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
- 【フィードバック】学習カードに記載された授業内での疑問点などは、翌週以降の授業内で解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて授業内で紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・主に屋内での活動を予定しているので、上記種目が実施可能な体育館シューズ（高校時代までに使用していたもので構わないが、紐で絞める屋内専用シューズとする）を用意すること。
- また、服装は特に指定しないが、いわゆるジャージの上下やTシャツ、ハーフパンツ、短パン等を着用することとし、ストレッチ素材のジーンズやスキニーパンツ等は、動きが制限される可能性があるので着用しないこと。
- ・実技技能レベルでは評価をしない。これまでの経験の有無を問わず、何よりも積極的に実技に取り組み、楽しもうとする姿勢を重視する。

・実技科目のため、授業への出席と実動を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認められないので、体調を整えて授業に臨むこと。なお、見学も出席である。

科目名	身体運動		
担当教員名	仁科 幸		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目（N/E/S） -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

舞台上演や教育現場といった多様な形態でのダンス実践や指導の経験のある教員が授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目保健体育の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。

科目の概要

私たちの身体はどんな動きができるのか、ということに着目し、動き方を工夫しながらさまざまなダンスやゲームに取り組む。

授業の方法

2～5週を単位に数種類の体育実技を行う。【実技】【グループワーク】

授業終了後に毎回、リアクションペーパーの記入を求め、翌週以降にフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

授業のまとめとして、授業をまとめたレポートの提出を求める。【レポート（知識）】

学修目標

- 1、クラス内での交流を通じて、実技で扱う種目の技能を高める。
- 2、生涯を通じて運動に親しむ意欲や態度を身につける。
- 2、自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3協働する力 -2自己を理解する力 -1心身の健康

内容

このクラスでは、片時も離れることのできない自分の「からだ」を労りながら、今まで気づかなかった「からだ」の感覚や可能性を探ることを目的とする。

そのためにまず、授業の最初に健やかな「からだ」の土台を作るストレッチングやエクササイズを行った後、さまざまなダンスやゲームを行う。自分の「からだ」への労りや気づきがやがて、仲間の「からだ」への労りや気づきへと繋がって行くことを実感して欲しい。

第1週 オリエンテーション（平服／筆記用具持参）【リアクションペーパー】

第2週 ストレッチング&エクササイズ【実技】【リアクションペーパー】

第3週～第4週

レクリエーションゲーム【実技】【リアクションペーパー】

第5週～第6週

音楽に合わせてからだを動かそう【実技】【リアクションペーパー】

第7週～第8週

あそびからダンスへ【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第9週～第10週

様々な動きからダンスへ【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第11週～第14週

テレビで流れるコマーシャル、映画、音楽など、私たちにとって身近なものの中にダンスがどのような形で存在しているのかを探る。そして、それらをもとに課題を設定し、グループワークや発表などを行う。【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第15週 まとめ【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で行う創作活動のテーマについて、各自調べておくこと。（60分）

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、授業内で紹介した映像資料を見ておくこと。（60分）

評価方法および評価の基準

平常点50点（グループワークへの貢献、授業に対する積極性、意欲、態度など）、毎回の授業における理解や気づきに関するリアクションペーパーの作成20点、まとめのレポート30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1） 平常点25点/50点、リアクションペーパー10点/20点

到達目標2） 平常点25点/50点、リアクションペーパー10点/20点

到達目標3） まとめレポート30点

【フィードバック】リアクションペーパーを確認し、質問等への回答を記載した上で翌週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）？

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	藤生 栄一郎		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として保健体育科の実技指導に携った経験をもつ教員が担当し、授業内で扱う各スポーツ種目の進め方やルール等も、受講者の技能レベルを考慮してアレンジして指導する。また、高校までの体育実技授業の意味や大学における体育実技の意義も伝えたい。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成、実施方針 1 . 2 . 3 . を踏まえ、身体運動を通して、受講生自らの意欲、興味、関心、能力に応じて、体を動かすことの楽しみを見出すことを支援し、身体づくりとともに、学科や学年を越えた学生同士の交流や仲間づくりを促す機会にもしたい。

教員免許や各種視覚取得の必修科目である。

科目の概要

ネット型球技 (バレーボール、バドミントン、卓球) の技術練習とゲームを中心に、様々な運動を行い、身体を動かすことの楽しさを味わい、積極的に動ける身体づくりを目指すとともに、学生同士の交流やコミュニケーション能力の向上も目的の一つとする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回、授業のふりかえりとして、授業内容を整理する学習カードの記入及び提出と、最終的にはまとめプリントの提出をする。【実技】

到達目標

- ・身体を動かすことの楽しさを味わう中で、積極性とチャレンジ精神をより高め、実技技能も高める。
- ・ウォーミングアップを兼ねて、ストレッチ、体操、トレーニングなども行い、それらを通して自らの身体づくりや健康増進、体力向上、ストレス解消などにも役立てる。
- ・スポーツ・運動を積極的に楽しめる感覚や考え方、知識を身につける。
- ・仲間と過ごす活動の楽しさ、協働、協調、協力、チームワーク、リーダーシップ、フォロワーシップなどを学ぶ。
- ・生涯に渡ってスポーツ・運動に取り組む姿勢を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全額共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

内容

ネット型球技として、バレーボール、バドミントン、卓球の技術的な練習とゲームを中心に、様々な身体活動運動を行なう。

- 第1回 オリエンテーション（授業概要説明）体ほぐし運動、バレーボール（1）【実技】【グループワーク】
- 第2回 バレーボール（2）バレーボールの基礎技能、グループ分け、簡単なゲーム【実技】【グループワーク】
- 第3回 バレーボール（3）フォーメーションの理解とゲーム【実技】【グループワーク】
- 第4回 バレーボール（4）戦術の理解とゲーム【実技】【グループワーク】
- 第5回 バレーボール（5）戦術の理解とゲーム(2)【実技】【グループワーク】
- 第6回 バドミントン（1）バドミントンの基礎技能、簡単なゲーム【実技】【グループワーク】
- 第7回 バドミントン（2）バドミントンのルールの理解とシングルスゲーム、ダブルスゲーム【実技】【グループワーク】
- 第8回 バドミントン（3）グルーピングと団体戦のやり方【実技】【グループワーク】
- 第9回 バドミントン（4）団体戦(1)【実技】【グループワーク】
- 第10回 バドミントン（5）団体戦(2)【実技】【グループワーク】
- 第11回 卓球（1）卓球の基礎技能と簡単なゲーム【実技】【グループワーク】
- 第12回 卓球（2）卓球のルールの理解とシングルのゲーム【実技】【グループワーク】
- 第13回 卓球（3）ダブルスルールの理解とダブルスのゲーム【実技】【グループワーク】
- 第14回 卓球（4）ダブルス、シングルスによる団体戦【実技】【グループワーク】
- 第15回 卓球（5）団体戦(2)、身体運動 のまとめプリントの作成【実技】【グループワーク】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】授業で取り組むスポーツ種目の概要を理解する。（30分）
前回授業内容等を整理し、課題や目標を明確にする。（10分）
- 【事後学修】毎回の授業内容を学習カードに整理する。（10分）
日常的に体を動かす習慣を確立し、身体づくりを継続する。（30分）

評価方法および評価の基準

平常点：授業への参加度（運動への取り組み、積極性、協調性、意欲、関心など）60点、
毎回の学習カード整理20点、実技まとめプリント20点による評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】学習カードに記載された授業内での疑問点などは、翌週以降の授業内で解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて授業内で紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・主に屋内での活動を予定しているので、上記種目が実施可能な体育館シューズ（高校時代までに使用していたもので構わないが、紐で絞める屋内専用シューズとする）を用意すること。
- また、服装は特に指定しないが、いわゆるジャージの上下やTシャツ、ハーフパンツ、短パン等を着用することとし、ストレッチ素材のジーンズやスキニーパンツ等は、動きが制限される可能性があるので着用しないこと。
- ・実技技能レベルでは評価をしない。これまでの経験の有無を問わず、何よりも積極的に実技に取り組み、楽しもうとする姿勢を重視する。

・実技科目のため、授業への出席と実動を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認められないので、体調を整えて授業に臨むこと。なお、見学も出席である。

科目名	身体運動		
担当教員名	佐藤 典子		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

レクリエ - ション有資格者の教員が担当し、各種レクリエ - ションスポ - ツ体験の他、レクリエ - ション支援についても学べるように進めていく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1.2.3を踏まえ、身体運動を通して受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。また学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成で、身体運動の楽しさを共有し、学科間、学年間の交流を促す機会にもしたい。

科目の概要

いろいろなレクリエ - ショング - ムやレクリエ - ションスポ - ツを体験することができる。また他者に楽しんでもらうための企画を考えグル - プで実施・運営する。

授業の方法 (AL含む)

本科目は実技中心に授業を展開する。毎時間授業を振り返り学習カ - ドに記入し提出する。【実技】

到達目標

- 1)クラス内での交流を基盤として、身体を動かす積極的な姿勢を身に着ける。
- 2)自分に合った身体を動かす楽しさを見つけ、生涯を通じて運動を楽しむ素地を養う。
- 3)レクリエ - ションの楽しさを他者に支援する基盤を体得する。

ディプロマ・ポリシー - との関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシー - の以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -3協働する力
-2自己を理解する力 -1心身の健康

内容

1	ガイダンス (内容・注意事項・評価についての説明) *更衣の必要なし
2	コミュニケーションワ - ク (アイスブレ - キング・ホスピタリティトレ - ニング等) 【実技】
3	レクリエ - ショング - ム 【実技】
4	レクリエ - ションスポ - ツ【実技】

5	フロアボ-ル 【実技】
6	フライングディスク【実技】
7	ソフトバレ-ボ-ル【実技】
8	キンボ-ル【実技】
9	火気取扱い実習【実技】
10	グル-ブ活動（グル-ブ分け・企画話し合い・運営準備）【創作・制作】
11	受講生考案 レクリエ-ション 【実技】
12	受講生考案 レクリエ-ション 【実技】
13	受講生考案 レクリエ-ション 【実技】
14	受講生考案 レクリエ-ション 【実技】
15	まとめ【レポ-ト（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で行うスポ-ツの特性やル-ルを事前に調べておくこと(60分)

【事後学修】各自授業内容を記録し、振り返りをする（60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組・協調性・関心・態度）60%、毎時の授業のまとめ（学習力-ド）30%、学生企画評価10%。特に積極的に授業に参加し楽しもうとする姿勢を重要視します。また技能レベルでは評価をしない。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1)授業への参加度（30%/60%）)学習力-ドの整理（10%/30%）

到達目標 2)授業への参加度（30%/60%）)学習力-ドの整理（10%/30%）

到達目標 3)学生企画評価（10%/10%） 学習力-ドの整理（10%/30%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容は、当日の天候・施設の状況・受講者数により変更することがある。

着用する服・靴はふさわしい物を着用しなければ出席にならない（初回に説明します）。

体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	神田 俊平		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許取得のための必修科目である。この科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1.2.3を踏まえて実施する。体育実技(運動)を通して、受講生相互の活発なコミュニケーションを生み出すことで、大学生活における修学の基礎を育むこと、さらには集団活動を通して、大学や学科への帰属意識を高めるきっかけとすることを目的とする。

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、2～5週を単位に協働型および競争型の集団スポーツをおこなう。多様なスポーツを楽しみながら、仲間との交流を深める。

授業の方法 (ALを含む)

毎回1つのスポーツ種目を取り上げて、実践する。【実技】

到達目標

- 1.グループで協力して活動し、リーダーシップを育み、幅広い交友関係を構築する
- 2.豊かな人間性・感受性を醸成する
- 3.学生生活を活発・健全に送るための体力をつける
- 4.生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -2自己を理解する力 -1心身の健康

内容

身体運動 では、スポーツを通じた仲間作りを目標に、スポーツやレクリエーション活動、リズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」など、主体的な活動を積極的に取り入れ、授業を進める。

【第1週】オリエンテーション（運動できる服装に着替えて集合）

【第2週】体力測定

【第3週～】実技（レクリエーションスポーツなど）

【第5週～】実技（ボールゲームなど）

【第11週～】実技（ニュースポーツなど）

【第15週】まとめ

受講者数などにより内容が変更になる場合もある。

運動に適した服装でなければ出席と認めない。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）60%、毎回のまとめ（振り返りシート）20%、実技テスト20%とし

、総合的に評価し、6割以上を合格とする。それぞれの評価については、到達目標に沿って行う。【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却し、実技テストにはテスト終了後にコメントをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講学生同士の積極的な交流を期待する。

科目名	身体運動		
担当教員名	若葉 京良		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。共通科目保健体育の選択必修科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動(体育の実技)を通して、受講生同士のコミュニケーションを図るとともに、受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけてることを支援する。そして学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成で、身体運動の楽しさを共有する。

科目の概要

バスケットボール、バレーボール、キンボール、タグラグビーなどの種目をゲーム中心でおこなう。

授業の方法 (AL含む)

本科目は実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容をまとめたレポートを提出する。

到達目標

1. クラス内での交流を通じて、生涯を通じて運動に親しむ素地を養う。
2. 自らの意欲・能力・技能に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける。
3. 自らの動きを理解し、動きを言語化できる能力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力
- 2 自己を理解する力
- 1 心身の健康

内容

受講人数等により内容を変更する場合がある。

1	オリエンテーション(服装:私服で構わない)
2	からだの使い方を知る、コーディネーションゲーム
3	バスケットボール:チーム編成、基本練習、ゲーム
4	バスケットボール:基本練習、ゲーム
5	バスケットボール:基本練習、ゲーム
6	キンボール:基本練習、ゲーム
7	キンボール:基本練習、ゲーム

8	バレーボール：チーム編成、基本練習、ゲーム
9	バレーボール：基本練習、ゲーム
10	バレーボール：基本練習、ゲーム
11	ラグビー：チーム編成、基本練習、ゲーム
12	ラグビー：基本練習、ゲーム
13	ドッジビー：基本練習、ゲーム
14	アルティメット：基本練習、ゲーム
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）60%、毎回のまとめ（振り返りシート）20%、実技20%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。と協力する、主体的に取り組む姿勢で臨むこと。

運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講生同士の積極的な交流を期待する。

科目名	身体運動		
担当教員名	扇原 淳		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

繰り返し受講可能な共通科目です。教職課程を志す人には、必要な単位です。また、一部、健康運動実践指導者受験資格取得のために必要な授業内容です。

科目の概要

健康づくりのための運動プログラムの基礎や基礎的な市同法について学習します。様々な健康づくりの方法を学習することで、自分の体をコントロールする感覚や他者に指導する際の注意点を体験的に学べる構成にしています。

授業の方法 (ALを含む)

基礎的運動プログラムの内容とその指導法について、2 - 3週を単位に継続的に行います。

到達目標

- 1) 体力向上や疾病予防を目的としたトレーニングプログラムの効用について理解できる。
- 2) 体力向上や疾病予防を目的としたトレーニングプログラムの指導時の注意点について説明できる。
- 3) 参加者の身体能力や活動できる環境に応じて、仲間が楽しめるように、柔軟にルールや内容を工夫できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-3 協働する力, -2 自己を理解する力, -1 心身の健康

です。

内容

1	体操・補強運動の基礎的理論とその実際
2	ウォームアップとクールダウン
3	ウエイトトレーニング
4	補強運動 (アイソメトリック)
5	補強運動 (アイソトニック)
6	補強運動 (アイソキネティック)

7	補強運動（フリーウエイト）
8	補強運動（マシン）
9	補強運動（サーキット）
10	有酸素トレーニング（1）
11	有酸素トレーニング（2）
12	ヨガ（1）
13	ヨガ（2）
14	ヨガ（3）
15	振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前日7時以上の睡眠，バランスの取れた食事を摂取するなど，体調を整えておく（45分）

【事後学修】授業を通じて感じた体の使い方や運動・スポーツの楽しみ方を書き留め，生涯を通じた運動・スポーツの楽しみ方の理解を深める（15分）

評価方法および評価の基準

授業ごとの振り返りを含む平常点を80%，最終レポートを20%として，総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に資料を配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施します。グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意してください。見学者も運動できる服装に着替えて出席してください。実技科目のため、授業への出席を重視します。平常点では、技能レベルや勝敗，記録での評価は行いません。欠席が4回を超える場合は、評価の対象としません。授業開始時刻から20分以上の遅刻と早退については、2回で欠席1回分とします。やむを得ない理由で見学の場合は、出席とみなす場合があります。

科目名	身体運動		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目（N/E/S）-身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目保健体育の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。

科目の概要

ラケットスポーツとして、テニスを9回、卓球を6回の予定で授業を構成している。テニスではフォアハンドストローク、サーブ、ボレーに関して初歩的な技能を身につけ、最終的にはダブルスのゲームができるようになることを目指す。卓球ではダブルスゲームの特性を理解し、楽しめるようになることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

履修者全体を対象とした技能獲得のためのレッスンと並行し、各自の技能習得レベルにあわせたアドバイスを実施する。また、ダブルスのゲームを実際に行いながら、ルールや動き方、楽しみ方等について指導していく。

到達目標

- 1.仲間との交流を深めながら、協働力や協調性を高めていくこと
- 2.フォアハンドストローク、サーブ、ボレーの基本的な技能を修得すること
- 3.ゲームのルールを理解し、テニスや卓球のゲーム（ダブルス）ができるようになること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -2自己を理解する力 -1心身の健康

内容

1	ガイダンス（履修上の諸注意等）・班分け
2	ストロークの基本 ショートコートでのラリー
3	ストロークの基本 サーブ
4	サーブ ボレー
5	サーブ ボレー オールコートでのラリー
6	ボールコントロールとサーブのチェック
7	3対3のゲーム
8	テニスのゲーム（ダブルス）

9	テニスのゲーム（ダブルス）
10	卓球のゲーム（ダブルス）
11	卓球のゲーム（ダブルス）
12	卓球のゲーム（ダブルス）
13	卓球のゲーム（ダブルス）
14	卓球のゲーム（ダブルス）
15	卓球のゲーム（ダブルス）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

各授業での技能修得やルールの理解が追いつかない場合は、各自で復習しておくこと

評価方法および評価の基準

評価は、運動量及び協働力や協調性の達成度（授業への取り組みで評価、60点）、運動の質（実技チェック：ボールコントロールとサーブ、30点）3割、ルールやマナーの理解（10点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 特に使用しない

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

運動着や運動靴を忘れた者は、安全管理上、実技への参加は認められない（見学扱い）。

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施するため、グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意すること。見学者も運動着に着替えて出席すること。

実技実施上不安なことがある場合（既往症など）は、第1回目の授業で必ず教員へ相談すること。

科目名	身体運動		
担当教員名	扇原 淳		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Pクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

繰り返し受講可能な共通科目です。教職課程を志す人には、必要な単位です。また、一部健康運動実践指導者受験資格取得のために必要な授業内容です。

科目の概要

受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かす楽しみ」を見つける機会を提供します。また、この授業は、複数の学科や学年で構成されるので、仲間づくりやチーム作りの手段と方法についても学習し、相互に交流する機会を提供します。

授業の方法 (ALを含む)

集団球技 (ティーボール, サッカー, バスケットボールなど) を中心とした実技を、およそ3週を単位に継続的に行います。

到達目標

- 1) クラス内の交流を通じて、実技で扱う種目の技能や楽しみ方について理解できる。
- 2) 自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」や「生涯を通じた健康づくり」の大切さを理解できる。
- 3) 参加者の身体能力や活動できる環境に応じて、仲間が楽しめるように、柔軟にルールや内容を工夫できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-3 協働する力, -2 自己を理解する力, -1 心身の健康

です。

内容

集団球技を中心に進めます。

「身体運動を通して、自分と仲間がともに楽しむ」が目標です。

予定している種目は以下の通りです。

- ・ ティーボール
- ・ サッカー
- ・ バスケットボール
- ・ バドミントン
- ・ バレーボール

ゲームを主体に行います。

チームや対戦相手の特徴に応じた戦術・戦略について、チームで話し合う時間を用意します。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前日7時以上の睡眠，バランスの取れた食事を摂取するなど，体調を整えておく（45分）

【事後学修】授業を通じて感じた体の使い方や運動・スポーツの楽しみ方を書き留め，生涯を通じた運動・スポーツの楽しみ方の理解を深める（15分）

評価方法および評価の基準

授業ごとの振り返りを含む平常点を80%，最終レポートを20%として，総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に資料を配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施します。グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意してください。見学者も運動できる服装に着替えて出席してください。実技科目のため、授業への出席を重視します。平常点では、技能レベルや勝敗、記録での評価は行いません。欠席が4回を超える場合は、評価の対象としません。授業開始時刻から20分以上の遅刻と早退については、2回で欠席1回分とします。やむを得ない理由で見学の場合は、出席とみなす場合があります。

科目名	身体運動		
担当教員名	神田 俊平		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Qクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許取得のための必修科目である。この科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1.2.3を踏まえて実施する。体育実技(運動)を通して、受講生相互の活発なコミュニケーションを生み出すことで、大学生活における修学の基礎を育むこと、さらには集団活動を通して、大学や学科への帰属意識を高めるきっかけとすることを目的とする。

科目の概要

1年次前期に学科クラスごとに履修し、2～5週を単位に協働型および競争型の集団スポーツをおこなう。多様なスポーツを楽しみながら、仲間との交流を深める。

授業の方法 (ALを含む)

毎回1つのスポーツ種目を取り上げて、実践する。【実技】

到達目標

- 1.グループで協力して活動し、リーダーシップを育み、幅広い交友関係を構築する
- 2.豊かな人間性・感受性を醸成する
- 3.学生生活を活発・健全に送るための体力をつける
- 4.生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3協働する力 -2自己を理解する力 -1心身の健康

内容

身体運動 では、スポーツを通じた仲間作りを目標に、スポーツやレクリエーション活動、リズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」など、主体的な活動を積極的に取り入れ、授業を進める。

【第1週】オリエンテーション（運動できる服装に着替えて集合）

【第2週】体力測定

【第3週～】実技（レクリエーションスポーツなど）

【第5週～】実技（ボールゲームなど）

【第11週～】実技（ニュースポーツなど）

【第15週】まとめ

受講者数などにより内容が変更になる場合もある。

運動に適した服装でなければ出席と認めない。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）60%、毎回のまとめ（振り返りシート）20%、実技テスト20%とし

、総合的に評価し、6割以上を合格とする。それぞれの評価については、到達目標に沿って行う。【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却し、実技テストにはテスト終了後にコメントをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講学生同士の積極的な交流を期待する。

科目名	身体運動		
担当教員名	扇原 淳		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目（N/E/S） -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Rクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

繰り返し受講可能な共通科目です。教職課程を志す人には、必要な単位です。また、一部健康運動実践指導者受験資格取得のために必要な授業内容です。

科目の概要

受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かす楽しみ」を見つける機会を提供します。また、この授業は、複数の学科や学年で構成されるので、仲間づくりやチーム作りの手段と方法についても学習し、相互に交流する機会を提供します。

授業の方法（ALを含む）

集団球技（ティーボール、サッカー、バスケットボールなど）を中心とした実技を、およそ3週を単位に継続的に行います。

到達目標

- 1) クラス内の交流を通じて、実技で扱う種目の技能や楽しみ方について理解できる。
- 2) 自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」や「生涯を通じた健康づくり」の大切さを理解できる。
- 3) 参加者の身体能力や活動できる環境に応じて、仲間が楽しめるように、柔軟にルールや内容を工夫できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-3 協働する力， -2 自己を理解する力， -1 心身の健康

です。

内容

集団球技を中心に進めます。

「身体運動を通して、自分と仲間がともに楽しむ」が目標です。

予定している種目は以下の通りです。

- ・ ティーボール
- ・ サッカー
- ・ バスケットボール
- ・ バドミントン
- ・ バレーボール

ゲームを主体に行います。

チームや対戦相手の特徴に応じた戦術・戦略について、チームで話し合う時間を用意します。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前日7時以上の睡眠，バランスの取れた食事を摂取するなど，体調を整えておく（45分）

【事後学修】授業を通じて感じた体の使い方や運動・スポーツの楽しみ方を書き留め，生涯を通じた運動・スポーツの楽しみ方の理解を深める（15分）

評価方法および評価の基準

授業ごとの振り返りを含む平常点を80%，最終レポートを20%として，総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に資料を配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施します。グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意してください。見学者も運動できる服装に着替えて出席してください。実技科目のため、授業への出席を重視します。平常点では、技能レベルや勝敗、記録での評価は行いません。欠席が4回を超える場合は、評価の対象としません。授業開始時刻から20分以上の遅刻と早退については、2回で欠席1回分とします。やむを得ない理由で見学の場合は、出席とみなす場合があります。

科目名	身体運動		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目（N/E/S） -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Sクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

リズムエクササイズ（リズムに合わせた運動）を中心とした実技を、3～5週単位として継続的に行う。

授業の方法（ALを含む）

グループワークを通じて、ステップ練習や発想のトレーニング、フォーメーションの工夫、衣装のデザインのアイディア、最終的には楽しみながらの創作へと展開し、発表へつなげる。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

1. クラス内での交流を通じて、からだを動かすことが主体的にできる。
2. 自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることができる。
3. これらの運動から生涯を通じて運動に親しむ素地を養い、協働することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -2自己を理解する力 -1心身の健康

内容

グループワークやディスカッションを取り入れ、リズムに合わせた運動から、トレーニング的な動きやダンス的な動きを通じてからだを引き締めるようにする等、様々なダンス的身体運動へのアプローチをしていく。

第1週目 オリエンテーション

第2～5週目 リズムエクササイズ【グループワーク】【リアクションペーパー】

第6～7週目 トレーニング的エクササイズ【グループワーク】【リアクションペーパー】

第8～10周目 リズムムーブメント【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】

第11～13周目 ダンスムーブメント【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】

第14～15周目 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】十分な睡眠時間を確保し，朝食を摂り，運動できる体調を整えておく（各授業に対して45分）。

【事後学修】実技を通じて体感した「気付き」を書き留め，自らの身体についての理解を深める（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）40%、リアクションペーパー20%、実技テスト30%として、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

到達目標 1．平常点10%/40%、リアクションペーパー10%、実技テスト5%

到達目標 1．平常点10%/40%、リアクションペーパー5%、実技テスト10%

到達目標 1．平常点20%/40%、リアクションペーパー5%、実技テスト15%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

着用する服、靴などは必ずふさわしいものを着用すること。

長髪の場合は髪をまとめるとともに、危険防止のため装飾品は禁止。

自ら前向きに取り組めるような姿勢で臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Tクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

繰り返し受講可能な共通科目である。教職課程を志す者には、必要な単位となる。

科目の概要

体育実技科目なので、受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける機会を提供する。

学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成で、身体運動の楽しさを共有する。身体運動を通じて学科間、学年間の交流を促す機会にもしたい。

授業の方法

集団球技 (サッカー, バドミントン, バスケットボールなど) を中心とした実技を, 3~5週を単元に継続的に行う。

到達目標

- クラス内での交流を通じて、実技で扱う種目の技能を高め、生涯を通じて運動に親しむ素地を養う。
- 自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける。
- 集まった人たち、活用できる環境、参加者の身体能力などに応じて、全員が楽しめるよう、柔軟にルールを工夫する能力を涵養する。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3協働する力, - 2自己を理解する力, そして - 1心身の健康である。

内容

集団球技を中心に実技を進める。テーマは「競創」とする。

集団球技はゲームであり、勝敗がつく。勝つと嬉しいし、負けると悔しい。

まずはこの身体から湧き出るリアルな感情を味わう。

そして集団球技にはチームメイトと対戦相手が要る。

ゲームでの勝敗を「結果」とすれば、チームメイトや対戦相手とのやり取りは「過程」である。

この科目ではこの「過程」を重視する。

身体を使ったチームメイトや対戦相手との交流を通じて、独自の創意工夫や楽しみ方を見つけてほしい。

このようなクラスメイトとの協同・競争を通じて、自分や他人を尊重する態度が養われると考える。

予定している種目は以下の通りである。履修者の人数や意欲・希望に応じて種目を選択する

- ・陣取り型：サッカーやバスケットボール
- ・ネット型：テニス，バドミントン，

これらの中から3種目を5週を単位として継続する。

ゲームを主体に実技を進め、チームでの話し合いにも時間を割く。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

授業外学習内容の編集 【事前予習】十分な睡眠時間を確保し，朝食を摂り，運動できる体調を整えておく（各授業に対して45分）。

【事後学修】実技を通じて体感した「気付き」を書き留め，自らの身体についての理解を深める（各授業に対して15分）

。

評価方法および評価の基準

初回授業でこの科目のシャトルカードを配布する。これに毎回の実技内容と，自らの気付きを記入し，毎回提出する。学修目標a), b)はシャトルカードの内容で、c)については実技中の動きや発言で評価する。シャトルカード50%と平常点50%を総合して評価し，合計60%以上を合格とする。平常点では技能レベルや勝敗，記録での評価はしない。欠席が4回を超える場合には評価の対象としない。また遅刻・早退は2回で欠席1回分に数える。体調不良などによる見学は出席とみなすことがある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

履修人数の上限を40名程度とする。

名前入りゼッケンを着用し，毎週，グラウンド用，体育館用2種類の靴を用意すること。

科目名	身体運動		
担当教員名	山本 悟、平田 智秋、若葉 京良、鈴木 康弘 他		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Uクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

スノーボードの指導員資格を有する教員を含め、義務教育等のスキー実習の実践に深く携わった教員が担当し、初心者でも安全なスキー及びスノーボードの講習を実施する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目であるが、2年生の受講を優先する。3泊4日の雪上実習と2～3回の事前オリエンテーションを通じて、スキーやスノーボードの基礎技術はもとより、集団生活による自律した行動・態度を身につける学びの場を提供する。前期に行う身体運動 の抽選登録対象外とし、別の方法で履修登録を行う(身体運動 のパンフ参照)繰り返し受講が可能。

科目の概要

本学湯の丸山荘(長野県)に宿泊し、湯の丸スキー場においてスキーまたはスノーボードの実習を行う。

授業の方法 (AL含む)

本科目では、午前2時間30分・午後2時間30分のスキーまたはスノーボード実技講習、夕食後1時間の講義・班別ミーティングの日程で3泊4日の学外実習を実施する。実習の総まとめとして、レポートの作成提出を行う。【実技】【レポート(知識)】

到達目標

- 1)自然との関わりの深いスキーまたはスノーボードの特性について理解し、その知識と技術を身につける。
- 2)自然界のすばらしさと厳しさを味わい、生涯を通じて自然に親しむ態度を養う。
- 3)健康管理への気付き、学年や学科を超えた交流の中から仲間意識を高める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力 -2自己を理解する力 -1心身の健康

内容

実習と講義を通じて、以下の技能を体得するとともに、集団生活を通して自律した行動と態度の意義を再確認する。実習終了時にレポートを作成し提出する。【実技】【レポート(知識)】

スキー初級

- 雪や用具になれる：スキーの着脱、転倒起立、歩行、方向変換、推進滑降、登行
初歩的な滑降：直滑降、ブルーク、ブルーク・ボーゲン

スキー中級

基本的な構えとスキー操作を学ぶ：斜滑降、横滑り、山回り、プルーク・ターン
リズムとバランス感覚を学ぶ：シュテム・ターンなど

スキー上級

スピードをコントロールし、回転動作を洗練する：パラレル・ステップターン
制限コースや雪質、斜面などへの対応力を高める：制限滑降、深雪滑降

スノーボード初級

装備の着脱，転び方と起き方、スケーティング
リフトの乗り降り、サイドスリップと木の葉落とし（かかと、つま先の両側で）

スノーボード中級

Jターン（かかと、つま先の両方で）、ノーズドロップ
ずらしを利用した連続ターン

スノーボード上級

カービングターン、大回り和小回り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前オリエンテーションで紹介した推薦書の自主的講読(60分)。

【事後学修】実習のまとめとして指示した実習ノートの整理(30分)。レポートの作成、提出(2時間)。

評価方法および評価の基準

オリエンテーションへの参加および実習における技能習得・講義・生活態度(70%)、レポート作成提出(30%)を総合して評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1) 実習への参加(40%/70%) レポート(20%/30%)

到達目標 2) 実習への参加(10%/70%) 講義：安全管理、等(10%/70%)

到達目標 3) 実習への参加(10%/70%) レポート(10%/30%)

【フィードバック】実技実習中の夜の活動プログラムとして、スキーとスノーボード講習中の映像等をもとに振り返りを行い、学習理解を深める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】オリエンテーションで紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

・実施時期、実施場所等：2021年2月中旬に3泊4日で実施。履修人数を30～35名程度に制限する予定。上位学年(特に2年生)の履修優先とし、繰り返し受講も可能。

・実施場所及び宿泊施設：湯の丸スキー場、本学湯の丸山荘。

・実習参加費(予定)：35,000円程度(宿泊費・3泊9食、交通費、保険料、リフト代、用具レンタル代等)～ウェアのレンタルはない(各自で準備)。

・受講希望者は後期履修登録前に行うオリエンテーションに必ず参加すること。

科目名	身体運動		
担当教員名	仁科 幸		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目（N/E/S） -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

舞台上演や教育現場といった多様な形態でのダンス実践や指導の経験のある教員が授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目保健体育の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。

科目の概要

私たちの身体はどんな動きができるのか、ということに着目し、動き方を工夫しながらさまざまなダンスやゲームに取り組む。

授業の方法

2～5週を単位に数種類の体育実技を行う。【実技】【グループワーク】

授業終了後に毎回、リアクションペーパーの記入を求め、翌週以降にフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

授業のまとめとして、授業をまとめたレポートの提出を求める。【レポート（知識）】

学修目標

- 1、クラス内での交流を通じて、実技で扱う種目の技能を高める。
- 2、生涯を通じて運動に親しむ意欲や態度を身につける。
- 2、自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3協働する力
- 2自己を理解する力
- 1心身の健康

内容

このクラスでは、片時も離れることのできない自分の「からだ」を労りながら、今まで気づかなかった「からだ」の感覚や可能性を探ることを目的とする。

そのためにまず、授業の最初に健やかな「からだ」の土台を作るストレッチングやエクササイズを行った後、さまざまなダンスやゲームを行う。自分の「からだ」への労りや気づきがやがて、仲間の「からだ」への労りや気づきへと繋がって行くことを実感して欲しい。

第1週 オリエンテーション（平服／筆記用具持参）【リアクションペーパー】

第2週 ストレッチング&エクササイズ【実技】【リアクションペーパー】

第3週～第4週

レクリエーションゲーム【実技】【リアクションペーパー】

第5週～第6週

音楽に合わせてからだを動かそう【実技】【リアクションペーパー】

第7週～第8週

あそびからダンスへ【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第9週～第10週

様々な動きからダンスへ【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第11週～第14週

テレビで流れるコマーシャル、映画、音楽など、私たちにとって身近なものの中にダンスがどのような形で存在しているのかを探る。そして、それらをもとに課題を設定し、グループワークや発表などを行う。【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第15週 まとめ【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で行う創作活動のテーマについて、各自調べておくこと。(60分)

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、授業内で紹介した映像資料を見ておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

平常点50点(グループワークへの貢献、授業に対する積極性、意欲、態度など)、毎回の授業における理解や気づきに関するリアクションペーパーの作成20点、まとめのレポート30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1) 平常点25点/50点、リアクションペーパー10点/20点

到達目標2) 平常点25点/50点、リアクションペーパー10点/20点

到達目標3) まとめレポート30点

【フィードバック】リアクションペーパーを確認し、質問等への回答を記載した上で翌週以降に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定なし(必要に応じて推薦書を授業内に紹介)?

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	山本 悟、清水 文子		
ナンバリング	NEe2030		
学 科	共通科目 (N/E/S) -身体運動		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科の実技指導に携わっている経験を活かし、授業で扱うスポーツ種目の進め方やルール等も受講者の技能レベルを考慮してアレンジしながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。そして学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科間、学年間の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必須科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、バドミントンなど様々な種目を行う。またゲーム中心で十分な運動量を確保したい。

授業の方法 (AL含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容を整理する学習カーの記述および授業の総まとめレポートの作成し提出する。

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力
- 2 自己を理解する力
- 1 心身の健康

内容

天候や施設状況によって、授業内容が変わることがあります。毎時間感想を記入しそれを元に出席管理を行います。

1	オリエンテーション
2	ボール慣らし、ドッジボール
3	パス・シュート練習、簡易ゲーム (4対4)
4	パス・シュート練習、連携プレーからシュートへの展開簡易ゲーム (5対5)

5	バスケットボール、パス・シュート練習、ゲーム
6	バレーボール、トス・スパイク・サーブ練習、ゲーム
7	バドミントン(シングル)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
8	バドミントン(ダブルス)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
9	火気取扱演習
10	テーブルゲーム(1)シングル
11	テーブルゲーム(2)ダブルス
12	フットサル、練習～ゲーム
13	ユニホッケー、練習～ゲーム
14	からだを知る、ストレッチ・筋力トレーニングなど
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度(運動への取組、協調性、意欲や関心)50%、学習シート整理30%、試験(レポート)20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標1) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標2) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標3) レポート(20%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定なし(必要に応じて推薦書を授業内に紹介)

初回授業の案内

初回授業は記念ホール入り口、ホワイトボードで実施場所を確認して集まってください。更衣をせず運動靴を準備してください。また、学習シートを作成しますので筆記用具・顔写真も忘れず準備してください。

私物(靴・手荷物)はすべて実施場所へ持参してください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨むこと。

見学者も運動着に着替えて出席すること。